

**藤沢市交通環境学習
(モビリティ・マネジメント教育)
推進事業**

報 告 書

平成28年3月



藤 沢 市

目 次

● 第1章 はじめに

- 1.1 事業概要 1-1
- 1.2 事業の内容 1-2
- 1.3 事業スケジュール 1-4

● 第2章 企画・立案

- 2.1 藤沢版モビリティ・マネジメント教育の目的 2-1
- 2.2 藤沢版モビリティ・マネジメント教育の実施方針 2-1
- 2.3 藤沢版モビリティ・マネジメント教育の特徴 2-1
- 2.4 連携する学習内容とMM教育の構成要素との関係 2-2
- 2.5 モデル校における取り組み概要 2-4

● 第3章 中里小学校における教育ツール作成及び実施支援

- 3.1 中里小学校における授業の進め方 3-1
- 3.2 中里小学校における教育ツール作成及び実施支援 3-2

● 第4章 滝の沢小学校における教育ツール作成及び実施支援

- 4.1 滝の沢小学校における授業の進め方 4-1
- 4.2 滝の沢小学校における教育ツール作成及び実施支援 4-2

● 第5章 駒寄小学校における教育ツール作成及び実施支援

- 5.1 駒寄小学校における授業の進め方 5-1
- 5.2 駒寄小学校における教育ツール作成及び実施支援 5-2

● 第6章 高谷小学校における教育ツール作成及び実施支援

- 6.1 高谷小学校における授業の進め方 6-1
- 6.2 高谷小学校における教育ツール作成及び実施支援 6-2

● 第7章 委員会の運営補助

- 7.1 第2回MM教育検討会資料一式及び議事要旨……………7-1
- 7.2 第3回MM教育検討会資料一式及び議事要旨……………7-2

● 参考資料

- 参考-1 藤沢市交通マスタープランにおけるモビリティ・マネジメントの位置づけ
- 参考-2 乗り方ガイドブック中里小学校
- 参考-3 乗り方ガイドブック滝の沢小学校
- 参考-4 乗り方ガイドブック駒寄小学校
- 参考-5 高谷小学校行動きろくカード
- 参考-6 打合せ議事録



第1章 はじめに

1.1 事業概要

(1) 事業の対象範囲

藤沢市を対象区域とする。

(2) 業務の目的

本業務は、藤沢市交通マスタープラン（平成26年3月策定）において、自転車や公共交通の利用促進など環境にやさしい交通体系づくりを進める上で、自転車や公共交通の利用促進につながるソフト面の交通施策として、モビリティ・マネジメントに取り組むことを重点プロジェクトとして位置づけていることから、交通環境学習（モビリティ・マネジメント教育）推進事業を平成26年度から平成29年度までの4年間で、校外学習における公共交通利用体験等に合わせた交通環境学習をモデル校にて実施し、藤沢市版交通環境学習を定着させることを目的とする。

2年目の平成27年度は、26年度に実施したモデル校（藤沢市立中里小学校）での6年生向けの授業を実施するとともに、下期には他のモデル校において授業を実施する。また検討会を開催し、授業の事後評価・フォローアップなどを行う。

1.2 事業項目の内容

(1) 企画・立案

藤沢市における小学校教育のカリキュラムを分析し、実施可能な環境学習の手法について企画・立案を行う。また必要な場合には、藤沢市の関係部局より貸与されるデータを用い、企画・立案のための基礎資料としても把握する。

企画・立案事項については、検討委員会での関係者調整資料として作成する。

なお、教育現場における指導に実施は、来年度からの取組となるため、教育委員会などを通じて来年度の学習指導予定を把握・整理しながら実施可能なプログラムの企画・立案を行う。

(2) モビリティ・マネジメント教育ツールの作成

モデル校の意向に基づき、必要となる学習教材を作成する。

学習教材は、モデル校で交通環境学習を実施した実績及び関係者の意見（指導職員など）をふまえながら整理、改善を行う。


●教育ツールのイメージ（藤沢市立中里小学校向け教材の作成事例）

授業の一環で鎌倉周辺へ外出する際の教育ツールとして、1冊の冊子を作成した。内容を検討する際には授業の実施要領も考慮した工夫を行い、バスや電車の乗り方を調べる方法の整理、二酸化炭素排出量の計算ができる表を記載し、車と公共交通機関で移動する際の環境負荷の違いが分かるような工夫を行った。

かまくらめぐり

6年 組

←冊子は持ち運びを考慮してA4サイズで作成。



■勉強すること

その1:切符や運賃の払い方(p.2~6)

・バスや電車に乗るときは時刻を調べて乗り、お金（運賃）を払わないといけません。時刻表の見方や運賃の支払い方法は乗る交通機関によって方法が違ってくるので、それらを理解して移動しましょう。

その2:乗るときのルールやマナー(p.7~8)

・電車やバスはいろいろな人が乗るので、自分勝手に乗ると他人に迷惑をかけたり、事故につながります。バスや電車に乗るときは先にいる人の後ろに並んだりするなど、いろいろなルールやマナーを理解して移動しましょう。

その3:移動する時にかかるお金やCO2排出量の違いを知ろう(p.9~10)

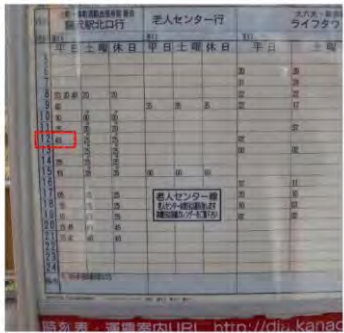
・バスや電車以外にも車も使って移動することができます。それぞれかかる費用（お金）が違ったり、目に見えないCO2排出量が違ったりします。今日の移動でそれらがどのくらい違うのか理解してみましょう。
一次のページで説明します。

その1:切符や運賃の払い方

①バスの時刻表の調べ方

- ・バス停にある時刻表でバスが来る時間が分かります。
- ・時刻表は1時間のうち、何分ごろにつくか横に書いてあります。

例えば、下の時刻表をお昼12時30分みて、藤沢行きバスに乗りたいたときには、12時45分のバスに乗ることになります。



(3) モビリティ・マネジメント教育実施支援

小学校での交通環境学習に向けて、指導する教員に向けた学習のポイントを整理した資料の作成及び必要となる関連データ等をまとめた資料を作成する。

具体的な資料の内容として、授業の実施回数や授業時間に対応した進行の方法を明記することで、職員が授業の進め方を早期に理解し、指導を実施できるよう指導要領を作成する。

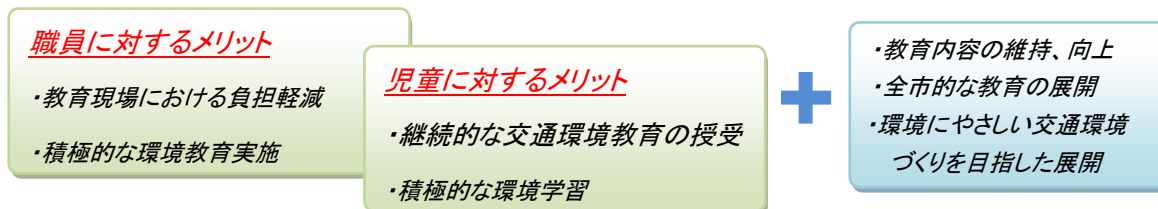


図 実施支援による指導要領作成のメリット

(4) 委員会の運営補助

年度内2回開催予定の委員会運営のため、委員会資料や議事録の作成を行う。また、委員への謝金、交通費の支払いも行う。(謝金等支払対象者3名を想定)

(5) 打合わせ協議

上記(1)～(4)項の実施に向けた打ち合わせ(10回程度)を適宜行う。

(6) 成果品

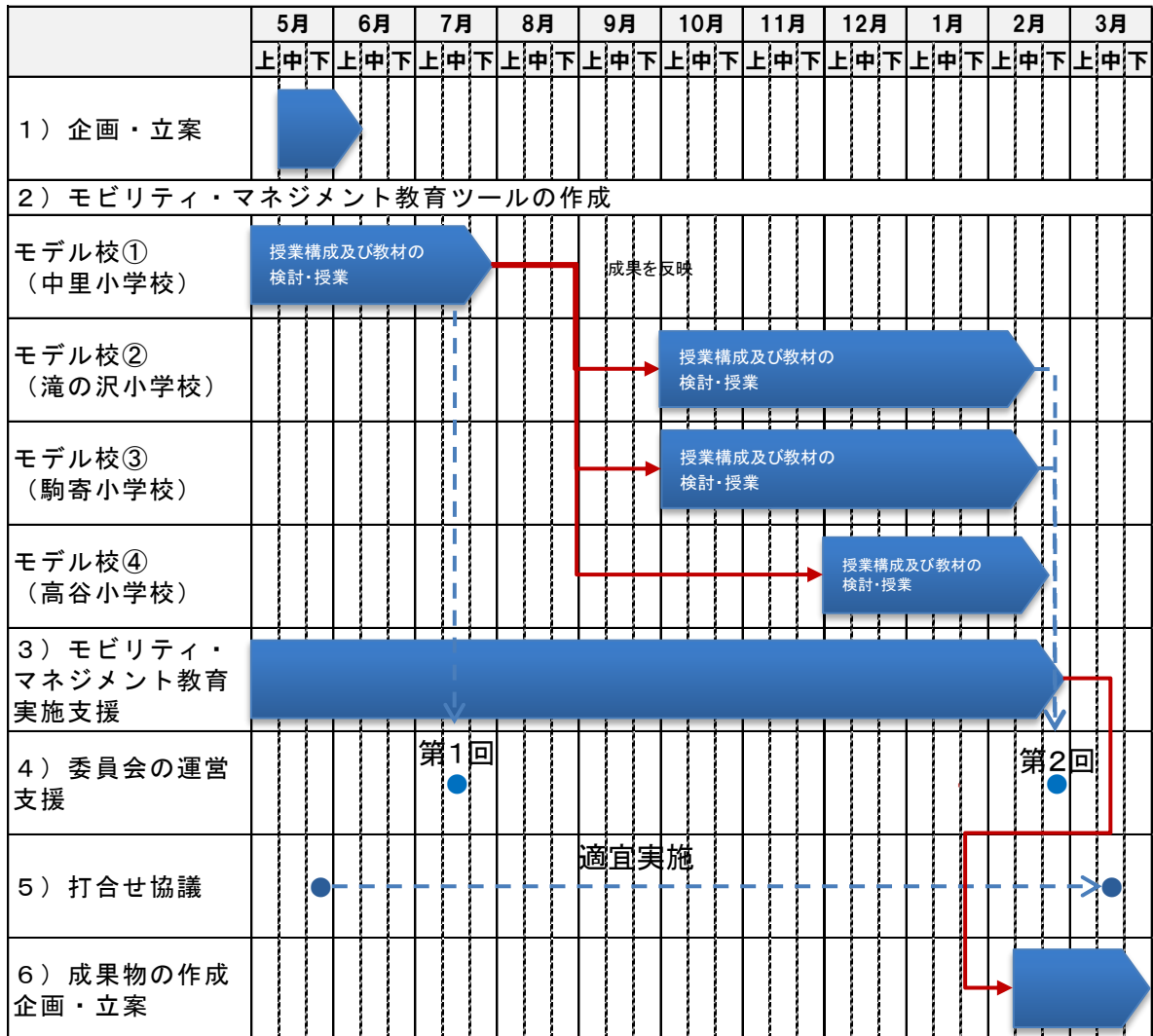
①完了報告書(下記内容を収容したもの)・・・1部

- ・学校等との打ち合わせ時の資料及び議事録
- ・使用教材
- ・委員会資料、議事録

②上記①のデータが入ったCD-ROM・・・1枚

1.3 業務スケジュール

以下に業務スケジュールを示す。



● 第2章 企画・立案（藤沢市版MM教育の進め方）

藤沢市におけるモビリティ・マネジメント教育については、平成30年度（目標）からの全市展開に向け、平成28年度からは、引き続きモデル校における授業を通じたMM教育授業例を蓄積するとともに、全市展開に向けた仕組みづくり等の検討を進めることとした。

2.1 藤沢版モビリティ・マネジメント教育の目的

藤沢市版モビリティ・マネジメント教育は、次の「子どもたちのめざす姿」の実現を目的に実施する。

～子どもたちのめざす姿～

子どもたちが

- ・TPOにあわせて、移動手段を考え、かしこく公共交通、クルマ、自転車、徒歩等を使うことができる
- ・地球環境問題などの社会的な影響に配慮して行動することができる

2.2 藤沢版モビリティ・マネジメント教育の実施方針

モビリティ・マネジメント教育の実施にあたっては、上記の目的のもと、実際に授業する先生が、授業例、教材等をもとに教育課程と整合のとれる部分のみを実施、または新たな授業内容を考案するなど、アレンジしながら実施していくことを想定している。

2.3 藤沢版モビリティ・マネジメント教育の特徴

つぎの3つの特徴をふまえたMM教育の展開を図る。

特徴1： **知識と実践**の構成によるMM教育の展開

特徴2： **教育課程と連携した**MM教育の展開

特徴3： **児童の公共交通の利用状況**を勘案したMM教育の展開

特徴1：知識と実践の構成によるMM教育の展開

→児童が『「知っている」＋「乗れる」』ことを基本とした授業構成にする。

特徴2：教育課程と連携したMM教育の展開

→社会科・総合的な学習など様々な教育課程と連携した取り組みが出来るMM教育とする。

特徴3：児童の公共交通の利用状況を勘案したMM教育の展開

→児童の公共交通への利用状況を考慮したMM教育として実施する。

2.4 連携する学習内容とMM教育の構成要素との関係

連携する学習内容とMM教育の構成要素との関係については、表 1、表 2 のとおりと考えているが、その中で、「公共交通の知識」、「公共交通の利用（実践）」、「移動の及ぼす効果（影響）の把握」については、様々な学年及び教科で連携が可能であると考えており、実施を検討する。

また、高学年を中心に、MM教育の核となる構成要素（「公共交通とクルマの対比」、「仮定した状況下での移動計画（行動プラン）」、「選択した移動（計画）の評価・共有」）の実施を検討する。

表 連携する学習内容（学年別）

			MM教育の構成要素					
			公共交通の知識	公共交通の利用(実践)	移動の及ぼす効果(影響)の把握	公共交通とクルマの対比	仮定した状況下での移動計画(行動プラン)	選択した移動(計画)の評価・共有
<p><凡 例></p> <p>●：実施済 ○：未実施</p> <p>：MM教育の核(TPOに合わせて移動手段を考える構成要素)</p> <p>(●)：要素の部分的実施</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・現状の状況 ・路線・利用方法 ・公共交通 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動計画の立案 ・公共交通利用の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的影響 ・個人への影響 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動手段選択の複数の評価軸認識 ・メリットデメリットの整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数評価軸での移動の選択 	<ul style="list-style-type: none"> ・TPOを意識した移動の必要性の認識 ・交通行動の意識変化の共有
連携する内容								
学年	教科	単 元						
小3	社会	わたしたちの大好きなまち	○		○			
		変わるわたしたちの暮らし	○		○			
	保健	毎日の生活と健康			●		(●)	
		育ちゆく体とわたし			●		(●)	
総合	地域等の学習		○	○(○)	○(○)	○(○)		
小4	社会	わたしたちの県のまちづくり	●			●	●	
	総合	地域等の学習		●	●(●)	●(●)	●(●)	
小5	社会	工業生産を支える人々	●		●	●	●	
		暮らしを支える情報	○		○	○	○	
		国土の自然とともに生きる			●	●	●	
	国語	ディベート	●		●	●		
総合	地域等の学習		●	●(●)	●(●)	●(●)		
小6	社会	暮らしの中の政治	○		○	○		
	理科	わたしたちの生活と環境			●	●	●	
		生物と地球環境			●	●	●	
総合	地域等の学習		●	●(●)	●(●)	●(●)		

表2-連携する学習内容（教科別）

			MM教育の構成要素					
			公共交通の知識	公共交通の利用(実践)	移動の及ぼす効果(影響)の把握	公共交通とクルマの対比	仮定した況下での移動計画(行動プラン)	選択した移動(計画)の評価・共有
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><凡 例></p> <p>●：実施済</p> <p>○：未実施</p> <p style="border: 1px solid red; display: inline-block; width: 15px; height: 10px; vertical-align: middle;"></p>：MM教育の核(TPOに合わせて)移動手段を考える構成要素 <p>(●)：要素の部分的実施</p> </div>			<ul style="list-style-type: none"> ・路線・利用方法の現状・公共交通の仕事 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動計画の立案 ・公共交通利用の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的影響 ・個人への影響 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動手段選択の複数の評価軸認識 ・メリットデメリットの整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数評価軸での移動の選択 	<ul style="list-style-type: none"> ・TPOを意識した移動の必要性の認識 ・交通行動の意識変化の共有
連携する内容								
教科	学年	単 元						
社会	小3	わたしたちの大好きなまち	○		○			
		変わるわたしたちの暮らし	○		○			
	小5	わたしたちの県のまちづくり	●		●	●	●	
		工業生産を支える人々	●		●	●	●	
		暮らしを支える情報	○		○	○	○	
	小6	国土の自然とともに生きる			●	●	●	
暮らしの中の政治		○		○	○			
理科	小6	わたしたちの生活と環境			●	●	●	
		生物と地球環境			●	●	●	
国語	小5	ディベート	●		●	●		
保健	小3	毎日の生活と健康			●		(●)	
	小4	育ちゆく体とわたし			●		(●)	
総合的な学習	小3	<学習内容>		○	○(○)	○(○)	○(○)	
	小4	環境、福祉・健康、		●	●(●)	●(●)	●(●)	
	小5	地域の人々の暮らし、		●	●(●)	●(●)	●(●)	
	小6	社会と政治など		●	●(●)	●(●)	●(●)	

2.5 モデル校における取り組み概要

授業スタイル

教室内の授業形式

校外学習形式

宿題

本年度の事業を実施した学校は以下の4校である。中里小学校は昨年度実施した児童を対象に継続実施として、その他3校は中里小学校で実施した内容を反映した授業展開を行った。

学校名	1. 中里小学校		2. 滝の沢小学校	3. 駒寄小学校	4. 高谷小学校
年度・学年	H26年度・小学5年生	H27年度・小学6年生	H27年度・小学4年生	H27年度・小学5年生	H27年度・小学3年生
授業の狙い	1. 鎌倉への交通について理解 2. クルマと公共交通の短所長所の理解 3. TPOにあわせた移動手段選択の理解		1. 藤沢駅と周辺の交通について理解 2. クルマと公共交通の短所長所の理解 3. TPOにあわせた移動手段選択の理解	1. 江の島への交通について理解 2. クルマと公共交通の短所長所の理解 3. TPOにあわせた移動手段選択の理解	1. 歩くことと健康の関係の理解 2. 健康の視点からみた移動手段選択の理解
実施時間	【授業1】 …1時限分 【授業2】 …1時限分	【授業3・校外学習】 …1日実施 【授業4】 …1時限分	【授業1】 …1時限分 【授業2・校外学習】 …1日間実施 【授業3】 …1時限分 【授業4】 …1時限分	【授業1】 …1時限分 【授業2・校外学習】 …1日間実施 【授業3】 …2時限分	【授業1】 …1時限分 【授業2】 …1時限分
	小学5年時から6年時にかけて2カ年間継続で実施				
連携する科目	・社会（自動車工業(5年)、国土と自然(5年)、歴史(6年)） ・理科（生活環境(6年)、生物と地球環境(6年)） ・国語（ディベート） ・総合的な学習（かまくらめぐり）		・社会（県のまちづくり(4年)、国土と自然(5年)） ・総合的な学習（図画工作展の見学）	・社会（自動車工業、国土と自然） ・総合的な学習（江ノ島ミステリーツアー）	・保健（健康、運動について知る）
※ 上位学年での学習事項	【宿題】ディベート授業に向けてクルマ、公共交通を調べる【国語】、【社会】、【理科】		【授業1】公共交通で藤沢駅に行く経路等を調べる【社会】	【授業1】公共交通で江ノ島に行く経路等を調べる【社会】	【宿題】万歩計をつかって記録（3日間）をとり、普段の歩行量を知る【保健】
授業概要	ステップ1	↓ ・旅行に出かけるなら、公共交通機関か、クルマか？という議題でディベート授業を実施するため、5年生が自由に材料集めを行い準備する。	↓ ・藤沢駅まではどのような経路があるのか、どのように公共交通を使うのか、を調べる。	↓ ・江ノ島まではどのような経路があるのか、どのように公共交通を使うのか、を調べる。	↓ ・歩いた歩数と移動手段を交通きろくカードにまとめ、自分たちの歩数を知る。
	ステップ2	↓ 【授業1】クルマ派、公共交通派に分かれディベートする【国語】、【社会】、【理科*】 ・5年生がクルマ派、公共交通派のグループに分かれて、ディベートを実施する。討論の内容を聞き、6年生がジャッジを行う。	↓ 【授業2】バス、電車を使って藤沢駅に行く【総合学習】 ・公共交通を使い、便利なところ、不便なところ、分かりやすさ、分かりにくさなどを感じ発見する。	↓ 【授業2】バス、電車を使って江ノ島に行く【総合学習】 ・公共交通を使い、便利なところ、不便なところ、分かりやすさ、分かりにくさなどを感じ発見する。	↓ 【授業1】歩くことが健康につながることを理解する【保健】 ・歩くことが運動の一つであること、健康につながるということを知る。
	ステップ3	↓ 【授業2】クルマと公共交通の長所・短所を理解する【社会】 ・討論会の授業で調べたことをもとに、クルマの長所と短所を列挙し理解を深めた。また、目的に応じた移動手段の使い分けなどについて考える。	↓ 【授業3】校外学習をふりかえる【社会*】 ・公共交通を利用して感じたこと、考えたことをふりかえる。公共交通とクルマの、長所、短所を考えてみる。	↓ 【宿題】江ノ島への移動体験をふりかえる【社会】 ・公共交通を利用して感じたこと、公共交通の長所、短所や、江の島にある交通施設をふりかえり、まとめる。	↓ 【宿題】万歩計をつかって記録（1日間）をとり、授業後の歩行量を計る【保健】 ・もういちど万歩計をつけて1日生活をして、交通きろくカードにまとめ前回の歩数の記録と比べてみる。
	ステップ4	↓ 【授業3】バス、電車を使って鎌倉に行ってみる【総合学習】、【社会】 ・自分たちの力で公共交通を利用できるよう、バス停、バスの車内、駅、電車の車内の表示などの意味を考えてもらう。また、実際に利用してみる。	↓ 【宿題】横浜への移動手段を考える【社会】 ・横浜に行く移動手段、経路を考え、公共交通とクルマの長所、短所を、児童と保護者で考えてみる。	↓ 【授業3】校外学習をふりかえる【社会】 移動手段の目的に応じた使い分けの必要性を認識する ・宿題を利用しながら、公共交通とクルマの、長所、短所などを考えてみる。 ・目的に応じた移動手段の使い分けの必要性を発見し、今後、出来そうなことについて考える。	↓ 【授業2】移動手段による歩数の違いや、健康につながることを理解する【保健】 ・日によって歩数が違うこと、生活で使う移動手段によって歩数が違うことを知る。
	ステップ5	↓ 【授業4】CO2排出量や金額等の算出、比較。移動手段の使い分けの重要性などを発見する【社会】、【理科】 ・行動プランに基づくCO2排出量や金額等を算出した。クルマで移動した場合との比較を行い、環境等への配慮と移動手段を考える。	↓ 【授業4】移動手段の目的に応じた使い分けの必要性を認識する ・目的に応じた移動手段の使い分けの必要性を発見し、今後、出来そうなことについて考える。	今後、6年生の総合的な学習（かまくらめぐり）での展開を予定	
実施の成果及び反省点	<ul style="list-style-type: none"> 調べる、体験する、ふりかえるの流れを、5年生で国語(ディベート)と社会(自動車工業・環境)の科目等を連携させて実施した。6年生も総合的な学習と社会(歴史、環境)の科目連携により授業を行った。 ディベートのテーマを公共交通に設定したため、MMのみのための授業時間を別途設ける必要性がなかった。(負荷の軽減) 5年生から6年生にかけて2年連続で進めることにより、MMの理解が深まった。実施が、2年連続で複数クラスで取り組むことが必要であったため、学校側と十分な調整を要した。 CO2排出量の算出などで、難しい点があったため、実施方法の工夫(簡略化、分かりやすい方法)が必要である。 		<ul style="list-style-type: none"> 保護者との移動が中心である学年であることが考えられ、公共交通の利用を不安に思う児童も多かった。このため、児童の自主的な交通行動変容につなげるためには、実施内容の改善が必要と考えられた。 授業後の保護者アンケートでは、授業を肯定的に捉える積極的な意見もあり、家庭への広がりという点について、MMとして一定の成果が得られた。宿題を保護者と一緒に行った点などが効果的であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べる、江ノ島に行き、ふりかえり認識するという一連の流れにおいて、特にふりかえりと発見の授業(授業3)において2時限分連続で実施したことにより、発見(気づき)への展開、児童の理解が円滑であった。 小学校5年生までに修得した学習内容(社会-自動車工業、国土と自然等)があることより、今回のMM教育の理解が進んだと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動きろくカードには目的地や移動手段を終日記録することとし、児童はおおむね例に倣って記載することができた。 1回目の普段の移動歩数から2回目の移動平均歩数は増加した。 授業2においてBMIを算出する際、電卓を用いた授業を行ったが、電卓の機能や使い方の説明が必要なことから、授業の進行に時間が必要となった。

第3章 中里小学校における教育ツール作成及び実施支援

3.1 中里小学校における授業の進め方

実施概要	<ul style="list-style-type: none"> 国語（ディベートをする）に合わせ、ディベートのテーマをクルマ、公共交通に設定し、移動で公共交通を体験することで社会の県の交通について知るプログラムとした。 					
年度・学年	H26年度・小学5年生 H27年度・小学6年生 (小学5年時から6年時にかけて2年間継続で実施)					
授業の狙い	1. 鎌倉への交通について理解 2. クルマと公共交通の短所長所の理解 3. TPOにあわせた移動手段選択の理解					
実施時間	【授業1】 …1時限分		【授業3・校外学習】 …1日実施		【授業2】 …1時限分	
授業形式	教室内の授業形式	校外学習形式	宿題			
連携する教科と単元名	【社会】自動車工業(5年)、国土と自然(5年)、歴史(6年) 【理科】生活環境(6年)、生物と地球環境(6年) 【国語】ディベート 【総合学習】かまくらめぐり ※上位学年での学習事項		MMの構成要素	習熟の深度化 公共交通の知識 公共交通の利用(実践) 移動の及ぼす影響の把握 公共交通とクルマの対比 移動計画(行動プラン) 仮定した状況下での評価・共有 選択した交通行動の		
学習構成【授業の進め方】						
授業概要	ステップ1	【宿題】ディベート授業に向けて調べる【国語】【社会】【理科】 ・旅行に出かけるなら、公共交通機関か、クルマか？という議題でディベート授業を実施するため、5年生が自由に材料集めを行い準備する。		●		
	ステップ2	【授業1】ディベートする【国語】【社会】【理科*】 ・5年生がクルマ派、公共交通派のグループに分かれて、ディベートを実施した。討論の内容を聞き、6年生がジャッジを行った。			●	●
	ステップ3	【授業2】クルマと公共交通の長所・短所を理解する【社会】 ・討論会の授業で調べたことをもとに、クルマの長所と短所を列挙し理解を深めた。また、目的に応じた移動手段の使い分けなどについて考える。			●	●
	ステップ4	【授業3】バス、電車を使って鎌倉に行ってみる【総合学習】、【社会】 ・自分たちで公共交通を利用できるよう、バス停、駅、電車表示などの意味を考え、実際に利用してみる。			●	
	ステップ5	【授業4】CO2排出量や金額等を算出、比較し、移動手段による使い分けの重要性などを発見する【社会】【理科】 ・行動プランに基づくCO2排出量や金額等を算定し、クルマで移動した場合との比較をして考える。			●	●
実施の成果及び反省点	<ul style="list-style-type: none"> 調べる、体験する、ふりかえるの流れを、5年生で国語(ディベート)と社会(自動車工業・環境)の教科等を連携させて実施した。6年生も総合的な学習と社会(歴史、環境)の教科連携により授業を行った。 ディベートのテーマを公共交通に設定したため、MMのみのための授業時間を別途設ける必要性がなかった。(負荷の軽減) 5年生から6年生にかけて2年連続で進めることにより、MMの理解が深まった。実施が、2年連続で複数クラスで取り組むことが必要であったため、学校側と十分な調整を要した。 CO2排出量の算出などで、難しい点があったため、実施方法の工夫(簡略化、分かりやすい方法)が必要である。 					

3.2 中里小学校における教育ツール作成及び実施支援

【宿題】ディベート授業に向けて調べる【国語】【社会】【理科】

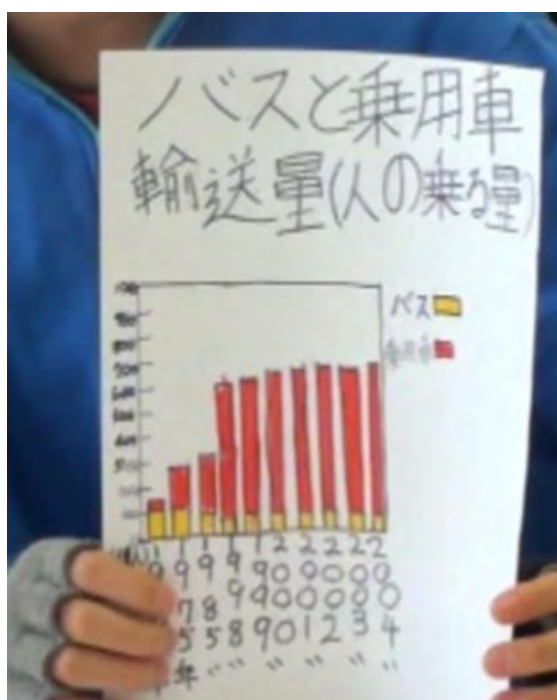
1) 実施概要

旅行に出かけるなら、公共交通機関か、クルマか？という議題でディベート授業を実施するため、5年生が自由に材料集めを行い準備する。資料書式などは指定せず、生徒は自分たちが調べた結果を、文章やグラフを用いて資料としてまとめた。

2) 宿題の内容

実際に授業で活用している様子を参考として記載する。

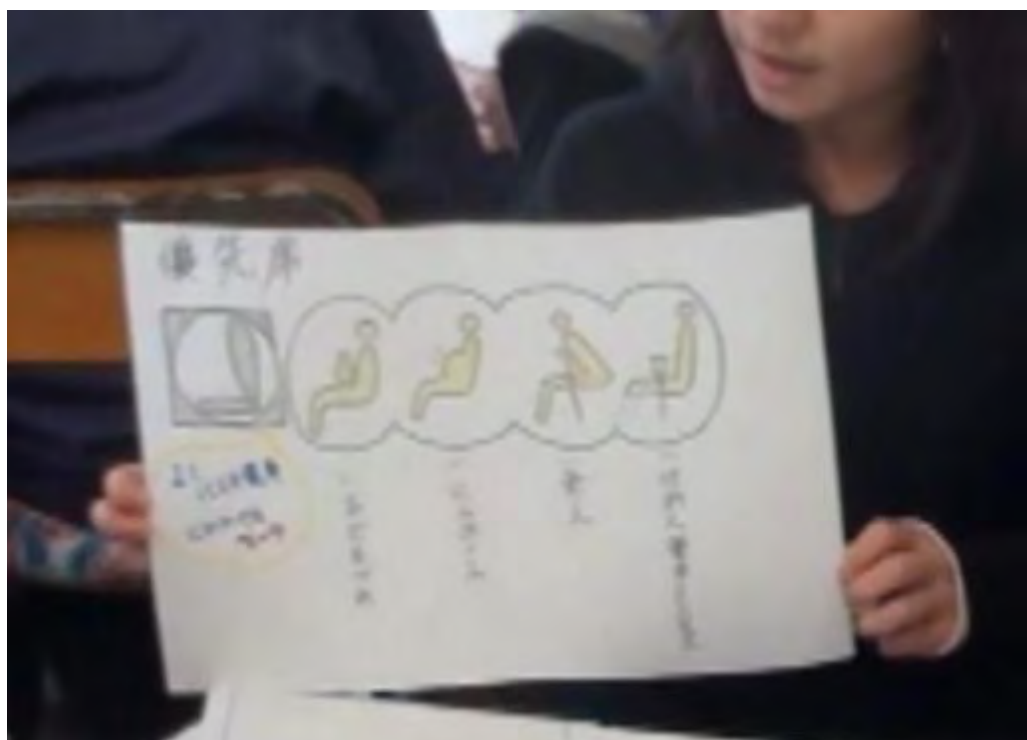
①グラフを用いた資料（バスと乗用車輸送量に関するグラフ）



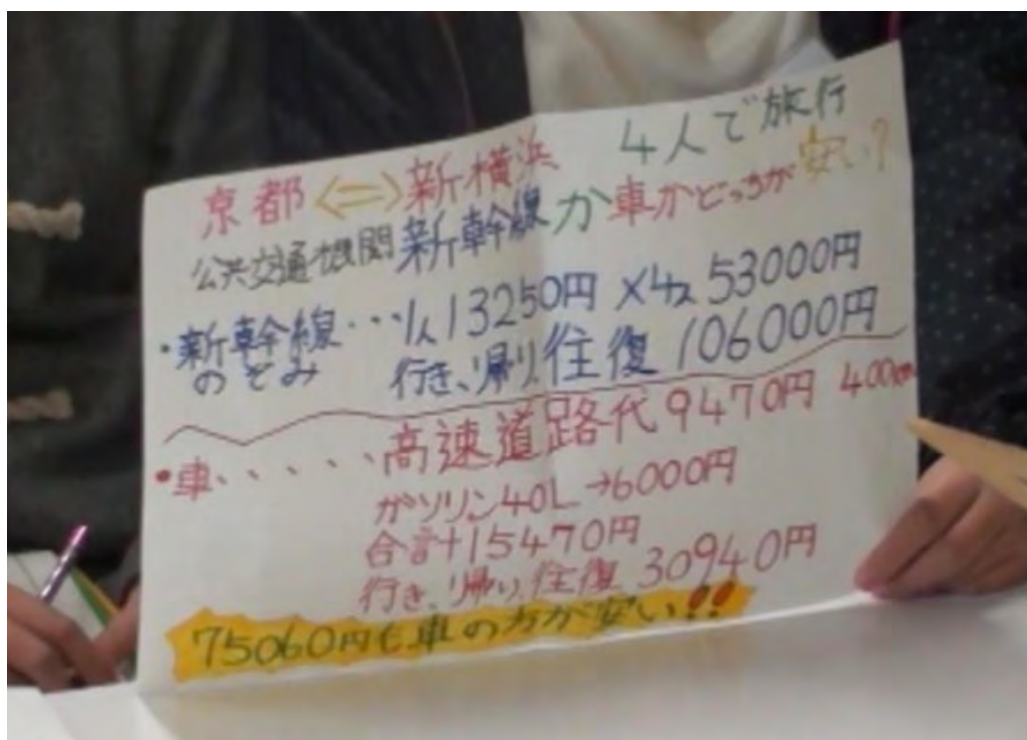
②イラストを用いた資料（バスとクルマに乗る荷物の量を示したイラスト）



③イラストと文章を用いた資料（優先席に関する説明資料）



④文章を用いた資料（公共交通とクルマでの移動を比較した資料）



【授業1】ディベートする【国語】

1) 実施概要

「旅行に出かけるなら、公共交通機関か、車か」というテーマについて、5年生の国語の授業を用いた討論会を行い、クルマと公共交通の長所・短所を理解した。

2) 場所：藤沢市立中里小学校 5年1組と6年1組合同

5年2組と6年2組合同

3) 日時：2014年（平成25年）12月15日及び12月16日

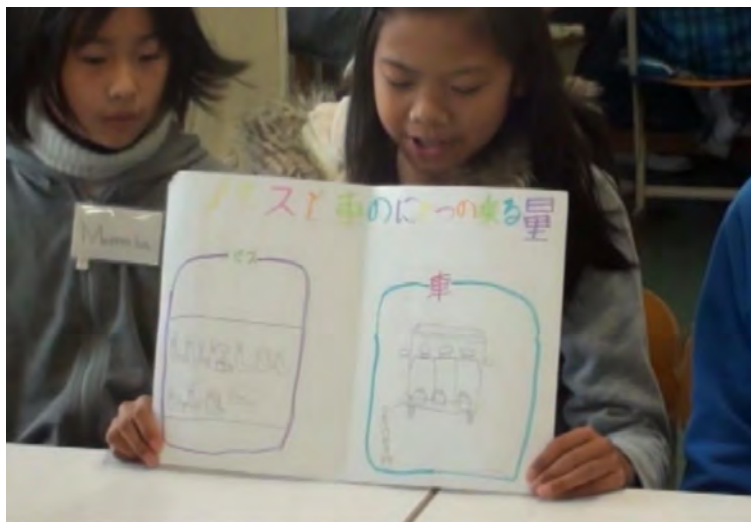
（実施クラスにより異なる）

4) 授業の展開

学習活動		指導上の留意点 ◎共通 ◆5年、▲6年
めあてをつかむ。		◎討論会の流れ、話し方、聞き方を確認し、学習の見通しを持たせる。 ◆相手を言い負かすような話し方ではなく、「なるほど!」と説得できる話し方を目指すよう意識づける。
5年 討論会を行う。	6年 討論会を判定する。	◆最初の主張は、前時までにノートに書かせチェックしておく。
討論会「旅行に出かけるなら、公共交通機関か、車か」		
① 主張を行う。 ② 質問を考える。 ③ 質問をする。 ④ フリートークを行う。 ⑤ 最後の主張を考える。 ⑥ 最後の主張を行う。 ⑦ 感想を記入する。 ⑧ 判定を受ける。	① 主張を聞く。 ② 質問を考える。 ③ 質問をする。 ④ フリートークを聞く。 ⑤ 感想を記入する。 ⑥ 最後の主張を聞く。 ⑦ グループで判定を相談する。 ⑧ 判定を行う。	◆ノートを見て読むのではなく、相手を見て話すように声をかける。 ◎互いの主張を予想し、質問を考えさせておく。 ▲判定材料となる内容について質問するよう声掛けする。 ◎フリートークが上手く進められないグループには、資料を使って、より詳しい説明をするよう、声をかける。 ▲判定を決めた要因をしっかりと伝えさせる。
感想やアドバイスを伝える。		◆資料の提示の仕方等、工夫した点をアドバイスするよう声掛けする。

5) 当日の実施状況の報告

① 討論を行う（公共交通とクルマの良いところ、悪いところを発表）



② 6年生によるジャッジ（判定）



③ 6年生による評価（反省点などの発表）



【授業 2】クルマと公共交通の長所・短所を理解する【社会】

1) 実施概要

中里小学校の5年生におけるプレMMプログラムとして、昨年12月に実施した討論会の授業をふまえ、前半にクルマと公共交通の長所・短所を理解すること及び後半にかしこいクルマの使い方を考えるという、2部構成で行った。

2) 場所：藤沢市立中里小学校 5年1組

3) 日時：2015年（平成27年）2月10日（火） 10:30～11:30 の約1時間


4) 授業の展開

	学習活動	指導上の留意点
20分	<p>①討論会の振り返りとクイズ</p> <p>討論会での議論を思い出しながらクルマ・公共交通の長所、短所を挙げてもらう。</p> <p>CO2の排出量、健康などに関するクイズを実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黒板を使い、出た意見はマトリックスで整理する。 ・ 事前に用意した教材と異なる意見は、先生が手書きで付け加えて対応する。 ・ 子どもたちから、CO2の排出量、健康、バス路線の減少についての発言にあわせて、クイズを実施する。 ・ マトリックスでまとめた結果を見て、公共交通とクルマはどちらも一長一短があることを確認し、うまく使いわけができないかの問いかけをする。クルマが悪い、公共交通が良いということではないことを説明する。
20分	<p>②かしこいクルマの使い方を考えてもらう</p> <p>自分が大人になって免許を取得してクルマを所有することを想定して考えてもらう。</p> <p>便利なのはクルマが、便利なことばかりでは無いことを説明します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人数は一人で行ったときを想定して考えてもらう。 ・ 周辺道路の渋滞がわかる地図、鎌倉駅周辺の駐車場の満空状況がわかる地図、中里小学校から鎌倉駅周辺までのクルマと公共交通での所要時間やCO2の排出量の比較ができる資料などを用いて説明する。

5分	<p>③日常生活でも、どんな移動手段を使うのが良いのかを考えてみるように伝える</p> <p>④授業の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先生から生徒に対して、授業の内容を振り返る説明を行い、生徒に対して日常生活の移動について考えるように伝える。 ・授業を通じての感想の他、今日の授業をふまえて、どのような行動をとろうと思うか、感想シートなどを準備して書き込んでもらう。
----	---	--


6) 授業で使用した教材

①クイズで使用した教材【模造紙】

 **クルマの「長所」**


**自由に過ごす
ことができる**

1

 **クルマの「長所」**


**荷物をたくさん
載せることが
できる**

2

 **クルマの「短所」**

**渋滞があると
遅れる**

5

 **クルマの「短所」**

**二酸化炭素(CO₂)
の排出量が多い**

6



公共交通の「長所」

安全で事故が
少ない

9



公共交通の「長所」

遠い目的地には
早く行くことが
できる

10



公共交通の「短所」

たくさんの荷物を
運べない

13



公共交通の「短所」

行きづらい場所も
ある
(バスや電車が通ってないところ)

14

クイズ

問題 <環境>

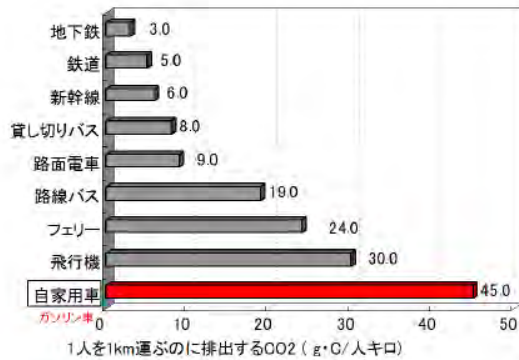
バス、電車、新幹線、クルマ。地球温暖化の原因となるCO2は、どの乗り物からも出ています。では、一人を1kmはこぶときに出るCO2は、クルマはバスの何倍出るのでしょうか？



- a. 0.5倍
- b. 2倍
- c. 8倍



■ 1人を1km運ぶのに排出するCO2



■ 次世代自動車のCO2の排出量の比較

従来ガソリン車、ディーゼル車と次世代自動車のCO2排出量の比較



クイズ

問題 <健康>

公共交通を利用した場合とクルマを利用した場合で消費カロリーは、どれくらい違うでしょうか？



- a. 同じ
- b. 2倍
- c. 4倍



■ 移動に伴う消費カロリー

片道の消費カロリー(kcal/分)



~210kcalって?~

ジョギング (走り/歩) 25分

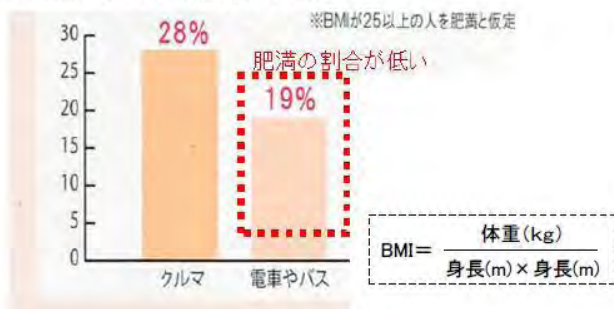
コーラ 500ml 3本



出典: 第5次改訂日本人の栄養所要量(1994)

■ 通勤手段と肥満の割合

※BMIが25以上の人を肥満と仮定



出典: 日本モビリティ・マネジメント会議

クイズ

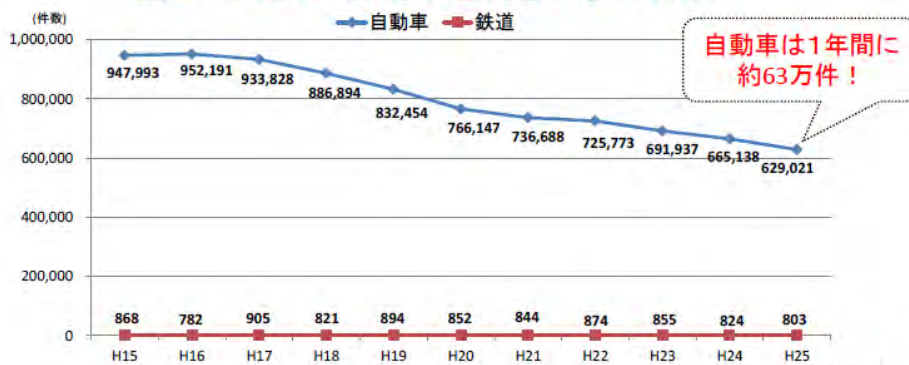
問題 <事故>

全国で、自動車事故は1日あたり約1,700件発生していますが、鉄道の事故は、何件くらい発生しているのでしょうか？

- a. 2件くらい
- b. 20件くらい
- c. 200件くらい



過去10年間の自動車と鉄道の事故件数



出典:交通安全協会

- ・交通事故は年間約63万件発生しているので、
 $63万 \div 365日 = 1,720件/日$

他の交通機関だと、
バス8.6件/日、飛行機0.005件/日、鉄道2.2件/日

出典:国土交通省「運輸事業における事故件数および事業者数の推移」

クイズ

問題. 5 <渋滞>

クルマが渋滞しているときと、していないときで、同じ距離を進むのに排出するCO₂は、どれだけ違うのでしょうか？

- a. 変わらない
- b. 渋滞時が1.5倍多い
- c. 渋滞時が5倍多い

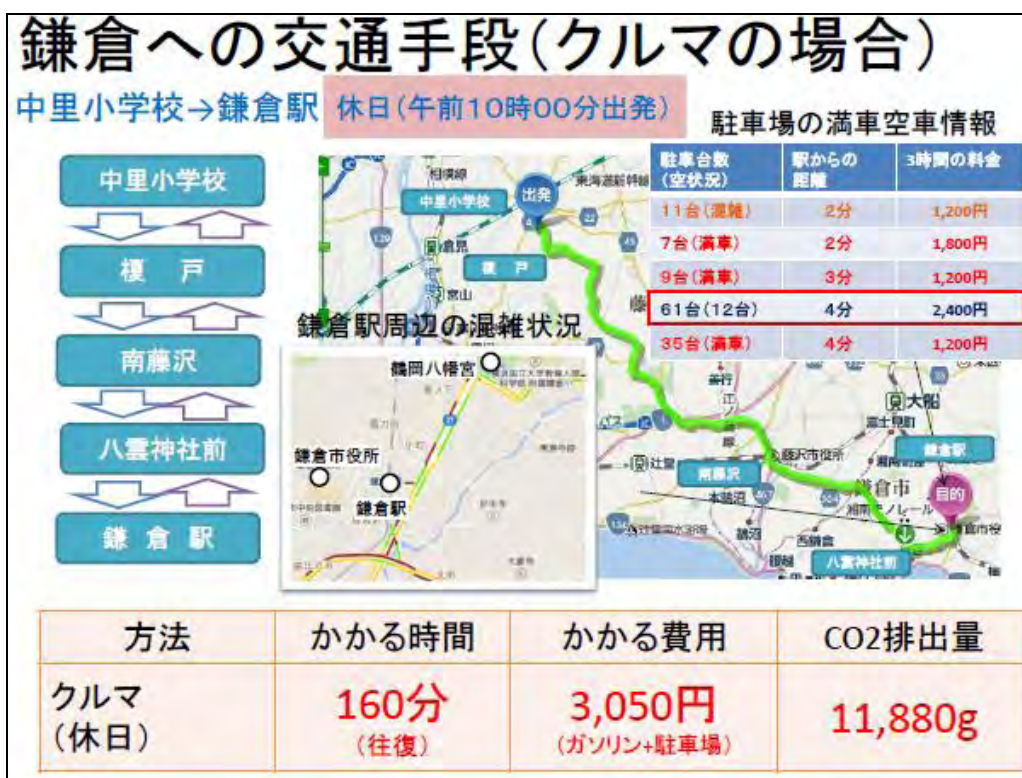
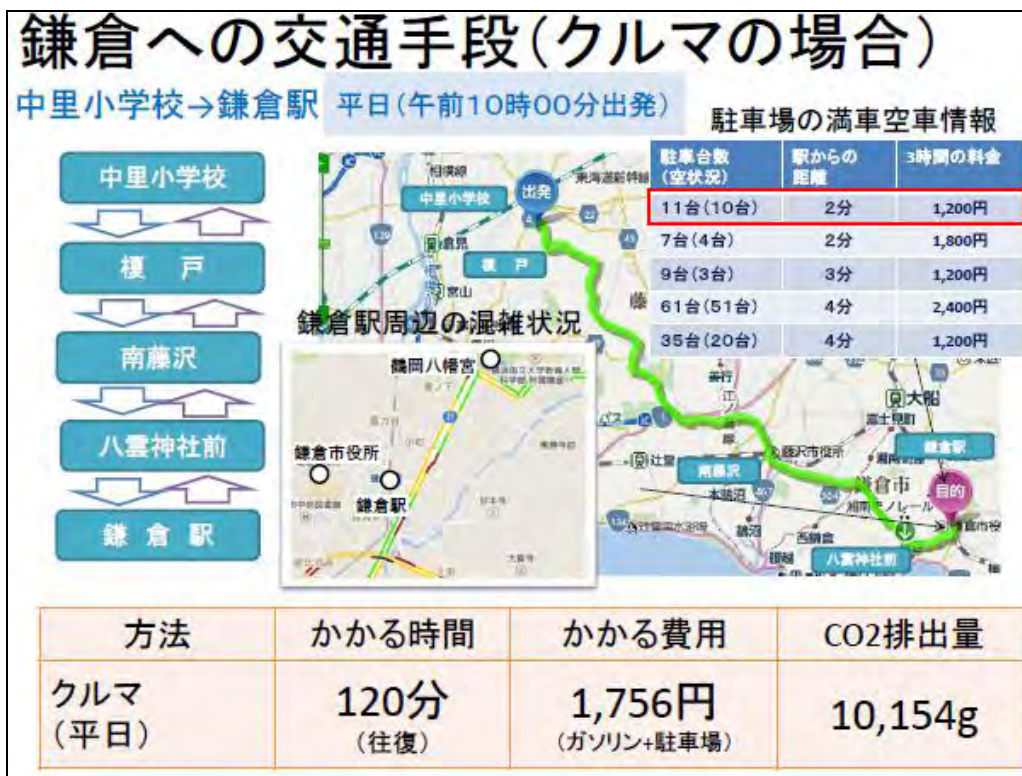


走行速度とCO₂排出量

	走行速度(km/時間)	CO ₂ 排出量(g/km)
最も多い	10	340
	20[渋滞している]	220
	40[渋滞していない]	150
最も少ない	70	120
	100	150

- ・クルマが時速40km/hで走っているときは、
約160g/kmのCO₂を排出する。
- ・渋滞で時速20km/hまで低下すると、
約220g/kmのCO₂を排出する。

②鎌倉までの移動手手段比較【模造紙】



鎌倉への交通手段(公共交通の場合)

中里小学校→鎌倉駅 平日(午前10時00分出発)



7) 実施結果および感想 【※一部誤字・脱字の修正を実施している。】

クルマを選択した児童の意見

番号	理由	感想
1	僕は車の方が良いと思いました。理由は途中でトイレやご飯が食べたければ、コンビニに寄れて良いと思うからです。	中里から鎌倉まで行くのに平日と休日では時間や、かかる費用があんなに変わるなんて思いませんでした。
2	車、コンビニも行ける。	
3	平日、車で行くとかかる時間が少ないから車にした。コンビニにも寄り道できるから。	公共交通機関も良いが車の方が自由に過ごせる。でも公共交通機関の方が CO2 の排出量が少ないから良いと思った。
4	車が良いと思います。	まず僕は時間がかかると思いました。考えたことは CO2 を沢山排出することは悪いことだと分かりました。
5	もし、中里から鎌倉までいくとしたら、…車です。なぜかというとお金やかかる時間は、あまり気にしないで自由に過ごすことを僕は優先するから。しかも、自分の好きな時間に出られるからです。	車や、公共交通機関のメリットやデメリットが沢山あったので、どちらが良いのか分かりませんでした。でも、車の方が自由に過ごせるから車の方が良いです。
6	私は、車にしました。なぜかという、車は、良いことが沢山あって、駄目なところが少ないので良いなと思いました。	車と公共交通機関の長所と短所は、どちらも似ていたと思います。似ていないところは、自由に過ごすことができるのは車、その反対が公共交通機関です。
7	車?公共交通機関?車です。その理由は、公共交通機関だと時間通りでないと駄目だけど、車だったらいつでも変更できるから車の方が良いと思いました。	
8	大人1人だと車の方が少し寄り道できたり、トイレに行きたい時でも行けるからです。	車だと混雑や休日に行くとき CO2 の排出量が倍になると思いました。公共交通機関は環境に優しいけど、少し時間がかかる。
9	車でドライブをしたいし休日でも駐車場は沢山あるから。	多分出かける時は、時間、場所、お金など、人間はその時々判断がくだされると思う。
10	車を選びました。なぜ車を選んだかと言うと、車でいった方が他の人に気を使わずに、しかも寄り道ができるので選びました。	今日の授業を受けて思った事は、車も良いけど、電車も良いので、どちらもバランスよく使った方が良いと思いました。

公共交通を選択した児童の意見

番号	理由	感想
1	公共交通機関の方が車より混雑しないと思うし、ガソリン代や駐車場のお金も関係ないから。そこまで遠いわけでもないし、事故が少なく安全なので、公共交通機関にした。	今日改めて車の長所と短所、公共交通機関の長所と短所をあげたことで、行く場所などで、どっちを使った方がより良いのか、平日と休日とではどちらを使った方が良いのか、メリット、デメリットを考えて使うことが大切だと分かりました。
2	なぜ、公共交通機関を選んだかと言うと、すごく楽だからです。車だとガソリンが無駄だから。機関の方がとっても便利だからです。	車と公共交通機関どっちが楽かと言うと、公共交通機関の方が良いと思いました。車だと CO2 の排出量が多いからです。途中で、迷いました。
3	中里→鎌倉なら、僕は公共交通機関が良いです。なぜなら値段や CO2 の量が低いし、車は事故が起きないようにと神経をとがらせなければならぬけど、公共交通機関は耳だけ聞いて、のんびりしていれば良いからです。	車と公共交通機関、どちらかをとるなら、距離が長いのか短いのかと、話し合う人がいるかいないかで決まると思いました。
4	時間はかかるけど、お金は車より安いから。混むかもしれないけど運転をしなくてすむから。	たまには車が役立ち、公共交通機関も良いということが分かった。やはりCO2は車が多いのであまり良くないと思いました。
5	やはり、かかる費用安く、時間が早いから。	もし、1人で遠くに行く時は、公共交通機関が良い。なぜなら、1人で行くと、かかる費用などが安くて良い。もし、家族で行くなら、車が良い。なぜなら、家族で話し合ったり出来る。
6	公共交通機関です。平日の車と比べてお金がかからないからです。	もり先生が太る理由が分かって面白かった。
7	お金がかからないから。	車のお金がかかるか、かからないか、という問題で僕は、公共交通機関がよいと思いました。なぜかというとお金がかからないというところからです。
8	公共交通機関の方が良いです。お酒が飲めるし車だと前しか見られないから。公共交通機関だと風景が見れるから公共交通機関の方が良いと思いました。	休日だと公共交通機関の方が良い。なぜなら渋滞しなくて時間通りに着くから。
9	私は中里から鎌倉へ行くなら公共交通機関で行きます。公共交通機関なら、バスや電車に、鎌倉行きなどがあり、あまり道を間違えないから公共交通機関の方が良いかなと思いました。	今日は色々なクイズなどをしてとても勉強になりました。鎌倉へ行くだけで2時間もかかるんだなと思いました。
10	私は公共交通機関が良いと思います。まず車は1人で行くと、とても寂しいけどバスや電車は人が多く、知らない人でも誰かがいれば安心します。しかも、たとえ着く時間が遅くても、CO2の量が少ない方が良いと思ったからです。	たとえ着くのが遅くても、CO2が少ない方が良いと思いました

番号	理由	感想
11	私は公共交通機関です。1人だと安いのは公共交通機関の方で楽し良いと思う。でも車は寄り道出来るけど、私は公共交通機関が良いと思います。	車では好きなことが出来るし、家族で行くなら、車の方が良いと思った。公共交通機関も環境のことを考えていて、次に車やバスに乗る時は環境のことを意識してみようと思いました。
12	鎌倉に行くまでにCO2は車の方がやはり多いしお金もかかるから公共交通機関にしました。	1人で行くとなると車だとやはり寂しい気持ちになるから公共交通機関の方が他のお客さんもいるからまだ良いなと思いました。
13	公共交通機関にした理由は、1自分は本当は車の方が好きだけど、CO2の排出量のことを考えたら、環境の方が大事だと思ったから。2公共交通機関だと渋滞がなくすぐ目的地に着くから。	ヨーカドーに行く場合多人数だと車の方が楽しくて楽し1人でもすぐ近くだから楽に行けると思いました
14	大人1人で中里⇒鎌倉まで車で行くか、公共交通機関か、私は公共交通機関が良いと思いました。なぜかという、車だと、10分早く着くだけで、費用とCO2が多い。でも公共交通機関だと10分遅く、費用とCO2が少ないから良いなと思いました。	私は今日、車と公共交通機関の良い所、悪い所を沢山知りました。悪い所は少し怖い所がありました。
15	環境にも優しいし、乗っている時にゆっくり出来るから。あと、そこまで細い道に車や、電車で行く必要は、ないと思う	中里から鎌倉まで、車か公共交通機関どちらかだったら交通機関です。時間が正確だし、外の景色を見ながらゆっくりできて、環境に優しいからです。行きにくい場所があるけど、そこまで車や電車で移動する必要はないと思う
16	公共交通の方が良い。表に書いている通り事故も少ないしCO2の排出量も少ないからです。	事故が少ない公共交通機関が良いと思いました。自由に行動出来るとなると車も捨て難いのですが、やはり公共交通機関の方が良いと僕は思います。
17	大人1人だったら公共交通機関を選びます。公共交通機関は、1人だと料金が車で行くより少ないので、公共交通機関が良いと思いました。	大人1人だったら、少ない人数なので、車などのガソリン代の料金より、安くなりますが、大人2小人2だと、人数が多いので、1人あたりの料金の4倍になってしまいます。でも車だと、ガソリン代などは、人数が増えても、同じ料金なので、大人2小人2だったら、車の方が良いと思いました。
18	公共交通機関、大人1人で車に乗るのは寂しいけど公共機関だと旅の気分を味わえるし、安いから。	今日の授業を聞いて思ったことは、車と公共交通機関の乗り換えの難しさです。なぜなら近場だと車の方が値段がかからないけど、遠い所は公共交通機関の方が安いからです。
19	中里⇒鎌倉、公共交通機関、1人だとあまりお金もかからないし、それにCO2の排出量も少ない人のためにもなるから。	車は色々な場所に行けるけど渋滞になったら、予定の時間に間に合うかどうか分からない。交通機関だと渋滞になることもないし時間に間に合うから。

8) 実施後の気づき

- ・授業の後半に実施した「②かしこいクルマの使い方を考えてもらおう」では、鎌倉に行くにあたり、クルマを選択する児童が多いと想定して授業を進める予定であったが、実際には多くの児童が公共交通を選択した。これは、週末は自動車が渋滞するといった現状を知っていたことや、前半部分の「クルマと公共交通の長所・短所の比較」が影響したと考えている。

9) 教材の修正

- ・クイズで使用した教材（模造紙）の解答部分については、解答の根拠となるグラフ等が掲載されている一方で、答えそのものが記載されていないため、分かりにくい状況であった。このため、「答え」を明記する修正を行った。

第4章 滝の沢小学校における教育ツール作成及び実施支援

4.1 滝の沢小学校における授業の進め方

実施概要	・総合的な学習の校外学習（図画工作展の見学）に合わせ、移動で公共交通を体験することで社会の県の交通について知るプログラムとした。						
年度・学年	H27年度・小学4年生						
授業の狙い	1. 藤沢市とその周辺の交通について理解する 2. クルマと公共交通の良いところ、悪いところを理解する 3. TPOにあわせて移動手段を選択することが、大切であることを理解する						
実施時間	【授業1】 …1時限分	【授業3】 …1時限分	【授業2・校外学習】 …1日間実施	【授業4】 …1時限分			
授業形式	教室内の授業形式	校外学習形式	宿題				
連携する教科と単元名	<p>【社会】 県のまちづくり(4年)、国土と自然(5年)</p> <p>【総合学習】 総合的な学習（図画工作展の見学）</p> <p>※上位学年での学習事項</p>	MMの構成要素	<p>習熟の深度化</p> <p>公共交通の知識</p> <p>公共交通の利用（実践）</p> <p>移動の及ぼす影響の把握</p> <p>公共交通とクルマの対比</p> <p>移動計画（行動プラン）</p> <p>仮定した状況下での</p> <p>選択した交通行動の評価・共有</p>				
学習構成【授業の進め方】							
授業概要 時間軸	ステップ1	<p>【授業1】 公共交通で藤沢駅に行く経路等を調べる【社会】</p> <p>・藤沢駅まではどのような公共交通の経路があるのか、自分たちのグループはどの経路で行くのか、どのように公共交通を使うのか、を調べる。</p>	●		●		
	ステップ2	<p>【授業2】 バス、電車を使って藤沢駅に行く【総合学習】</p> <p>・実際に公共交通を使い、便利なところ、不便なところ、分かりやすさ、分かりにくさ、不安などを感じ、発見する。</p>	●				
	ステップ3	<p>【授業3】 校外学習をふりかえる【社会*】</p> <p>・自分たちが利用した経路を確認し、公共交通を利用して感じたこと、考えたことをふりかえる。公共交通とクルマの、良いと思う、良くないと思うところを考えてみる。</p>		●	●		
	ステップ4	<p>【宿題】 横浜への移動手段を考える【社会】</p> <p>・横浜に行く移動手段、経路を考え、公共交通とクルマの良いところ、悪いところを、児童と保護者で考える。</p>		●	●	●	●
	ステップ5	<p>【授業4】 移動手段の目的に応じた使い分けの必要性を知識する</p> <p>・クルマと公共交通などの目的に応じた使い分けの必要性を発見し、今後、家庭で出来そうなことについて考える。授業後、保護者へのアンケート実施。</p>				●	●
実施の成果及び反省点	<p>・保護者との移動が中心である学年であることが考えられ、公共交通の利用を不安に思う児童も多かった。このため、児童の自主的な交通行動変容につなげるためには、実施内容の改善が必要と考えられた。</p> <p>・授業後の保護者アンケートでは、授業を肯定的に捉える積極的な意見もあり、家庭への広がりという点について、MMとしての一定の成果が得られた。宿題を保護者と一緒に行った点などが効果的であった。</p>						

4.2 滝の沢小学校における教育ツール作成及び実施支援

【授業 1】公共交通で藤沢駅に行く経路等を調べる【社会】

【授業 2】バス、電車を使って藤沢駅に行く【総合学習】

1) 実施概要

滝の沢小学校の4年生における事前学習として、藤沢駅近くで開催される図画工作展へ見学に行くという校外学習に向けて、市内の公共交通について確認し、どの経路を使って移動するのかを検討する授業を実施した。その後、校外学習としてバス、電車を使って藤沢駅に行った。

2) 場所：藤沢市立滝の沢小学校 4年生

3) 日時：2015年（平成27年）11月2日（月）14：00～14：45の1時限分【授業1】
2015年（平成27年）11月12日（木）【授業2の校外学習】

4) 授業の展開【授業1】

	学習活動	指導上の留意点
20分	①藤沢駅まではどのような公共交通の経路があるのか	<ul style="list-style-type: none">・地図帳を見ながら、藤沢市内にはどのような道路（どこへ行くことができる道路）があるのかを確認する。・神奈川県交通、藤沢市の公共交通の特徴を理解する。
20分	②自分たちのグループはどの経路で行くのか	<ul style="list-style-type: none">・チームごとに自分たちの使う経路の特徴を発表する。 (乗り換えが発生する、運賃が高い 等)・藤沢市のカラー写真を使って自分たちの使う経路、目的地の場所を確認する。・各ルートにおける公共交通の利用手段、所要時間について先生から説明する。
5分	③どのように公共交通を使うのか	<ul style="list-style-type: none">・ガイドブックを配布し、自分たちが宿題で調べたこと（所要時間、運賃）と相違がないか確認する。

5) 当日の状況【授業1】



地図で交通の状況を確認



地図で目的地を確認

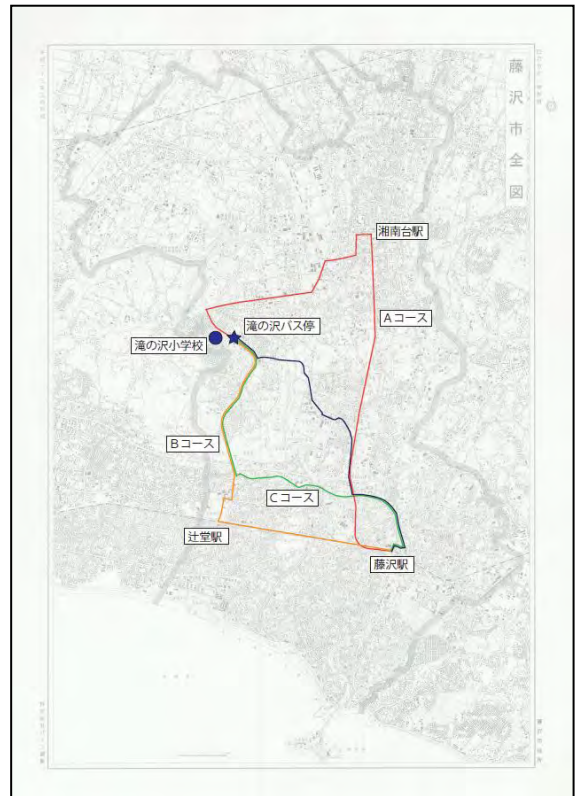


先生からガイドブックの説明

6) 授業で使用した教材

①藤沢市の地図（市全域が掲載された図）

【授業 1】



②バスの乗り方・電車の乗り方ガイドブック（A4版）【授業 1】【授業 2 の校外学習】

公共交通を普段から利用しない児童のために、バスや鉄道といった公共交通の利用方法、ルールやマナーについて記載したガイドブック。全51頁構成

表紙

1 ページ目



【授業 3】 校外学習をふりかえる【社会※】 ※上位学年での学習事項

【宿題】 横浜への移動手段を考える【社会】

1) 実施概要

11月12日(木)に実施した校外学習(図画工作展の見学)で自分たちが移動したルートを振り返りながら、公共交通で移動した場合とクルマで移動した場合との良いところ、悪いところの比較などを行った。また、授業3のあとに横浜への移動手段を考える宿題を行った。

2) 場所：藤沢市立滝の沢小学校 4年生

3) 日時：2015年(平成27年)11月16日(月) 10:40~11:30の1時限分 **【授業3】**

4) 授業の展開【授業3】

	学習活動	指導上の留意点
25分	①校外学習を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> 校外学習の時に利用したルートの所要時間、運賃等をまとめる。 校外学習の感想を記載する。 (⇒校外学習当日に、バスの到着が遅れたため、乗りたい電車に乗れなかった等の意見があがった。)
15分	②公共交通とクルマの良いところ、悪いところを発表する	<ul style="list-style-type: none"> 校外学習を体験した結果を踏まえ、公共交通の良いところ、悪いところを発表し、それに合わせてクルマと比較してもらう。 (⇒校外学習の際、しゃべり声が大きくて注意されたという意見があがった。それに対してクルマではどうか質問を投げかける事で、公共交通とクルマの比較を行った。)
10分	③宿題(横浜へ移動する手段を考える)の配布、説明	<ul style="list-style-type: none"> 自宅学習のための資料を配布し、内容について説明を行った。

5) 当日の状況【授業3】



振り返り内容について発表




良いところ、悪いところの発表




宿題の配布、説明

6) 授業で使用した教材


①公共交通の良いところ、悪いところの札 (A5サイズ) (一例)【授業3】

 公共交通の「長所」


**家族やお友達と
みんなで
移動できる**

 クルマの「短所」

CO² (二酸化炭素)
を多く出す

 クルマの「長所」

**好きなところ
に行ける**

 公共交通の「短所」

**行きづらい
場所もある**
(バスや電車が通ってないところ)

②児童への配布教材（A3サイズ）【宿題】

宿題の記入シート

宿題① 児童は、横浜駅までどのような公共交通、経路で行こうと思うか、ペンでなぞってみましょう

宿題② 児童は、自分で考えた公共交通のルートの良いところ(○)や悪いところ(×)を記入しましょう。保護者の方は、横浜駅までクルマで行く場合と公共交通で行く場合の両方について、良いところ(○)や悪いところ(×)を記入してみてください。

記入者 分類	児童 が記入する欄 (自分の考えた公共交通の経路は…)	保護者の方 が記入する欄	
		(クルマで行くと…)	(公共交通で行くと…)
記入例	○ 渋滞の心配がなく、時間通りに目的地に行ける × どの電車に乗ればよいかわからない など	○ 家から出て乗ることができる × 日曜日など道路が混雑して遅れる など	○ 駐車場の心配がない × 電車が混んでいると乗ることができない など
快適性・利便性			
目的地までの所要時間			
目的地までかかる金額(運賃)			
地球環境			
【 】			
【 】			

③保護者への配布教材（取組みに関する説明と宿題への参加依頼・A4サイズ）【宿題】

保護者各位

2015年（平成27年）11月16日

藤沢市立滝の沢小学校

校長 加藤 優子

現在、社会科の学習と併せて、「かしこいクルマの使い方」について学習を行っております。

この学習では、クルマは便利で、私たちの生活になくてはならない乗り物である一方で、地球温暖化問題（CO2）や交通渋滞など、クルマが引き起こす問題もあり、万能な乗り物ではないことを知ってもらいたいと考えております。また、この学習を通じて、子どもたちが、目的や行き先などに合わせて、移動手段を考え、かしこくクルマ・公共交通・自転車・徒歩等を使うことができる（かしこいクルマの使い方ができる）ようになって欲しいと考えております。

これまでの授業では、11月12日に校外授業（藤沢市民ギャラリーの図画工作展見学）で、自分たちが調べたルートで、公共交通を使い藤沢駅まで行く経験をしました。その経験をもとに、11月16日にふりかえり授業として、公共交通を利用した際に発見した点、クルマと公共交通の違いなど、体験の感想もとにしながら、交通手段というものを考えてみました。

この宿題は、クルマ、公共交通の良い点、悪い点を意識する事前学習として行うものです。

次の内容は、普段、知る機会の少ないクルマと公共交通に関する話題です。ご一読いただき、この点も踏まえ、児童とともに宿題を実施していただければと思います。

●交通手段とエネルギー

クルマはエアコンの10倍程度のエネルギーを使っており、テレビ、エアコンなど、家庭における色々な消費の中で最も大きくなっています。クルマの使用を少し減らすだけで、エアコンの調整などの他の方法に比べて、10倍以上も、効率的にCO2を減らせるのです。

●交通手段と渋滞問題（クルマによる交通渋滞）

車の渋滞によって国民一人あたり年間30時間分時間がムダになっています。これをお金の価値にかえると、年間12兆円、つまり、日本の国民一人あたり10万円に相当する価値が無駄になっています。渋滞をすることは時間とお金がムダになっている状況といえます。

●交通手段と健康

厚生労働省が1日8,000歩～10,000歩の歩行を推奨しているなかで、公共交通の通勤者の64%以上が1日8,000歩以上歩いており、一方、クルマ通勤の場合には、わずか7.5%となっています。

肥満の目安とされるBMI25以上の人を通勤手段別に分析した結果では、公共交通で通勤する人の肥満の割合が、クルマ通勤の方に対して10%程低くなっています。クルマ通勤の方は、通勤手段を見直せば健康的かもしれません。

●交通手段と事故（安全）

国土交通省が運輸事業における事故件数を集計した結果、平成25年における自動車の事故件数は年間約63万件、1日当たり1,730件にものぼります。一方、公共交通の場合ではバスが8.6件/日、飛行機が0.005件/日、鉄道が2.2件/日となっており、自動車と比較して公共交通は事故件数が少ない乗り物であることが分かります。

資料作成・提供 藤沢市計画建築部都市計画課

【授業4】 移動手段の目的に応じた使い分けの必要性を知識する

1) 実施概要

これまでの校外学習（図画工作展の見学）や【授業3】を踏まえて、自分たちが移動したルートについて、公共交通で移動した場合とクルマで移動した場合との良いところ、悪いところを比較しながら、振り返りを行う。さらにその結果を踏まえて、横浜に行く場合のシチュエーションにおいてどのような移動手段を用いるか考える。

2) 場所：藤沢市立滝の沢小学校 4年生

3) 日時：2015年（平成27年）12月21日（月） 13:10～14:10 の1時限分【授業4】

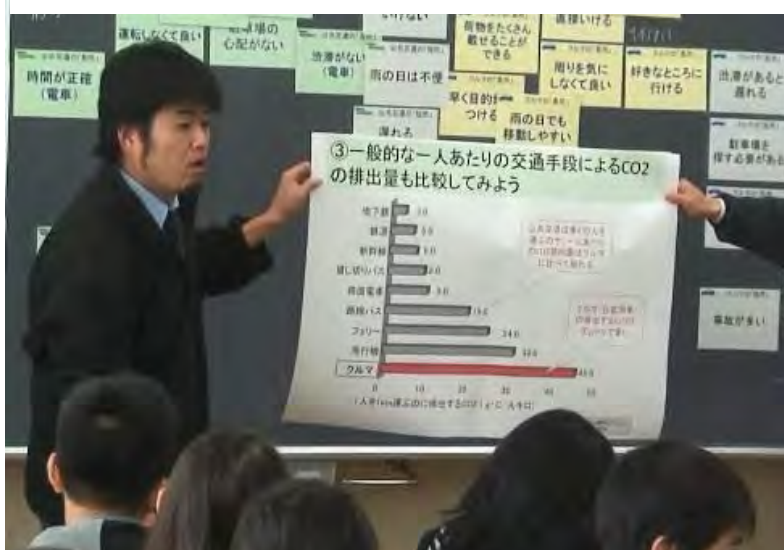
4) 授業の展開【授業4】

	学習活動	指導上の留意点
20分	①宿題の内容を確認しながら公共交通とクルマの良いところ、悪いところを発表する	<ul style="list-style-type: none"> 校外学習による体験や宿題の結果を踏まえ、公共交通やクルマの良いところ、悪いところを発表してもらう。保護者の意見としてもこのような意見があったということ saying してもらう。 出た意見は、事前に準備したA5サイズの札で整理を行い、黒板に札を貼り付けていく。
10分	②CO ₂ の排出量、事故の件数に関するデータを見て理解を深める	<ul style="list-style-type: none"> 便利なクルマでもCO₂の排出量が多いことや、事故の発生件数が多いということを、模造紙（データ）を示しながら、説明する。
20分	③班ごとに横浜に行くシチュエーションを決めて、移動手段を考える	<ul style="list-style-type: none"> 「いつ」「何の目的」「誰と」という3つのテーマについて、班ごとに条件を設定して、その移動をする際の移動手段を考える。 班だけでなく、個人でもシチュエーションごとの移動手段を考える。 <p style="text-align: center;">シチュエーション設定</p> <p style="text-align: center;">A どんな天気？ B 何の目的？</p> <p style="text-align: center;">C 家族何人で？ 横浜へ行く</p>
5分	④発表	<ul style="list-style-type: none"> 班ごとに決めた移動手段とその理由を発表する。
	⑤先生からの講評、家庭へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> TPO※に応じて公共交通、クルマを使い分けしていくことができる、必要ということを知ってもらう。 ※TPO（ティーピーオー）. Time（時間）、Place（場所）、Occasion（場合、Opportunity） 家庭へのフィードバックの説明を行う。

5) 当日の状況【授業4】



良いところ、悪いところの発表



データを見て理解を深める




班ごとに発表


6) 授業で使用了教材【授業4】

①公共交通とクルマの良い所、悪い所の札（A5サイズ）


ふりかえり1授業で用いた札に加えて、宿題の内容に基づいてキーワードを追記して利用。

 公共交通の「長所」


**安全で
事故が少ない**

 クルマの「短所」

維持費などが
かかる

 公共交通の「短所」

たくさんの荷物を
運べない

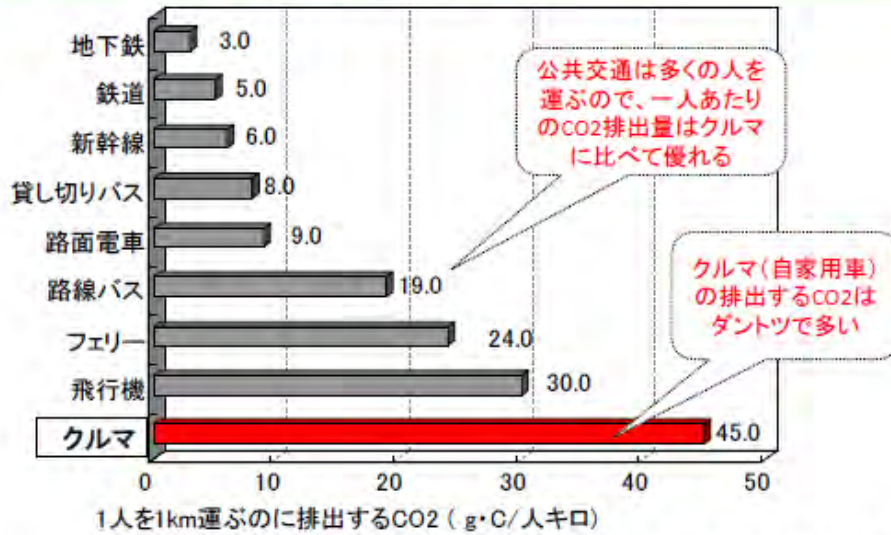
 クルマの「長所」

**目的地に
直接いける**

② データを示す模造紙 (A1サイズ)

※授業の構成上、児童に提示していないものがあります。

③ 一般的な一人あたりの交通手段によるCO₂の排出量も比較してみよう



出典: モビリティ・マネジメントの概要とポイント
筑波大学谷口綾子先生 資料

9

⑤ 事故のリスクを見てみよう

事故の件数はクルマがとても多く、年間630,000件、1日あたり1,720件も発生しています。

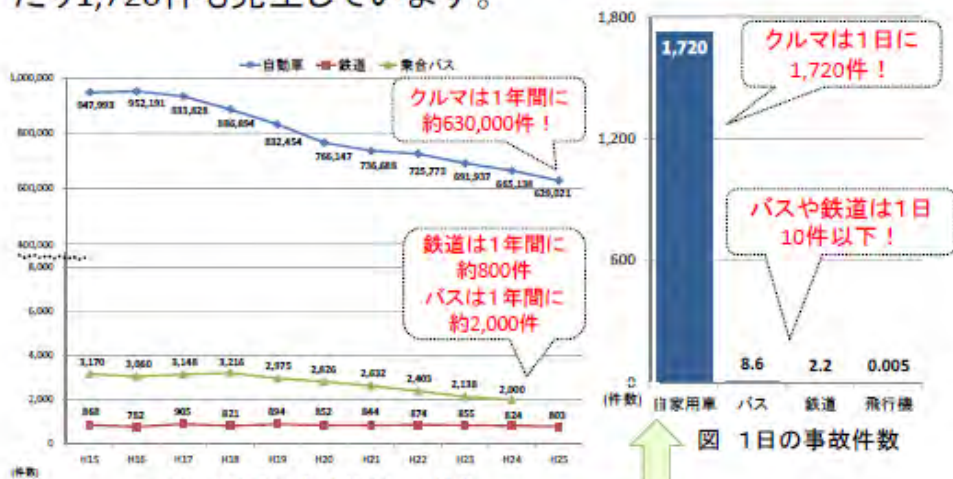


図 1年間の事故件数の推移

※乗合バスH25は集計中のためなし。

出典: 国土交通省「運輸事業における事故件数および事業事故数の推移」

12

③シチュエーション設定シート（A4ヨコ）

年 組 名前: _____																				
<p>『自宅』から『横浜』に家族と行く状況を設定し、交通手段を考えよう！</p>																				
(1) はじめに状況を設定してください。		(2) 交通手段を選んでください。																		
<p>A. いつ？</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px; text-align: center;">晴れた日</div> <p style="text-align: center;">・</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px; text-align: center;">雨の日</div>	<p>B. 目的は？</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px;"> 買い物（始まる時間が決まっていない用事） </div> <p style="text-align: center;">・</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px;"> 習い事（始まる時間が決まっている用事） </div>	<p>C. 家族で</p> <p>おとな () 人</p> <p>小学生以上の子ども () 人</p> <p>小学生未満の子ども () 人</p> <p>あわせて () 人</p>	<p>D. どんな交通手段で？</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px; text-align: center;">クルマ</div> <p style="text-align: center;">・</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px; text-align: center;">公共交通</div>																	
AとBは、グループで選んだカードと同じものに○をつけてください。		Cには、一緒に行くと考えた、人数を書いてください																		
(3) (2) の交通手段を選んだ理由は何ですか？あてはまるものすべてに○をつけてください。 その他の場合は理由を書いてください。																				
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">快適性や利便性</td> <td style="text-align: center;">・</td> <td style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">所要時間（かかる時間）</td> <td style="text-align: center;">・</td> <td style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">金額（運賃）</td> <td style="text-align: center;">・</td> <td style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">地球環境</td> <td style="text-align: center;">・</td> <td style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">健康</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">その他</td> <td colspan="7" style="padding: 2px;">（→具体的に： _____）</td> </tr> </table>				快適性や利便性	・	所要時間（かかる時間）	・	金額（運賃）	・	地球環境	・	健康	その他	（→具体的に： _____）						
快適性や利便性	・	所要時間（かかる時間）	・	金額（運賃）	・	地球環境	・	健康												
その他	（→具体的に： _____）																			

MM授業に関する保護者の感想（保護者向けアンケートの結果）

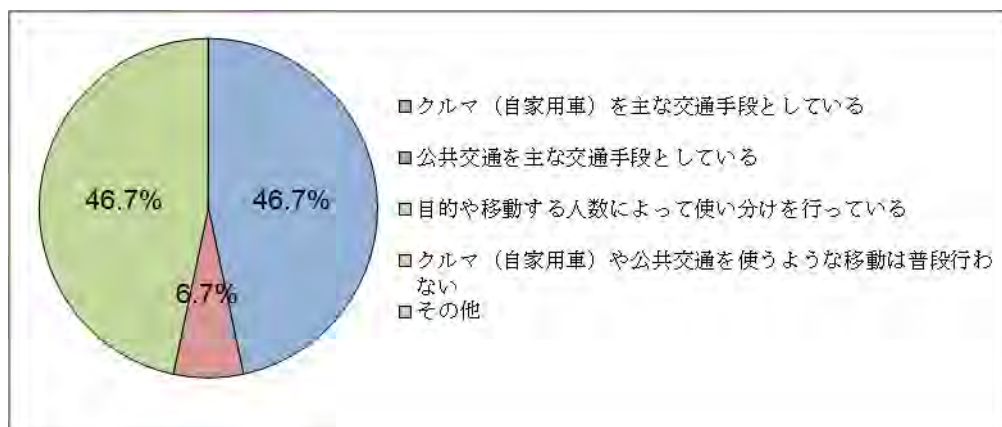
1) 保護者へのアンケート結果

問1：日常的な移動についてお答えください。

日常的な移動手段としては、クルマ（自家用車）を主としている割合が約47%と高く、公共交通を主としている割合が約7%と低くなっている。曜日別の平均歩数を見ると、

しかしながら、目的や移動する人数によって移動手段を使い分けしている割合が約47%と高く、日常的にTPOにあわせて、移動手段を選択していることがわかる。

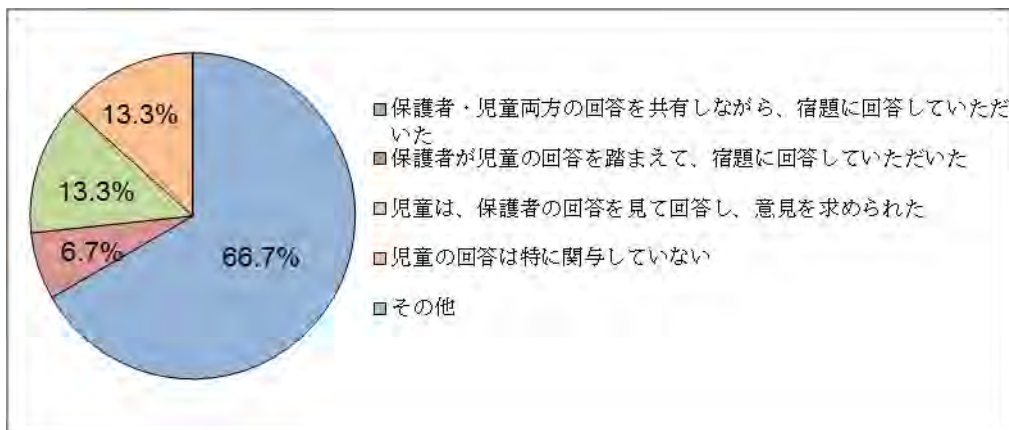
	人数	割合
クルマ(自家用車)を主な交通手段としている	14	46.7%
公共交通を主な交通手段としている	2	6.7%
目的や移動する人数によって使い分けを行っている	14	46.7%
クルマ(自家用車)や公共交通を使うような移動は普段行わない	0	0.0%
その他	0	0.0%



問2：今回の宿題を行うにあたって、保護者と児童とのやり取りについてお答えください。

宿題の実施にあたっては、保護者が児童の回答に対し、何らかの関与している割合（「児童の回答には、特に関与していない」を除いた割合）が、約87%と高い結果になっている。

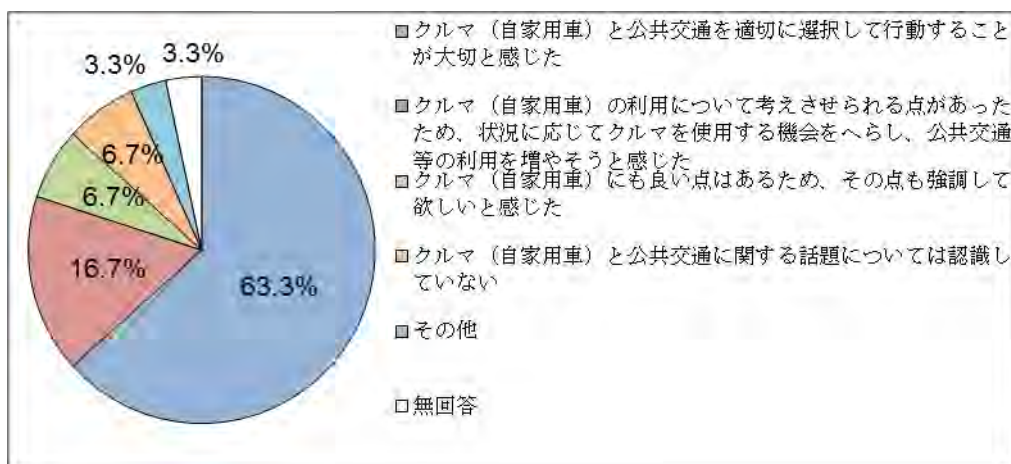
	人数	割合
保護者・児童両方の回答を共有しながら、宿題に回答していただいた	20	66.7%
保護者が児童の回答を踏まえて、宿題に回答していただいた	2	6.7%
児童は、保護者の回答を見て回答し、意見を求められた	4	13.3%
児童の回答は特に関与していない	4	13.3%
その他	0	0.0%



問3：今回の宿題にあたってクルマ（自家用車）と公共交通に関する話題を添付しましたが、考えさせられた点があれば、お答えください。（複数回答可）

「クルマ（自家用車）の利用について考えさせられる点があったため、状況に応じてクルマを使用する機会をへらし、公共交通等の利用を増やそうと感じた」の回答が約17%であったが、「クルマ（自家用車）と公共交通を適切に選択して行動することが大切と感じた」の回答が、約63%と高い結果が得られた。

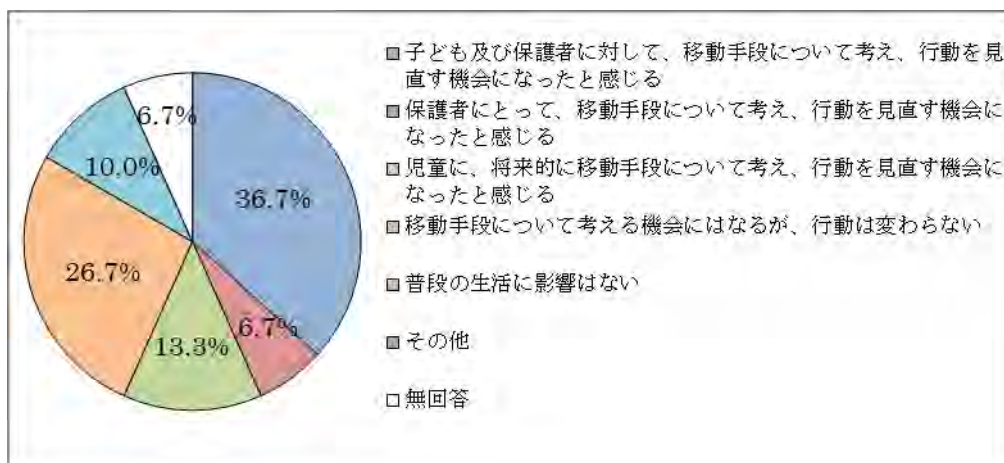
	人数	割合
クルマ（自家用車）と公共交通を適切に選択して行動することが大切と感じた	19	63.3%
クルマ（自家用車）の利用について考えさせられる点があったため、状況に応じてクルマを使用する機会をへらし、公共交通等の利用を増やそうと感じた	5	16.7%
クルマ（自家用車）にも良い点はあるため、その点も強調して欲しいと感じた	2	6.7%
クルマ（自家用車）と公共交通に関する話題については知識していない	2	6.7%
その他	1	3.3%
無回答	1	3.3%



問4：このようなクルマ（自家用車）と公共交通について考える機会を設ける授業についてどのような影響がある（あった）と感じますか。

「子ども及び保護者にとって、移動手段について考え、行動を見直す機会になったと感じる」の回答が、約 37%であり、「保護者もしくは児童にとって移動手段について考え、行動を見直す機会になったと感じる」を含めると、約 57%となっており、半数以上が、この授業（宿題）を通じて、見直す機会になったと回答している。

	人数	割合
子ども及び保護者に対して、移動手段について考え、行動を見直す機会になったと感じる	11	36.7%
保護者にとって、移動手段について考え、行動を見直す機会になったと感じる	2	6.7%
児童に、将来的に移動手段について考え、行動を見直す機会になったと感じる	4	13.3%
移動手段について考える機会にはなるが、行動は変わらない	8	26.7%
普段の生活に影響はない	3	10.0%
その他	0	0.0%
無回答	2	6.7%



問5：授業についての意見。(自由記入)

意見1：なかなか普段じっくり話し合う機会はなかったので、環境の事も含め、自分達に出来る事は何か考える良い時間になったと思います。
意見2：環境との関係につき、学校でも教えてもらいたいし、家庭でも話し合いたいと感じた。
意見3：自家用車を主に生活していますが、行楽などの時は公共交通を利用しています。それは社会性の勉強もでき、子供が自分の力で目的地までどのようにして？いくら必要なのか？が勉強できる為です。学校でも授業でとりあげて頂けるとふだん係わる事ができない方に情報が入りとてもいいと思います。
意見4：クルマの使用にて起こる環境問題について、具体的に指導願います。
意見5：横浜に行くのは年に1回あるかないかで車で行く事もない為ピンとこない授業を聞かないでほしい。
意見6：子供と一緒に考える機会も日常生活においてなかなかないので時にはこういった授業も良いのかなと感じました。
意見7：小学生にはまだ早い。何を学ばせたいのか広範囲すぎる。
意見8：地域によっては「公共交通の本数・路線が少ない」⇒「利用が減る」⇒「廃線」という悪循環が起きている現状も知り、自分たちの地域がいかに恵まれているかということも感じてほしい。
意見9：授業参観でやってほしい。

2) 考察(全体を通じて)

- ・日常生活において約半数の家庭が、TPOにあわせて移動手段を選択しているという実態を把握できた。
- ・今回の取組(授業・宿題)を通じて、今後の行動について見直す機会となったとの回答が半数近く得られたとともに、宿題についても、大半の家庭が保護者と児童が一緒に実施しており、授業実施による保護者等への広がりについても効果が見られた。
- ・自由意見においては、否定的な意見はあったものの「授業参観でやって欲しい」など肯定的な意見が多く得られた。

第5章 駒寄小学校における教育ツール作成及び実施支援

5.1 駒寄小学校における授業の進め方

実施概要	・総合的な学習の校外学習（江ノ島探検ミステリーツアー）に合わせ、移動で公共交通を体験することで社会の自動車工業、地球環境について知るプログラムとした。				
年度・学年	H27年度・小学5年生				
授業の狙い	1. 江の島までの交通について理解する 2. クルマと公共交通の良いところ、悪いところを理解する 3. TPOにあわせて移動手段を選択することが、大切であることを理解する				
実施時間	【授業1】 …1 時限分	【授業3】 …2 時限分	【授業2・校外学習】 …1 日間実施		
授業形式	教室内の授業形式	校外学習形式	宿題		
連携する教科と単元名	【社会】自動車工業、国土と自然 【総合学習】江ノ島ミステリーツアー		MMの構成要素	習熟の深度化 公共交通の知識 公共交通の利用（実践） 移動の及ぼす影響の把握 公共交通とクルマの対比 仮定した状況下での移動計画（行動プラン） 選択した交通行動の評価・共有	
学習構成【授業の進め方】					
授業概要 時間軸	ステップ1	【授業1】公共交通で江ノ島に行く経路等を調べる【社会】 ・江の島まではどのような公共交通の経路があるのか、自分たちのグループはどの経路で行くのか、どのように公共交通を使うのか、を調べる。	●		●
	ステップ2	【授業2】バス、電車を使って江ノ島に行く【総合学習】 ・実際に公共交通を使い、便利なところ、不便なところ、分かりやすさ、分かりにくさ、不安など感じ、発見する。		●	
	ステップ3	【宿題】江ノ島への移動体験を振り返る【社会】 ・公共交通を利用して感じたこと、公共交通の長所、短所や、江の島にある交通施設をふりかえり、まとめる。			●
	ステップ4	【授業3】校外学習をふりかえる【社会】 移動手段の目的に応じた使い分けの必要性を知識する ・自分たちが利用した経路を確認し、公共交通を利用して感じたこと、考えたことをふりかえる。公共交通とクルマの、良いと思う、良くないと思うところを考へてみる。 ・クルマと公共交通などの目的に応じた使い分けの必要性を発見し、今後、家庭でもどのようなことが出来そうかを考へてみる。		●	●
実施の成果及び反省点	<ul style="list-style-type: none"> 調べる、江ノ島に行き、ふりかえり知識するという一連の流れにおいて、特にふりかえりと発見の授業（授業3）において2時限分連続で実施したことにより、発見（気づき）への展開、児童の理解が円滑であった。 小学校5年生までに修得した学習内容（社会-自動車工業、国土と自然等）があることにより、今回のMM教育の理解が進んだと考えられる。 				

②江の島探検ミステリーツアーの感想シート（児童用）【宿題】

☆「江の島探検 ミステリーツアー」に行ってみて☆

名前

辻堂駅までの行き方・かかった時間

電車に乗ってみた感想・気づいたこと

公共交通（電車・バス）の良いところ・悪いところ

クルマの良いところ・悪いところ

江の島にあった交通施設・気づいたこと

【授業3】 校外学習をふりかえる【社会】

移動手段の目的に応じた使い分けの必要性を知識する

1) 実施概要

校外学習での体験や日常生活での経験をもとに、公共交通とクルマの良いところ、悪いところを整理した。また、公共交通とクルマの違いについて、データ等をもとに知識を深めた。

クルマと公共交通の良いところ・悪いところを理解したうえで、TPO に応じた移動手段を選択することが、大切であることを伝え、理解した。

2) 場所：藤沢市立駒寄小学校 5年生

3) 日時：2016年（平成28年）1月19日（火）～22日（金） 【授業3】

2時限分（実施した時限はクラスにより異なる）

4) 授業の展開 【授業3】

	学習活動	指導上の留意点
	ふりかえり授業を始める前に	・感想シートを利用した授業なので、授業の最初に感想シートを返却する。
1時 限分	①【問3】公共交通（電車、バス）の良いところ、悪いところについて、【問4】クルマの良いところ、悪いところについて、を中心に授業を開始する	・公共交通、クルマの良いところ、悪いところについての意見を児童に求める。児童の意見は「利便性・快適性に関するもの」、「目的地までの所要時間に関するもの」のように、大まかな分類に整理する。 ・生徒の発言に合わせて、事故件数のデータ等も示して、知識を深めてもらう。
	②【問1】「辻堂までの行き方・かかった時間は」で出された意見を発表してもらう	・感想シートで出された意見を児童に発表してもらう。自分の感想と、①で整理した意見との相違なども確認する。実際に移動にかかった時間と、時刻表上の時間を比べ、バスや電車が移動に正確な乗り物であることを認識してもらう。
	③【問2】「電車に乗ってみた感想・気づいたこと」で出された意見について紹介する	・感想シートで出された意見を児童に発表してもらう。同じような意見でも公共交通とクルマで食い違うものを確認する。
	④公共交通、クルマの良いところ、	・児童から出た意見を先生が整理し、意見がくい

	<p>悪いところについての意見交換を行う</p> <p>⑤【問5】江の島にあった交通施設・気づいたことを発表してもらう</p>	<p>違う点や、多く意見があった点について話題提供を行う。意見のくい違いについては、公共交通、クルマのどちらかが移動手段として優れるものではなく、状況によって選択が異なるということなどを解説する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平日および休日における江の島大橋、駐車場の様子（写真）を提示し、どんな交通施設があったのか挙げてもらう。 ・模造紙の平日と休日の混雑について、理解を深める。休日にクルマで行くと渋滞になってしまおうと同時に公共交通で行くと駅から歩かなければいけないことも併せて気づいてもらう。
<p>1時 限分</p>	<p>⑥日常生活で江ノ島に行く状況（シチュエーション）を設定する</p> <p>⑦設定した状況においてクルマか公共交通のいずれを選ぶか考える</p> <p>⑧先生から講評する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅から江ノ島に行くことは固定条件として、以下のA～Cの状況をグループごとに決めるグループごとにA～Bのカードをくじ引きのようにひいて、出た内容に応じた設定を行う。Cはグループで設定する。 シチュエーション設定 A どんな日に？ B 何をするために？ C 家族何人で？ 江の島へ行く ・設定した状況において、クルマ・公共交通の手段をまとめる。TPO※に応じて公共交通、クルマを使い分けしていくことができる、必要ということを知ってもらう。 ・グループごとにクルマと公共交通のどちらを使うかとその理由を発表する。 ※TPO（ティーピーオー）．Time（時間）、Place（場所）、Occasion（場合、Opportunity） ・公共交通、クルマを状況に応じて選択することが地球環境、目的を全うするために重要という趣旨の説明をする。日常生活においても、TPOに応じた移動手段の選択を実践してみるよう伝える。
	<p>授業についての感想を書く</p>	

5) 当日の状況 【授業3】



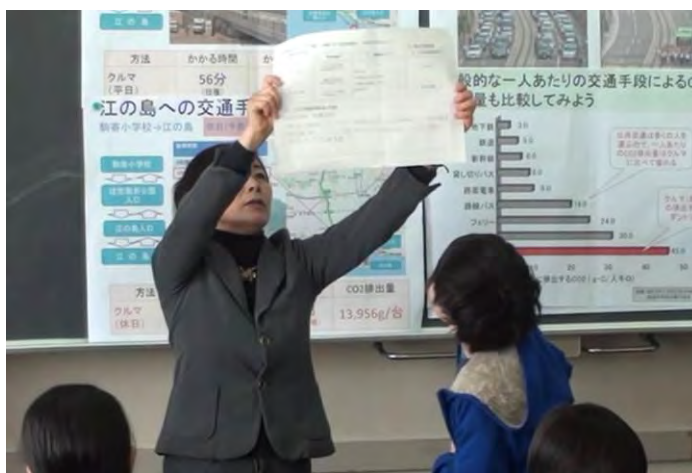
良いところ、悪いところを考える



データ等をもとに知識を深める



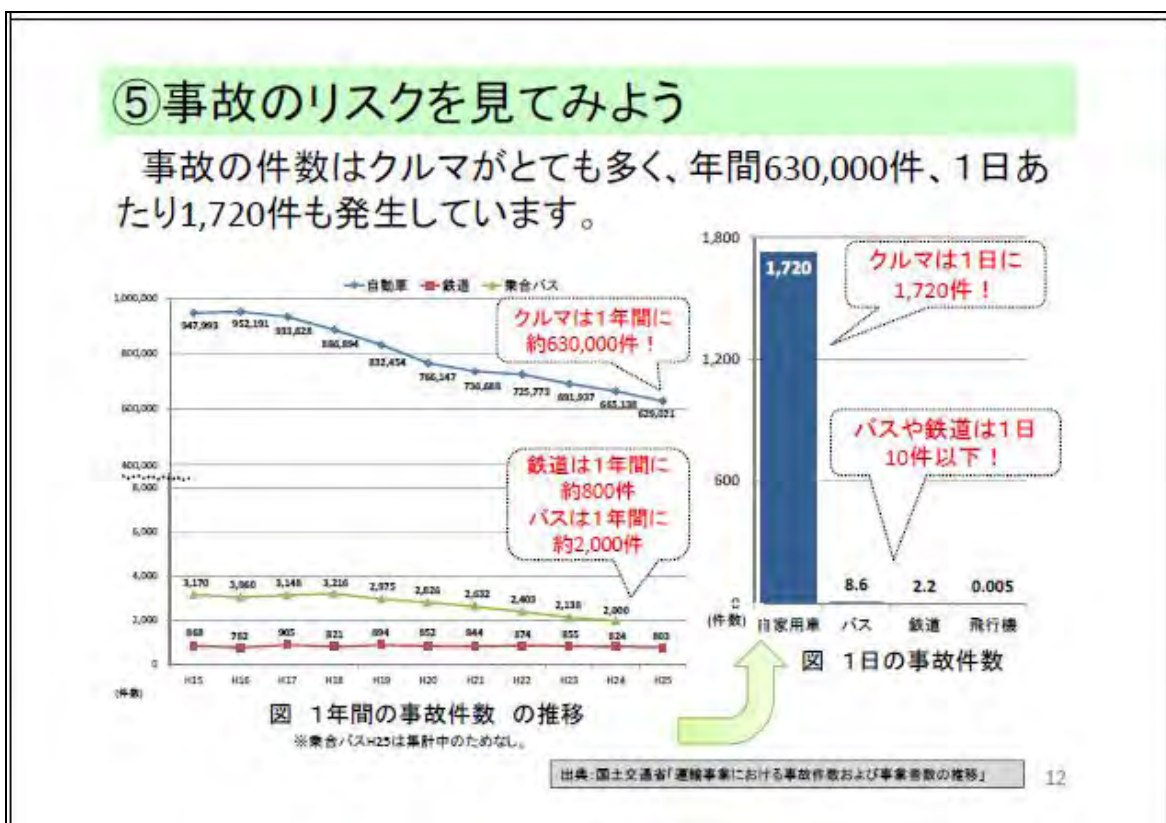
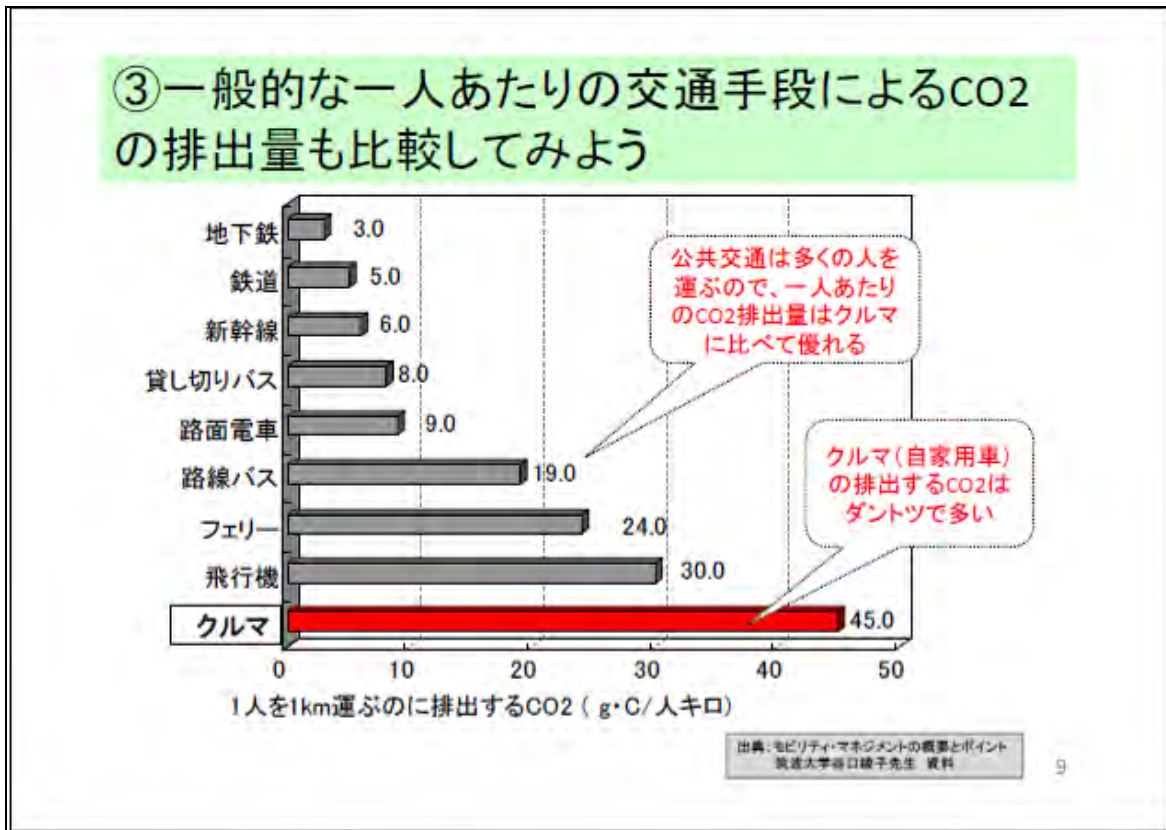
TPOに応じた移動手段を考える



考えた移動手段について発表

6) 授業で使用した教材 【授業3】

②知識を深めるためのデータ集 (A1サイズ模造紙)



渋滞対策 クルマと路線バスを比べてみよう



Takaoka, Japan
Photo by Toyama Environment Foundation

乗用車50台と50人



Takaoka, Japan
Photo by Toyama Environment Foundation

路線バスと50人

出典:(公財)とやま環境財団HPより 撮影地:富山県高岡市

1

③交通施設を確認する際に用いた地図 (A1サイズ)



④江の島の平日と休日の様子（A3サイズカラー写真）



⑤江の島へ行く際の所要時間、費用及びCO²排出量一覧（A1サイズ模造紙）



江の島への交通手段(公共交通の場合)

駒寄小学校→江の島

平日(午前10時00分出発)



方法	かかる時間	かかる費用	CO2排出量
公共交通機関	70分 (往復・乗換含まない)	1,132円 (往復のバス、電車代)	660g

江の島への交通手段(クルマの場合)

駒寄小学校→江の島

休日(午前10時00分出発)

江の島の
平均駐車料金



方法	かかる時間	かかる費用	CO2排出量
クルマ (休日)	130分 (往復)	1,498円 (ガソリン(駐車場))	13,956g

⑥シチュエーションカード（A5サイズ）

1) いつ

平日

休日
(土曜日や日曜日)

2) 何の目的

江ノ島から遊覧船に
乗る(11時)

新江の島水族館の
イルカショー

展望台に登る

⑦状況設定シート（個人、班ともにA3ヨコサイズ）

年 組 名前: _____

『自宅』から『江の島』に家族と行く状況を設定し、交通手段を考えよう！

(1) はじめに状況を設定してください。 → (2) 交通手段を選んでください。

AとBは、グループのリーダーが選んだカードと同じものに○をつけてください。		Cには、自分で考えた、人数を書いてください		あなたがA～Cで設定した状況で、「クルマ」と「公共交通」のどちらの交通手段をつかうか考えて、選んだ方に○をつけてください	
A. いつ？	B. 何の目的？	C. 家族何人で？		D. どんな交通手段で？	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">平日</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">土・日・祝日</div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">へんてん丸に乗る (始まる時間が決まっている)</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">展望灯台に登る (始まる時間が決まっていない)</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">イルカショーを見る (始まる時間が決まっている)</div>	おとな () 人 小学生以上のこども () 人 小学生未満のこども () 人 あわせて () 人		<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">クルマ</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; text-align: center;">公共交通</div>	

(3) (2) の交通手段を選んだ理由は何ですか？あてはまるものすべてに○をつけてください。 ←
 その他の場合は理由を書いてください。

<input type="checkbox"/> 快適性や利便性	<input type="checkbox"/> 所要時間（かかる時間）	<input type="checkbox"/> 金額（運賃）	<input type="checkbox"/> 地球環境	<input type="checkbox"/> 事故
その他 (→具体的に: _____)				

_____ 班

『自宅』から『江ノ島』に家族と行く状況を設定し、交通手段を考えよう！

(1) 設定した状況 (2) 選んだ交通手段

A. どんな日に？	B. 何をするために？	C. 家族何人で？		D. どんな交通手段で？
<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">平日</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">休日</div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">アイランドスパ</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">新江ノ島水族館</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">江の島周辺観光</div>	おとな () 人 小学生以上のこども () 人 小学生未満のこども () 人 あわせて () 人		<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">クルマ</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; text-align: center;">公共交通</div>

(3) (2) の交通手段を選んだ理由

<input type="checkbox"/> 快適性や利便性	<input type="checkbox"/> 所要時間（かかる時間）	<input type="checkbox"/> 金額（運賃）	<input type="checkbox"/> 地球環境	<input type="checkbox"/> 健康
その他 (→具体的に: _____)				

MM授業をふりかえっての感想

授業4の実施後、これまでの授業に対する感想を生徒に聞きました。

【授業を終えての感想】

感想としては、提示したデータについて初めて知ったという事への驚きや、公共交通に関する知識が増えたという意見がありました。

また、「CO²等の環境問題」と「移動手段の選択」の関連性を学んだという声もありました。

【主な感想】

- ・今まで何も考えずに、なんとなく乗っていた車や公共交通ですが、車の事故が1日1,000件以上あったとは、びっくりしました。
- ・これからは CO₂削減や、かかる時間、安全性などを考えて、公共交通に乗りたいと思います。
- ・となりの人や、班の人と車&公共交通のことについて、いろいろと話し合っ、車&公共交通のメリット・デメリットを知ることが出来た。
- ・藤沢市の公共交通のことや車のことが知れたので良かったです。
- ・私は、だいたいいつも車なのでCO₂も含め、電車やバスでも良いなと思いました。もっともっと公共交通に乗ってみたいになりました。
- ・公共交通が地球に優しいというのは、バスの上のチラシみたいなのに見たので知っていましたが、具体的にどんなふうに地球に優しいかは知りませんでしたので、とても勉強になりました。

【今後できそうなこと】

自分たちの家族構成や状況に合わせてクルマと公共交通を使いわけるといった意見が多く挙げられました。また、環境問題を考えた移動手段の選択をしたいという意見もありました。

【主な感想】

- ・道路が渋滞すると、バスの時刻表がずれてしまったり、待ち合わせの時間に遅れてしまうなど、良くないことが起こると知ったから、これからは車に頼りすぎずに、バスや電車、自転車なども使っていこうと思った。
- ・人数が多くて、車に乗りきれない時は公共交通など。車に乗りきれたり、犬もいたりする時は車で行ったりしたら良いと思いました。
- ・車は渋滞するといっぱい排出ガスが出るから、できるだけ公共交通を使っていきたいなと思いました。
- ・今後できそうなことは、車と公共交通の使い分けです。私は、いつも車の方が便利で、身内の人しか乗っていないから楽だと思っていたけど、車はあんなにもガスがでていたと思ったので、地球のためにもバスや電車も使います。

第6章 高谷小学校における教育ツール作成及び実施支援

6.1 高谷小学校における授業の進め方

実施概要	・保健の授業に合わせ、健康をテーマとして歩くことや移動手段を考えるプログラムとした。					
年度・学年	H27年度・小学3年生					
授業の狙い	1. 歩くことと健康の関係の理解 2. 健康の視点からみた移動手段選択の理解					
実施時間	【授業1】 …1 時限分 【授業2】 …1 時限分					
授業形式	教室内の授業形式	校外学習形式	宿題			
連携する教科と単元名	【保健】健康、運動について知る		MMの構成要素	習熟の深度化 公共交通の知識 公共交通の利用(実践) 移動の及ぼす影響の把握 公共交通とクルマの対比 移動計画(行動プラン) 仮定した状況下での 評価・共有 選択した交通行動の		
学習構成【授業の進め方】						
授業概要 時間軸	ステップ1	【宿題】万歩計をつけて記録(3日間)をとる【保健】 ↓ ・万歩計をつけて3日間生活をし、歩いた歩数と移動手段を交通きろくカードにまとめ、自分たちの歩数を知る。		●	●	
	ステップ2	【授業1】歩くことが健康につながることを理解する【保健】 ↓ ・歩くことが運動の一つであること、健康につながるということを知る。			●	
	ステップ3	【宿題】万歩計をつけて記録(1日間)をとる【保健】 ↓ ・授業1を受けた後に、もういちど万歩計をつけて1日生活をして、交通きろくカードにまとめる。 ・前回の歩数の記録と比べてみる。		●	●	
	ステップ4	【授業2】移動手段による歩数の違い、健康との関係を理解する ↓ ・日によって歩数が違うこと、生活で使う移動手段によって歩数が違うことを知る。			●	● ●
実施の成果及び反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・行動きろくカードには目的地や移動手段を終日記録することとし、児童はおおむね例に倣って記載することができた。 ・1回目の普段の移動歩数から2回目の移動平均歩数は増加した。 ・授業2においてBMIを算出する際、電卓を用いた授業を行ったが、電卓の機能や使い方の説明が必要なことから、授業の進行に時間が必要となった。 					

6.2 高谷小学校における教育ツール作成及び実施支援

【授業1】歩くことが健康につながることを理解する【保健】

1) 実施概要

万歩計をつけて生活した結果をもとに、どのような行動や移動手段が歩数に影響を及ぼしているのか考えた。また、同じエネルギーを消費するためにはどのような運動をどれぐらい行えばよいのか、データ等をもとに知識を深めた。

日常生活において歩数を増やすための方法をかんがえるために、先生以外の人からの説明（都市計画課）からの説明を聞いたうえで、同じ目的地でもクルマと公共交通でどれぐらい歩数が異なるのかデータを示したうえで、次の休日における行動と目標歩数を考えた。

2) 場所：藤沢市立高谷小学校3年生

3) 日時：2016年（平成28年）1月中旬（クラスにより異なる）

4) 授業の展開

	学習活動	指導上の留意点
30分	①行動きろくカードの内容を発表する	<ul style="list-style-type: none">歩数の多い生徒（15,000歩を超えた生徒）と歩数の少ない生徒（15,000歩を超えていない生徒）の行動を発表、整理して、どのような行動や移動手段が理由で歩数に差が出たのか考えてもらう。3日間の行動きろくカードの結果から、クラスの平均歩数と、他のクラスや全国の小学3年生との平均歩数がどれぐらい異なるのか示す。同じエネルギーを消費するためにはどれぐらいの運動を行うべきかデータを示して知識を深める。
15分	②日常生活で歩数を増やす取り組みを考える	<ul style="list-style-type: none">都市計画課から、藤沢駅までの歩数を交通手段別に提示し、歩数を増やすためのヒントを説明する。ヒントの説明をふまえて、日常生活の中で歩数を増やす方法を考え、行動きろくカードに記載する。合わせて目標歩数も記載する。

5) 当日の状況



行動きろくカードの発表、整理



データ等をもとに知識を深める



歩数を増やすヒントを説明



歩数を増やす方法と目標値を記入

6) 授業で使用した教材

①行動きろくカード (A5サイズ)

行動記録カードは最初の宿題から授業2にわたって継続的に資料する冊子型の教材である。全15項で構成される。



②行動きろくカードのまとめ (高さ 871mm, 幅 1,682mm)


行動きろくカードのまとめ		
	超えた人	超えていない人
行き先		
目的		
移動手段		

③行動きろくカードの平均歩数結果比較表（A 1サイズ模造紙）


※添付のものは3組の数値であり、クラスによって平均歩数が異なる。

一日どのくらい歩いているのだろう？


■平日では(3組の平均) …… 12,395歩

 3年生のへいきん …… 10,584 歩


■土・日曜日では(3組の平均) …… 6,556歩

 3年生のへいきん …… 7,605歩


ちなみに、スポーツをした場合？




すいえい(60分)
歩ぐらい



バドミントン(60分)
歩ぐらい



バレー(60分)
歩ぐらい





サッカー(1試合)
歩ぐらい




④たくさん歩けるヒント（A 1サイズ模造紙）

教材⑦

どうしたら、たくさん歩ける？(ヒント)

出発(しゅっぱつ): 高谷小学校 到着(とうちやく): 藤沢駅北口


➔


移動しゅだん	時間	歩数
1  歩く	25分	3,400歩 (2,600歩)
2  バス	20分	900歩 (670歩)
3  クルマ	15分	200歩 (130歩)

※()の中は、大人の場合

第7章 委員会の運営補助

7.1 第2回MM教育検討会資料一式及び議事要旨

7.2 第3回MM教育検討会資料一式及び議事要旨

7.1及び7.2に関する資料を次項より示す。資料構成及びページ番号は会議資料のままとしている。

**第2回 藤沢市地域公共交通会議
モビリティ・マネジメント教育
(交通環境学習) 検討会**

資料一式及び議事要旨

第2回 藤沢市地域公共交通会議 モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習） 検討会

日 時：2015年(平成27年)7月16日(木)
午後4時00分開会
場 所：森谷産業旭ビル4階
第1会議室

次 第

1. 開会

2. 委員紹介

3. 議事

議事1 中里小学校における取組みについて（報告）

議事2 平成27年度 藤沢市におけるMM教育の進め方
について

議事3 交通事業者の検討会への参加について

4. その他

<資料一覧>

- ・ 次第
- ・ 委員名簿
- ・ 出席者名簿
- ・ 座席表
- ・ 藤沢市地域公共交通会議 モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）
検討会運営要領
- ・ 資料1 中里小学校における取り組みの報告
- ・ 資料2 藤沢市版モビリティ・マネジメント教育の進め方(修正案)
- ・ 資料3 まちと江ノ電
- ・ 参考資料1 バスの乗り方・電車の乗り方ガイドブック
- ・ 参考資料2 かまくらめぐりルートと計算表

藤沢市地域公共交通会議

モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）検討会運営要領

（目的及び設置）

第1条 藤沢市内小学校でのモビリティ・マネジメント教育の継続的な実施に向け、子どもたちの個人の利便性だけでなく、社会的な影響に配慮した行動をする意識の醸成に寄与するカリキュラムや教材等の仕組みづくりの検討を行うため、「藤沢市地域公共交通会議」における検討組織として、モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）検討会（以下「検討会」という。）を設置する。

（所掌事項）

第2条 検討会は、次に掲げる事項を検討する。

- （1）藤沢市におけるモビリティ・マネジメント教育の仕組みづくりに関する事項
- （2）モビリティ・マネジメント教育推進プログラム構想・実施計画の策定
- （3）その他目的達成のために必要な事項

（構成）

第3条 検討会は、委員10人以内で構成する。

（委員）

第4条 検討会の委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱し、又は任命する。

- （1）学識経験者
- （2）学校・教育関係者
- （3）市民
- （4）市職員
- （5）その他検討会の運営上必要と認められる者

（任期）

第5条委員の任期は目的を達成するまでの間とする。

（会長等）

第6条 検討会には、会長及び副会長を置き、会長は藤沢市地域公共交通会議の会長が指名する。また、副会長は会長の指名により定める。

- 2 会長は、検討会を代表し、会務を総括し、「藤沢市地域公共交通会議」に報告する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代行する。

(会議等)

第7条 検討会は会長が招集し、会長がその議長となる。

- 2 検討会は、委員（代理人を含む）の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。
- 3 検討会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 会長は、会議の運営上必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、その説明又は意見を聴くことができる。
- 5 検討会は、「藤沢市情報公開条例」第29条第2号に基づき、非公開とする。
- 6 前項に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

(庶務)

第8条 検討会の庶務は、計画建築部都市計画課において処理する。

(雑則)

第9条 この要領に定めるもののほか、議事の手続きその他検討会の運営に関し必要な事項は、会長が検討会に諮って定める。

附 則

この要領は、平成26年11月7日から施行する。

中里小学校における取り組み報告

H26
年度
小5**1. 討論会の授業「旅行に出かけるなら、公共交通機関か、クルマか」
(フレMMプログラム) 実施日：12月15,16日**

- ・交通に関する5年生による討論会を実施した。
- ・「旅行に出かけるなら、公共交通機関か、クルマか」という議題で5年生が自由に材料集めを行い、クルマ派、公共交通派のグループに分かれて、ディベートを実施した。
- ・討論の内容を聞き、6年生がジャッジを行った。

**2. 授業「討論会の振り返りとかしこいクルマの使い方を考える」(1コマ)
(MMプログラム1) 実施日：2月10日 ★本日報告(ビデオ)**

- ・討論会における興味のポイントを踏まえて、クルマについての興味を深めながら「かしこくクルマ使う」という意識醸成を目指して実施した。
- ・討論会の授業で調べたことをもとに、クルマの長所と短所として考えられることを列挙し理解を深め、また「かしこいクルマの使い方」について考えた。

H27
年度
小6**3. 校外学習「かまくらめぐり」
(MMプログラム2) 実施日：6月16日 ★本日報告**

- ・公共交通を自分たちの力で利用できるよう自信をつけてもらうため、実際に体験してもらうことを目的としたプログラムとして実施した。
- ・既存の校外学習(かまくらめぐり)を活用し、自分たちの力で公共交通を利用できるよう、バス停、バスの車内、駅、電車の車内の表示などの意味を考えてもらった。

**4. 授業「環境に配慮した移動を考える」(1コマ)
(MMプログラム2) 実施日：6月24日 ★本日報告(ビデオ)**

- ・かまくらめぐりの振り返りとして、自分たちの行動プランに基づいたCO2排出量や金額等を算定するとともに、クルマで移動した場合のCO2の排出量、金額等との比較を行い、環境等への配慮と移動手段を考える場とした。

1. 授業「討論会の振り返りとかしこいクルマの使い方を考える」

1) 実施概要

中里小学校の5年生におけるプレMMプログラムとして、昨年12月に実施した討論会の授業をふまえ、前半にクルマと公共交通の長所・短所を理解すること及び後半にかしこいクルマの使い方を考えるという、2部構成で行った。

2) 場所：藤沢市立中里小学校 5年1組

3) 日時：2015年（平成27年）2月10日（火） 10：30～11：30 の約1時間

4) 授業の構成

①討論会の振り返りとクイズ（約20分）

○討論会での議論を思い出しながらクルマ・公共交通の長所、短所を子どもたちにあげてもらおう。（黒板を使い、マトリックスで整理）

→討論会で出た意見を黒板に貼り付ける資料で用意した。用意していない意見は、先生が手書きで付け加えて対応。

○子どもたちから、CO₂の排出量、健康、バス路線の減少についての発言にあわせて、クイズを実施。

○クルマ・公共交通の長所、短所の結果を見て、どちらも一長一短があることを確認し、うまく使いわけができないかの問いかけをした。

②かしこいクルマの使い方を考えてもらう（約25分）

○自分が大人になって免許を取得してクルマを所有することを想定して考えてもらう。（人数は一人で行ったときを想定）

○便利なのはクルマだけど、実態としては、そうでは無いことを資料で説明。

→実態はどうなのかという資料を用意した（模造紙）

※周辺道路の渋滞がわかる地図、鎌倉駅周辺の駐車場の満空状況がわかる地図、中里小学校から鎌倉駅周辺までのクルマと公共交通での所要時間やCO₂の排出量の比較ができる資料

③日常生活でも、どんな移動手段を使うのが良いのかを考えてみるように伝える

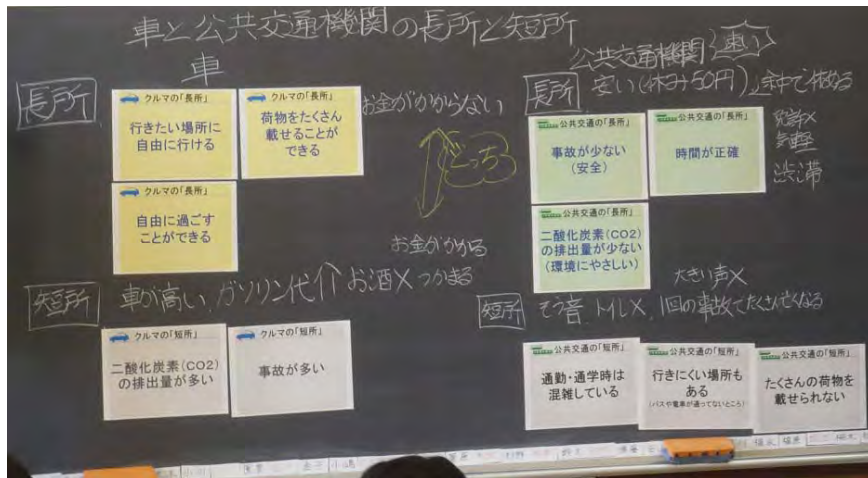
④授業の感想

○中里小学校から鎌倉まで行くとした際、クルマと公共交通のどちらを選んだかとその理由

○授業を通じての感想

5) 当日の実施状況の報告

① 討論会の振り返りとクイズ (クルマと公共交通機関の短所と長所のまとめ)



① 討論会の振り返りとクイズ (クイズを用いた授業の様子)




② かしこいクルマの使い方を考えてもらう (模造紙を用いた授業の様子)




6) 授業で使用了教材

①クイズで使用了教材【模造紙】

 **クルマの「長所」**


**自由に過ごす
ことができる**

1

 **クルマの「長所」**


**荷物をたくさん
載せることが
できる**

2

 **クルマの「短所」**

**渋滞があると
遅れる**

5

 **クルマの「短所」**

**二酸化炭素(CO₂)
の排出量が多い**

6



公共交通の「長所」

安全で事故が
少ない

9



公共交通の「長所」

遠い目的地には
早く行くことが
できる

10



公共交通の「短所」

たくさんの荷物を
運べない

13



公共交通の「短所」

行きづらい場所も
ある
(バスや電車が通ってないところ)

14

クイズ

問題 <環境>

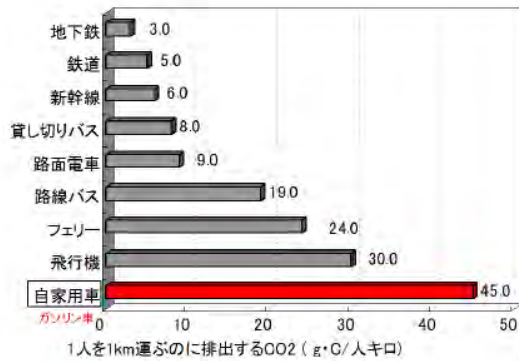
バス、電車、新幹線、クルマ。地球温暖化の原因となるCO2は、どの乗り物からも出ています。では、一人を1kmはこぶときに出るCO2は、クルマはバスの何倍出るのでしょうか？



- a. 0.5倍
- b. 2倍
- c. 8倍



■ 1人を1km運ぶのに排出するCo2



■ 次世代自動車のCo2の排出量の比較

従来ガソリン車、ディーゼル車と次世代自動車のCO2排出量の比較



出典：平成17年度LPEC総合効率検証結果

クイズ

問題 <健康>

公共交通を利用した場合とクルマを利用した場合で消費カロリーは、どれくらい違うのでしょうか？

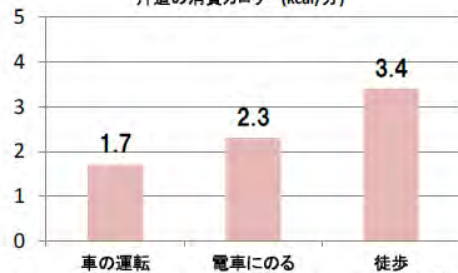


- a. 同じ
- b. 2倍
- c. 4倍



■ 移動に伴う消費カロリー

片道の消費カロリー(kcal/分)



～210kcalって？～

ジョギング(軽め)を約25分

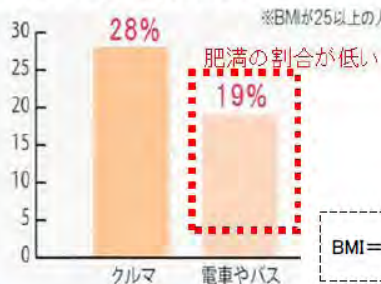
コーラ約500ml分



■ 通勤手段と肥満の割合

出典: 第5次改訂日本人の栄養所要量(1994)

※BMIが25以上の人を肥満と仮定



$$BMI = \frac{\text{体重(kg)}}{\text{身長(m)} \times \text{身長(m)}}$$



出典: 日本モビリティ・マネジメント会議

クイズ

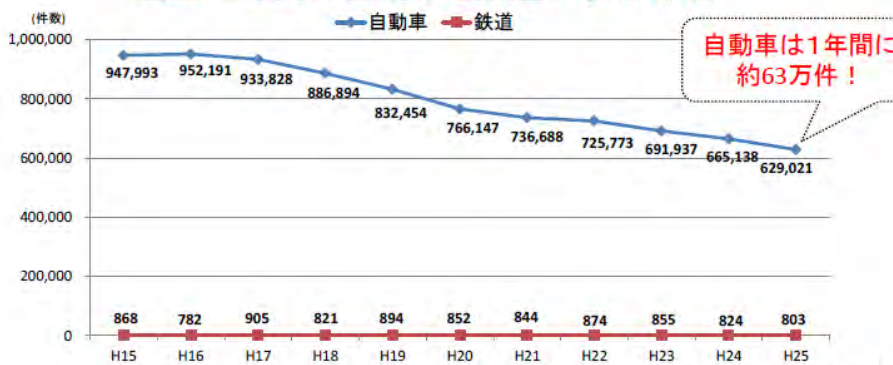
問題 <事故>

全国で、自動車事故は1日あたり約1,700件発生していますが、鉄道の事故は、何件くらい発生しているのでしょうか？

- a. 2件くらい
- b. 20件くらい
- c. 200件くらい



過去10年間の自動車と鉄道の事故件数



出典：交通安全協会

- ・交通事故は年間約63万件発生しているので、
 $63万 \div 365日 = 1,720件/日$

他の交通機関だと、
バス8.6件/日、飛行機0.005件/日、鉄道2.2件/日

出典：国土交通省「運輸事業における事故件数および事業者数の推移」

クイズ

問題. 5 <渋滞>

クルマが渋滞しているときと、していないときで、同じ距離を進むのに排出するCO₂は、どれだけ違うのでしょうか？

- a. 変わらない
- b. 渋滞時が1.5倍多い
- c. 渋滞時が5倍多い

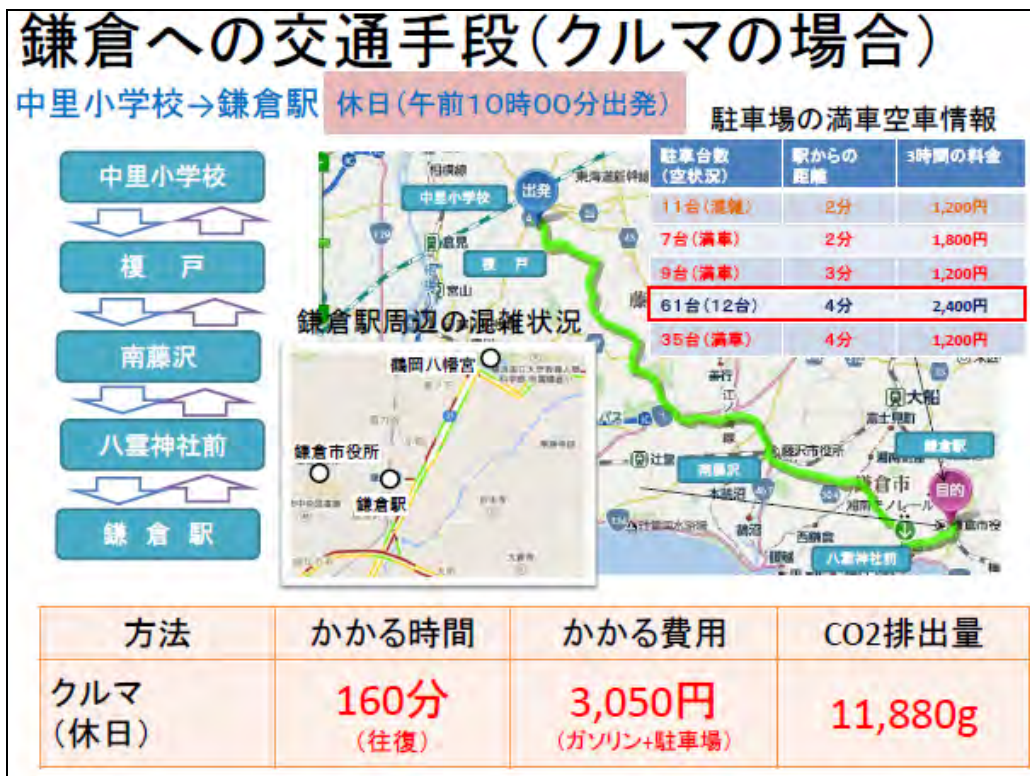
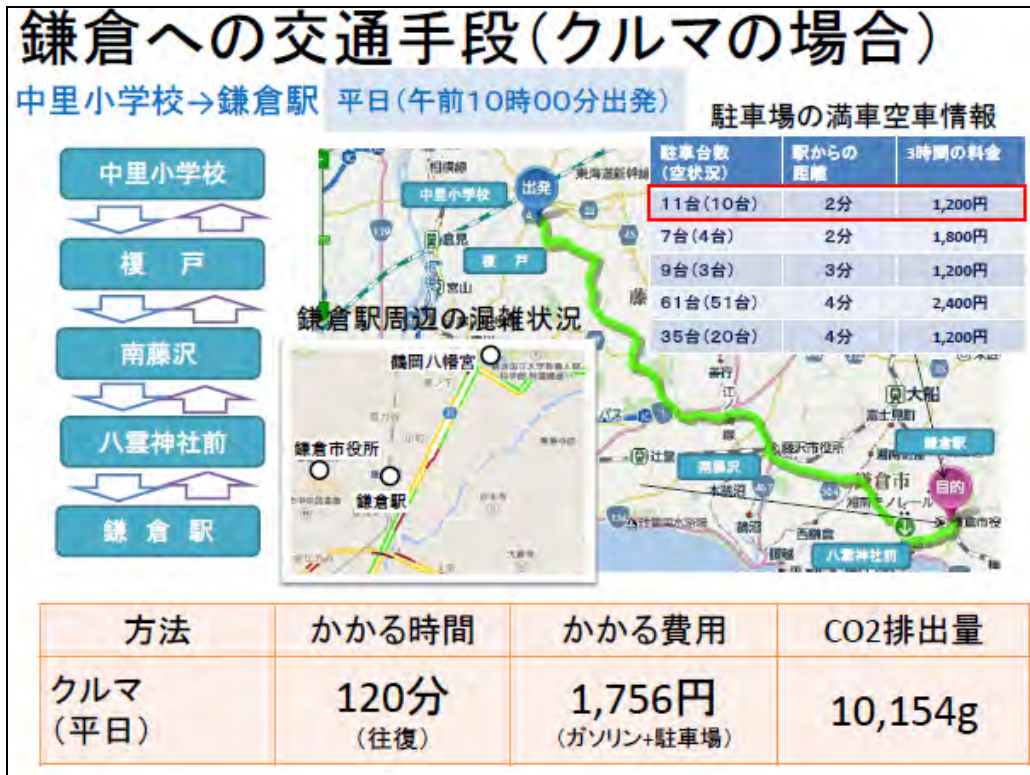


走行速度とCO₂排出量

	走行速度(km/時間)	CO ₂ 排出量(g/km)
最も多い	10	340
	20[渋滞している]	220
	40[渋滞していない]	150
最も少ない	70	120
	100	150

- ・クルマが時速40km/hで走っているときは、
約160g/kmのCO₂を排出する。
- ・渋滞で時速20km/hまで低下すると、
約220g/kmのCO₂を排出する。

②鎌倉までの交通手段比較【模造紙】



鎌倉への交通手段(公共交通の場合)

中里小学校→鎌倉駅 平日(午前10時00分出発)



7) 実施結果および感想 【※一部誤字・脱字の修正を実施している。】

クルマを選択した児童の意見

番号	理由	感想
1	僕は車の方が良いと思いました。理由は途中でトイレやご飯が食べたければ、コンビニに寄れて良いと思うからです。	中里から鎌倉まで行くのに平日と休日では時間や、かかる費用があんなに変わるなんて思いませんでした。
2	車、コンビニも行ける。	
3	平日、車で行くとかかる時間が少ないから車にした。コンビニにも寄り道できるから。	公共交通機関も良いが車の方が自由に過ごせる。でも公共交通機関の方が CO2 の排出量が少ないから良いと思った。
4	車が良いと思います。	まず僕は時間がかかると思いました。考えたことは CO2 を沢山排出することは悪いことだと分かりました。
5	もし、中里から鎌倉までいくとしたら、…車です。なぜかというとお金やかかる時間は、あまり気にしないで自由に過ごすことを僕は優先するから。しかも、自分の好きな時間に出られるからです。	車や、公共交通機関のメリットやデメリットが沢山あったので、どちらが良いのか分かりませんでした。でも、車の方が自由に過ごせるから車の方が良いです。
6	私は、車にしました。なぜかという、車は、良いことが沢山あって、駄目なところが少ないので良いなと思いました。	車と公共交通機関の長所と短所は、どちらも似ていたと思います。似ていないところは、自由に過ごすことができるのは車、その反対が公共交通機関です。
7	車?公共交通機関?車です。その理由は、公共交通機関だと時間通りでないと駄目だけど、車だったらいつでも変更できるから車の方が良いと思いました。	
8	大人1人だと車の方が少し寄り道できたり、トイレに行きたい時でも行けるからです。	車だと混雑や休日に行くと CO2 の排出量が倍になると思いました。公共交通機関は環境に優しいけど、少し時間がかかる。
9	車でドライブをしたいし休日でも駐車場は沢山あるから。	多分出かける時は、時間、場所、お金など、人間はその時々判断がくだされると思う。
10	車を選びました。なぜ車を選んだかと言うと、車でいった方が他の人に気を使わずに、しかも寄り道が出来るので選びました。	今日の授業を受けて思った事は、車も良いけど、電車も良いので、どちらもバランスよく使った方が良いと思いました。

公共交通を選択した児童の意見

番号	理由	感想
1	公共交通機関の方が車より混雑しないと思うし、ガソリン代や駐車場のお金も関係ないから。そこまで遠いわけでもないし、事故が少なく安全なので、公共交通機関にした。	今日改めて車の長所と短所、公共交通機関の長所と短所をあげたことで、行く場所などで、どっちを使った方がより良いのか、平日と休日とではどちらを使った方が良いのか、メリット、デメリットを考えて使うことが大切だと分かりました。
2	なぜ、公共交通機関を選んだかと言うと、すごく楽だからです。車だとガソリンが無駄だから。機関の方がとっても便利だからです。	車と公共交通機関どっちが楽かと言うと、公共交通機関の方が良いと思いました。車だと CO2 の排出量が多いからです。途中で、迷いました。
3	中里→鎌倉なら、僕は公共交通機関が良いです。なぜなら値段や CO2 の量が低いし、車は事故が起きないようにと神経をとがらせなければならぬけど、公共交通機関は耳だけ聞いて、のんびりしていれば良いからです。	車と公共交通機関、どちらかをとりなら、距離が長いか短いかと、話し合う人がいるかないかで決まると思いました。
4	時間はかかるけど、お金は車より安いから。混むかもしれないけど運転をしなくてすむから。	たまには車が役立ち、公共交通機関も良いということが分かった。やはりCO2は車が多いのであまり良くないと思いました。
5	やはり、かかる費用安く、時間が早いから。	もし、1人で遠くに行く時は、公共交通機関が良い。なぜなら、1人で行くと、かかる費用などが安くて良い。もし、家族で行くなら、車が良い。なぜなら、家族で話し合ったり出来る。
6	公共交通機関です。平日の車と比べてお金がかからないからです。	もり先生が太る理由が分かって面白かった。
7	お金がかからないから。	車のお金がかかるか、かからないか、という問題で僕は、公共交通機関がよいと思いました。なぜかというとお金がかからないというところからです。
8	公共交通機関の方が良いです。お酒が飲めるし車だと前しか見られないから。公共交通機関だと風景が見れるから公共交通機関の方が良いと思いました。	休日だと公共交通機関の方が良い。なぜなら渋滞しなくて時間通りに着くから。
9	私は中里から鎌倉へ行くなら公共交通機関で行きます。公共交通機関なら、バスや電車に、鎌倉行きなどがあり、あまり道を間違えないから公共交通機関の方が良いかなと思いました。	今日は色々なクイズなどをしてとても勉強になりました。鎌倉へ行くだけで2時間もかかるんだなと思いました。
10	私は公共交通機関が良いと思います。まず車は1人で行くと、とても寂しいけどバスや電車は人が多く、知らない人でも誰かがいれば安心します。しかも、たとえ着く時間が遅くても、CO2の量が少ない方が良いと思ったからです。	たとえ着くのが遅くても、CO2が少ない方が良いと思いました

番号	理由	感想
11	私は公共交通機関です。1人だと安いのは公共交通機関の方で楽し良いと思う。でも車は寄り道出来るけど、私は公共交通機関が良いと思います。	車では好きなことが出来るし、家族で行くなら、車の方が良いと思った。公共交通機関も環境のことを考えていて、次に車やバスに乗る時は環境のことを意識してみようと思いました。
12	鎌倉に行くまでにCO2は車の方がやはり多いしお金もかかるから公共交通機関にしました。	1人で行くとなると車だとやはり寂しい気持ちになるから公共交通機関の方が他のお客さんもいるからまだ良いなと思いました。
13	公共交通機関にした理由は、1自分は本当は車の方が好きだけど、CO2の排出量のことを考えたら、環境の方が大事だと思ったから。2公共交通機関だと渋滞がなくすぐ目的地に着くから。	ヨーカドーに行く場合多人数だと車の方が楽しくて楽し1人でもすぐ近くだから楽に行けると思いました
14	大人1人で中里⇒鎌倉まで車で行くか、公共交通機関か、私は公共交通機関が良いと思いました。なぜかという、車だと、10分早く着くだけで、費用とCO2が多い。でも公共交通機関だと10分遅く、費用とCO2が少ないから良いなと思いました。	私は今日、車と公共交通機関の良い所、悪い所を沢山知りました。悪い所は少し怖い所がありました。
15	環境にも優しいし、乗っている時にゆっくり出来るから。あと、そこまで細い道に車や、電車で行く必要は、ないと思う	中里から鎌倉まで、車か公共交通機関どちらかだったら交通機関です。時間が正確だし、外の景色を見ながらゆっくりできて、環境に優しいからです。行きにくい場所があるけど、そこまで車や電車で移動する必要はないと思う
16	公共交通の方が良い。表に書いている通り事故も少ないしCO2の排出量も少ないからです。	事故が少ない公共交通機関が良いと思いました。自由に行動出来るとなると車も捨て難いのですが、やはり公共交通機関の方が良いと僕は思います。
17	大人1人だったら公共交通機関を選びます。公共交通機関は、1人だと料金が車で行くより少ないので、公共交通機関が良いと思いました。	大人1人だったら、少ない人数なので、車などのガソリン代の料金より、安くなりますが、大人2小人2だと、人数が多いので、1人あたりの料金の4倍になってしまいます。でも車だと、ガソリン代などは、人数が増えても、同じ料金なので、大人2小人2だったら、車の方が良いと思いました。
18	公共交通機関、大人1人で車に乗るのは寂しいけど公共機関だと旅の気分を味わえるし、安いから。	今日の授業を聞いて思ったことは、車と公共交通機関の乗り換えの難しさです。なぜなら近場だと車の方が値段がかからないけど、遠い所は公共交通機関の方が安いからです。
19	中里⇒鎌倉、公共交通機関、1人だとあまりお金もかからないし、それにCO2の排出量も少ない人のためにもなるから。	車は色々な場所に行けるけど渋滞になったら、予定の時間に間に合うかどうか分からない。交通機関だと渋滞になることもないし時間に間に合うから。

8) 実施後の気づき

- ・授業の後半に実施した「②かしこいクルマの使い方を考えてもらおう」では、鎌倉に行くにあたり、クルマを選択する児童が多いと想定して授業を進める予定であったが、実際には多くの児童が公共交通を選択した。これは、週末は自動車が渋滞するといった現状を知っていたことや、前半部分の「クルマと公共交通の長所・短所の比較」が影響したと考えている。

9) 教材の修正

- ・クイズで使用した教材（模造紙）の解答部分については、解答の根拠となるグラフ等が掲載されている一方で、答えそのものが記載されていないため、分かりにくい状況であった。このため、「答え」を明記する修正を行った。

2. 校外学習「かまくらめぐり」

1) 実施概要

中里小学校の6年生において、総合学習の一環として実施され、事前にグループごとに、鎌倉周辺での見学先及び自宅から見学先までの移動手段・ルート等を計画したうえで、その計画に基づき、公共交通を利用して鎌倉に向かい、お寺等の施設を見学し、公共交通を利用して帰ってくるというものである。

2) 場所：藤沢市及び鎌倉市

3) 日時：2015年（平成27年）6月16日（火） 7：30～16：00

4) 校外学習の構成(スケジュール)

①御所見市民センターに集合（7：30～7：50の間に班ごとに集合）

○バスを利用して、長後駅に向かい、小田急江ノ島線に乗り換え、藤沢駅に行く。

②公共交通を利用して鎌倉へ移動

○移動ルートは「御所見市民センター前バス停→(神奈中バス)→小田急長後駅→(小田急江ノ島線)→藤沢駅→(徒歩移動)→江ノ電藤沢駅→(江ノ電)→江ノ電長谷駅または鎌倉駅

③かまくらめぐり（9：30～14：30）

○訪問先は、班ごとに午前3か所（A：大仏コース B：銭洗い弁天・寿福寺コース・C：頼朝の墓、鎌倉宮コース）、午後3か所（A：銭洗い弁天・寿福寺コース B：頼朝の墓、鎌倉宮コース・C：北鎌倉コース）の中からそれぞれ1つずつ選択。

④公共交通を利用して帰りの移動（14：30～16：00）

○移動ルートは鎌倉駅または北鎌倉駅→(横須賀線)→大船→(東海道線)→藤沢駅→(小田急江ノ島線)→小田急長後駅→(神奈中バス)→御所見市民センター前バス停

⑤御所見市民センターで解散（16：00頃）

5) 校外学習当日の様子

長後駅で電車を待っている様子



鎌倉駅での様子

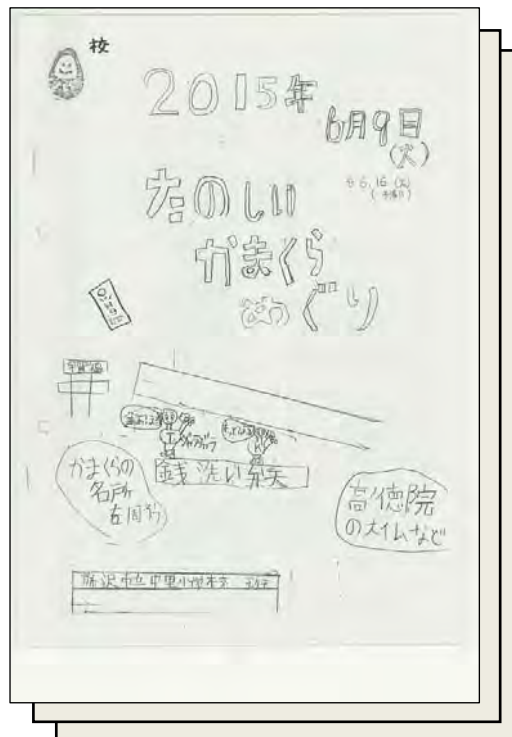


JR 藤沢駅で乗り換え切符を購入している様子



6) 校外学習で使用した教材

①かまくらめぐり（スケジュール等が記載された冊子）



②バスの乗り方・電車の乗り方ガイドブック（A4版）

公共交通を普段から利用しない児童のために、バスや鉄道といった公共交通の利用方法、ルールやマナーについて記載したガイドブック。

バス・電車の乗り方	
バスの乗り方・電車の乗り方 ガイドブック	
-目次-	
【行き】	
その1・バスの乗り方	p. 2
その2・電車（小田急）の乗り方	p. 5
その3・藤沢駅での乗り換え	p. 8
その4・電車（えのでん）の乗り方	p. 11
【帰り】	
その5・電車（JR）の乗り方	p. 15
その6・大船駅での乗り換え	p. 18
その7・藤沢駅での乗り換え	p. 19

7) 実施後の気づき

- ・ 行きの御所見市民センターから長後駅に向かうバスのダイヤが乱れ、当初乗車する予定であった電車の時刻を過ぎて、長後駅に到着した。下車駅である藤沢駅は、急行、各停ともに停車するため、来た電車に乗れば良いが、行き先が「片瀬江ノ島駅」となっていたためか、どの電車に乗って良いかわからず、来た電車に乗らずに見過ごすという状況があった。
- ・ 駅での切符購入については、行きの段階では手間取る姿が見受けられたものの、帰りにおいては、購入に慣れたせい、比較的スムーズに切符購入をすることが出来ていた。
また切符の購入については、児童がこれまでに切符の購入経験があり問題なく購入できる児童、購入できる子の様子を後ろから見たり、我々が配布したガイドブックを見て購入できる児童、そして、購入している子の様子も見ていなく、自分の番になってから、買い方がわからず困る児童と、大きくはこの3パターンにわかれるように見受けられた。
- ・ 鎌倉駅から藤沢へ戻る際、大船駅で横須賀線から東海道線に乗り換えしなければならないが、鎌倉駅の掲示板には、大船駅に向かうには、どちらの電車に乗れば良いのか案内がないため、児童がどちらの電車に乗れば良いのか困惑する状況があった。
- ・ 鎌倉駅で大船に向かう電車の中で、「次は、北鎌倉です」という車内アナウンスを聞いた児童が、反対方面の電車に乗ってしまったと判断して降車しようとする場面がみられた。想像するに北鎌倉の「北」に反応し、反対方面の電車に乗ったと勘違いしたのではないかと考えられる。

8) 教材の修正

- ・ 配布したガイドブックには、路線図や大船駅や藤沢駅での乗り場案内を掲載しておらず、児童がどの電車に乗れば良いのか困惑する状況になったため、ガイドブックには周辺エリアの路線図を掲載し、自分の乗車する電車でどこに行けるのか、どの駅に停車するのか理解できるようにする必要がある。

3. 授業「環境に配慮した移動を考える」

1) 実施概要

6月16日(火)に実施した校外学習「かまくらめぐり」の際、自分たちが移動したルートについて、公共交通で移動した場合とクルマで移動した場合とで費用とCO²排出量がどれくらい違うかを計算し、その比較を実施した。

2) 場所：藤沢市立中里小学校 6年2組

3) 日時：2015年(平成27年)6月24日(水) 9:40~11:00 の約1時間半

4) 授業の構成

①討論会を振り返り、クルマと公共交通のCO²排出量の差を予想する(10分程度)

○校外学習「かまくらめぐり」とも併せて、これまでの取り組みを簡単に振り返る。

○児童に「クルマと公共交通ではどちらが、どのくらいCO²排出量が多い」と思うか、発言してもらおう。

⇒クルマと公共交通はほとんど変わらないという意見、クルマの方が公共交通よりも1.5倍程度多いという意見等児童によって考えが異なる。多数意見としてはクルマの方が公共交通よりも1.2倍程度多いという意見。

②かまくらめぐりで実際に行った自分たちのルートで費用とCO²排出量を計算する(公共交通・クルマ) (40分程度)

○資料に基づいて実際に行ったルートにおける費用とCO²排出量の計算を実施。

○班ごとにルートを変えて計算し、各班で手分けして計算しながら比較の資料を作成。

⇒電卓を用いて距離×CO²排出量(1kmあたり)を計算して、シートに記入。

○班ごとの結果を大判用紙にまとめる。

③各班の計算結果を黒板に貼り、気づいたことを発表(25分程度)

○整理した結果を見て、気づいたこと、予想と比較してどういう結果になったのか、代表者に発言してもらおう。

④この結果を受けての感想(10分程度)

○自分の予想。

○計算結果を受けての感想。

5) 当日の実施状況の報告

CO²の比較予想



計算して記入する様子



発表



6) 授業で使用した教材 (A3サイズ)

1. 「かまくらめぐり」で行ったルートをふりかえってみよう



1

2. 行動きろく表

■きろく表 (行き)

内容	運賃	移動手段	距離 × CO ₂ の単位 = CO ₂ 排出量
御所見市民センター 集合			
御所見市民センター ↓ 長後駅	140 円	バス	5.4km 51g 275.4g
長後駅 ↓ 藤沢駅	___ 円	電車 (小田急)	___ km ___g ___g
藤沢駅 ↓ ___ 駅	___ 円	電車 ()	___ km ___g ___g
___ 駅 ↓ ___ 駅	___ 円	電車 ()	___ km ___g ___g
___ 駅 ↓ ___ 駅	___ 円	電車 ()	___ km ___g ___g
___ 駅 ↓ ___ 駅	___ 円	電車 ()	___ km ___g ___g
___ 駅 ↓ ___ 駅	___ 円	電車 ()	___ km ___g ___g
①合計	___ 円	徒歩	___ km ___g ___g

■きろく表 (帰り)

内容	運賃	移動手段	距離 × CO ₂ の単位 = CO ₂ 排出量
___ 駅 ↓ 藤沢駅	___ 円	電車 ()	___ km ___g ___g
藤沢駅 ↓ 長後駅	___ 円	電車 (小田急)	___ km ___g ___g
長後駅 ↓ 御所見市民センター 解散	140 円	バス	___ km ___g ___g
御所見市民センター 解散			
②合計	___ 円		___ km ___g ___g

表 CO₂排出量の単位一覧

	クルマ	バス	電車
1km ごとに	170g	51g	21g

徒歩と自転車は 0g (環境省環境政策評価より) (1人あたり1kmの単位での排出量)

2

3. クルマで行ったら、いくらになるか計算してみよう。

※移動にかかる費用とCO₂排出量をかきましよう。

経路	距離	費用	駐車料	料金	距離	CO ₂ の単位	CO ₂ 排出量
中里小学校	_____	_____円	_____円	_____円	_____km	_____g	_____g
_____	_____	_____円	_____円	_____円	_____km	_____g	_____g
_____	_____	_____円	_____円	_____円	_____km	_____g	_____g
_____	_____	_____円	_____円	_____円	_____km	_____g	_____g
中里小学校	_____	_____円	_____円	_____円	_____km	_____g	_____g
合計							

①ルート：中里小学校⇒長谷駅⇒鎌倉駅⇒中里小学校（駐車する駅：長谷駅、鎌倉駅）
 ②ルート：中里小学校⇒鎌倉駅⇒中里小学校（駐車する駅：鎌倉駅）
 ③ルート：中里小学校⇒鎌倉駅⇒北鎌倉駅⇒中里小学校（駐車する駅：鎌倉駅、北鎌倉駅）
 ④ルート：中里小学校⇒長谷駅⇒鎌倉駅⇒北鎌倉駅⇒中里小学校（駐車する駅：長谷駅、鎌倉駅、北鎌倉駅）

～クルマの費用を計算する時の注意点～
 ・クルマで移動するときは、1kmあたり8円の費用がかかります。
 ・駐車料金は、1箇所あたり600円がかかります。
 ・クルマで移動するときは、1kmあたり170gの二酸化炭素を排出します。

3

4. まとめ

移動する時にかかるお金やCO₂排出量の違いを知ろう

★運賃（費用）を知ろう

電車やバスで移動するとどれぐらいの運賃がかかったのか、実際に乗ったときに、2ページ目にあるスケジュールに書きましよう。

★CO₂排出量を知ろう

電車やバスで移動した距離を1ページ目の地図で調べて、2ページ目にあるスケジュールに書きましよう。

★クルマの費用とCO₂排出量を比べてみよう

電車で移動したときと同様に、クルマで移動したときの費用とCO₂排出量を書きましよう。

移動距離と使った交通手段によってCO₂排出量は違うので、下の表を使って合計を出し、最後に公共交通機関とクルマの場合の費用とCO₂排出量を比較ましよう。

	費用	CO ₂ 排出量
公共交通機関	①行き：_____円	①行き：_____g
	②帰り：_____円	②帰り：_____g
	③合計：_____円	③合計：_____g
クルマ	①行き：_____円	①行き：_____g
	②帰り：_____円	②帰り：_____g
	③合計：_____円	③合計：_____g
結果（比較）	_____の方が_____円安い	_____の方がCO ₂ 排出量が_____g少ない。

計算欄

4

7) 実施結果

①授業を実施する前に、クルマと公共交通ではどのぐらいCO²の排出量が違うと思っていたか。

②授業を踏まえて、今後はクルマと公共交通どちらを使いたい。また授業の感想は。

番号	①	②
1		僕は車と公共交通機関では、車が良いと思いましたが、車より公共交通の方がCO ² 少なくお金も安いので公共交通機関の方が良いと思います。
2	僕は、車と公共交通機関のCO ² の排出量や距離、お金などほとんどがかわらないと思っていました。ですが、鎌倉めぐりの班で調べたら、CO ² の排出量が5~6倍違うことを初めて知りました。	それと、グループのチームワークも活かす事が出来なかったのが、次の日光修学旅行でのチームでチームワークを活かしたいと思いました。
3	僕は、車と公共交通機関は、CO ² 排出量の差は、あまり変わらないものかと予想していました。	ですが、鎌倉のルート調べて、計算してみても比べてみたら、CO ² の排出量は車が、公共交通機関よりも約5~6倍も違う事が衝撃的でした。値段は、駐車場にとまる数で差を無くすことが出来るけど、CO ² 排出量の差はすごかったです。なので僕は、使うなら環境と値段を考えて、公共交通機関にしたいです。
4	自分の予想車 120% 公共交通機関	これから車ではなく公共交通機関で鎌倉などに行こうと思いました。公共交通機関の方が安いからです。
5	120ぐらいだと思っていたけど5倍から6倍までもCO ² の排出量が違うなんて驚きました。	車の駐車料金も全然違うというのも驚きました。公共交通機関は、環境にも良いし車は便利だけど、公共交通機関の方が、お金の無駄にならないし、便利だなあと思いました。駐車にとまった数でもあるけど、やはり交通機関の方がいいです。
6	自分の予想は 120 ぐらいだと思いました。だけど 5~6 倍と知って、びっくりしました。	駅に沢山行ったので車のお金もかかりました。だけど公共交通機関は環境にいいし、お金も車よりかかりません。車はすごく便利だけど公共交通機関の方がお金もかからないしCO ² 排出量も少ないから、すごく良いと思いました。車と公共交通機関のCO ² 排出量が5780gも違うことがすごいと思いました。車より公共交通機関を出かけるときに使いたいと思います。
7	僕は最初CO ² 排出量は車が少しだけ多いと思っていましたが、車は約7,038だと分かってびっくりしました。	後、料金は公共交通機関が多いと思っていましたが、車が多いとは全く思っていませんでした。これから自分はバスや電車など使っていきたいです。でも車もほぼ毎日乗っているので乗らないのは嫌ですねえ~。免許ぐらいは欲しいです。

番号	①	②
8	僕は、車の方より交通機関の方が CO ² ガスが沢山でているのかなあと思っていたけど、調べると公共交通機関の方が量が少なくてびっくりしました。(お金も車より交通機関の方が安い。)	だから分かった事は、遠い所は、公共交通機関を使って、近い所は、車を使った方が良いと思いました。
9	僕の予想は、公共交通機関 100g に対して、車は 120g だと思いました。	でも結果を見たら、公共交通機関 1299g に対して、車が 6613g と CO ² 排出量が驚くほど違うことにびっくりしました。お金も公共交通機関 750 円に対し、車は 1512 円と全然違ったので驚きました。これで公共交通機関の方がお得ということが分かりました。
10	自分の予想 車 90%、公共交通 100% ぐらいだと思いました。	これからは公共交通機関をなるべく使い、でも近い所は歩き、また自転車を使います。車は、なるべく使わないようにしたいです。
11	最初、私は、CO ² の方が多いと思っていました。	でも今回の授業で公共交通機関の方が CO ² の排出量が車より少ない事が分かりました。車と電車の値段の差がすごい事も分かりました。車は 1km に 170g、バスは 51g、電車は 21g です。車は、CO ² の排出量が多い事がよく分かりました。CO ² を増やさないためには、自転車や徒歩の方が良いと感じました。半年前の討論会では、公共交通機関の方が良いと分かりました。今回も、公共交通機関の方が良いと分かりました。今回の授業は、大切だと思いました。
12	CO ² の排出量は、少ないかと思ったけど意外と多かった。	分からない事が、分かって良かったです。書くのが大変だったけど、ちょっと友達に見せてもらって書きました。いくらかかるとかなど、分かったからそれを利用してどこかに行きたいです。
13		僕は、車と公共交通機関では、値段の差がこんなにあるなんて思っていませんでした。予想が結構はずれました。車より公共交通機関の方が CO ² が 5792 も差があるのでびっくりしました。最初は車と公共交通機関で結構差があるので疑ったけど意外でした。
14	まず CO ² ガスは車の方が 20 倍ぐらい多いかなと思ったけど実際は 5~6 倍ぐらいでした。	感想としては、まず CO ² ガスの差にびっくりしました。さらにお金も公共交通機関の方が安いから良いことづくしすぎてさらにおどろきました。なのでこの結果から僕は公共交通機関が良いと思います。
15	私は、車より公共交通機関の方が CO ² が多いと思っていました。	でも車の方が公共交通機関より多いのが分かりました。最初は、疑いました。でも今夏の授業で、これからはあまり車を使わないで、なるべく公共交通機関を利用した方が良いことが分かりました。

番号	①	②
16	私は、最初車は、公共交通機関に比べて、9倍ぐらいで、クラスのほとんどが、あまりないと思っていたけど、計算してみても5、6倍だったので、私もクラスのみみんなもびっくりしました。また、お金も班ごとに差はあるけど、思ったより公共交通機関の方が安かったので、これにもびっくりしました。	このことから、公共交通機関が車より、環境にも優しいし、お金もあまりかからないことを頭の中に入れて、公共交通機関を利用したいと思いました。
17	自分の予想 車が120% 公共交通機関が100%	今日、私が見つかったことは、まず、公共交通機関の方が、かかる料金が安いということ、CO ² 排出量が少ないということです。なのでこれからは、なるべく車ばかりではなく、公共交通機関を使ったり、自転車や歩くこともしたいと思います。
18	私の予想は、公共交通機関と車の差は5倍ぐらい車が多いと予想しました！！	計算をしてみるととても大きな差があることが分かりました。わたしたち10班はいろいろな駅に行ったので、とても沢山お金を使いました！振り返ってみると、違う班の人より1番多くお金を使っていて、1つの駅の近くしかまわっていない人と大きな差があるのに気が付きました。でもCO ² の排出量は思ったより少なくて良かったです。私は移動手段に車を多く使わないようにし、公共交通機関を利用するか、近くに行くならば、自転車や徒歩で行くことを優先で頑張りたいです。
19	僕は最初はCO ² （二酸化炭素）の排出量はそんなに違いがないと思いました。	しかし、計算してみると、どんどん違いがでてきてついには5~6倍ぐらいの差があることに気づきびっくりしました。しかも僕はお金は車の方が安いと思っていましたが、その予想は全くはずれて、電車の方が料金も安いし、しかも公共交通機関と車は1381円の違いがあったのです。この結果を受けて僕はなるべく電車やバスの公共交通機関を使うようにしようと思いましたが、CO ² が排出されない自転車や歩きを使おうと思います。
20	自分の予想 車120%、公共交通機関100%	私が見つかったことは、車と公共交通機関を比べると公共交通機関の方がCO ² 排出量が少ない事が分かりました。なので、これからはなるべくCO ² の排出量が少ない公共交通機関を使うようにしようと思います。
21	ぼくの予想は、公共交通機関190gとして車は180gとっていました。	結果を見たら公共交通機関の方がCO ² も削減できるし安くすむので、公共交通機関の方が良いと思いました。

番号	①	②
22	前から公共交通機関の方が、お金も CO ² も車より少ないのは知っていたけれど 2倍くらいかと思っていた。	でも今回調べてみて 5~6倍と知ってとても驚きました。いつも移動のほとんどが車だったけどこれからは車で出かけていた所を公共交通機関で移動しようと思いました。あまり電車やバスの乗り方に慣れていないけど、乗りたいと思いました。
23	最初に思っていたことは、車と公共交通機関あまり差がないと思っていました。	でも、鎌倉に行ったルートで比べてみると車の方がお金もかかるし、CO ² の排出量が全然違うことが分かって、びっくりしました。僕は、普段公共交通機関を使うことが少なく、車で色々な所へ行くことが多いので、このことを知って、これからは、普段の生活でも公共交通機関をもっと使っていきたいと思いました。
24	最初は、電車と公共交通機関そんなに差はないかなあと思っていたけど、CO ² は車と公共交通機関で 5~6倍もあるのに、とてもびっくりしました。	お金は（私たちのチームは）764円も違うのにもびっくりしました。CO ² は環境にも悪いので、車も良いけど、電車やバスをなるべく使い、CO ² も減らしつつ、お金も沢山使わないので、私は公共交通機関はとてもいいと思いました。（討論会では私は、車を選びました！）
25	最初の予想は、CO ² が 20%違うと予想しました。	でもこれをやって分かりました。公共交通機関は、車より CO ² の量が少ないし、かかるお金の料金も少なかった。もしも、友達と映画とかなに行くとしたら、CO ² が少ない、かかるお金が少ない公共交通機関にしたいです。もし、この勉強をしなかったら、映画とかも車で行ってたかもしれません。
26		今回の授業で思った事は、自分の予想よりすごく違いました。なんと 400%でした。これは、少しショックでした。これからは、車より公共交通機関を使おうと思いました。
27		私は、5年生のときの討論会で CO ² の事を調べ、どの位の差があるのか知りました。なので予想は、歩美さんと同じ予想（車 900、交通機関 100）をすることができましたが、今回の授業で車、バス、電車、それぞれ 1km ずつ何 g の CO ² を排出するのかを学びました。自分たちが実際に行った鎌倉めぐりのルートで調べることで、こんなにも排出するのかと、初めて実感しました。私の家族は、車で出かけることが多いので、公共交通機関をもっと使うようにしたいです。50g の排出でどんな事が起きるのか、そのような所も調べてみたいです。

番号	①	②
28	最初、僕の予想は CO ² の排出量が車の方が、20%ぐらい多いのかなと思っていたけど、予想は大はずれ。なんと 500%もありました。これはやられたと思いました。	今回の結果を受けて、将来、車に乗ってみたいけど、なるべく電車やバスを使っていきたいと思います。半年前、僕は、車の側についていました。けど、調べているうちに、バスの方が環境に良い事に気が付きました。でも、僕は、乗りやすさのことばかり考えていました。でも、今回の授業で環境にも目を向けて行く事が大切だと思いました。
29	予想は、公共交通機関の方が良いと思いました。	なぜなら 5 年生の時に討論会で公共交通機関の方が良いと言っていたからです。予想が当たっていたので良かったと思いました。

8) 実施後の気づき

- ・今回の授業は、CO₂ の排出量の計算に時間がかかり、最後の計算結果を見て、気づいたことを児童に発表してもらった部分の時間を十分確保することができなかつたため、気づきを発表してもらった授業構成の工夫が必要である。
- ・クルマと公共交通の比較だけでなく、徒歩や自転車に着目する児童もいたことから、自転車や徒歩についても考えられるような授業構成等の工夫が必要である。

9) 教材の修正

- ・クルマの距離を計算する際に、どこまでの移動が「行き」の欄に記載し、どこからが「帰り」の欄に記入するのかわからないといった状況があったため、わかりやすい計算シートにするなどの修正が必要である。
- ・CO₂ の排出量の計算時間を短縮できるよう、教材を工夫する必要がある。

藤沢市版モビリティ・マネジメント教育の進め方（修正案）

1. 目的

藤沢市版モビリティ・マネジメント教育の実施により、子どもたちに個人の利便性だけでなく、社会的な影響に配慮した行動をする意識を醸成することを目的とします。

～子どもたちのめざす姿～

子どもたちが

- ・ 目的や行き先などにあわせて、移動手段を考え、かしこく公共交通、自転車、クルマ、徒歩等を使うことができる
- ・ 個人の利便性だけでなく、社会的な影響に配慮した行動をすることができる

2. 目標

数年間（2～3年程度）のモデル校（毎年2～3校程度）での実績を積み上げ、教材を作成し、藤沢市内の小学校（市立小学校※）で、学年を指導する教員により継続的に展開（全市的な学校 MM の展開）することをめざします。

※藤沢市立小学校は 35 校

3. 特徴

つぎの3つの特徴をふまえた MM 教育の展開を図ります。

特徴1： **知識と実践**の構成による MM 教育の展開

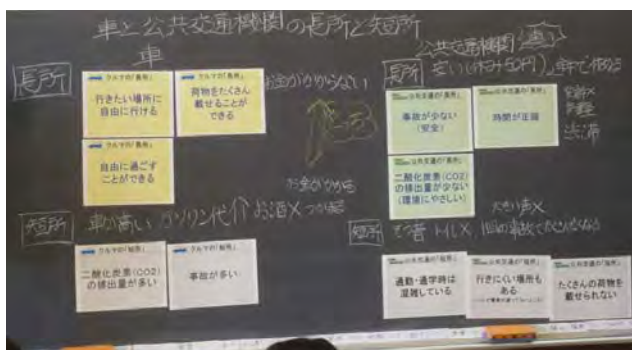
特徴2： **学習活動と連携した** MM 教育の展開

特徴3： **児童の公共交通の利用状況**を勘案した MM 教育の展開

特徴1：知識と実践の構成による MM 教育の展開

→児童が『**知っている** + **乗れる**』ことを基本とした授業構成にする。

- ・ 移動が地球環境や日常生活などに影響を及ぼしていることを知る。
- ・ 校外学習等と連携し、公共交通を利用することを体験する。



特徴2：学習活動と連携した MM 教育の展開

- 教科書の内容と連携した取り組みが出来る MM 教育とする（例えば、自動車工業等の授業と連携した MM 教育）。
- 学校の先生が主体となって実施しやすい MM 教育とする。
- 小学4、5、6年生向け MM 教育とする。

（どの学年で実施するか、連続で実施するかは学校によって選択）



藤沢市の小学校で使用する社会科教科書

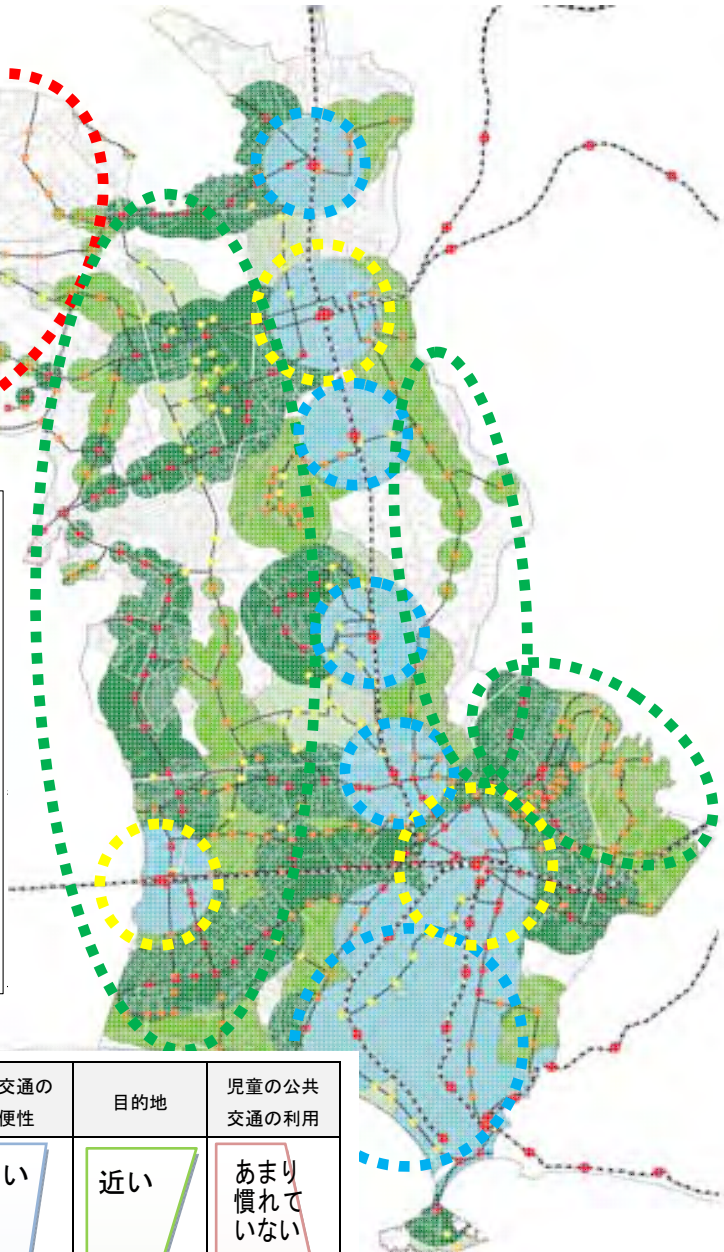
特徴3：児童の公共交通の利用状況を勘案した MM 教育の展開

- 児童の公共交通への利用状況^{*}を考慮した MM 教育として実施する。

藤沢市では、地域によって公共交通の利便性等の状況が異なり、各エリアに居住する児童についても公共交通の理解度に違いがみられます。そのため、地域の交通サービス状況を踏まえた公共交通利用特性の視点から、次頁の通り4パターンに分けることを基本に実施します。また、地域ごとに児童の公共交通への「慣れ」に違いがあることが考えられるため MM 教育の対象を4～6年生とします。

地域の交通事情について

- 鉄道路線
- 鉄道駅
- バス路線
- バス停(平日3本/h以上)
- バス停(平日1本/h以上3本/h未満)
- バス停(平日1本/h未満)
- 徒歩15分圏
- A:30分以内で行ける圏域
(日平均3本/h以上あるバス停のカバー圏)
- B:30分以内で行ける圏域
(日平均1本/h以上あるバス停のカバー圏)
- C:30分以内で行ける圏域
(日平均1本/h未満のバス停のカバー圏)
- D:30分以内で行けない圏域
- 市街化区域



<地域特性>

エリア分類	公共交通の 利便性	目的地	児童の公共 交通の利用
公共交通網が充実している うえ、目的地となる施設も近 接しているエリア	高い	近い	あまり 慣れて いない
鉄道網が充実しているため、 目的地へのアクセスがしや すいエリア		アクセス しやすい	慣れて いる
バス網が充実しているため、 目的地へのアクセスがしや すいエリア			
鉄道・バス網が充実していな いため、目的地にアクセスし ずらいエリア		低い	遠い

地域の交通事情を考慮したプログラムとして実施する

図 藤沢駅まで30分圏域の状況及び地域特性のイメージ

4. MMプログラムの授業

(1) 小学4年生のプログラム内容：公共交通を知る・気づく

MMと連携する学習活動（教科書単元）

✓「自分たちの県のまちづくりを知ろう」

- ・市の地区をながめて 【教科書3・4上】
- ・県の交通のようす 【教科書3・4下】
- ・交通と人々のくらし 【社会科資料集ふじさわ】
- ・便利な鉄道と道路 【わたしたちの神奈川県】

対応する教科書の内容・教材



市の地図をながめて（教科書3・4上 p.28-29）

- ✓地図を見て、市の広がり
をたしかめよう。
- ✓わたしたちのまちが、どこにある
のか探してみよう。
- ✓市の形を、書いてたしかめよ
う。



県の交通のようす（教科書3・4下 p.118-119）

- ✓県の道路や鉄道の広がり、空
港や港の位置を地図で調べ
よう。
- ✓交通は、県内のどこを、どの
ように結んでいるのかを読み
取ろう。
- ✓地図から読み取ったことを
もとに、県の様子を白地図や
ノートにまとめよう。



交通と人々の暮らし（社会科資料集-ふじさわ- P31-32）



便利な鉄道と道路（わたしたちの神奈川県 p.30-31）

学習活動と連携したMM教育の流れ

①公共交通の状況を知る

- ☑まちな様子を知る中で、県や市の鉄道や公共交通の状況を知る。
- ☑鉄道やバスがお互いにどこでつながっているか知る。

②公共交通を使った移動方法を知る。

- ☑地図や路線図を見ながら、自宅や学校から買い物や観光地まで電車やバスを使って移動するルートを考えてみる。



①～②を実施することで生徒に理解してほしいポイント

自発性、気づき、発見のポイント

- ✓自分たちのすむ町にはどのような公共交通があるのか理解する。
- ✓普段クルマで行く場所や、遠くに出かける時にも鉄道やバスを使って目的地に行くことができることを知る。

◎小学4年生の授業の実施例

※授業時間や各学校の状況に合わせ、構成内容の削除などを行い対応する。

タイトル例：「県外から来た友達に神奈川県の魅力を知ってもらおう！」

教科書：小学3.4下：P118 県の交通の様子

①案内行程表・ルートの作成

- ・自分の家（学校）に遊びに来た友達に自分の住む神奈川県を紹介するため、友達を1日案内する計画を作る。
- ・横浜、鎌倉、江の島などの神奈川県の主要都市や観光地をいくつか選択肢として提示して時間内になるべく多く回るにはどうすれば良いか、回る順番と、距離や時間を考えてみる。（小学4年時の行動シートの距離は、地図帳で定規を使っておおまかに記載）
- ・前提条件としては、友達1人、クルマの使用可等。
- ・行程表の作成にあたっては、距離と大まかな時間等を記載する。
- ・行程表については、自分が考える行程表のオススメポイントやあらかじめ用意された評価項目にあわせて、計画を考える。

②行程表の発表

- ・評価、オススメポイントを中心に行程表を発表してもらう。
- ・他の人のオススメポイント等を聞いて公共交通の良さに気づいてもらう。

③まとめと感想

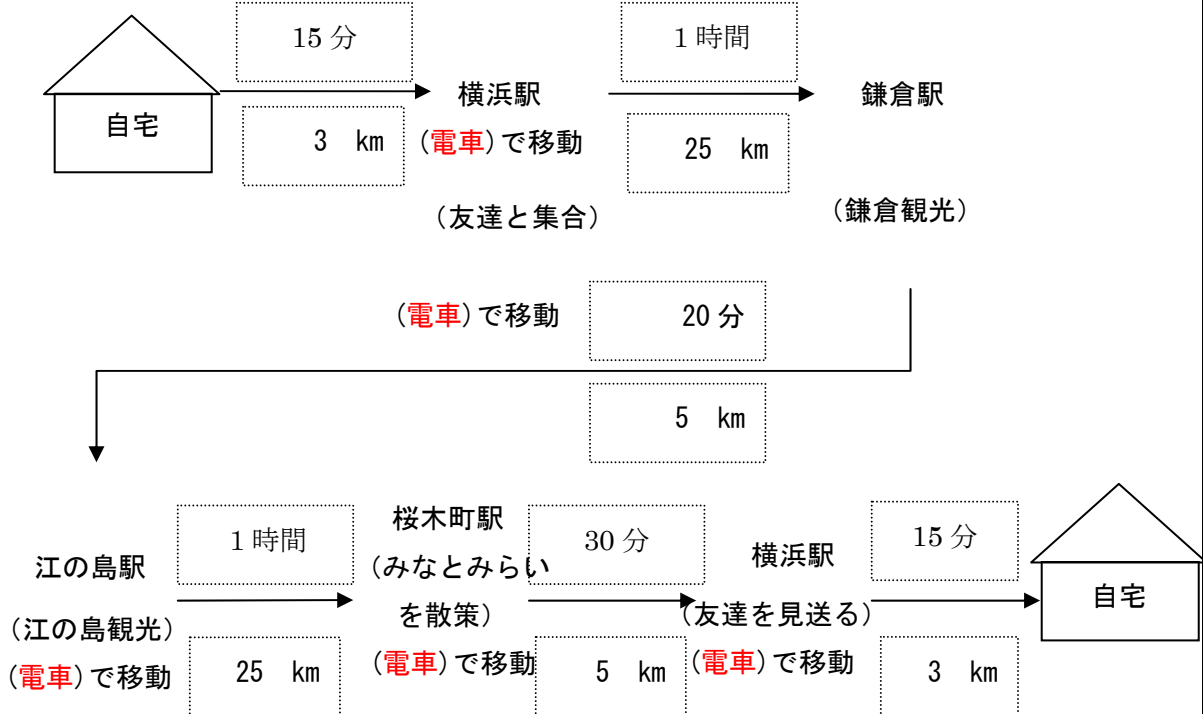
- ・公共交通が町中や周辺の町をつなぎ、いろいろなところへ行くことができることを理解してもらう。
- ・発表を聞く中で、評価やオススメポイントを参考にして、クルマ以外でも公共交通を使えばいろいろなところに行けることを理解してもらう。

教材例

工程表を記載する記入シート

①具体的な行程表をつくってみよう！

地図帳と定規を使って、途中の観光地までの距離と時間を入れてみよう！



②行程表のオススメポイントを書いてみよう。

横浜からかまくらと江の島は20 km以上も離れていて1時間かかるので、回るのは大変そうだけど、有名なので神奈川県を楽しめる。

③自分で作った行程表について評価をしよう。

各項目について、自分で評価としてその理由を書いてみよう。

項目	評価【★が多い程良い】	理由
移動のしやすさ	★★★★☆	横浜から鎌倉まで40分程度と少し時間がかかる、移動が少し大変。でも渋滞に巻き込まれない。
快適性	★★★★☆	電車は時間に正確だけど、人が多くては座れない時があるから。
案内地の数	★★★☆☆	中華街などの有名な観光地にはいかないから。

環境にやさしい電気自動車たち

電気自動車は、はい気ガスが出ないため、空気をよごさないだけでなく、
 たまた電気を災害や停電の時に取り出して使うこともできます。
 ほかに、水素を燃料に使う自動車など、
 環境にやさしい車の開発が進められています。

県内の電気自動車の台数のうつきわり

年度	台数
2001年度	400
2011年度	3732

(県庁発表資料)

神奈川県が使っている電気自動車

69

エネルギーを大切に使おう (わたしたちの神奈川県 p.69)

3 情報を生かすわたしたち

インターネットが広がることで、わたしたちのくらしはどのように便利になっていくだろうか。

インターネットが広がることで、わたしたちのくらしはどのように便利になっていくだろうか。

インターネットが広がることで、わたしたちのくらしはどのように便利になっていくだろうか。

22

情報を生かすわたしたち (小学5年下 p.22)

✓インターネットが広がることで、わたしたちのくらしはどのように便利になっているだろう。

その他、MM教育に連携できる単元

森林を守り、地球を守る

森林を守り、地球を守る。森林を大切に守ってこくと、森林はわたしたちのくらしを支えています。

森林を守り、地球を守る。森林を大切に守ってこくと、森林はわたしたちのくらしを支えています。

森林を守り、地球を守る。森林を大切に守ってこくと、森林はわたしたちのくらしを支えています。

38

森林を守り、地球を守る (小学5年下 p.38)

✓森林を守るために、わたしたちはどのようなことに取り組んでいけばよいだろう。



✓身近な環境の変化は、人々の暮らしに、どのような影響をあたえるだろう。

生活環境を守る人々（小学5年下 p.38）



✓健康面、安全面、経済性などの視点から公共交通を考える。
 (例えば、公共交通を使うことが健康増進につながる など)

スマートウエルネスシティ (<http://www.swc.jp/about/>)



✓バリアフリーの視点から移動手段を考える。
 (高齢者、障害者の方の自動車利用、公共交通利用)

ノンステップバスのイメージ・ユニバーサルデザインタクシーのイメージ
 (左：国土交通省ホームページ、右：関東運輸局ホームページ)

学習活動に関連したMM教育の流れパターン1

①環境にやさしいクルマづくりを知る。

- ☑環境にやさしいクルマとしてどのようなものがあるか知る。
- ☑クルマが走ることで排出されるCO₂を減らす取り組みを知る。

②公共交通が環境に及ぼす影響について調べてみる。

- ☑エコカーやクルマだけでなく、公共交通の環境への影響についても考えてみる。



①～②を実施することで生徒に理解してほしいポイント

自発性、気づき、発見のポイント

- ✓CO₂排出量が乗り物によって違うことを理解し、様々な交通手段の組み合わせた移動が、環境にもやさしい移動である事に気づく。
- ✓クルマと公共交通、双方の長所と短所を理解する。

学習活動に関連したMM教育の流れパターン2

①クルマや公共交通について調べる。

- ☑CO₂排出量といった言葉の意味、クルマや公共交通の環境への影響を調べてみる。
- ☑クルマや公共交通の環境にやさしい取り組みについて調べてみる。

②環境に配慮した乗り物の取り組みについて整理する。

- ☑クルマや公共交通の環境に配慮した取り組みを整理してみる。
- ☑すぐにでもCO₂排出量を減らす方法として公共交通を利用することを紹介する。



①～②を実施することで生徒に理解してほしいポイント

自発性、気づき、発見のポイント

- ✓CO₂排出量が乗り物によって違うことを理解し、クルマだけでなく公共交通を組み合わせた移動が、環境にもやさしい移動である事に気づく。

①小学5年生の授業の実施例その1

※授業時間や各学校の状況に合わせ、構成内容の削除などを行い対応する。

タイトル例：「旅行に出かけるなら、公共交通機関か、クルマか」

教科書：環境にやさしい自動車づくり（小学5年上 p.130）

①公共交通とクルマの良い所を考える

- ・グループごとに公共交通派とクルマ派に分かれて、それぞれの乗り物の良い所を討論していく。（グループ内で双方の意見を聞いて判定する人を置く）
- ・良い所を示すには、言葉だけではなくグラフや新聞記事など、根拠も提示する様にこころがける。

②公共交通とクルマの良いところを比較する

- ・判定する人が双方の意見を聞いて、公共交通とクルマ、双方の良いところを紹介する。
- ・「討論」という視点から、どちらが良かったのかという判定やその根拠も説明する。

③公共交通とクルマの長所・短所を考える

- ・グループでの討論を踏まえて、公共交通とクルマにはどんな長所と短所があるのかを発言する。
- ・CO2の排出量、健康、バス路線の減少といったMMに関する発言があった際には、その答えにあったクイズを実施する。
- ・どちらも一長一短があることを確認し、うまく使いわけができないかの問いかけをする。

④かしこいクルマの使い方を考えてもらう

- ・週末、家族で鎌倉に遊びに行くとしたら、どのように行くのかを子どもたちにあげてもらう。

⑤日常生活で移動する方法を考えてもらう

- ・日常生活でも、どんな移動手段を使うのが良いのかを考えてみるように伝える。
- ・今日の授業を聞いて、移動の際にはどのように考えたら良いか、感想を聞く。


教材例

「③公共交通とクルマの長所・短所を考える」クイズの教材例


公共交通とクルマの長所と短所を考えてもらう際のクイズ教材としては、以下のようなものが想定される。

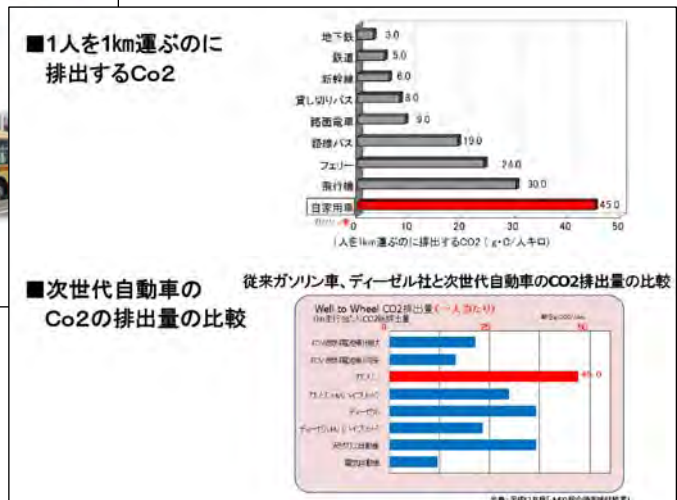
クイズ

問題 <環境>
 バス、電車、新幹線、クルマ。地球温暖化の原因となるCO2は、どの乗り物からも出ています。では、一人を1kmはこぶときに排出するCO2は、クルマはバスの何倍出るのでしょうか？




a. 0.5倍
b. 2倍
c. 8倍






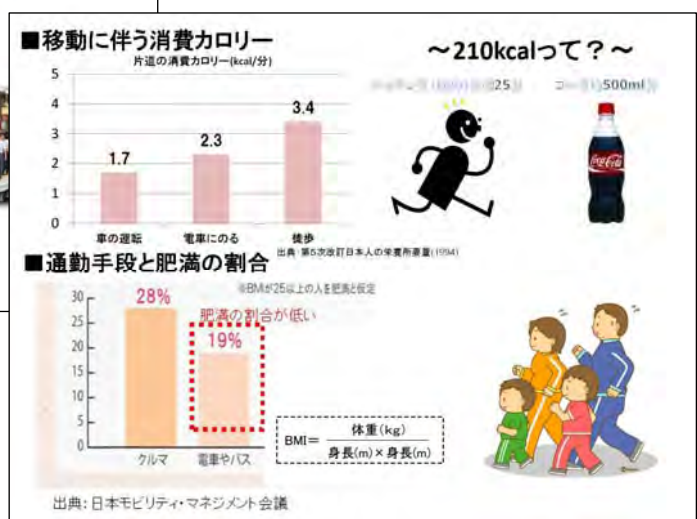
クイズ

問題 <健康>
 公共交通を利用した場合とクルマを利用した場合で消費カロリーは、どれくらい違うのでしょうか？



a. 同じ
b. 2倍
c. 4倍





クイズ

問題 <事故>

全国で、自動車事故は1日あたり約1,700件発生していますが、鉄道の事故は、何件くらい発生しているでしょうか？

- a. 2件くらい
- b. 20件くらい
- c. 200件くらい



・交通事故は年間約63万件発生しているので、
 $63万 \div 365日 = 1,720件/日$

他の交通機関だと、
 バス8.6件/日、飛行機0.005件/日、鉄道2.2件/日

出典: 国土交通省「運輸事業における事故件数および事業者数の推移」

クイズ

問題. 5 <渋滞>

クルマが渋滞しているときと、していないときで、同じ距離を進むのに排出するCO2は、どれだけ違うでしょうか？

- a. 変わらない
- b. 渋滞時が1.5倍多い
- c. 渋滞時が5倍多い



走行速度とCO2排出量

走行速度 (km/時間)	CO2排出量 (g/km)
最も多い 10	340
20 [渋滞している]	220
40 [渋滞していない]	150
最も少ない 70	120
100	150

・クルマが時速40km/hで走っているときは、
 約160g/kmのCO²を排出する。

・渋滞で時速20km/hまで低下すると、
 約220g/kmのCO²を排出する。

「④かしこいクルマの使い方を考えてもらう」の教材例

実際にお出かけする場合に、クルマと公共交通に分けて、時間や費用、CO²排出量を提示することで、便利なクルマの移動でも渋滞などで遅れたら不便になるなど、単純にクルマが便利ではないことを知ってもらう。

鎌倉への交通手段(公共交通の場合)

中里小学校→鎌倉駅 平日(午前10時00分出発)

方法	かかる時間	かかる費用	CO2排出量
公共交通機関	130分 (往復)	1,358円 (往復のバス、電車で)	1,238g

方法	かかる時間	かかる費用	CO2排出量
クルマ (休日)	160分 (往復)	3,050円 (ガソリン+駐車場)	11,880g

方法	かかる時間	かかる費用	CO2排出量
クルマ (平日)	120分 (往復)	1,756円 (ガソリン+駐車場)	10,154g

場合)

電車空車情報

の	3時間の料金
分	1,200円
分	1,800円
分	1,200円
分	2,400円
分	1,200円

場合)

電車空車情報

の	3時間の料金
分	1,200円
分	1,800円
分	1,200円
分	2,400円
分	1,200円

②小学5年生の授業の実施例その2

※授業時間や各学校の状況に合わせ、構成内容の削除などを行い対応する。

タイトル例：「乗り物の長所・短所を考えよう」

教科書：情報を生かすわたしたち（小学5年下 p.22）

①クルマ以外の交通手段について考える

- ・普段出掛けるとき、旅行に行くときにクルマ以外にどんな交通手段で行くかを考えてもらう。（バス、電車といった回答を得る）

②クルマ派、電車派にわかれてもらう

- ・クルマが好きな人、電車が好きな人にわかれてもらう。
- ・何でクルマが好きなのか？何で電車が好きなのかを発表してもらう。（環境問題というキーワードを引き出す）

③クイズを出題し、環境に対する理解を深める

- ・実際、クルマと公共交通どちらが環境にいいのかクイズ形式で出題し、公共交通のほうがクルマ（エコカー含む）より、環境に優しい乗り物だということに気づいてもらう。

④上記のことを踏まえたうえで、長所、短所を整理する

- ・上記の環境問題も含めて、クルマの長所・短所、公共交通の長所・短所を理解する。
- ・日常生活でも、どんな移動手段を使うのが良いのかを考えてみるように伝える。
- ・今日の授業を聞いて、移動の際にはどのように考えたら良いか、感想を聞く。

(3) 小学6年生のプログラム内容：公共交通を体験し自信をつける

MMと連携する学習活動（教科書単元）

✓「鎌倉に行ってみよう」

【校外学習】

✓世界の人々とともに生きる

- ・地球の環境とともにいきる
- ・ともに生きる

【教科書6下】

【わたしたちの神奈川県】

対応する教科書の内容・教材



✓公共施設はどのような考え方でつくられているのだろう。

憲法とわたしたちの暮らし（小学6年下 p. 26-27）



✓地球環境を守るために、人々はどのような努力をしているのだろう。

環境とともにいきる（小学6年下 p.70）

(2) 障害のある人たちとともに

県内には、障害のある人が多くいます。県や市町村では、障害のある人たちがみんなといっしょに生活を送ることができるように、必要な訓練ができるようにしたり、働くところをつくったり、しせつを整えたりしています。また、住宅や道路、駅などを改良して、障害のある人がくらしやすくなるように努めています。

県内の身体障害者福祉らつてい入人 (2012年)

からたの平住居入人	54%
その他	30%
障の介助員	7%
障の自立居入人	7%

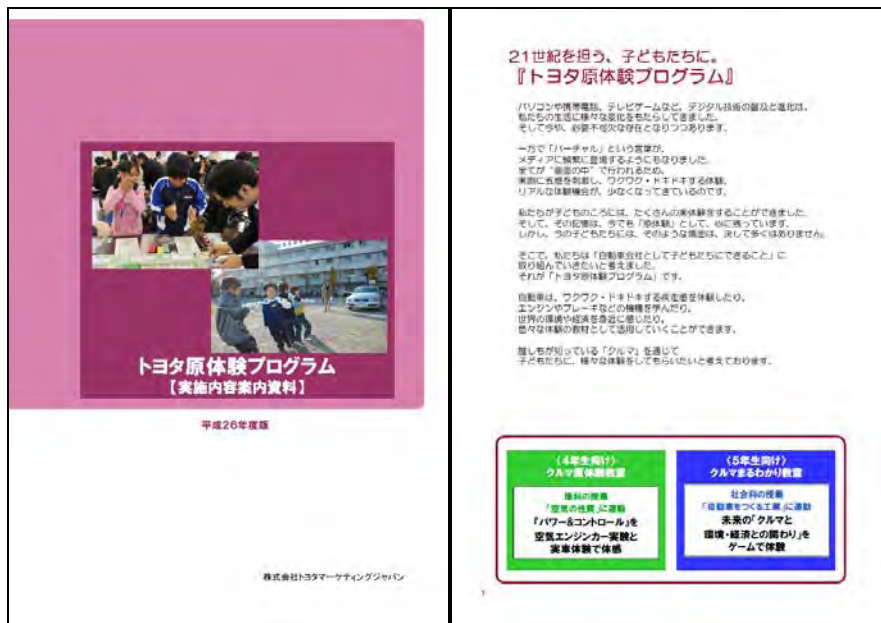
障のある人らつてい入 (障の自立居入人) | 障のある人らつてい入 (障の自立居入人) | 障のある人らつてい入 (障の自立居入人) | 障のある人らつてい入 (障の自立居入人)

82

ともに生きる (わたしたちの神奈川県 p.82)



かまくらめぐり (校外学習用冊子教材)



The image shows a brochure for the Toyota Original Experience Program. The left side features a photograph of children and adults interacting with a car, with the text "トヨタ原体験プログラム【実施内容案内資料】平成26年度版" and "株式会社トヨタマーケティングジャパン". The right side contains Japanese text explaining the program's purpose in the 21st century, its goals for children, and details about the "4th grade" and "5th grade" versions. The 4th grade version focuses on "Understanding the car" and "Experiencing the car", while the 5th grade version focuses on "Social education" and "Experiencing the car".

トヨタ教育プログラム

学習活動に関連したMM教育の流れ①

①目的地までの移動手段を考える

- 鎌倉に行くために、どのような交通手段で行くのが良いか？
- 行き方や経路などはどのように調べたらよいのか？
- 実際に鉄道やバスを利用した行き方を調べる。

②実施（体験）『鎌倉に公共交通を使って行く』

- 調べた方法で鎌倉まで実際に行く。（班に分かれて行く）

③公共交通を利用した振り返り

- 公共交通はクルマと比べると、どんな良い所があったか整理する。

④環境に及ぼす影響を考える

- CO²を排出することで、環境にどのような影響をもたらしているのか学ぶ
- 実際に乗車した公共交通のルートと、クルマで移動した場合のCO²排出量の違いを確認する。【計算】



①～④を実施することで生徒に理解してほしいポイント

自発性、気づき、発見のポイント

- ✓公共交通での移動を体験してもらう。
- ✓バスや鉄道の乗り継ぎを利用すれば、目的地に時間通りに移動できるなどの、公共交通の良さを理解してもらう。

◎小学6年生の授業の実施例

※授業時間や各学校の状況に合わせ、構成内容の削除などを行い対応する。

タイトル例：校外学習（かまくらめぐり）

教科書：生徒配布用の校外学習用 冊子教材

①環境について考える・振り返り（導入部）

- ・乗り物のCO²ってどれぐらいでているか、小学4～5年の振り返りをする。
- ・鎌倉にクルマと公共交通で行く場合、それぞれどんな良い点と悪い点があるのか考えてみる。
- ・上記の疑問、投げかけについて整理する。

②実際に行動する

- ・グループごとに分かれて、公共交通を利用して鎌倉周辺の目的地に行くためのルートを確認する。
- ・各グループで調べたルートを使って行動する。
- ・移動中は時刻表通りに移動できているか（チェックポイントで通過時間）を確認する。

③クルマと比較してみる

- ・公共交通はクルマと比べると、どんな良い所があったか整理する。（①の復習も）
- ・自分たちの移動で発生したCO²排出量を計算してみる。
- ・目的地までクルマでいく場合のCO²排出量を計算し比較してみる。

④まとめ・感想

- ・公共交通を利用した感想と、CO²排出量を比較した感想を発言する。
- ・今回学んだ結果として、今後どのように移動を考えていくかまとめる。

5. プログラムと各学校に対応したカスタマイズの考え方

(1) プログラムと各学校に対応したカスタマイズの考え方

藤沢市版モビリティ・マネジメント、MMプログラム（かしこいクルマの使い方を考えるプログラム）を準備します。その内容は、まず全内容を網羅したもの（フルスペック版）を準備し、各小学校がそれぞれのスタイル、地域の交通事情を見極め、児童の自発性のもと実施できる内容に絞り込みます。教育プログラムは小学4、5、6年生向けプログラムとして準備しますが、児童の理解度、学校の状況にあわせ、複数年を通して実施するか、あるいは特定学年に特化して実施するかを選択できるものとします。

- ✓各小学校がそれぞれのスタイル、地域の交通事情を見極め、児童の自発性のもと実施できる内容に絞り込む
- ✓地域、学校の状況にあわせ実施時期、方法を選択

(2) 学年ごとの実施ポイント

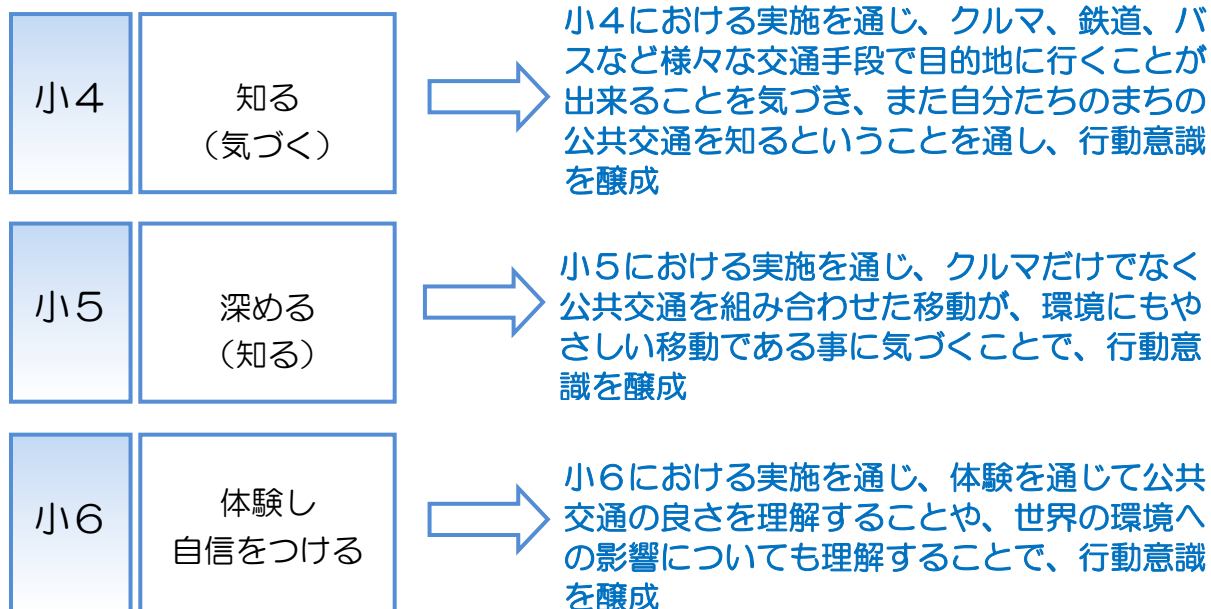
各学年の学校カリキュラムを見据え、以下のような MM プログラムの実施が想定できます。

小4	知る (気づく)	<ul style="list-style-type: none">✓自分たちのすむ町にはどのような公共交通があるのか理解する。✓普段クルマで行く場所や、遠くに出かける時にも鉄道やバスを使って目的地に行くことができることを知る。
小5	深める (知る)	<ul style="list-style-type: none">✓クルマと公共交通、双方の長所と短所を理解する✓CO²排出量が乗り物によって違うことを理解し、様々な交通手段の組み合わせが、環境にもやさしい事に気づく。✓日常の移動が環境に影響を及ぼしている事を知ってもらう。
小6	体験し自信をつける	<ul style="list-style-type: none">✓公共交通での移動を体験してもらう。✓バスや鉄道の乗り継ぎを利用すれば、目的地に時間通りに移動できるなどの、公共交通の良さを体験してもらう。

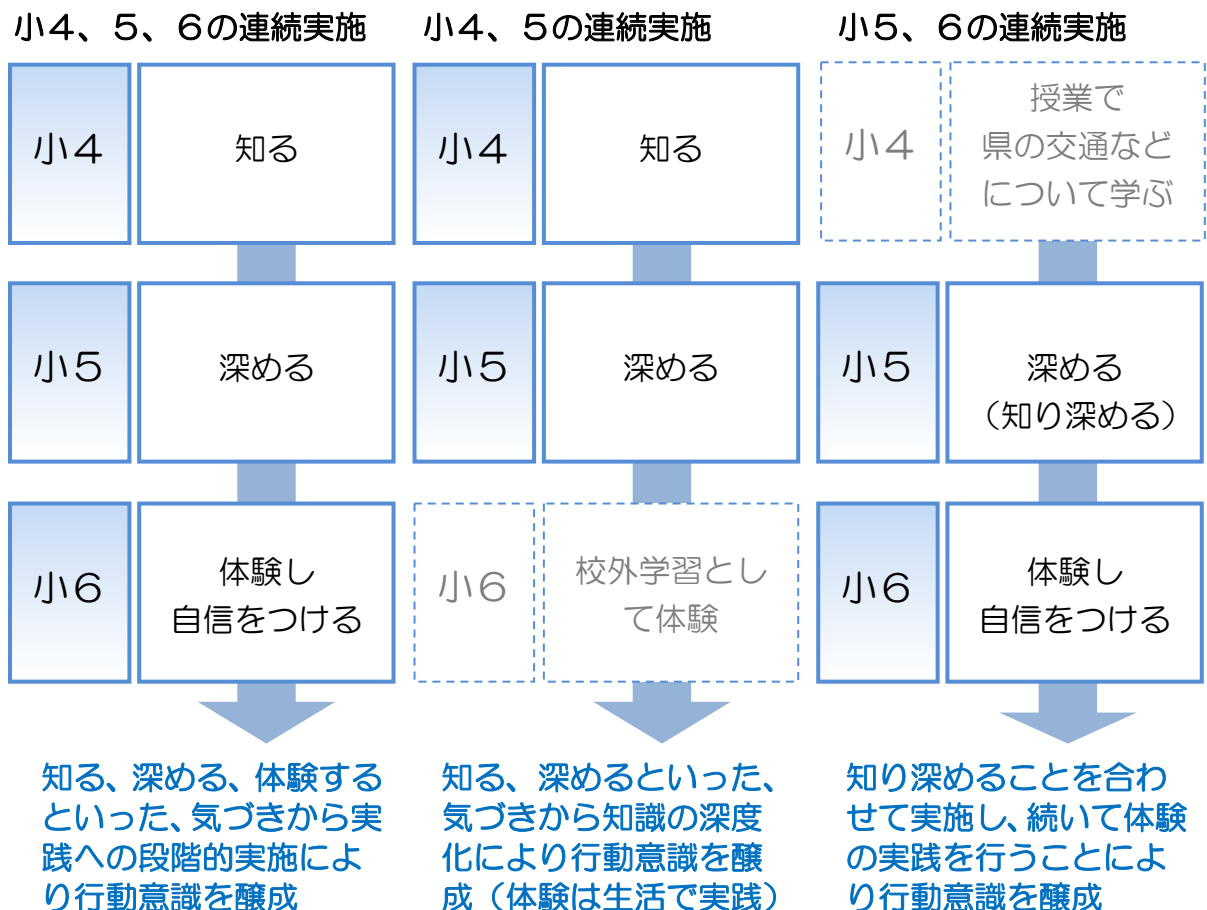
<特定学年のみで実施する進め方と複数年連続した進め方との違い>

小学4、5、6年生向けプログラムとして準備しますが、児童の理解度、学校の状況にあわせ、特定学年に特化して実施するか、あるいは、複数年を通して実施するかを選択できます。

特定学年のみで実施



複数年の連続実施



(3) 中里小学校の実施例

中里小学校の取り組みでは小学校5、6年生のプログラムとして実施しています。

全体用	中里小学校用
(1) 小学4年生のプログラム内容 (MMプログラム1)	
①公共交通の状況を知る	
<input checked="" type="checkbox"/> まちの様子を知る中で、県や市の鉄道や公共交通の状況を知る。	—
<input checked="" type="checkbox"/> 鉄道やバスがお互いにどこでつながっているか知る	—
②公共交通を使った移動方法を知る	
<input checked="" type="checkbox"/> 地図や路線図を見ながら、自宅や学校から買い物や観光地まで電車やバスを使って移動するルートを考えてみる	—

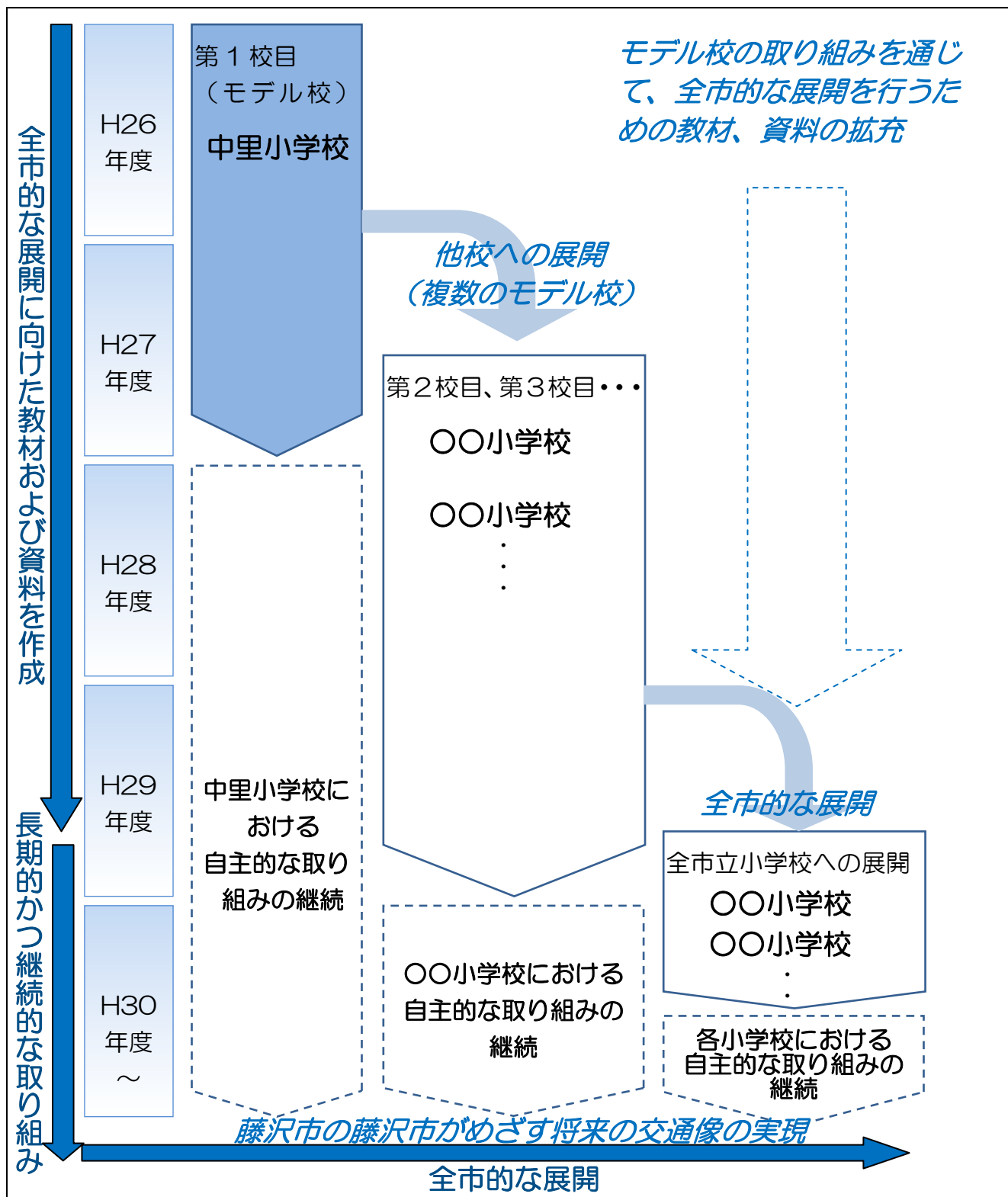
全体用	中里小学校用
(2) 小学5年生のプログラム内容 (MMプログラム2)	
①環境にやさしい自動車づくりを知る	
<input checked="" type="checkbox"/> 環境にやさしいクルマとしてどのようなものがあるか知る	○
<input checked="" type="checkbox"/> クルマが走ることで排出されるCO ² を減らす取り組みを知る。	○
②公共交通が環境に及ぼす影響について調べてみる	
<input checked="" type="checkbox"/> エコカーやクルマだけでなく、公共交通の環境への影響についても考えてみる	○
③クルマや公共交通について調べる	
<input checked="" type="checkbox"/> CO ² 排出量といった言葉の意味、クルマや公共交通の環境への影響を調べてみる。	○
<input checked="" type="checkbox"/> クルマや公共交通の環境にやさしい取組について調べてみる	○
④環境に配慮した乗り物の取り組みについて整理する	
<input checked="" type="checkbox"/> クルマや公共交通の環境に配慮した取り組みを整理してみる。	○
<input checked="" type="checkbox"/> すぐにでもCO ² 排出量を減らす方法として公共交通を利用することを紹介する。	○

全体用	中里小学校用
(3) 小学6年生のプログラム内容 (MM プログラム3)	
① 目的地までの移動手段を考える	
☑鎌倉に行くために、どのような交通手段で行くのが良いか？	○
☑行き方や経路などはどのように調べたらよいか？	○
☑実際に鉄道やバスを利用した行き方を調べる	○
②実施 (体験) 『鎌倉に公共交通を使って行く』	
☑調べた方法で鎌倉まで実際に行く。(班に分かれて行く)	○
③公共交通を利用した振り返り	
☑公共交通はクルマと比べると、どんな良い所があったか整理する	○
④環境に及ぼす影響を考える	
☑CO ² 排出することで、環境にどのような影響をもたらしているのか学ぶ	○
☑実際に乗車した公共交通のルートと、クルマで移動した場合のCO ² 排出量の違いを確認する。【計算】	○

6. 全市的な展開のイメージ

藤沢市版モビリティ・マネジメント教育については、第1校モデル校の取り組みをスタートとして、今年度、2～3校程度のモデル校の追加を行い、その後平成30年度頃を目途に全市立小学校への拡大・展開を図っていくことを目標とします。

全市的な展開にあたっては、各学校が自主的に取り組み、また継続できることを目指し教材や資料を作成します。



まちと江ノ電



江ノ島電鉄株式会社 鉄道部 駅

みなさまの地域を走る江ノ電



藤沢市・鎌倉市にまたがり、100年余りみなさまのそばを走り続けています。

■明治時代の片瀬

江の島道沿いに集落が広がっていた。

景色がよく、宿泊施設も充実していた片瀬村は、横浜の外国人居留地から外国人が多く訪れるようになり、西洋式の海水浴の風習が片瀬東浜海岸からはじまる。

明治6年：

山本橋(現・上山本橋)が完成。「石上の渡し」廃止。

明治20年：

鉄道院線藤沢駅開業。東京・横浜～藤沢は日帰り可能に。

明治22年：

町村制施行。片瀬村と江島村が合併し川口村となる。



片瀬川の乗合船(藤沢市文書館所蔵)



明治20年代中期の江の島(横浜開港資料館所蔵)

■江ノ電より先に開業した電気鉄道

明治28年2月1日：

京都電気鉄道(京都市交通局)

明治31年5月6日：

名古屋電気鉄道(名古屋市電気局)

明治32年1月21日：

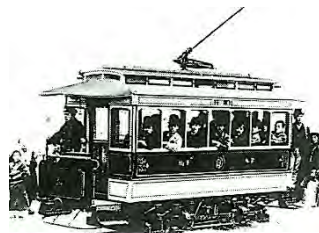
大師電気鉄道

明治33年3月21日：

小田原電気鉄道

明治33年5月10日：

豊州電気鉄道(大分交通)



京都電気鉄道の試運転
(京都市交通局所蔵)



電化開業当時の小田原電気鉄道
(『箱根登山鉄道のあゆみ』)

大師電気鉄道は京急線で現存。他の鉄道はすでに廃止されている。

■川口村と江ノ電建設計画

明治29年:

川口村会(議会)で江ノ島電気鉄道建設反対決議

計画された道路が狭いこと、別に鎌倉鉄道という鉄道建設計画があったことが理由とされる。

一方、隣村の鵜沼村は江ノ電建設に好意的で、村長が自分の土地を提供している。川口村は、鉄道建設そのものには反対しておらず、その後進展しない鎌倉鉄道の動向や、江ノ電より先に開通した京都電気鉄道の沿線への経済効果や、近隣の他の鉄道建設計画を見て、江ノ電の建設を容認した。

湘南地区の私設鉄道建設計画

名称	鎌倉鉄道	鎌倉電車鉄道	湘南鉄道	江之島電気鉄道
方式	鉄道	鉄道	鉄道	軌道
経路	横浜－金沢－鎌倉－片瀬－鵜沼－藤沢	横浜黄金町－鎌倉－七里ヶ浜－藤沢	鎌倉－稲村ヶ崎－片瀬－鵜沼－辻堂－茅ヶ崎	鎌倉－稲村ヶ崎－片瀬－鵜沼－藤沢

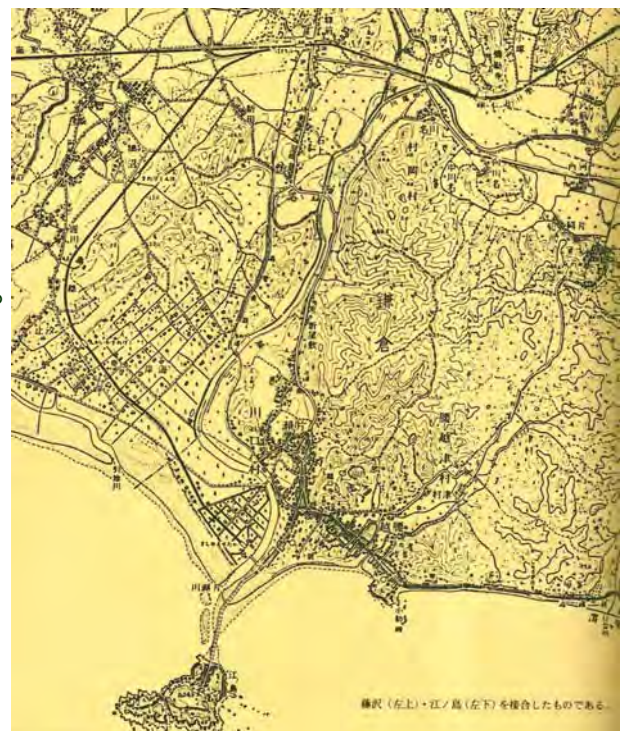
■人力車夫の反対とコース変更

明治31年:

人力車夫や早舟衆が江ノ電建設に反対

藤沢から江の島を結んでいた人力車や、境川を下る早舟の人から猛反対を受ける。人力車で40分かかる道のりを10分強で走る鉄道を敷かれては、商売できないとの理由。川口村の村長を務めたこともある山本氏も反対の立場だった。江ノ電の粘り強い説得や、山本氏所有の集落から離れた水田地帯を走ることなどで、最後は建設に理解を示した。

この結果江ノ電は、江の島道沿いではなく、鵜沼村長や山本氏の所有地を縫うようなコースに変更され、急カーブが多く狭いところを走り、現在に至っている。



■江ノ電建設

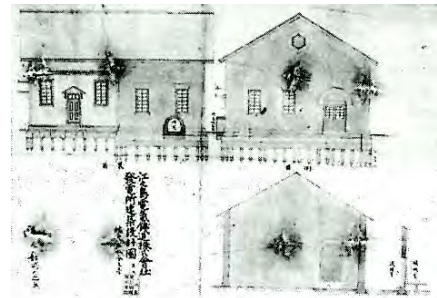
明治35年1月:

藤沢・片瀬間の用地確保完了

藤沢側から工事を開始し、8月22日に完了。

片瀬発電所完成

川口村大字片瀬字大源太に、湘南地区初の発電施設として建設され、注目された。



片瀬発電所の図面

明治35年3月:

電動客車4両を新造

8月30日までに試運転を終えた。



2号車（明治35年）

■江ノ電開業

明治35年9月1日:

江之島電気鉄道 藤沢・片瀬間開業

江之島電気鉄道は、日本で六番目の電気鉄道として開業した。

午前6時、開業式が行なわれるとともに、物珍しさに集まった多数の人々が我先に電車に乗り込んだ。

乗車運賃は、藤沢・鵜沼間が片道6銭、藤沢・片瀬間が片道10銭で、現在の価値にすると藤沢・片瀬間が片道2000円と高価であった。

庶民の足としての機能を果たすようになるのはまだまだ先のことである。



▲藤沢昇降場に停車中の電車と貨車（岩田 武氏所蔵）



鵜沼で交換する10号車と1号車 前面が飾り帯で縁取られていた（岩田 武氏所蔵）

■明治時代の江ノ電

明治時代の江ノ電は、8月の利用が多く、江の島観光・海水浴・避暑などの利用者が目立った。

江ノ電の開業後、片瀬や鵜沼が別荘地として開発され始めた。

藤沢・片瀬間の営業を順調に続けつつ、鎌倉に向けた延伸工事が進められた。

開業から9ヶ月後には行合、その1ヵ月後には追揚まで開通し、海水浴客輸送に猛進した。

明治37年4月には極楽寺まで開通。極楽寺トンネルや横須賀線の立体交差などの難工事を乗り越え、明治43年11月4日、小町(鎌倉)までの全線開通を果たした。

この頃江ノ電は、「江電(こうでん)」の愛称で親しまれていた。



難工事のすえ開通した隧道 (福井栄一氏所蔵)

藤沢
間
鎌倉
全通
自十一月四日
江之島電気鐵道株式會社

■関東大震災

大正12年9月1日:

関東大震災発生

午前11時58分、関東大震災が発生する。
片瀬地区をはじめ、江ノ電沿線も甚大な被害。
地震とともに発生した津波は境川を遡上し、
西浜橋・山本橋などを破壊した。

川口村への救援物資配給は、江ノ電の片瀬昇降場でも行なわれ、毎日多くの人々が列をつくった。

江ノ電は線路復旧に全力を尽くし、9月25日にはほぼ全線で復旧した。



関東大震災による藤沢付近の被害 (星野写真館所蔵)



片瀬昇降場における物資配給の様子 (熊谷守美氏所蔵)

■江の島の玄関口

昭和4年3月:

「片瀬」停留所を「江ノ島」停留所に改称

小田急江ノ島線の開業を翌月に控え、江ノ電は片瀬停留所の改称を行った。

小田急線片瀬江ノ島駅のほうが海岸に近く、江の島の玄関口は江ノ電であるというイメージを持たせるためである。

しかしながら、小田急線開業の影響は大きく、輸送人員が1割程度減少したという記録が残っている。



大正末期頃の片瀬停留場

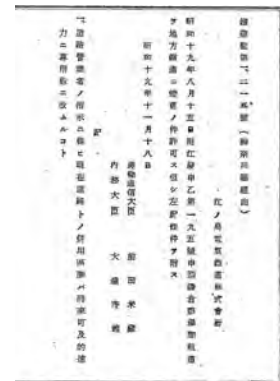
■第二次世界大戦中の片瀬と江ノ電

昭和19年11月:

江ノ電 軌道から地方鉄道へ

戦時体制が強化される中、江ノ電は平塚海軍工廠と横須賀基地を結ぶバイパス路線として重要視された。これを受けて、「軌道」から「地方鉄道」への変更が行なわれた。具体的には、併用軌道(路面電車区間)の専用軌道化、ホームの嵩上げ、線路の強化などが計画された。

しかしながら、運行の確保に精一杯であった江ノ電は必要な工事をできず、やむなく特別な許可を得て現状での運行を行っていた。



地方鉄道への変更許可書 (鉄道省文書より)



膠越一日取間における専用軌道化工事

■第二次世界大戦中の片瀬と江ノ電

連日の空襲警報と女性の活躍

昭和19年末ごろになると、神奈川県にも空襲が行なわれるようになった。

この頃から毎日のように警戒警報が鳴り響き、住民はそのたびに防空壕に避難した。江ノ電の電車も、警報が鳴ると木陰などの死角に電車を止め、乗客を近くの退避壕や防空壕に避難させた。

また、江ノ電社員の出征により駅掛員や乗務員が足りず、多くの女性が車掌や運転士の業務を行なった。

昭和20年7月16日の平塚大空襲では、片瀬上空を多数のB29爆撃機が通過。夜間にも関わらず、片瀬海岸からは真昼のような光景が見られたという。

昭和20年8月15日、日本はポツダム宣言を受諾し、終戦を迎えた。



焦土と化した平塚駅前
(平塚市博物館市史編纂係所蔵)

■観光都市としての開発

昭和22年4月:

片瀬町が藤沢市に編入

片瀬山に私設ゴルフ場が開設される

昭和24年4月:

江の島弁天橋開通

昭和24年11月:

市立「江の島植物園」開園



江の島弁天橋開通式

藤沢市への編入後、観光都市への脱皮を図るため、江の島植物園や江の島弁天橋の架橋など、江の島開発に力を入れた。

■観光都市としての開発

昭和26年3月:

読売平和塔完成

「江ノ島園」開園

江ノ島園は、現在のサムエルコッキング苑の場所に作られた。敷地内には市立植物園のほか、読売平和塔(展望灯台)・児童遊園・飲食店などが設けられ、盛況をみせた。



昭和29年5月:

江ノ島水族館開館

日本発の近代的な水族館として開館。

片瀬海岸や江の島地区は様々な施設ができ、夏には片瀬海岸が海水浴のメッカとして混雑した。



■観光都市としての開発

昭和34年7月:

江ノ島エスカー開業

江の島の頂上へは、急な階段を20分程度上らなければならず、昭和26年に開園した江ノ島園へのアクセス向上が課題だった。

ロープウェイを建設する計画もあったが、景観を損ねることが懸念されたため、日本初の屋外エスカレーターとして建設された。

開業式は盛大に行なわれ、頂上まで約5分で登ることができるようになった。



話題を集めた江ノ島エスカターの開通式

■東京オリンピック

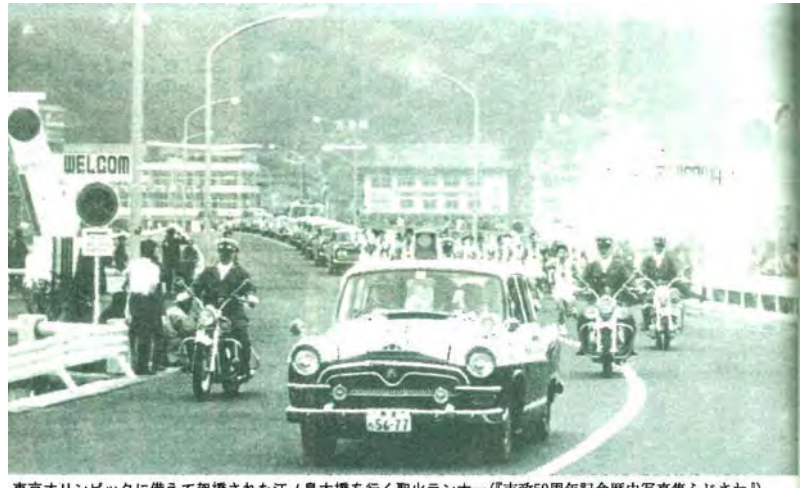
昭和39年:

江の島がヨット競技会場に 江の島大橋(自動車橋)竣工

江の島がヨット競技の会場となったため、江の島弁天橋に沿うようにして、自動車専用橋が整備された。

これにより、明治の頃から有料であった江の島弁天橋は無料化された。

江の島大橋は江の島弁天橋とともに、かながわの橋100選に選定されている。



東京オリンピックに備えて架橋された江ノ島大橋を行く聖火ランナー(『市政50周年記念歴史写真集ふじさわ』)

■マイホームブームと宅地開発

昭和42年～52年:

片瀬山住宅地開発

高度経済成長期に入った日本は、マイホームブームが到来し、各地でニュータウン開発が展開された。

昭和22年に開設したゴルフ場の跡地などを利用して、片瀬山の宅地開発が行なわれた。

片瀬山の住宅地は、スーパー・銀行・郵便局・病院などが併せて作られ、生活の便がよいと評判だった。

江ノ電もこれに参入し、片瀬山や七里ガ浜をはじめとする沿線の住宅地開発に力を入れた。



整然と区画された開発ヶ谷分譲地(『ひろば』通巻119号)



七里ヶ谷分譲地のパンフレット

■湘南モノレール全線開通

昭和46年7月:

湘南モノレール全線開通

大船から西鎌倉まで路線を延ばしていた湘南モノレールが、湘南江の島駅まで全線開通した。

湘南モノレールは公共交通としては初めての「懸垂式」モノレールで、日本では他に千葉都市モノレールがこの方式を採用している。

西鎌倉から目白山下付近は昭和初期から別荘地として知られ、現在は高級住宅街となっている。もともとは大船から江の島方面への観光・保養地客輸送もあったが、現在約9割が通勤・通学客であり、沿線住民の重要な足として活躍している。



昭和45年3月に開業した湘南モノレール（湘南モノレール所蔵）

■境川堤防改修

昭和59年5月:

新境川橋梁竣工

境川は、幾度と無く氾濫を繰り返し、川沿いの低地に住む住民は出水被害に悩まされていた。

昭和48年1月に、神奈川県による河川改修事業の一環として、境川の堤防改修工事が行なわれるとともに、当社の境川橋梁の架け替えが行なわれ、昭和59年5月23日に使用を開始した。

これに伴い、隣接する鵜沼駅も全面改修が行なわれ、江ノ電初の地下駅として生まれ変わった。



鉄道の近代化を象徴する500形501号車（久米正義氏撮影）



新橋梁へ切替直前の境川橋梁



完成した境川橋梁と鵜沼駅

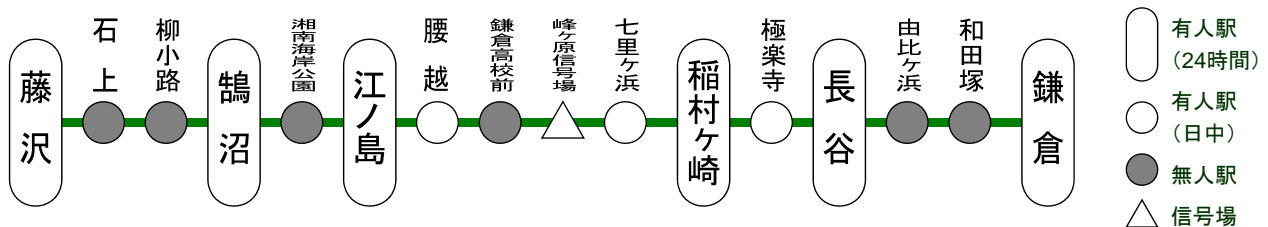
■現在の江ノ電

年間乗降人員の推移

明治36年 178,000人
 昭和 4年 3,037,000人(小田急江ノ島線開業)
 昭和22年 9,020,000人(片瀬町・藤沢市に編入)
 昭和39年 12,840,000人(東京オリンピック)
 平成元年 15,386,000人
 平成24年 16,500,000人

駅について

有人駅(24時間)6駅・有人駅(日中)3駅・無人駅6駅 全15駅
 大正初期には40駅あったが順次廃止され、昭和25年に現在の数となった。



■現在の江ノ電

現有車両・保存車両(当社所有のもの)



300形
 305
 1編成



1000形
 1001・1002・1101
 1201・1501・1502 6編成



2000形
 2001・2002・2003
 3編成



10形
 10
 1編成



20形
 21・22
 2編成



500形
 501・502
 2編成



保存車両・108形

■現在の江ノ電

5月の大型連休・6月のあじさい時期の混雑

明治時代の江ノ電は、海水浴や保養に訪れる方で混雑していましたが、現在は5月・6月の混雑が激しく、皆様にはご迷惑をおかけしております。

電車の増発や長編成化などの施設改善は急務ですが、様々な制約から実施できておりません。

江ノ電では、駅掛員がお客様に混雑状況を提供し、混雑していない時間帯や区間にご乗車いただくよう促す「ピークカット」に取り組んでいます。まだまだ激しい混雑があるものの、徐々に効果が現れはじめております。



■現在の江ノ電

さらに安全・安心・快適な鉄道へ

昭和の車両近代化、平成初頭の駅舎改修など、江ノ電ではお客様が安全・快適にご利用いただけるよう取り組んでいます。

現在江ノ電では、駅ホームに「列車非常停止装置」や「ホーム柵」の設置、「踏切非常ボタン」の設置、トイレの改修、駅や車内のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化を進めています。



■津波防災の取組み

防災情報の掲示・避難誘導訓練

江ノ電110年の歴史の中で、大正12年の関東大震災をはじめ、大型台風などの自然災害を多く経験してきました。

2011年3月11日に発生した東日本大震災で、津波への恐怖を目の当たりにし、津波防災への関心が全国的に高まっています。

海沿いを走る当社では全国に先駆けて、全駅に「津波避難マップ」を掲示し、避難誘導訓練も活発に行なわれています。



■津波防災の取組み

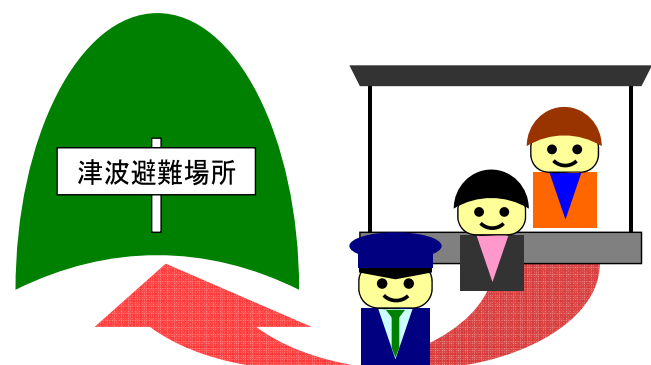
大地震が起きたら・大津波警報が発令されたら

もしも、駅や電車で大地震の発生や大津波警報が発令されたら・・・

掛員のいる駅では、駅掛員が放送などで「大津波警報発令」と、避難を開始することをお知らせします。

そして、速やかに指定の津波避難場所や津波避難ビルに避難を開始します。

駅掛員は、避難誘導をする者と、駅構内に残っているお客様がいないかを確認する者に分かれ、お客様の安全確保に努めます。



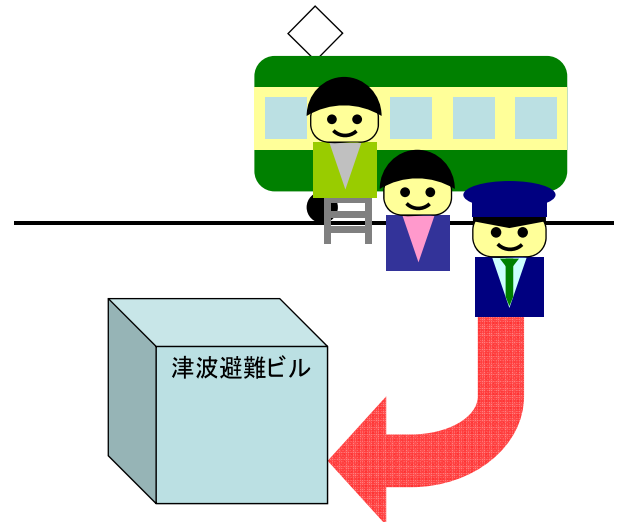
■津波防災の取組み

大地震が起きたら・大津波警報が発令されたら

走行中の電車内で大地震が発生した場合は、直ちに停車します。このとき、橋・急勾配・トンネル・崖などは危険なため、これを避けて停車します。

その後運転再開ができない場合、お客様には電車に備え付けてある車載はしごを使ってその場で降車していただき、近くの駅までご案内します。

ただし、大津波警報が発令された場合は、速やかに指定の津波避難場所や津波避難ビルへ避難を開始します。

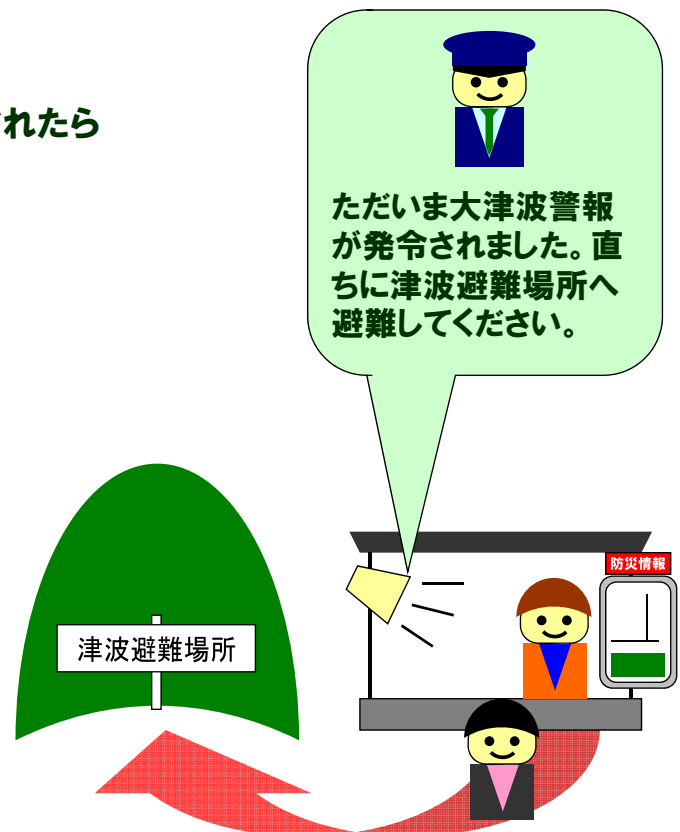


■津波防災の取組み

大地震が起きたら・大津波警報が発令されたら

掛員のいない駅では、近隣の駅から放送で「大津波警報発令」と、避難を開始していただくようお知らせします。そして、お客様には駅に設置してある防災情報(津波避難マップ)をご覧ください、速やかに指定の津波避難場所や津波避難ビルに避難を開始していただきます。

お客様には、常にご利用になる駅の津波避難場所を把握していただくようご案内しています。



■安全・安心・愛される鉄道を目指して

明治35年から走り続けて110年。

揺れ動く時代の中、江ノ電は、沿線のみなさまとご利用いただいているお客様が創り上げました。

そして現在、おかげさまをもちまして、沿線にお住まいのみなさまをはじめ、江の島・鎌倉観光で訪れるたくさんのお客様にご利用いただいております。

今後もみなさまと、みなさまのまちとともに、より安全・安心で、愛される鉄道となるよう、様々な取り組みを行ってまいります。

みなさまの変わらぬご愛顧よろしくお願い申し上げます。



江ノ電イメージキャラクター
「えのんくん」



まちと江ノ電 2013年8月

編集 江ノ島電鉄(株)

鉄道部 駅

参考文献 江ノ電100年史

グラフ江ノ電

江ノ電讃歌

絵葉書資料館

江ノ電

バスの乗り方・電車の乗り方 ガイドブック

-目次-

【行き】

その1・バスの乗り方	p. 2
その2・電車（小田急）の乗り方	p. 5
その3・藤沢駅での乗り換え	p. 8
その4・電車（えのでん）の乗り方	p. 11

【帰り】

その5・電車（JR）の乗り方	p. 15
その6・大船駅での乗り換え	p. 18
その7・藤沢駅での乗り換え	p. 19

～その1・バスの乗り方～

1-1. バスのりば案内をしらべる（駅などの大きなバス停）

バス停にはいろいろな情報がかいてあります。バスの時刻表をみて、自分の乗りたいバスが何時にくるか、しらべましょう。



バス停の名前

バス停をとるバスの行先と番号

行先	長後駅西口行			湘南台駅西口行			辻堂駅北口行			行先
	平日	土曜	休日	平日	土曜	休日	平日	土曜	休日	
5	48:58	47		58	58	58				5
6	08:10 23:32 45:53	02:15 29:41 55	26:43 58	18:38 58	28:58	28:58				6
7	02:03 13:23 28:43 50	03:11 26:56 48	11:23 33 48	18:33 53	18:38	18:38	38	38	38	7
8	03:06 19:39 48 58	01:13 31 48	01:08 23:31 43 53	18:48	18:48	18:48				8
9	08:17 36 48	01:13 32 48	01:08 23:32 48	48	48	18:48	08	08	08	9
10	01:13 31 38	02:13 32 48	02:13 32 48	48	18:48	18:48	08	08	08	10
11	01:13 31 38	02:13 32 48	02:13 32 48	18:48	18:48	18:48				11
12	01:13 31 38	02:13 32 48	02:13 32	48	48	48				12
13	01:13 31 38	02:13 32 48	02:13 32	18:48	18:48	48	08	08	08	13
14	01:13 31 38	02:13 32 48	02:13 32	18:48	18:48	18:48				14
15	01:13 31 38 53	02:13 32 48	02:13 32 53	18:48	18:48	18:48	08	08	08	15
16	01:13 33 38 58	02:13 32 48	02:13 32 53	18:48	18:48	18:48				16
17	09:18 28 38 58	02:13 32 48	02:13 32 48	18:48	18:48	18:48	08	08	08	17
18	08:18 28 38 58	02:17 23 37 48 57	02:17 23 37 48 57	18:48	18:48	18:48				18
19	08:18 37 57	13:32	13:32	18:48	18	18				19
20	08:17 37 43 57	02:13 32 48	02:13 32 48	18						20
21	17:33 57	02:32 48 57	02:32 57	08						21
22										22
23	03									23
24										24
25										25

バスの時刻表

バスが来る時間は毎日同じではないので、乗る日によって見るところが変わります。

平日…白、土曜日…青、休日(日曜)…赤 のところをみて、しらべましょう。

1-2. バスがとうちゃくしたら

バスがきたら、自分の乗りたいバスか、自分の行きたい所に行くバスか、確認しましょう。バスの前側上と、ドアの横に、どこを通過して、どこへ行くのか表示があります。



1-3. バスに乗るとき

バスに乗るときは、SUICA・PASMO を使うときと、現金を払うときで乗り方が違います。

SUICA・PASMO を使うとき

SUICA・PASMO は入口にある機械にタッチします。

現金を払うとき

どのバス停から乗ったのか分かるように『整理券』をとりましょう。



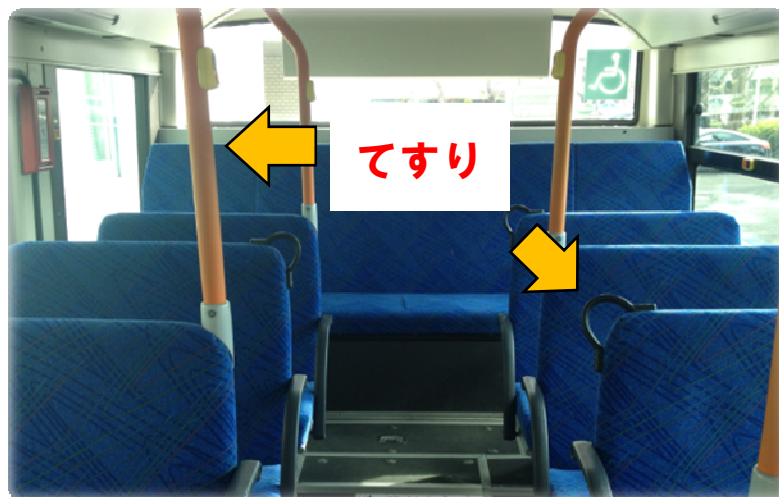
Suica・PASMO で
バスに乗るとき

現金・定期券等で
バスに乗るとき

1-4. バスにのっているとき（ルールやマナーについて）

バスに乗っているときは、他のお客さんにめいわくをかけたりしないように、下書いてあることを守りましょう。守らなかったときは、事故などが起きてケガをしてしまうことがあります。

- ◎大声でしゃべって、他の人にめいわくをかけてはいけません。
- ◎席に座ってないときは、手すりや吊り革につかまりましょう。



- ◎バスが動いているときは、移動したりするのはきけんなので、やめましょう。
- ◎携帯電話やスマートフォンで電話してはいけません。
- ◎窓から手や頭を出してはいけません。

1-5. 降りたいバス停がちかくなったら

降りたいバス停の名前が呼ばれたら、窓側などにある降車ボタンを押して、運転手さんにお知らせします。

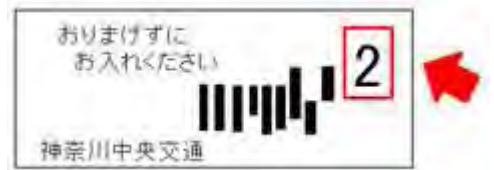


現金を払う人は、払うお金がいくらなのか、バスの前に運賃表が書いてあるので、しらべてお金を準備しましょう。

自分の持っている整理券の番号と同じところに書いてある数字が払うお金です。

整理券	0	1	2	久保沢
運賃	290	260	260	城山総合事務所入口
	288	258	258	原宿
	3	4	5	東原宿
賃	230	180	180	● 終点 橋本駅北口
	227	175	175	

ご乗車ありがとうございました。



運賃は2番の下にある260円!

(子供は130円)

1-6. バスを降りるとき

お金は降りるときに払います。運転手さんの横を通るときに払いましょう。乗るときと同じように、SUICA・PASMOを使うときと、現金を払うときで違います。

SUICA・PASMOを使うとき

SUICA・PASMOは乗るときと同じように機械にタッチします。

現金を払うとき

現金を払うときは、乗るときにとった整理券と一緒にお金を運賃箱に入れます。



現金は整理券と一緒に運賃箱へ

Suica・PASMOはタッチ

～その2 電車(小田急)の乗り方～

2-1. 運賃をしらべる

電車にのるためには切符(きっぷ)が必要です。切符を買うには、「運賃表」を見て運賃をしらべてから買います。例えば、下の写真をみて藤沢まで行きたいときは、220なので、220円とわかります。(こどもは赤字の110円です)



券売機と運賃表



運賃表

2-2. 切符を買う

切符は「券売機(けんばいき)」で買います。お金を入れて切符を買う人数を選んだら、運賃表で見た数字と同じボタンを押します。

ボタンを押したら、切符が出てくるので、切符をもって改札口へ行きましょう。



小銭

1. 切符を買う人数(子供)を選びます
2. 画面にある①で見た運賃を押します
3. お金を券売機に入れます

※おつりを忘れずにとりましょう。

※券売機ではSUICA・PASMOにお金をいれるチャージなどができます。

2-3. 改札機（かいさつき）をとる

電車に乗るためには改札機をってからホームにいきます。改札機は乗る駅と降りる駅で必ずと
りましょう。

SUICA・PASMO を使うときは、機械にタッチします。切符を買った人は機械の前側で切符を入れる
と、機械の後ろ側で出てくるので必ず取りましょう。

改札機には、きっぷと SUICA・PASMO の両方がつかえるきかいと SUICA・PASMO だけが使えるきか
いがあります。



2-4. のりばと時刻をしらべる

駅には「電光掲示板（でんこうけいじばん）」があるので、電車の時間、行先やのりばをしらべま
しょう。とちゅうの駅で、あとからくる早い電車にのりかえたりすることができるので、お知らせ
もかくにんしましょう。



2-5. 電車をまつとき

ホームで電車をまつときには、いすにすわるか、電車がとまったときに出入口がくる位置に表示があるので、そこに並んでまちましょう。電車がついたら、電車が降りる人がいなくなってから、のりましょう。

◎ホームの端を歩かないようにしましょう。

◎電車をまつときは床に表示してある位置でまちましょう。

2-6. 電車にのっているとき

電車に乗っているときは、他のお客さんにめいわくをかけたりしないように、下書いてあることを守りましょう。守らなかったときは、事故などがおきてケガをしてしまうことがあります。

◎大声でしゃべって、他の人にめいわくをかけてはいけません。

◎席に座ってないときは、手すりや吊り革につかまりましょう。

◎携帯電話やスマートフォンで電話をしてはいけません。

◎優先席ではお年寄りや子供づれの人に席を譲りましょう。

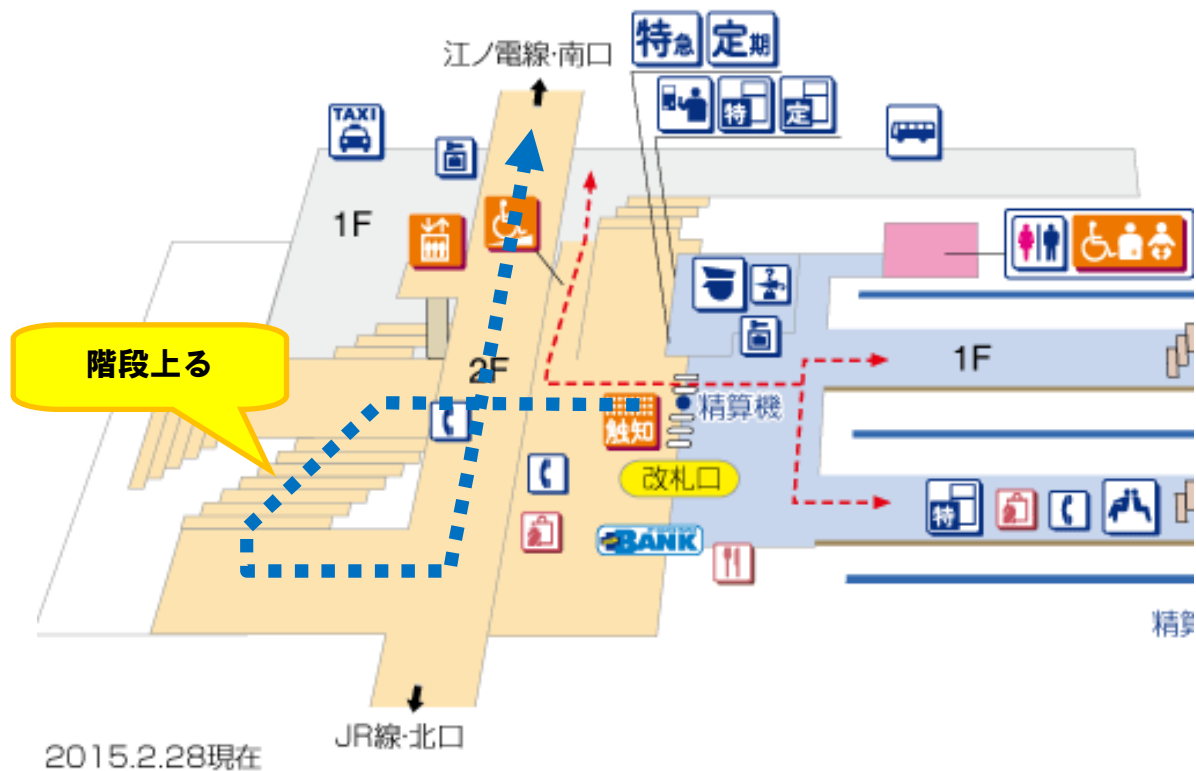


～その3 藤沢駅での乗り換え～

小田急藤沢駅で一度電車から降りてホームに出ます。ホームの端には出口があり、③と同じように切符を入れますが、切符は出てこないで、そのまま改札機を通りぬけてから出ましょう。



江ノ電の改札に行くには、一度階段を上らなければいけません。階段をのぼったらいちど外にでます。



バス・電車の乗り方



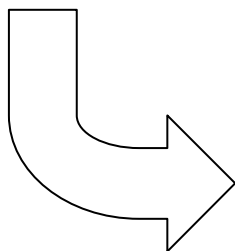
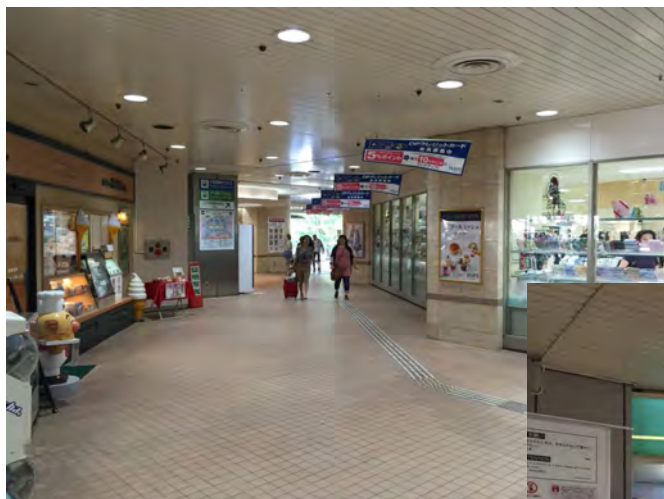
※JRの改札の案内がありますが、江ノ電の改札にも行くことができます。

バス・電車の乗り方

階段を上ったあと、外にあるビルの2Fに江ノ電のりばがあります。



ビルの中を通ります。しばらくすると改札が見えてきます。

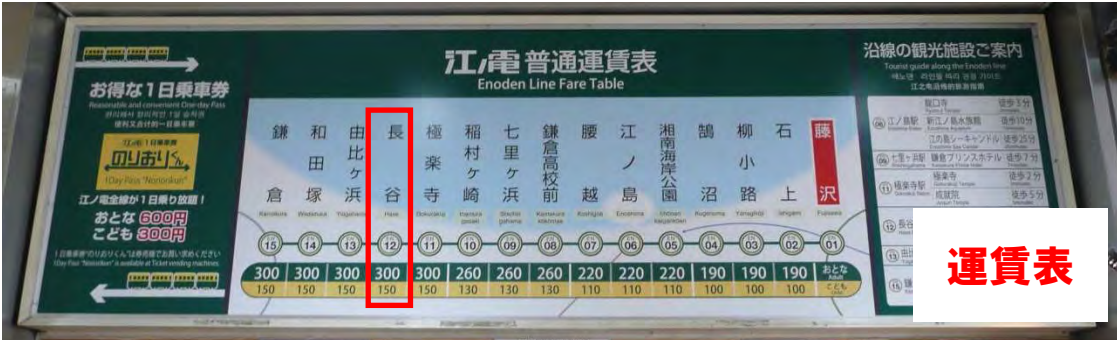


～その4 電車(えのでん)の乗り方～

4-1. 運賃をしらべる

電車にのるためには切符(きっぷ)が必要です。切符を買うには、券売機の上にある「運賃表」を見て運賃をしらべてから買います。例えば、下の写真をみて長谷まで行きたいときは、上に300、下に150と書かれています。こどもは下の金額になるので、150円の切符を買きましょう。

※SUICA・PASMOを使う人は切符はいらないので、「③改札機を通る」にそのまま行きます。



4-2. 切符を買う

切符は「券売機(けんばいき)」で買います。お金を入れて切符を買う人数を選んだら、運賃表で見た数字と同じボタンを押します。

ボタンを押したら、切符が出てくるので、切符をもって改札口へ行きましょう。

1. きっぷを買う人数(子供)を選びます

2. 画面にある①で見た運賃を押します





※おつりを忘れずにとりましょう。

※券売機では SUICA・PASMO にお金をいれるチャージなどができます。

4-3. 改札機（かいさつき）をとおり

電車に乗るためには改札機を通してからホームにいきます。改札機は乗る駅と降りる駅で必ずとおりました。

SUICA・PASMO を使うときは、機械にタッチします。切符を買った人は機械の前側で切符を入れると、機械の後ろ側で出てくるので必ず取りましょう。改札機には、きっぷと SUICA・PASMO の両方がつかえるきかいと SUICA・PASMO だけが使えるきかいがおいであります。



4-4. じかんやのる電車をしらべるとき

いつ、どこへいく電車がくるのかしらべるときには、時刻表を見てしらべましょう。江ノ電では電車はぜんぶの駅にとまる「各駅停車」ですが、どの駅まで行くかは時間によって違います。自分の行きたい駅まで電車がとまるのか、時刻表と電車の停まる駅の案内を見て確認しましょう。

The image shows a standard timetable for the Enoden Line. It includes a table of departure times for various destinations and a route diagram below. Three yellow callout boxes point to specific parts of the timetable: '時刻表' (Timetable) points to the main table, '行き先' (Destination) points to the destination column, and '電車のとまる駅の案内' (Station information for the train) points to the route diagram.

時刻	鎌倉	磯子	磯子	磯子	磯子
5					36
6	0	12	24	36	48
7	0	12	24	36	48
8	0	12	24	36	48
9	0	12	24	36	48
10	0	12	24	36	48
11	0	12	24	36	48
12	0	12	24	36	48
13	0	12	24	36	48
14	0	12	24	36	48
15	0	12	24	36	48
16	0	12	24	36	48
17	0	12	24	36	48
18	0	12	24	36	48
19	0	12	24	36	48
20	0	12	24	36	48
21	0	12	24	37	49
22	2		26		52
23		18			49
0					

4-5. 電車をまつとき・電車にのっているとき

7ページに書いてあることと同じようにして、ルールを守って電車にのりましょう。

4-6. 電車を降りるとき（長谷駅で降りるとき）

※鎌倉駅で降りる人は次のページを見ましょう。

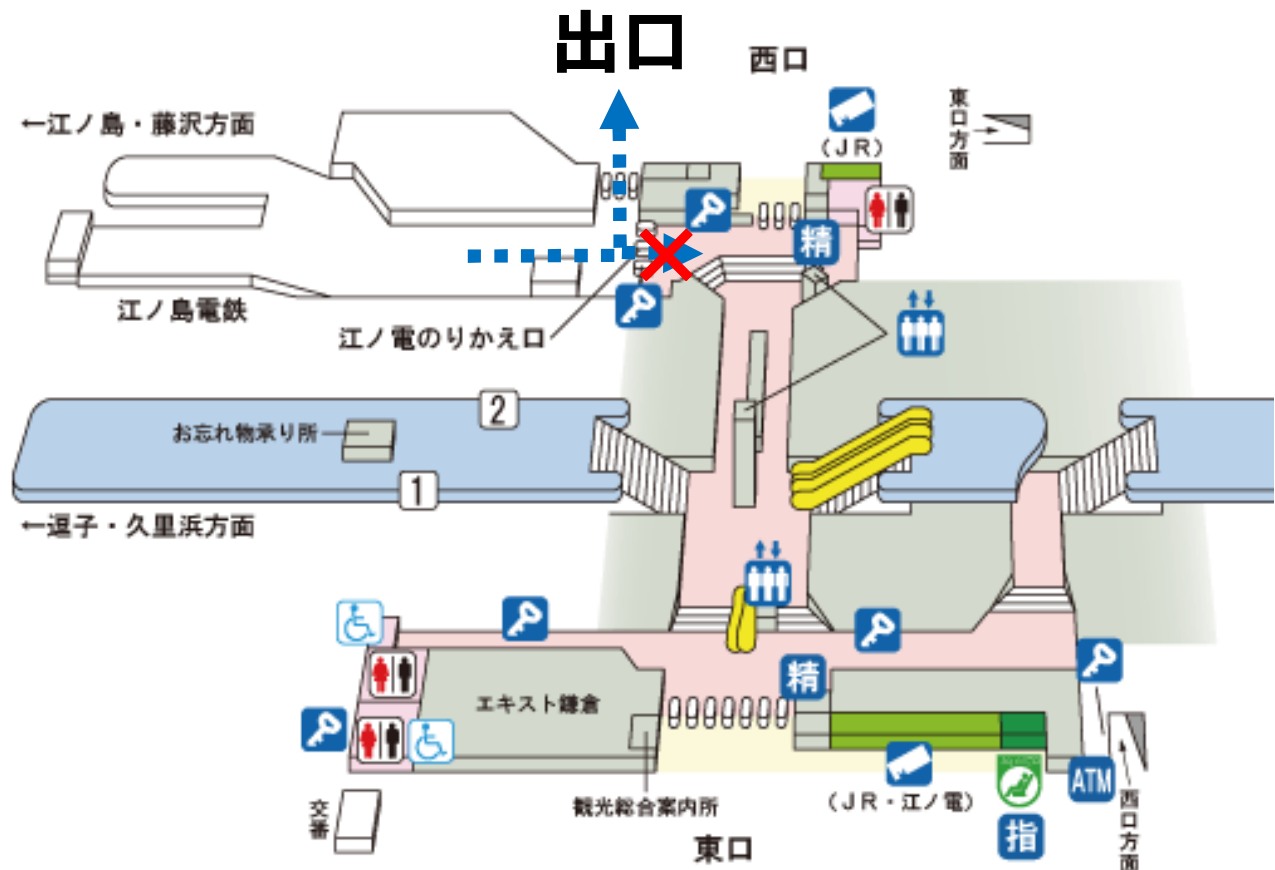
長谷駅に着いたら、掲示板に書かれた出口の方向に行きましょう。出口まできたら、同じように切符を入れますが、切符は出てこないのので、そのまま改札機を通りぬけてから出ましょう。



4-7. 電車を降りるとき（鎌倉駅で降りるとき）

鎌倉駅に着いたら、掲示板に書かれた出口の方向に行きましょう。入るときと同じように切符を入れますが、切符は出てこないで、そのまま改札機を通りぬけてから出ましょう。

出口は1箇所です。JRに乗り換えるための改札もありますので、間違えないようにしましょう。



～その5 電車（JR）の乗り方～

5-1. 運賃をしらべる（JR 北鎌倉駅）

小田急や江ノ電と同じように、券売機の上にある「運賃表」を見て運賃をしらべてから買います。例えば、下の写真をみて鎌倉まで行きたいときは、200なので、200円とわかります。（こどもは半額の100円です）

※SUICA・PASMO を使う人は切符はいらないので、「③改札機を通る」にそのまま行きます。

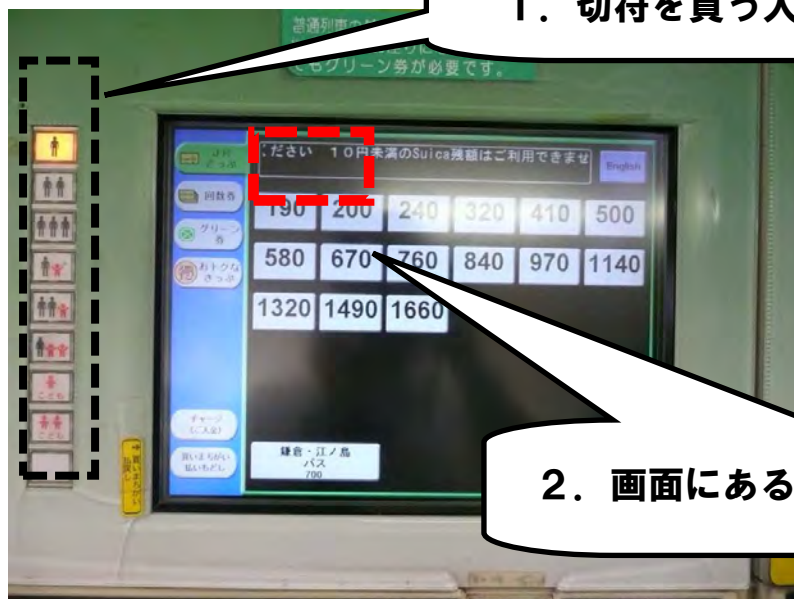


5-2. 切符を買う

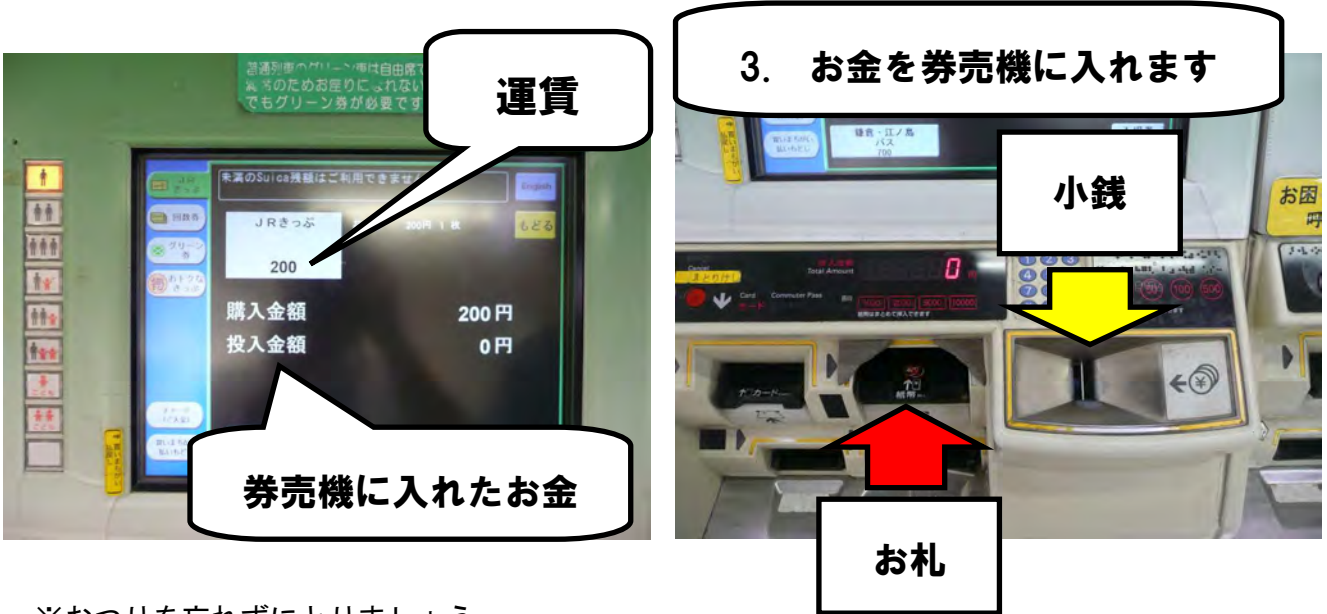
切符は「券売機（けんぱいき）」で買います。お金を入れて切符を買う人数を選んだら、運賃表で見た数字と同じボタンを押します。

ボタンを押したら、切符が出てくるので、切符をもって改札口へ行きましょう。

1. 切符を買う人数（子供）を選びます



2. 画面にある①で見た運賃を押します



※おつりを忘れずにとりましょう。

※券売機では SUICA・PASMO にお金をいれるチャージなどができます。

5-3. 改札機（かいさつき）をとおる

電車に乗るためには改札機を通してからホームにいきます。改札機は乗る駅と降りる駅で必ずとおりましょう。

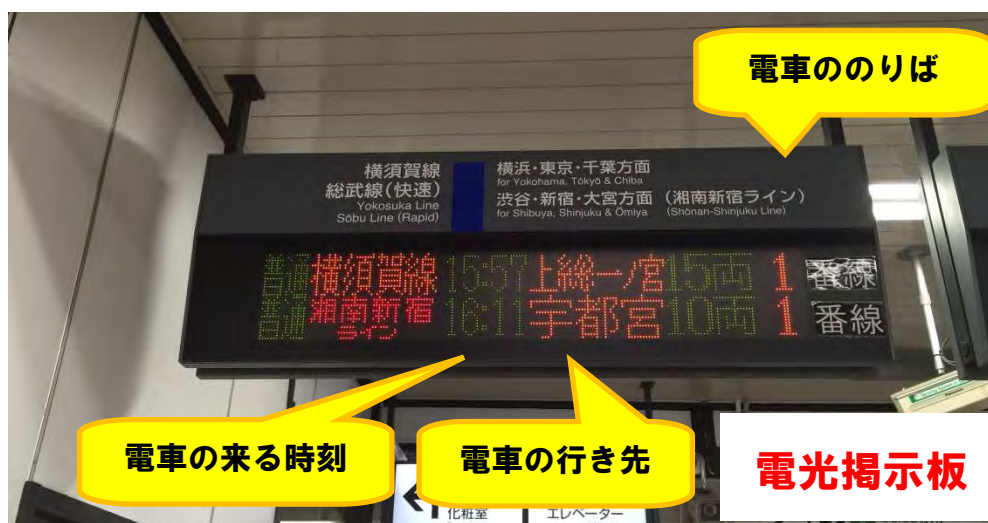
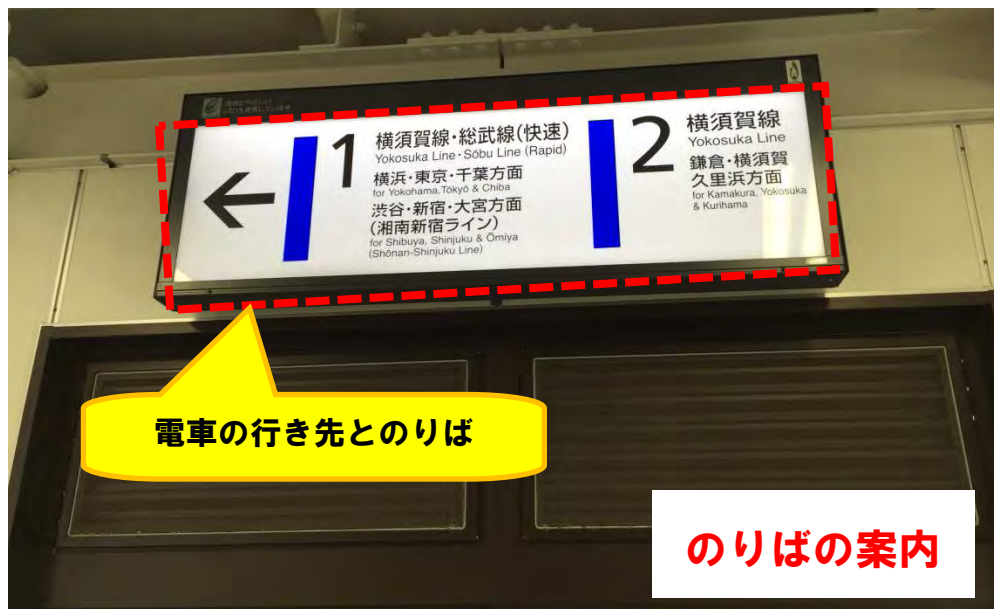
SUICA・PASMO を使うときは、機械にタッチします。切符を買った人は機械の前側で切符を入れると、機械の後ろ側で出てくるので必ず取りましょう。

改札機には、きっぷと SUICA・PASMO の両方がつかえるきかいと SUICA・PASMO だけが使えるきかいがおいであります。



5-4. のりばと時刻をしらべる

改札から入ると、のりばの案内があるので、行先やのりばをしらべましょう。また電光掲示板（でんこうけいじばん）では、のりばごとに電車の出る時刻や行き先をしらべることができます。

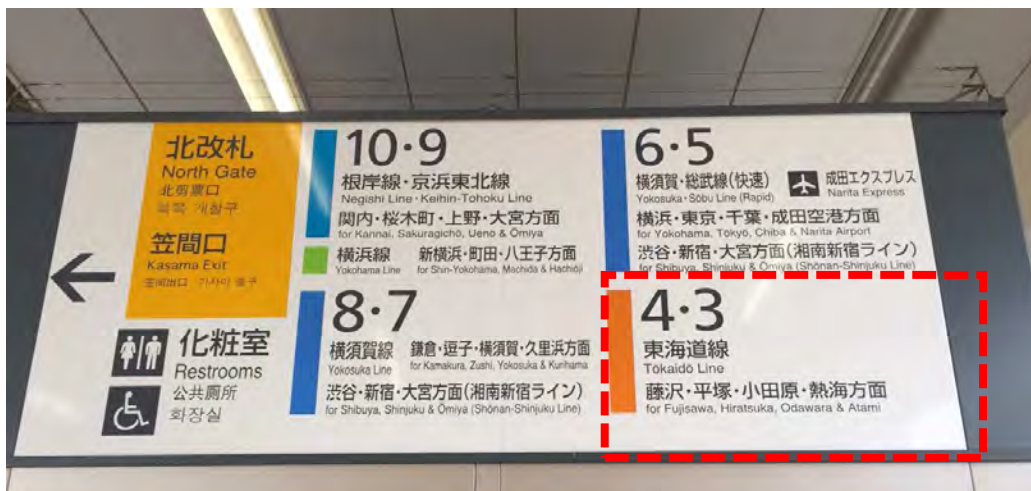


5-5. 電車をまつとき・電車にのっているとき

7ページに書いてあることと同じようにして、ルールを守って電車にのりましょう。

～その6 大船駅での乗り換え～

JR 大船駅で一度電車から降りてホームに出ます。掲示板の表示を見て、階段を上りましょう。乗り換えるためには階段を上ったら、改札機は通らずに、掲示板を見て3・4番ホームに行きます。



ホームに下りたら、来た電車に乗ります。「小田原」や「平塚」などの行先が書いてあることを確認しましょう。(※千葉や東京方面行ではありません。)

～その7 藤沢駅での乗り換え～

7-1. 乗り換え改札に行く

JR藤沢駅で一度電車から降りてホームに出ます。ホームには2か所階段がありますが、そのうち『小田急のりかえ口』と書いた階段を上りましょう。出口に行つてはいけません。階段を上ると改札があります。改札を通る前に小田急の切符を買いましょう。券売機が改札機の横にあります。



小田急のりかえ口

券売機→



7-2. 切符を買う

持っているJRの切符をいれ、小田急の切符を買います。
上にある運賃表で長後駅までの運賃を確認しましょう。
ボタンを押したら、新しい切符が出てくるので、切符をもって改札口へ行きましょう。

1. JRの切符を入れます。

2. 画面にある①で見た運賃を押します

3. 新しい切符をとります



7-3. 改札機（かいさつき）をとおる

電車に乗るためには改札機をってからホームにいきます。改札機では新しく買った切符がでてくるので、忘れずに取りましょう。

Suica・PASMO はタッチ



Suica・PASMO ときつぶ

Suica・PASMO せんよう

7-4. のりばをしらべる

駅には「電光掲示板（でんこうけいじばん）」があるので、電車の時間、行先やのりばをしらべましょう。とちゅうの駅で、あとからくる早い電車にのりかえたりすることができるので、お知らせもかくにんしましょう。



電車ののりば

電光掲示板

電車の行き先

電車の来る時刻

7-5. 電車をまつとき・電車にのっているとき

7ページに書いてあることと同じようにして、ルールを守って電車にのりましょう。

7-6. 電車を降りるとき

長後駅に着いたら、掲示板に書かれた出口の方向に行きましょう。出口まできたら、③と同じように切符を入れますが、切符は出てこないなので、そのまま改札機を通りぬけてから出ましょう。



改札機

1. 「かまくらめぐり」で行ったルートをふりかえってみよう

参考資料2



2. 行動きろく表

■きろく表（行き）

内容	運賃	移動手段	距離 × CO ² の単位 = CO ² 排出量		
御所見市民センター 集合					
御所見市民センター ↓ 長後駅	140 円	バス	5.4km	51 g	275.4g
長後駅 ↓ 藤沢駅	_____ 円	電車 (小田急)	_____ km	_____ g	_____ g
藤沢駅 ↓ _____ 駅	_____ 円	電車 (_____)	_____ km	_____ g	_____ g
_____ 駅 ↓ _____ 駅	_____ 円	電車 (_____)	_____ km	_____ g	_____ g
	0 円	徒歩			
①合計	_____ 円		_____ km	_____ g	_____ g

■きろく表（帰り）

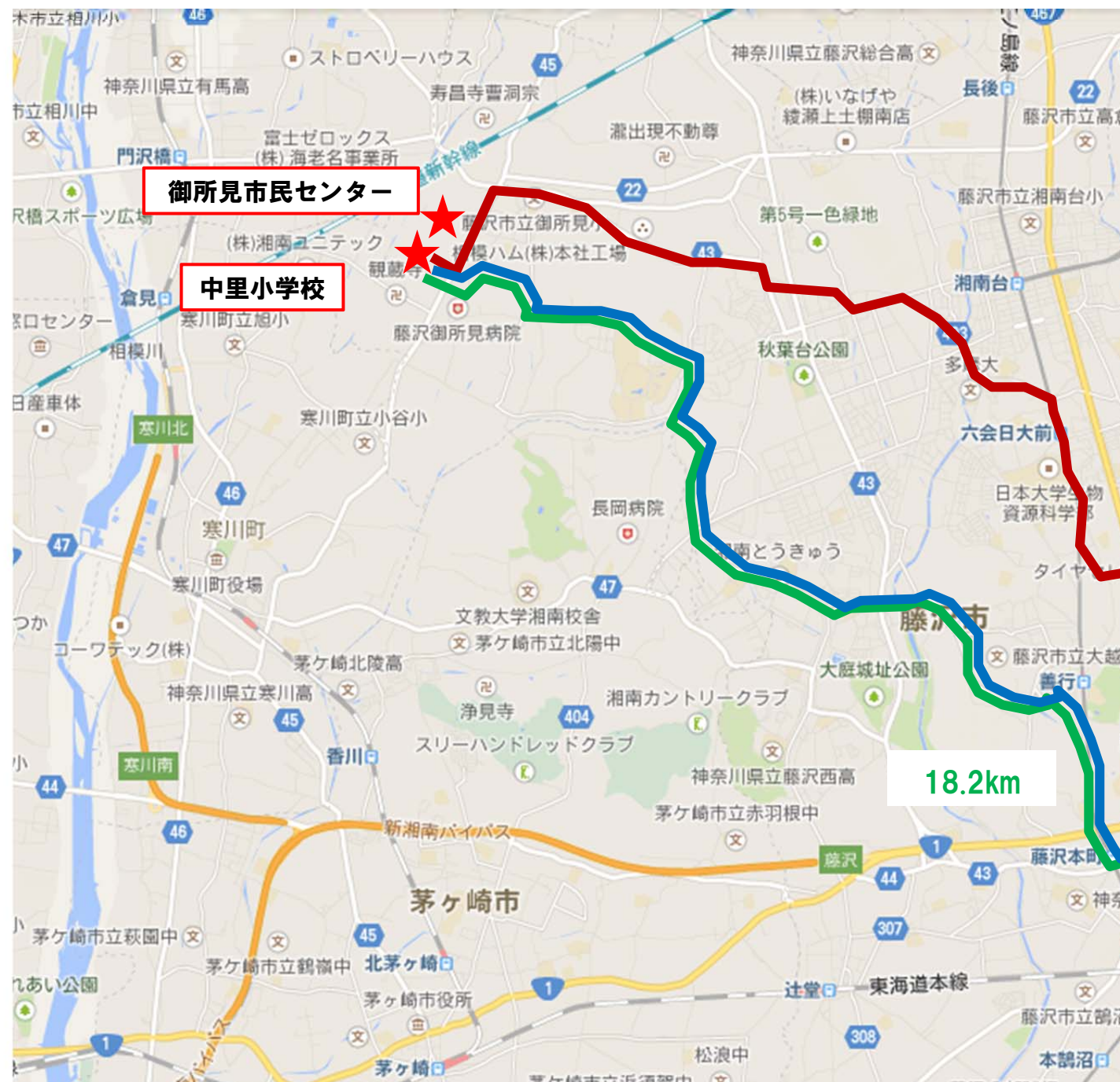
内容	運賃	移動手段	距離 × CO ² の単位 = CO ² 排出量		
_____ 駅 ↓ 藤沢駅	_____ 円	電車 (_____)	_____ km	_____ g	_____ g
藤沢駅 ↓ 長後駅	_____ 円	電車 (小田急)	_____ km	_____ g	_____ g
長後駅 ↓ 御所見市民センター	140 円	バス	_____ km	_____ g	_____ g
御所見市民センター 解散					
②合計	_____ 円		_____ km	_____ g	_____ g

表 CO²排出量の単位一覧

	クルマ	バス	電車
1 km ごとに	170 g	51 g	21 g
徒歩と自転車は 0g ※東京都環境局 HP より、1 人を 1 km 運ぶために必要な量			

3. クルマで行ったら、どうなるだろう。

※移動にかかる費用とCO2排出量をかきましょう。



経路	距離 × 費用 + 駐車料 = 料金	距離 × CO ² の単位 = CO ² 排出量
中里小学校 ↓ ()	___ km 8 円 600 円 ___ 円	___ km 170 g ___ g
() ↓ ()	___ km ___ 円 ___ 円 ___ 円	___ km ___ g ___ g
() ↓ ()	___ km ___ 円 ___ 円 ___ 円	___ km ___ g ___ g
() ↓ 中里小学校	___ km ___ 円 ___ 円 ___ 円	___ km ___ g ___ g
合計		



- ①ルート：中里小学校⇒長谷駅⇒鎌倉駅⇒中里小学校 (駐車する駅：長谷駅、鎌倉駅)
- ②ルート：中里小学校⇒鎌倉駅⇒中里小学校 (駐車する駅：鎌倉駅)
- ③ルート：中里小学校⇒鎌倉駅⇒北鎌倉駅⇒中里小学校 (駐車する駅：鎌倉駅、北鎌倉駅)
- ④ルート：中里小学校⇒長谷駅⇒鎌倉駅⇒北鎌倉駅⇒中里小学校 (駐車する駅：長谷駅、鎌倉駅、北鎌倉駅)

～クルマの費用を計算する時の注意点～

- ・クルマで移動するときは、1 kmあたり 8 円の費用がかかります。
- ・駐車料金は、1 箇所あたり 600 円がかかります。
- ・クルマで移動するときは、1 kmあたり 170 g の二酸化炭素を排出します。

4. まとめ

移動する時にかかるお金や CO² 排出量の違いを知ろう

★運賃（費用）を知ろう

電車やバスで移動するとどれぐらいの運賃がかかったのか、実際に乗ったときに、2 ページ目にあるスケジュールに書きましょう。

★CO² 排出量を知ろう

電車やバスで移動した距離を 1 ページ目の地図で調べて、2 ページ目にあるスケジュールに書きましょう。

★クルマの費用と CO₂ 排出量を比べてみよう

電車で移動したときと同様に、クルマで移動したときの費用と CO₂ 排出量を書きましょう。

移動距離と使った交通手段によって CO² 排出量は違うので、下の表を使って合計を出し、最後に公共交通機関とクルマの場合の費用と CO² 排出量を比較しましょう。

	費用	CO ² 排出量
公共交通機関	①行き： _____ 円	①行き： _____ g
	②帰り： _____ 円	②帰り： _____ g
	③合計： _____ 円	③合計： _____ g
クルマ	①行き： _____ 円	①行き： _____ g
	②帰り： _____ 円	②帰り： _____ g
	③合計： _____ 円	③合計： _____ g
結果（比較）	_____ の方が _____ 円安い	_____ の方が CO ² 排出量が _____ g 少ない。

計算欄

5. 感想

【 年 組 番 なまえ: 】

第2回 藤沢市地域公共交通会議
モビリティ・マネジメント教育検討会

議 事 録

日 時 2015年（平成27年）7月16日（木）
場 所 森谷産業旭ビル 4階 第1会議室

藤沢市計画建築部都市計画課

午後3時52分 開会

○事務局（大澤） 皆さん、こんにちは。定刻より若干早いですけれども、委員の方は皆さんおそろいなので、これから第2回藤沢市地域公共交通会議モビリティ・マネジメント教育検討会を開催させていただきたいと思います。

本日は台風11号の影響のある中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。本日事務局を務めます都市計画課大澤と申します。よろしくお願いいたします。議事に入るまでの間、進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日の会議の終了時間なんですけれども、こちらの会場の関係もありますので、おおむね6時ぐらいまでには終了させていただきたいと思いますので、皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

それでは早速、お手元にあります資料の確認をさせていただきたいと思います。本日、資料が大変多くなっておりますので、確認をよろしくお願いいたします。

本日の次第、委員名簿、出席者名簿、本日の座席表、そしてモビリティ・マネジメント教育検討委員会運営要領があります。資料1、中里小学校における取り組み報告、資料2、藤沢市版モビリティ・マネジメント教育の進め方（修正案）、資料3、まちと江ノ電、次に、参考資料1、バスの乗り方・電車の乗り方ガイドブック、参考資料2、かまくらめぐりルートと計算表、以上になります。よろしいでしょうか。

それでは、お手元の次第に従いまして会議を進めさせていただきたいと思います。

まず、開会に当たりまして都市計画課長の石原から御挨拶申し上げます。

○石原都市計画課長 皆さん、こんにちは。藤沢市都市計画課長の石原でございます。

本日は大変お忙しい中、また台風の影響で足元の悪い中、お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

会議の開会に当たりまして、御挨拶をさせていただきます。

このモビリティ・マネジメント教育検討会でございますが、本年の1月に第1回の検討会を開催いたしまして、それからしばらく期間があいてしまいましたが、きょうが第2回の開催となります。

本日の検討会は、昨年度から中里小学校にモデル校として御協力をいただいた中で、藤沢市が目指すモビリティ・マネジメント教育をこれからどのようにしていくべきか、どのような課題を解決する必要があるかなど、1つ1つ具体的になってきたことについて関係者の皆様にお示しできる機会であると考えております。この結果を踏まえまして、議論が深まることを期待しているところでございます。中里小学校の関係者の皆様には、授業などで多大な御協力をいただきました点について、この場をかりて御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

一方、藤沢市で今後モビリティ・マネジメント教育を推進していくためには、まだまだ多くの課題が残っておりまして、目指すべき目標を達成するには、本日お集まりいただきました関係者の御支援、御協力が大変重要になると考えております。本日の検討会

におかれましても、皆様からの忌憚のない御意見を賜りたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

○事務局（大澤） それでは続きまして、新たに委員になられました方がおりますので、ここで紹介させていただきたいと思います。

まず、前任の校長会会長の新屋敷委員の後任といたしまして、今年度、校長会会長に着任されました笠松委員でございます。

○笠松委員 よろしく願いします。

○事務局（大澤） 続きまして、大道小学校長の本橋委員でございます。

○本橋委員 こんにちは。よろしく願いします。

○事務局（大澤） 続きまして、小糸小学校長の新屋敷委員でございますが、本日、業務の都合により欠席と聞いておりますので、よろしく願いいたします。

本橋委員、そして新屋敷委員につきましては、藤沢市内で、地域によって児童の交通に関する理解度が大きく異なっています。この検討会において、地域が異なる学校関係者から広く御意見をいただきたいと考えておりますので、モビリティ・マネジメント教育の内容を理解していただいているお二方に今回から新たに委員になっていただいたところでございます。これで、委員につきましては2名ふえますので、計8名となります。こちらの委員の協力をいただきながら、皆様の協力をいただき、モビリティ・マネジメント教育に関する取り組みを進めていきたいと考えておりますので、これからの御協力をよろしく願いいたします。

続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。

本日も、交通エコロジー・モビリティ財団より、交通環境対策部長の加藤様。

○加藤部長 加藤でございます。よろしく願いします。

○事務局（大澤） そして、同じく企画課課長代理の岡本様出席いただいております。

○岡本課長補佐 岡本です。よろしく願いします。

○事務局（大澤） そして、この後、御説明させていただきます本年2月、6月にモデル校としてモビリティ・マネジメント教育の授業を行っていただいた中里小学校6年2組の担任の森先生にも出席していただいております。

○森教諭 よろしく願いします。

○事務局（大澤） 続きまして、今年度、人事異動の関係で市のほうも大分変わっております。前回、新岡という者がおりましたけれども、その後任として、教育指導課指導主事の坪谷でございます。

○事務局（坪谷） よろしく願いいたします。

○事務局（大澤） そして、同じく都市計画課のほうも今年度、新たに阿部が入りましたので、よろしく願いします。

○事務局（阿部） よろしく願いします。

○事務局（大澤） 事務局は、今年度、このような形で行っていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

○事務局（大澤） 続きまして、本日の検討会の会議の成立要件でございますが、運営の規定によりまして、委員の過半数の出席をもって会議が成立となっております。先ほど2名の委員がふえまして、現在8名、そして本日の出席委員が7名ということで、本会議が成立していることをここで御報告させていただきます。

それでは早速、次第に従いまして3の議題に移らせていただきます。ここからは谷口会長に司会をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

○谷口会長 それでは、議題に入ってまいりたいと思います。

次第3、議題の議題1、中里小学校における取組み結果について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（相良） 皆さん、こんにちは。都市計画課の相良と申します。それでは、議題1の中里小学校における取組み結果について、初めにお配りしました資料1に基づき説明させていただきます。

資料1の1ページをごらんください。こちらには、中里小学校におけるモビリティ・マネジメント教育の取り組みとしまして、前回の検討会で御報告させていただきました討論会の授業から先月6月に実施いたしました6年生に対する授業までの流れを記載しております。具体には、5年生で、1の「旅行に出かけるなら、公共交通機関か、クルマか」をテーマとして討論会の授業を12月に行いました。2月に2の「討論会の振り返りとかしこいクルマの使い方を考える」授業を行っております。また、年度が明け、6年生で、校外学習であります3の「かまくらめぐり」を6月に行いまして、同じく6月に4の「環境に配慮した移動を考える」授業を行っております。本日は、2から4の授業と「かまくらめぐり」について、ビデオを交えながら概要等を報告させていただきます。

2ページをごらんください。「討論会の振り返りとかしこいクルマの使い方を考える」の授業について説明いたします。

実施概要、場所、日時につきましては記載のとおりとなります。詳細につきましては、4)授業の構成となりますので、そちらをごらんください。

まず、前半部分の①検討会の振り返りとクイズですが、こちらでは、子どもたちに討論会での議論を思い出していただきながら、クルマと公共交通、それぞれの長所短所を挙げてもらい、黒板にマトリックスで整理するとともに、子どもたちから、公共交通はCO₂の排出量が少なく環境に優しいといった発言にあわせてクイズを実施するというような流れで行っております。使用しましたクイズにつきましては、6ページ以降に掲載しておりますので、後ほどごらんいただければと思います。この前半のまとめとし

ましては、クルマと公共交通、それぞれ長所短所があることを確認し、状況に合わせてうまく使い分けができないかという問いかけをして終わることとしております。

次に、後半部分の②かしこいクルマの使い方を考えてもらうのですが、こちらでは、子どもたちに、自分たちが大人になって車の免許を持ったとして、車も所有していることを前提に、中里小学校から鎌倉まで行くとしたら、クルマ、公共交通のどちらで行くかを考えてもらい、どちらを選んだかとその理由を発表してもらいました。資料は10ページ、11ページに示したものになりますが、平日にクルマで行く場合、休日にクルマで行く場合、公共交通で行く場合の所要時間、費用、CO₂の排出量等について考えてもらう機会としております。後半のまとめとしましては、目的地が同じでも、渋滞等の影響により平日と休日ではかかる時間や費用も異なるとともに、CO₂の排出量は圧倒的に公共交通が少ないことから、TPO——時間や場所、状況に合わせて移動手段を選ぶことが重要であるということに気づいてもらう機会としております。

ここで、説明だけでは授業の様子がわかりにくいかと思いますので、実際の様子を10分程度に編集しましたビデオを今からお流ししますので、そちらを見ていただければと思います。

(ビデオ放映)

○事務局（相良） 今のが車の長所というので、幾つか挙げてもらっています。

次に、公共交通の長所短所を挙げてもらうところになります。

(ビデオ放映)

○事務局（相良） ちょっと途中で切れてしまっていますが、今のような形で、長所ですとか短所といったところを、公共交通でもそれぞれ子どもたちに挙げてもらったという授業を行っております。

続きまして、こちらが後半部分の授業になります。先ほどの鎌倉に行くとしたらといった部分になります。

(ビデオ放映)

○事務局（相良） 大分はしょってしまっていた部分はあるんですけども、このような形で、後半部分については、クルマと公共交通の比較、クルマについては平日と休日の比較といったところで、先ほど森先生の発言にもありましたけれども、同じところも状況によっては変わってくるといったことを子どもたちに伝えて、この授業を終わった形となっております。

それでは、資料のほうに1度戻っていただきまして、12ページから14ページをごらんいただければと思います。こちらは、今の授業の終わりに、感想としまして、中里小学校から鎌倉まで行くとした際、クルマと公共交通のどちらを選んだかとその理由を左側の理由と書いてあるところに記載していただき、そして、授業を通じての感想を書いてもらったのが右側となっております。

クルマを選択した児童の理由としましては、コンビニなどに寄り道ができるからです

とか、他人に気を使わずに済むからといった意見が多く出されてきました。一方、公共交通を選択した児童の理由としましては、クルマと比べてCO₂の排出量や費用が少ない、あるいは事故が少なく安全だからといった意見が出されておりました。また、授業の感想につきましては、TPOに合わせて移動手段を考えるなど、MM教育を実施する目的に合った感想を記載した児童の感想につきましては赤色で囲んでおります。そちらを幾つか紹介させていただければと思います。12ページの10番では、「車も良いけど、電車も良いので、どちらもバランスよく使ったほうが良いと思いました。」といった感想がありました。また、13ページの1番では、「行く場所などで、どちらを使った方がより良いのか、平日と休日とではどちらを使った方が良いのか、メリット、デメリットを考えて使うことが大切だと分かりました。」といったコメントもありました。また、14ページの17番では、「大人1人だったら、少ない人数なので、車などのガソリン代の料金より、安くなりますが、大人2小人2だと、人数が多いので、1人あたりの料金の4倍になってしまいます。でも車だと、ガソリン代などは、人数が増えても、同じ料金なので、大人2小人2だったら、車の方がいいと思いました。」といった一定程度、MM教育を通じて子どもたちに伝えたいことを理解していただけたと考えられる感想をいただけたという形になっております。ほかにも幾つかよい感想もあるんですけども、そちらにつきましては、後ほどごらんいただければと思います。

では、15ページをごらんください。8)実施後の気づきについてですが、授業の後半部分で行いました「②かしこいクルマの使い方を考えてもらう」では、鎌倉に行くに当たって車を選択する児童が多いと想定し、授業を進める予定であったんですけども、実際には、児童の多くが公共交通を選択するという結果になっておりました。これは、週末は自動車が渋滞するといった現状を知っていたことですか、前半部分のクルマと公共交通の長所と短所の比較をしたことから、そのような結果になったと考えております。

次に、9)教材の修正ですが、6ページから9ページにありますクイズの解答部分を見ていただければと思いますが、解答の根拠が掲載されている一方で、解答が記載されていないという初歩的なミスがあったものですから、そちらで子どもたちがどれが正解なのかがわかりにくかったので、答えを明記するという修正点がこちらとしてはあったと考えております。

1つ目の授業の報告については、終わらせていただきます。

16ページをごらんください。校外学習であります「かまくらめぐり」について説明いたします。実施概要、場所、日時につきましては、記載のとおりとなります。詳細につきましては、4)校外学習の構成をごらんください。スケジュールとしましては、①の御所見市民センターに集合し、②に示したバスを利用して長後駅に向かい、小田急江ノ島線に乗りかえ、藤沢駅に行き、藤沢駅で江ノ電に乗りかえます。ここまでは、どのグループも同じルートで移動しておりましたが、この後は、江ノ電の長谷駅でおりるグループや鎌倉駅でおりるグループなど、見学先に合わせてグループごとの行動を行っており

ます。見学先は、そちらの下に記載してありますA、B、Cの3コースから、午前、午後それぞれ1コースを回るとい形になっております。帰りにつきましては、見学先に合わせまして、鎌倉駅または北鎌倉駅から乗車し、大船経由で藤沢駅、長後駅、そして御所見市民センターに戻りまして、解散というような形になっております。こちらにつきましては、移動の際の参考としまして、参考資料1、バスの乗り方・電車の乗り方ガイドブックを皆様にも配付しておりますが、こちらを事前に6年生全員に配付させていただき、移動の参考としていただきました。例えばバスの乗り方といったところで、バスの料金の見方ですとか運賃表、切符の買い方を写真を交えて説明するような形で、この冊子をつくっております。

19ページをごらんください。7)実施後の気づきになりますが、我々もかまくらめぐりの当日は、藤沢駅や鎌倉駅などで児童の様子を見させていただきましたので、そこで気づいた範囲で御説明させていただきます。

まず1つ目、最初の行きのバスのダイヤが乱れて、当初乗車する予定でありました電車の時間を過ぎて長後駅に到着したのですが、子どもたちはおくれってしまったために、どの電車に乗っていいのかがわからずに、来た電車に乗らずに見過ごすといった状況がありました。また、2つ目、駅での切符購入についてですが、行きの段階では手間取る姿が多く見受けられたのですが、帰りにおいては、購入になれたせいか、比較的スムーズに切符の購入をすることができていたという状況がありました。また、3つ目、鎌倉駅から藤沢駅へ戻る際、大船駅で乗りかえをしなければならないのですが、ちょっと載せるはずだった写真がないんですけれども、鎌倉駅の掲示板につきましては、大船駅に向かうにはどちらという案内が1つもされておらずに、子どもたちがどちらの電車に乗っていいのかがわからないため、大変困惑していたといった状況がございました。また、4つ目、鎌倉駅で大船に向かう電車の中では、次は北鎌倉ですという社内アナウンスを聞き、反対の電車に乗ってしまったと思い込み、おりようとするといったことがありました。

次に、8)教材の修正についてですが、今お話ししました3つ目、4つ目で、子どもたちが困惑するという状況に関しては、ガイドブックに周辺エリアの路線図ですとか、自分たちが乗っていく電車はどこに行くのか、どの駅に停車するのかといったようなことが掲載されていなかったもので、そちらは資料を追加するような形で改善していきたいと考えております。

20ページをごらんください。「環境に配慮した移動を考える」の授業について御説明いたします。実施概要、場所、日時につきましては記載のとおりとなっております。詳細につきましては、4)授業の構成をごらんください。まず初めに、児童には、今年の討論会やMM教育での内容を思い出してもらい、クルマと公共交通のCO₂の排出量の差を予想してもらいました。その次に、かまくらめぐりで実際に自分たちが行ったルートで公共交通とクルマに関して費用とCO₂の排出量をそれぞれグループごとに計算してもら

いました。皆さんに配付しております参考資料2が使用した教材になっております。

参考資料2を簡単に御説明いたします。こちらが実際に子どもたちが行ったルートを、バスの分ですとかおりた駅ごとに距離がわかるような地図を記載しております。例えば、長後駅から藤沢駅まででしたら9.1キロ、藤沢駅から長谷駅までは8.3キロ、長谷駅から鎌倉駅までは1.7キロといった所見を出しまして、次のページになりますけれども、この行動の記録表にその距離を記載していただいて、右下に、表になっているんですけれども、CO₂の排出量の単位一覧がありますので、先ほどの算出しました距離と、このCO₂の原単位を掛けて、それぞれの乗車によるCO₂を出してもらうということを行いました。自分たちが行った同じルートに対して、今度は車だったらどうなるのかというのを、3ページの図面と右上の表を同じような形で、車で行った場合の距離がわかるようになっていますので、それぞれ入れてもらって、費用に関しましては、駐車場に1回とまるたびに600円という設定をしながら、費用を算出してもらうということを行いました。最後のページになりますけれども、それぞれ公共交通とクルマで、自分たちが行ったルートに関して、公共交通だったら費用が幾らだったのか、CO₂はどれぐらい排出したのかを出していただき、その比較をしてもらったというような授業を行っております。

このような授業を行いまして、グループごとに計算してもらった結果を黒板に張り出しまして、その結果を見て、気づいたことを児童に意見を発表してもらうというような授業を行いました。この授業につきましても、先ほどと同じようにビデオを今から流したいと思いますので、そちらを見ていただければと思います。

(ビデオ放映)

○事務局(相良) 今のが、クルマと公共交通でどれぐらいのCO₂の差があるんだろうというのを子どもたちに挙げてもらっていった部分になります。

(ビデオ放映)

○事務局(相良) 今のような形で、グループごとにCO₂と費用の算出をしてもらったような形になります。森先生も、その中で役割分担をですとか、誰かはクルマのほうを計算して、誰かは公共交通のほうを計算してといったような役割分担を決めてと最初にアナウンスがあったんですけれども、守れていたグループと守れていなかったグループがあったんですけれども、みんなでそれぞれ相談し合いながら、先ほどの費用とCO₂の排出量を算出したという光景になります。

続きまして、各班の計算結果の発表といったところを見ていただければと思います。

(ビデオ放映)

○事務局(相良) ちょっと途中で切れてしまいましたが、数字がどうだったかというより比較してどうだったか、それぞれ子どもたちに発言していただき、授業を終わったというような形になっております。

資料に戻らせていただきたいと思います。

24ページをごらんください。こちらは、授業の終わりに書いてもらいました感想となります。こちらで①と書いてありますのは、自分のクルマと公共交通のCO₂の排出量の差の予想といったものの最初に思っていたことを書いてもらい、②は計算結果ですとか、授業を通じての感想をそれぞれ記載してもらったものになります。②の計算結果を受けての感想についてですが、こちらも先ほどと同じように、MM教育を実施する目的に合った感想を書いていただいた児童のものに関しましては赤枠で囲ってあります。その中で、また幾つか紹介させていただければと思います。

26ページをごらんください。17番になりますが、こちらの児童では、「これからは、なるべく車ばかりではなく、公共交通機関を使ったり、自転車や歩くこともしたいと思います。」といった感想がありました。また、28ページの28番になりますが、「今回の結果を受けて、将来、車に乗ってみたいけど、なるべく電車やバスを使っていきたいと思います。半年前、僕は、車の側についていました。けど、調べているうちに、バスの方が環境に良い事に気が付きました。でも、僕は、乗りやすさのことばかり考えていました。でも、今回の授業で環境にも目を向けて行くことが大切だと思いました。」といった形で、一定程度、同じようにMM教育を通じて子どもたちに伝えたいと思っていることを理解してくれた児童もいたと考えております。

28ページをごらんください。先ほどと同じように、この授業の実施後の気づきになりますが、1つ目は、まず、今回の授業は、CO₂の排出量の計算に少し時間がかかってしまい、最後の計算結果を見て、気づいたことを児童たちに発表してもらおうといった部分が余りとれなかったことから、少し計算時間を短縮し、気づいたことを児童たちに発表してもらえる時間を多くとれるような授業構成にするといった工夫が必要であると考えております。また、2つ目は、先ほどの感想でも紹介しましたが、クルマと公共交通の比較だけではなく、徒歩や自転車といったところに着目する児童もいたことから、自転車や徒歩についても考えられるような授業構成の工夫も今後していく必要があると考えております。

9)教材の修正につきましては、計算シートの記入方法が少しわかりにくい部分がありましたので、そちらは改善していきたいと考えております。また、もう1つは、先ほどの実施後の気づきでも説明いたしましたが、CO₂の排出量の計算時間を短縮できるよう、教材に関しても工夫が必要であると考えています。

簡単ですが、資料に基づく説明は以上となります。

本日、先ほどのビデオで見ていただきましたように、MM教育の授業をしていただきました森先生に事務局として出席していただいておりますので、これらの授業を行っての子どもたちの変化ですとか、感想といった部分について今から補足していただければと思っております。

○森教諭 今回、授業をさせていただきました中里小学校の6年2組を担当しております森と言います。よろしく申し上げます。

今回、5年生、6年生と2年間、自分は学年が上がりまして、子どもたちはクラスがえがあったので、半分が違う子どもたちにはなっているんですけども、5年生で討論会はどちらのクラスもやっけていまして、どちらのクラスの子たちも、バスとか電車を使うのがいいのか、車を使うのがいいのかということで討論会はしている状況で6年生を迎えさせていただきました。5年生の段階の授業の振り返りに関しては、自分のクラスだけみたいになってはいたんですけども、討論会で話したことが子どもたちにかなり身につけていたというか、心の中に刻まれていたようで、話の内容も、やはり討論会に出てきたときのことが、話の内容として長所短所が出てきたときも、そんな話があったよねという話だったので、そこを使っているから、6年生になってから、自分のクラスじゃなかった子たちも、そういう意識はある中で6年生の授業を迎えられたかなと思っております。

5年生での授業に関しては、やはり長所と短所が、自分たちもわかる範囲のところ子どもたちもわかってくれたので、自分も予想してつくっていただいて、資料を提示することができたかなと。そうやって見比べることというのは、子どもたちはなかなかないので、いい機会だったかなと思います。特に中里地区では、御所見地区もそうなんですけれども、やはり車で移動することが多い地区であると思います。藤沢市全体を見渡して、35校あるとしても、場所によっては、電車で移動して塾に通っている子がいる地区もあれば、全くそういうのではなく、車だけで親が送り迎えをしている地域など、さまざまなケースが考えられると思うので、また、この取り組み方も、取り組んでみたら、子どもたちの意見が学校によって大分変わってくることが予想されます。なので、そのあたりをどのように捉えて、このモビリティ・マネジメントの授業でこれから続けていくとするならば、どういう形をとっていくのが一番いいのかなと、この討論会自身もどうなのかなというところは考えていかなければいけないところだと思います。

自分がかまくらめぐりの説明をするときに、実は参考資料1のガイドブックを使わせていただきました。特に中里地区の子たちは、なかなか電車に乗っていないというか、最初、5年生のときはいすゞ見学に行くことにしまして、バスの乗り方をまずやろうと。いすゞに行くことでバスの乗り方を覚えるという、下手すると、これがなければ、バスも電車もどっちも乗ったことがないという、わけがわからないというような状況で行くことになっていましたので、まず1段階、5年生の段階でバスに乗りました。2つ目に、実はこの前に、6年生はプラネタリウムを無料で見させていただける機会がありますので、そちらに電車とバスを使って行くことにしました。6月の最初のほうにプラネタリウムに行って、理科の勉強をしがてら、バスと電車、長後駅までバスで行って、長後駅から湘南台駅までひとまず電車に乗って、切符を買うというところもやりました。そのような経験がないと、なかなかかまくらめぐりは厳しいだろうなということが予想されていたので、そうしました。

その後、戻ってきてから、このガイドブックを見ながら、みんなはどうやって切符を

買うかはわかったよね、切符の買い方はわかったけれども、どうやって乗りかえをするのと。乗りかえのところが、今回のかまくらめぐりの課題だったのかなと思っておりません。頭の中に神奈川県地図がないので、どっちに行くとどこになるのかが見えないので、書いてあったと思うんですけども、北鎌倉と書いてあったら、何だろう、違うのかなとか、情報がちょっと入ってくるだけで違うのかなとか、藤沢と書いていなくて片瀬江ノ島と書いてあるから乗っていいのかなとか、そこら辺が土地勘がない中里小学校の子たちだからこそ難しかった。多分、湘南台小の子とか駅の近くの子たちだったらまたちょっと違ったんだろうし、その班の中でも、藤沢ってこっちに行けばいいんだよとわかっている子たちが引き連れていけたりとか、そういうところがあるかもしれないんですけども、中里という地区に関しては、そこが難しいのかなと思いつつながら、結構、これを細かく見ながら説明することでわかったかなと思ったんですが、実際やってみると——でも、これは神頼みとして使っていたような気がして、子どもたちも、これを見ながら、こっちで合っていたかなとかと言いながらやっていた様子が見られたので、こういう資料があると、特にこういう地域に関してはありがたかったなと思っております。

その後の6年生の授業でやらせていただいたかまくらめぐりの振り返りで、実際にCO₂はどれくらい出ているのかなとか、車はどれくらいCO₂を出しているのかなというところも取り上げたいところだったので、そこをやりたいと思ったんですけども、そのところは、まず、CO₂が何グラムと、見えないものなので、小学校の段階で見えないものを見ようとするというのは難しかったので、やはりパーセントでやるのも難しいかなとうちも思ったので、100に対してみたいな言い方をして持っていったんですけども、見えないものを見ようとするのは算数の世界でもかなり難しいことで、自分たちも悩んでいるところではあるんですけども、100に対してみたいな見方でやってみました。子どもたちの予想も120ぐらい、1.2倍ぐらいにしか思っていなかったりとか1.5倍、極端な子は9倍となっている子たちがいる中で、やっぱり量の感覚がないんだろうなというのは感じました。結局、結果としては5倍ぐらいなので、実際どうなのか、自分もちょっとわかっていないんですけども、大体5倍ぐらい違うという結果が出てきました。それが正しかったのかどうかの検証をまだしていないんですけども、そういう結果が出てきました。

まず、振り返りのシートのところが、これからこういうのをやるとしたら課題かなと感じております。確かに、班で行ったことを実際に班ごとで振り返っていくことはとても大切なことだとは思いますが、例えば参考資料2の行動きろく表を書くときに、距離をどこに入れればいいのか、CO₂の単位はどれを書けばいいのかと悩みながらやっていたところがあります。ここがどうやったら簡単になるかも考えなければいけないし、あとは、こっちで明示してもいいのかなとか、それをし過ぎても困るのかなというところとか、自分も一応やってみようかなと思って、やってみようと思っております。

も、そこが課題かなというか、ここをどう示していったりとか、子どもの経験に近いものにさせてあげたい気持ちもあるけれども、それをどこまでさせるのかというのはもうちょっと深く考えなければいけなかったなと自分の反省になっております。

簡単なんですけれども、また何か質問がありましたらお答えできると思いますので、これで説明は以上にさせていただきたいと思います。

○事務局（相良） 森先生、ありがとうございました。

今いただいた意見のように、6年生で行った授業については、算数の授業ではないので、子どもたちに計算をさせたいというものではなくて、実際に自分の行ったルートでどれぐらい排出しているんだらうというのを実感してもらいたいということで、この計算をしてもらったんですけれども、今お話があったように、少しその計算に戸惑う部分がありましたので、目的が達成できるようにその計算部分はなるべく省略ですとか、そういうような形で、この教材については、授業としては意味があったと我々は考えているんですけれども、そういう計算方法といった教材の部分に関しましては、今後また、いろいろな御意見を伺いながら改善していきたいと考えております。

駆け足にはなってしまいましたけれども、資料1の説明は以上となります。よろしくお願いたします。

○谷口会長 それでは、これは議題と書いてありますが、中里小学校の取り組みについての報告でございますので、御意見というよりは、この取り組みについての質問がありましたら、皆さんからお願いしたいと思います。

私から、最初に1つ伺いたいんですけれども、車のコストを掛けているのがあったと思うんですけれども、あのコストは何が入っているんですか。ガソリン代と駐車場代と、あと車の減価償却みたいな、車両代とか保険代とかが全部入っているんですか。

○事務局（香川） これは車の走った部分のガソリン代と駐車場代だけです。

○谷口会長 ランニングコストだけですね。本当は減価償却も入るので、もっと高いんですね。そこは入れなかった理由は何かあったんですか。

○事務局（香川） 車の減価償却分を入れてしまうと、多分、そこの部分の差が非常に大きくなってしまふところが気になったので、ある程度、同レベルというか、動くために必要なお金というところに限ってしまった。電車であれば、本来だったら電車の費用がありますよね。

○谷口会長 いや、ないです。私たちが払うお金は運賃ですよ。

○事務局（香川） 払うという意味ではそうですね。実際、移動だけに限定しているところですよ。

○谷口会長 本当は減価償却も入れたほうがフェアですよ。

○事務局（相良） そうですね。その議論は、学校の先生とも少しさせていただいたんですが、先ほどの計算が少し複雑になるといったことで、今思うと、単純に維持費として幾らですよと、最初にオンする形もあったのかもしれないんですけれども……。

- 谷口会長 あえて外したということなんですね。
- 事務局（相良） ちょっとそこは抜けという部分になるのかもしれないんですけど、今回は抜いたという部分です。
- 本橋委員 こちらのバスの乗り方・電車の乗り方ガイドブックは、学校の立地条件を考えて、今の御説明を伺って、ああ、そうなんだなというふうに感じたんですけども、事務局サイドで全て事前にまとめて、利用のイロハということで作成されたわけですね。
- 事務局（相良） 事前に中里小学校さんから子どもたちのグループごとの移動ルートをおおむね聞いておりましたので、1度、我々も同じようにルートを行ってみまして、子どもたちに気にしてほしい部分、案内板とかこういうところにちゃんと書いてあるんだよといった部分とか、気づいてほしい部分も含めて、そういう写真、実際にルートを回ってつくったという形をとっています。
- 本橋委員 これは本当に地域の状況によってさまざまなんです。先ほどの森先生のお話もあったんですけども、1・2年生の生活科などで、子どもたちが公共機関を使う、バスに乗って図書館に行ったりというところで、バスを利用するような学習体験というのは生活科の段階でも経験していないわけですか。
- 森教諭 中里小学校では、そのような生活の取り組みがなかったもので、結局、バスの遠足であったり、徒歩も少年の森に行ってしまうので、そういう経験がない状態だったので、5年生の段階でそれに取り組みました。
- 本橋委員 そうすると、言ってみれば、これが活動していくための子どもの1つのバイブルでもあるし、共通の活動を実現するための基本になってくるんですかね。スキルのな面のベースということですかね。
それと、先ほど森先生がお話しされていたんですけども、やっぱりCO₂のグラム単位の排出量について、抽象概念を大人はわかるけれども、子どもがどれだけ捉えられるか。やっぱり具体としてどうなのかなというところは、授業者である森先生の持たれている思いは本当によくわかります。例えばCO₂の排出量が何十グラムの違いがある。その何十グラムがどれだけ環境に影響を与えるのか、子どもには見えないわけですよ。何十グラムがどのぐらいなのか、どういう影響として目に映るのか、ここがやっぱり子どもに実感的に捉えさせる1つのキーポイントであって、かつ、捉えさせるのに最も難しい部分、そこは本当に授業者の先生は御苦労されていると思います。本当に御苦労さまでしたと言いたいぐらいです。
- 事務局（相良） 今の意見に関しましては、先ほど飛ばしてしまったんですけども、27ページ、一番下の27番の子どもの感想を見ていただければと思うんです。何で50という数字が出てきたかはあれなんですけれども、下から2行目で、50グラムの排出でどんなことが起きるのか、そのようなところも調べてみたいですよと、まさに今、本橋先生がおっしゃっていただいたような、その単位でどんなことが起こるんだろうといったもので、そういうところも示せる工夫が必要かなと、子どもたちの感想を見て我々も思っ

いたので、そこは今すぐどう見せられるのかという授業の構成は思いつかないんですけども、そういったところも取り入れることができればというふうにこちらも考えているところです。

○本橋委員 それが見えると、実生活に密着して、子ども1人1人にとって、すごく大きなこととして捉えられるようになります。学校という場を離れて、家庭生活でも気をつけなければいけないという態度化に働いてくる。そこは本当に何かいい方法があれば、ぜひ。

○谷口会長 よくあるのが、電気を何分消した分が何グラムとか出ていますよね。そういう実生活でエコ活動をしたらどのくらい減るといふのをやるのと、あと、木が吸収するCO₂の量と換算して、木何本分だよと言ったりするような方法が今までの授業だったら、全国であったと思うんですけども、その辺、多分、岡本さんはよく御存じかと思うんですが、そういう事例はありましたよね。

○岡本課長補佐 そうですね。あとは、例えばビニール袋の中に入れて何グラムだよというふうに、体積にして見せるとか、そういった何らかの形にして見せるというのはいやはいや大事かなとは思いますが。

○加藤部長 問題は、植林に直した場合、木1本分で何グラムとか、そういうのは言えるんですけども、ここにあるように、50グラムそのものが環境にどれだけ悪影響を与えるかという絶対値の部分の実感というのは確かに難しいんです。

○谷口会長 それは大人でも難しいですよ。

○加藤部長 だから、木に直すと木1本分だよとか、車と比べると何倍だよとか、そういう相対的なものでしか言いにくい。確かに、大人でも感じ取れない部分はあるんです。

○谷口会長 ディーゼルなんかだと、ディーゼルの黒い粉をこうやって振って、ほら、こんなに空気が汚いといふて見せたりできるんですけども、CO₂はできないですよ。ドライアイスを見せてもしょうがないです。今後の課題として、工夫のしがいがあるところだと思います。

ほかに何か御質問などはよろしいですか。

まだ議題が2つありますので、最後に時間をとりますので、この議題の質疑の時間はこれで一旦閉めさせていただきます。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

○谷口会長 次に、議題2、平成27年度藤沢市におけるMM教育の進め方について、事務局から説明をお願いします。

○事務局（阿部） 皆さん、こんにちは。都市計画課の阿部です。それでは、議題2の平成27年度藤沢市におけるMM教育の進め方について説明させていただきます。初めにお配りした資料2に基づいて説明させていただきます。

こちらにつきましては、前回の検討会でお話ししました資料1の藤沢市版モビリティ・マネジメント教育の進め方について、前回の指摘や中里小学校での授業を踏まえ、

修正したものとなっております。なお、資料及び説明の中でモビリティ・マネジメントをMMと説明させていただく場合があります。

それでは、資料2の1ページをごらんください。1の目的ですが、藤沢市版モビリティ・マネジメント教育の目的は、子どもたちに個人の利便性だけでなく、社会的な影響に配慮した行動をする意識を醸成することを目的としています。具体的には、子どもたちが目的や行き先などに合わせて移動手段を考え、かしこく公共交通、自転車、クルマ、徒歩等を使うことができる及び個人の利便性だけでなく、社会的な影響に配慮した行動をすることができることを子どもたちのめざす姿としています。

2の目標ですが、数年間かけてモデル校での実績を積み上げ、教材を作成し、その後、藤沢市内の小中学校で教員により継続的に展開できるシステムを構築することを目指しています。

3の特徴ですが、1つ目は、知識と実践の構成によるMM教育の展開、2つ目は、学習活動と連携したMM教育の展開、3つ目は、児童の公共交通の利用状況を勘案したMM教育の展開という3つの特徴を踏まえたMM教育の展開を図ります。

特徴1についてですが、先ほど御説明した子どもたちのめざす姿に向けては、知っているプラス公共交通に乗れるということが重要であると考えているため、知識と実践を基本とした授業構成とし、子どもたちのめざす姿とします。今説明しました知っていることについては、移動が地球環境や日常生活などに影響を及ぼしていることを知る授業、また、乗れることについては、校外学習等と連携し、公共交通を利用することを体験するものとします。

2ページをごらんください。特徴2の学習活動と連携したMM教育の展開は3つあります。1つ目は、教科書の内容と連携した取り組みができるMM教育とします。例としましては、自動車工業等の授業と連携したMM教育が考えられます。これは全く新しい学習を進めるのではなく、既存の授業内容の一部にMM教育を取り込むこととしています。2つ目は、学校の先生が主体となって実施しやすいMM教育とします。これは、学校の先生が実施しやすいMM教育の授業構成としています。3つ目は、小学4年生、5年生、6年生向けのMM教育とします。これにつきましては、次の特徴3で説明しますが、前回検討会では、5年生、6年生までを対象としていましたが、地域により児童の公共交通への理解度が異なることから、4年生まで拡大することとしています。

特徴3は、児童の公共交通の利用状況を勘案したMM教育の展開を行います。3ページをごらんください。下の地域特性を示した表をごらんください。児童の公共交通の利用状況を把握するに当たり地域特性を考慮していきます。児童の公共交通の利用、なれといったものは、地域の公共交通の利便性と商業施設や行政機能等の目的地が近くにあるか、遠くにあるかによって変わってくると考えられます。例えば、赤枠で示したエリアにつきましては、鉄道・バス網が充実しておらず、目的地にアクセスしづらいエリアとなっているため、目的地へ行く際は、公共交通を利用することよりもクルマを使うこ

とが多く、児童の公共交通の利用についてはなれていないことが考えられます。一方で、黄色で示したエリアにつきましては、公共交通網が充実しているのですが、目的地となる施設も近接しているエリアのため、児童が公共交通に乗る機会が少なく、公共交通に余りなれていないことが考えられます。水色で示したエリアは、鉄道網が充実し、鉄道を利用して目的地に行けるエリアとなっていることから、目的地へは鉄道を利用することが考えられ、公共交通に乗りなれていることが考えられます。緑色で示したエリアは、バス網が充実したエリアで、目的地へはバスを利用することが考えられるので、このエリアの児童につきましても、公共交通に乗りなれているといったことが考えられます。日常から公共交通を利用する機会が多く、3年生、4年生から1人で公共交通を利用するなど、なれている状況にある水色、緑色のエリアでは、MM教育の対象を5年生、6年生に加えて4年生まで拡大することが可能であると考え、今回新たにお示しするものとなっております。

4ページをごらんください。MMプログラムの小学4年生のプログラム内容を説明します。4年生では、公共交通を知る・気づくことを目的としています。学習活動と連携したMM教育の流れについてですが、ここでは、授業に「自分たちの県のまちづくりを知ろう」といった単元があるので、どのような要素をつけ足せば、MM教育になるかを説明していきます。具体的な教科書の内容については、資料を参照していただければと思います。

5ページをごらんください。下の段にあります学習活動と連携したMM教育の流れについてですが、実際の授業の流れを示しています。まず、既存の学習活動で、①公共交通の状況を知ることを行います。この後に、MM教育の要素として、②公共交通を使った移動方法を知ることを行います。①と②を組み合わせることで、自分たちの住む町にはどのような公共交通があるのかを理解する及びふだんクルマで行く場所や、遠くに出かける時にも鉄道やバスを使って目的地に行くことができることを知ることで、公共交通を知る・気づくといったことにつなげていきます。

6ページをごらんください。こちらのページにつきましては、小学校4年生の授業の実施例を説明します。今回、提案しますのは、「県外から来た友達に神奈川県の魅力を知ってもらおう!」といったテーマとなっております。連携する教科書の単元は、小学校3年生・4年生の下の118ページ、県の交通の様子を知るといった単元がありますので、そちらのほうになります。まず、①の案内行程表・ルートを作成を行います。具体的な作業内容については資料を参照していただければと思いますが、友達に自分の住む神奈川県を紹介するため、友達を1日案内する計画表を作成します。その作成した行程表について、あらかじめ用意された評価項目——移動のしやすさ、快適性等に合わせて計画を考えます。次に、②で行程表の発表をしてもらいます。ここでは、評価、オススメポイントを中心に行程表を発表してもらいます。最後に、③のまとめと感想を通じて公共交通が町中や周辺の町をつなぎ、いろいろなところへ行くことができることを理解しても

らう、発表を企画中で、評価やオススメポイントを参考にして、クルマ以外にも公共交通を使えばいろいろなところに行けることを理解してもらい、このようなことで、公共交通を知る・気づくにつなげていきます。

7ページをごらんください。ここでは、6ページで示した授業の教材のイメージを載せています。このような教材をつくり、MM教育の教材の1つとして考えていきたいと考えております。

8ページをごらんください。次に、小学5年生のプログラム内容についてです。5年生では、公共交通について深める・知るを目的としています。MMと連携する教科書の単元として「自動車工業について考えよう」と「情報を生かすわたしたち」があります。対応する具体的な教科書の内容、教材については資料を参照してください。

9ページ、10ページをごらんください。9ページの下段から10ページにかけては、その他でMM教育に連携できると考えられる単元を載せています。こちらは、授業の核としては難しいと思いますが、関連できる可能性がある単元として載せているものとなっております。

11ページをごらんください。小学5年生における学習活動と連携したMM教育の流れについての説明です。小学5年生では、既存の学習活動にある①環境にやさしいクルマづくりを知ります。次に、MM教育の要素として、②公共交通が環境に及ぼす影響について調べていきます。この①と②を組み合わせることで、CO₂排出量が乗り物によって違うことを理解し、さまざまな交通手段の組み合わせた移動が、環境にも優しい移動であることに気づく、クルマと公共交通、双方の長所と短所を理解することを理解することで、深める・知ることに つなげていきます。

12ページから15ページをごらんください。こちらのページにつきましては、小学5年生の授業の実施例の説明ですが、タイトルは「旅行に出かけるなら、公共交通機関か、クルマか」です。これは、実際に中里小学校で行った流れとなっておりますので、資料1と説明が重複することから、説明は割愛させていただきます。

16ページをごらんください。こちらでは、小学5年生の授業の実施例をもう1つ紹介しております。タイトルは「乗り物の長所・短所を考えよう」です。連携する教科書の単元は「情報を生かすわたしたち」、小学5年生下、22ページになります。まず、①クルマ以外の交通手段について考えてもらいます。ここでは、ふだん出かけるとき、旅行に行くときにクルマ以外にどんな交通手段で行くかを考えてもらいます。その中で、バスや電車といった回答も出てくることを想定としております。次のステップとして、②クルマ派、電車派に分かれてもらいます。クルマが好きな人、電車が好きな人に分かれてもらい、何でクルマが好きなのか、何で電車が好きなのかを発表してもらいます。ここで、環境問題というキーワードを引き出したいと考えております。次に、③のクイズを出題し、環境に対する理解を深めるに移ります。ここでは実際、クルマと公共交通どちらが環境にいいのか、クイズ形式で出題を行います。そして、公共交通のほうがクルマ

——このクルマにはエコカーを含んでいることを考えております——より環境に優しい乗り物だということに気づいてもらうことを目的としております。最後に、④のクルマと公共交通の長所、短所を整理します。ここでは、環境問題も含めクルマの長所短所、公共交通の長所短所を理解してもらいます。また、日常生活でもどんな移動手段を使うのがよいかを考えてみる機会を設けます。そして、きょうの授業の感想を聞いて、移動の際にはどのように考えたらよいか、感想を聞きます。この授業の流れで、クルマと公共交通双方の長所と短所を理解し、深める・知ることの醸成を図っていきます。

17ページをごらんください。こちらにつきましては、小学6年生における学習活動を連携したMM教育の流れについて説明します。MMと連携する学習活動として、「鎌倉に行ってみよう」という校外学習があります。この校外学習は、自分たちで考えたルートを電車やバスの公共交通を使い、実際に鎌倉まで移動するものであります。この校外学習を通じて、体験し、自信をつけることを養っていきます。また、教科書の単元にも、公共施設に触れている単元や環境問題に触れる単元もあるため、その部分についての知識の醸成を行っていきます。

19ページと20ページをごらんください。19ページの下で小学6年生における学習活動と連携したMM教育の流れについて説明します。小学6年生では、校外学習と振り返りの授業になります。こちらの中里小学校の例と同じになるので、簡単に説明しますと、①目的地までの移動手段を考える、②実施（体験）として『鎌倉に公共交通を使って行く』、③公共交通を利用した振り返り、④環境に及ぼす影響を考える、この流れを行うことで、公共交通での移動を体験してもらう。バスや鉄道の乗り継ぎを利用すれば、目的地に時間どおりに移動できるなどの公共交通のよさを理解してもらい、体験し、自信をつけることにつながっていきます。

21ページ、22ページをごらんください。次に、小学6年生の授業の実施例ですが、こちらについては校外学習になります。こちらの中里小学校で行った例となるので、資料1と重複することから、割愛させていただきます。

次に、23ページをごらんください。5のプログラムと各学校に対応したカスタマイズの考え方についての説明ですが、まず、(1)プログラムと各学校に対応したカスタマイズの考え方について説明します。3のMM授業の展開方法で示した方針に沿ってMMプログラムを準備します。その内容としては、まず全内容を網羅したもの、フルスペック版を準備し、各小学校がそれぞれのスタイル、地域の交通事情を見きわめ、児童の自発性のもと実施できる内容に絞り込みます。教育プログラムは、小学4年生、5年生、6年生向けプログラムとして準備しますが、児童の理解度、学校の状況に合わせ、複数年を通して実施するか、あるいは特定学年に特化して実施するかを選択できるものとします。これは、各小学校がそれぞれのスタイル、地域の交通事情を見きわめ、児童の自発性のもと実施できる内容に絞り込めるようなカスタマイズを行います。また、地域、学校の状況に合わせ実施できるようなカスタマイズも行っていきます。次に、(2)学年ごとの実

施ポイントについて説明します。実施ポイントは、各学年の学校カリキュラムを見据え、下の表のMMプログラムの実施が想定しております。まず、小学4年生では、知ること、気づくことを目標にして行っていきます。これは、自分たちの住む町にはどのような公共交通があるのかを理解することと、ふだんクルマで行く場所や、遠くに出かけるときにも鉄道やバスを使って目的地に行くことができることを理解することで、知ること、気づくことにつなげていきます。小学5年生では、深めること、知ることを目標にして行っていきます。これは、クルマと公共交通双方の長所と短所を理解することとCO₂排出量が乗り物によって違うことを理解し、さまざまな交通手段の組み合わせが環境にも優しい移動であることに気づくこと、日常の移動が環境に影響を及ぼしていることを知ってもらうことで、深める、知ることにつなげていきます。小学6年生では、体験し、自信をつけることを目標にして行っていきます。これは、公共交通での移動を体験してもらうこと、バスや鉄道の乗り継ぎを利用すれば、目的地に時間どおりに移動できるなどの公共交通のよさを理解してもらうことで体験し、自信をつけることにつなげていきます。

24ページをごらんください。こちらは、特定学年のみで実施する進め方と複数年連続した進め方の違いについて説明します。これにつきましては、小学4年生、5年生、6年生向けプログラムとして準備しますが、児童の理解度、学校の状況に合わせ、複数年を通して実施するか、あるいは特定学年に特化して実施するかを選択できます。まず、単年度で実施する場合について説明します。小学4年生単年度で実施するときは、クルマ、鉄道、バスなどさまざまな交通手段で目的地に行くことができることに気づき、また、自分たちの町の公共交通を知ることを通し、行動意識を醸成します。小学5年生単年度で実施するときは、クルマだけでなく公共交通を組み合わせた移動が環境にも優しい移動であることに気づくことで、行動意識を醸成します。小学6年生単年度で実施するときは、体験を通じて公共交通のよさを理解することや、世界の環境への影響についても理解することで行動意識を醸成します。次に、複数年の連続実施するときについて説明します。小学4年生、5年生、6年生で連続実施するときは、知る、深める、体験するといった気づきから実践への段階的実施により行動意識を醸成していきます。小学4年生、5年生で連続実施するときは、知る、深めるといった気づきから知識の深度化により行動意識を醸成していきます。また、体験は日常生活で実践していくことを考えております。小学5年生、6年生で連続実施するときは、知り深めることをあわせて実施し、続いて体験の実践を行うことにより行動意識を醸成していきます。

25ページ、26ページをごらんください。こちらにつきましては、中里小学校用プログラムについて説明します。MMプログラム（かしこいクルマの使い方プログラム）の内容に沿って、まずはフルスペック版を準備し、その後、各小学校の内容に沿って対応したプログラムとなっています。今回実施した中里小学校でのプログラムに対応しているものは丸で示し、対応していないものは横棒で示しています。丸で示しているプログラ

ムには今回対応し、MM教育ができたと考えています。

最後に、27ページをごらんください。今年度のスケジュールについて説明します。藤沢市版モビリティ・マネジメント教育については、第1校モデル校として中里小学校での取り組みを2カ年にわたり行いました。今年度は、地域特性の異なる小学校で、2校、3校程度のMM教育の授業をさせていただきたいと考えております。全市的な展開に向け、各学校が自主的に取り組み、また、継続できる教材や資料を作成していきます。

駆け足になりましたが、以上で説明を終わります。

○谷口会長 ありがとうございます。それでは、資料2について御質問、御意見がございましたらお願いします。

今回、新たに4年生の分を追加ということですが、この進め方は、小学校の先生あるいは校長先生たちにもう見ていただいているんですか、それとも、ここで初めて提示ですか。

○事務局（相良） 学校の校長先生方には、事前に、こんなことをしていきたいという途中段階の資料は見ていただいているんですけれども、最終版としましては、きょうが初めて見ていただくという形になっています。

○谷口会長 この場でもむ感じなんですね。

○事務局（相良） そうです。資料2の補足というか、1つとしては、今、会長に振っていただきましたように、4年生に広げるといったところがどうなのかといった部分。昨年度までは5、6年生でやっていきたいと言っていたのに対して、ことしは少し広げてもいいのではないかというのが事務局の考えではあるんですけれども、そこについての御意見をいただきたいという部分と、実際、授業の例を幾つか説明はさせていただいたんですが、中里小学校で実際に行った分に関しては一定の完成があるとは思っているんですけれども、4年生の部分ですとか、これからまた実際の授業をどうやっていくかといったときには、もっとブラッシュアップが必要だと思っていますので、そちらのほうも今時点で御意見もいただきたいと思っています。先ほどのカスタマイズといった部分で、24ページになるんですけれども、我々としては、4年生、5年生、6年生全てでMM教育をやればというのが一番求めるところではあるんですけれども、ただ、学校の事情で、3カ年にわたってやるのは難しいですとか、2カ年ならできそうとか、単学年で完結するような形でなければMM教育を継続しづらいといったところがあるのかといったあたりを少し御意見をいただければと思っています。

○谷口会長 4年生でやることについて、何かお考えはありますか。

○笠松委員 4年生というより、まず単学年、学年で、自分たちはどういうふう子どもたちを育てようかというところがしっかりしていれば、中里、御所見は同じ地域にありますから、私たちのところと中里は同じ環境ですので、まずは、乗り物になれるということで、4年生がそばのリサイクルセンターに自分たちでバスを使って行ってバスの乗り方を学ぶ、その延長線上の発展的なもので、5年生で、また自分たちで江の島に行く。

最終的に6年生で、鎌倉で、自分たちで乗りおりするというような形で、それをやる時には、まず、1学年がしっかりと、こういう体験学習は今の子どもたちには大切だといって、これを生かすためにはどうしたらいいのかなというところを各学校に投げかけるようにして、そういう投げかけをすれば、各学校の事情に合わせて、全学年じゃないけれども、こういうふうな取り組みをしてみようかと明確になってくるので、モビリティ・マネジメントをやるんだったら、その辺に関しては、先ほど相良さんが言ってくれたように、事情に合ったところで、うちの子どもたちをこういうふうに育てたいよねといったところをしっかりと育ませるといところから始まるので、それが初めにあって公共交通機関というものになってくると思うので、まず、その辺をしっかりと各学校の校長に説明することが大事だと思います。

それとあと、先ほどのお話であったのは、僕は、4、5、6年生でいくためには、今までは、単学年でやってきて、それで派生的に各学年でやってきたということのほうが多いんです。例として、自分が今までやってきた中で、6年生で、自分たちで遠足に行くのにズーラシアを使ったときに、子どもたちはクラスで仲のいい子とか、そういう子とじゃなくて、自分の今住んでいるところからズーラシアに何時までに着くか、全部のグループにミッションとして、この時間帯に着くというふうにやっていきなさいと。グループは、自分の住んでいるところからグループを5人ずつつくりなさいというふうにすると、電車を使って行くグループとバスを使って行くグループ、そういうふうに交通機関が分かれてやっていたんです。それで、要は今まで知らなかった友達と協力しながら、人とかかわりを持ちながら、とにかくゴールを目指す。そういったことでやってきたんですけれども、今の話を聞いて、総合でそういうものを使ってやって、プラス社会科と絡めて、同じ教材を使って、今度は、きょうやってきたことがどういうふうに地球に優しくいったかということ、別の目で今やっていたことを検証してみようよという形で振れば、乗り物を使うことによってCO₂がどう減少したかとか、そういったところを5、6年生くらいになると深めていくことができるので、そういったやり方もある。車がいいか、公共交通機関がいいかということじゃなくて、余り最初からばんとやるんじゃないで、僕の考え方としては、やってみて、きょうの活動でどういう形で地球に対して優しくいったんだらうかということ振り返らせたい。それを自分の生活に生かしていく。子どもは自分でやってきたことに対しての達成感がないと次に発展しないので、そういう達成感を持たせるということが一番大事だと思うので、そういったところはやっぱり大事にしてほしいなというのがあります。

○谷口会長 貴重なコメントをありがとうございました。おっしゃるとおり、最初に頭でっかちになってから行くよりも、まず体験してから、それから違う切り口でというのもすごく有効で、おもしろいかなと私も思いました。

まず、4年生でやるのは、やろうと思えばできるということですよ。

○笠松委員 それは、自分の学校の子どもたちに合わせて、ここまでの狙いでやっていく

よというところをはっきり示していけば、子どもたちは、何をするのかということさえはっきりすれば、それに対して動きますので。

○谷口会長 ありがとうございます。

○本橋委員 4、5、6年生と、中学年から高学年に向けての取り組みということで、実際に、それぞれの教科目標をまず達成するというのが学習の中で大事なので、それとの関連的な指導となってくるんです。これは環境教育にしてもそうですよね。このMM教育に限らず、さまざまな人権教育というようなもので、例えば算数科の指導と人権教育の視点というのは合わないかもしれない、遊離しているかもしれないんですけども、実際に人権教育というような形で持ってくると、それぞれの各教科の中でどのように行っていくのかということが求められますので、そういった視点で見ると、1つは、ここに示されている系統性もあると思うんですけども、これをもっと具体的にしていこうということ。

それと、最終的に、27ページに、全市的な展開に当たっては、各学校が自主的に取り組み、また継続できることを目指し教材や資料を作成しますということで、MM教育を行っていくための教材化、資料化が最終的なこの授業の向かうところというふうに見えるんですけども、そうすると、先ほどきつきつなという言葉が出ましたけれども、きつきつな形になってくると、やはり教科特性、教科の目標と抵触する部分が出てきてしまうということもあって、どちらが主なのかということになってくる。実際、そうになると、指導者は扱いにくくなってきます。となると、やっぱりやめようと、実際の中で使われなくなってくるのが考えられるので、余り欲張らないような形で、活用事例をヒント的に持ってくる。がちんとしたものをばしっと突きつけるというのではなくて、そういったあたりのやわらかみが少しあると、受け入れられやすいと思うんです。と同時に、これは社会科との関連的な学習で、総合的な学習の時間に位置づけられるねというふうな形で持っていけると思うんです。森先生の実践にもありますけれども、ディベートというのが国語科の学習でされていますよね。そういう教科横断的な部分でも持っていける部分があると思うんです。理科的な部分でもそういった視点がありますし、社会科とか、先ほどのCO₂の量を計算したりとか、適切な計算の技能を身につけるといって大事な算数科の目的にも関連してきます。そのようにして見ると、教科あるいは総合的な学習の時間の領域部分も横断的にしてMM教育と見る、そういう捉え方をしていくことが大事だと思うんです。現に、環境教育ですとか、先ほど若干お話した人権教育というようなものも、そういう横断的な手法でやっていますので、ぜひそのあたりも視野に入れていただけるとおもしろいかなと思います。実際、小学4年生で実践はどうかと問われれば可能な部分は多々ありますので、よろしくお願いします。

○谷口会長 ありがとうございます。活用事例をヒントのように書くというのは、本当にすごくいいアイデアだと思いますので、ぜひ行っていただきたいと思います。

ほかは何かございますでしょうか。

○柚原委員 中里小学校で森先生に取り組んでいただいたのは、今までいろんな何とか教育というのがたくさん出てきた中で、新しいものではなく国語のディベートのところとそれを取り入れてできる、それから、社会5年生で自動車について習っているので、そこで車と公共交通機関について取り入れることができる。それで、かまくらめぐりに行くので、実践としてそこに取り入れることができる。この後、6年生は、3学期の最後で、社会のまとめ、理科のまとめで環境学習の部分が入ります。そういう意味で、ここでもう1度、振り返りができる。実際にそこで終わりではなくて、また中学校でも理科の学習の中で二酸化炭素について学習したり、実際、自分が大人になって車に乗るとき、あるいは公共交通機関を使うときにまた思い出せたらいいな、つまり、かしこいクルマの乗り方がずっと継続してできるようにと考えていくと、余りどこかでびしょとやっていくよりも、いろいろ小出しにして常にずっとやっていくというのが理想なんです。ただ、24ページにある連続実施の難しさというのは、先ほど森先生が話をしましたが、小学校では今、子どもたちは当然4年から5年、5年から6年になっていきますが、担任は持ち上がるのがなく、4年の担任から5年の担任、6年の担任というふうに別々になっていくこと、それから、子どもたちも、そのままクラスが同じではなく、クラスがえをするということがあります。そういう中で、継続することの難しさがあるとすると、単学年でもいいから、今、本橋先生が言われたように、4年生のところにくっつけてやっていける、5年生の社会の学習にくっつけてやっていける、6年生の理科のところにくっつけてやっていけるといったものがあると取り組みやすいし、子どもたちの継続のもとにもなっていくのではないかなと思います。

○谷口会長 ありがとうございます。

これは単学年でも可と言いつつも、24ページの例では、3つ、2つ、2つとなっていますが、別に4年生だけ、5年生だけ、6年生だけでもいいということですね。それでオーケーなら、割と柔軟というか、取り組みやすくなると思うんですけども、それでもやらないよりはましということですか。

○事務局（相良） 真ん中の小4、5でやるというのが、先ほど笠松校長先生からも御紹介がありましたとおり、藤沢市内の学校は、意外と校外学習でいろいろなところに公共交通を使って行くという授業がMMとは全く関係ないところでたくさん行われているようなので、そういう意味では、先ほどの一言を言ってもらえるだけで、正確に着くにはとかという話だったり、環境にどれぐらい影響があるんだろうといった一言ですぐMMの授業に変わるというか、その意味をなしてくるという部分に関して、実践を基本とはしたいんですけども、少し外しやすいのかなと。我々も、直接MM授業としてやらなくても、ほかのところの代用でやりやすいのかなとは考えて、小4、5といったところは特にやりやすいのかなと。

特に、今は5年生のところで、これはMMの授業としてやっていますが、クルマと公共交通の長所と短所をそれぞれ比較してみるといったところはやはり重要なと我々は

思っています、お互い対になっている部分が多くあります。CO₂を多く出す、少なく出すですか、ちょっと離れますけれども、健康といった部分でも、歩くのが多い少ない、多い少ないだといいい悪くなっていく面もあるんですけども、それが健康にいいかという、多く歩くほうが健康だとかといった部分で、公共交通とクルマそれぞれの長所短所を比較することで見えてくるのが大きいかと思うので、特にその授業だけは外せないのかなと。ちょっと私の意見になるかもしれないんですけども。

- 谷口会長 逆に、これは5年生だけというのもありなんですね。
- 事務局（相良） 環境問題という部分に関して、自動車のところからCO₂、エコカーという話が、どの教科書を見ても少しは触れるような形になっていますので、そういうところも一番とつきやすいというか、一番導入しやすいといった部分もあるのかなというふうにも。
- 谷口会長 逆に、今のお話を伺っていると、6年生でいろいろなところに行くのであれば、6年生だけというのが一番やりやすそうな気もするんですけども、5年生だとちょっと一工夫しなければいけない。どうなんですか、先生方。
- 笠松委員 4年生はまずなれるという段階で、この資料は押さえてもらえれば。
- 事務局（相良） 我々としても、広げるといった意味ではいいのかもしれないですけども、4年生だけで終わるとするのは少し無理があるのかなと思いつつも、枠として広げるのはありかなとは思っているんです。
- 谷口会長 これは3パターンしか書いていないですけども、小4、小6とか、小5だけとか小6だけとか、本当はいろんなパターンがありますよね。それもできなくはない気もするんですけども、どうなんですか。そのあたりの先生方のお話をお願いします。
- 柚原委員 先ほど環境教育の話がありましたが、環境教育が中に入ってきたときに、新しいものではなくて、そういえば家庭科でこういうことをやっていたよね、理科でこういうことをやっていたよね、ここのところは環境教育じゃんというところがあったんです。そうすると、とつきやすいですし、学校の教育の中に入ることができたんです。それが、学校のカリキュラムの中に入っていない新しいものがくると、それをまた新しくやらなければいけないということでなかなかハードルが高くなってしまいますので、そういう意味では、今やっている授業の中に取り込んでいける、4年生の社会のところも県の学習の中に取り込んでいけるというところでは、やりやすくなっているんです。やっぱりそういうところに取り込んで、いろんなところに入っていけばいいのかなということで、余り多くを望んで、いっぱいかちつとしたものではなく、これがモビリティ・マネジメント教育だよということではなくて、そのエッセンスを取り入れていく、それを少しずつやっていけばいいのかなと思っています。
- 谷口会長 ありがとうございます。例えば、理科のここだったらこんなことができるよ、社会のここの単元だったらこんなことができるよみたいな例を幾つか挙げておくというのが一番いいんですかね。

- 柚原委員 そうですね。
- 笠松委員 今までは教科書の中だけの知識で、今の子どもたちというのは、新しく自分で考えて何かをしていかななくてはいけないという時代になってきている子どもたちなので、そういった部分をしっかり押さえた上で、今やっていることが発展的にどのようなようになっていくのかという見通しを持って生活をするという1つの部分としてモビリティ・マネジメントがあると思うんです。そういったところのきっかけは、今までやってきたことがここでつながっていたんだということを、教科書の字面ではなく、自分が体験したことから言える言葉というのがこれから大事になってくるので、そういったところがこのモビリティ・マネジメントの大事なところじゃないのかなと、今お話を聞いていたところで。
- 谷口会長 そのヒントをいただくに当たって、今、都市計画課が主管でこのプロジェクトをやっていると思うんですけども、学校の先生方とも一緒にやっていくというのが不可欠だと思っていて、今回、先生方は本当にたくさん入っていただいているんですけども、ワーキンググループ、作業部隊でたき台をつくるみたいなことはできるんですか。先生方から、こういうことに興味がありそうな先生を御紹介いただくとか、そういうのは難しいですか。先生から言われたら断れなくなっちゃいますか。
- 笠松委員 憶測では言えないですけども、がちっとクラス、学年とかで、こういうふうな趣旨でという形で言うてくれれば、それで、どういうことができるかということをもまず学校のほうに落としてくれれば、先生たちは、こういうふうなことは自分のところの子どもたちにやってみたいなというのが出てきますので、そのところは都市計画課のほうは認めてもらって、都市計画課は、ここの部分に関しては車を考えるような内容は入れてくださいとか、学校と都市計画課がちやんと話し合いをしながら、授業はあくまでも学校がやらなくてはいけないわけですから、その辺は両方でしっかりと話し合っていけば、実際のところ、こういうことに関してすぐやりたいという先生はいっぱいいますので。ただ、正直な話、しがらみがあると嫌なんです。自分の子どもに対して、この子たちにどうなってほしいという願いは先生が一番持っているわけなので、先生たちは、それに合った展開をしたいわけなんです。
- 谷口会長 じゃ、最初から余りつくり込んで持っていないほうがいいんですね。
- 笠松委員 そうなんです。ただ、大きな狙いは一緒だという部分だけはぶれないように話し合ってもらえれば。
- 本橋委員 今のお話にもあったんですけども、授業を行っていくというのは、当然、それぞれの教科の目標を達成していく、例えば社会科だったら社会科の学習単元の単元目標に到達していくための指導をしていくわけです。そこで、なかなかそれにかかわらないようなと言っては変ですけども、言ってみれば無理があるようなものについては、やっぱり話し合いの中でも、これは無理、合わない、実際に授業をやると子ども自身が混乱するとか、そういうことがあったらば、それは御遠慮願うという意見は必ず出てく

と思うんです。ただ、基本的に、教員は毎日授業をやっていますから、授業を創造していくエネルギーはありますし、それ自体は好きです。今までにないもの、あるいは今までのレベルよりもっと深いもの、高いものをつくっていかうという気持ちはたくさん持っている人がいますので、そのあたりは応援できると思います。ただ、内容部分は譲れない部分もありますので、そこは調整がかなり必要になってくる。言ってみれば、こちら側の思いが十分表出できないまま終わってしまう、伝達できないまま終わってしまう部分もあるかもしれませんけれども、それぞれの教科の学習内容をきちんと身につけさせるのが一番ですので、そこは御配慮願いたいと思います。

- 小木曾委員 前回、1月にやられたときの資料1のモビリティ・マネジメントの進め方を今見ていて、今回、新しく出された修正案の資料2を見させていただいているんですけども、目的のあたり、子どもたちのめざす姿というのが随分すっきりしていて、一体着地点をどこにするのというお話をさせていただいたと思うんですけども、この辺も大分明確になってきたのかなと思っています。

今、3校長先生方がおっしゃっていただいているのは、総括的にお話をさせていただくと、各学校がそれぞれ各学校の実態、地域の状況等に応じて教育課程をつくっている中で、最近、こういうモビリティ・マネジメント教育であるとか環境教育、租税教育、防災教育、安全教育等、学校で引き受けていかなければならないものがいっぱい入ってきている中で、それを全部やり切るということはなかなか難しいというのがまず1個あります。そのために学校はどうしているかという、いろいろな教科の中で、いろいろな切り口から、例えば安全教育をやったり、防災教育に関連するものがあったり、環境教育があたりということをやっている。その1つが、今回、森先生がやられたディベートでやって、国語でやっていたものであるとか、あるいは、もしかしたら総合の時間でやっているのかもしれないけれども、そういうことやっているという形の中で、なかなか1つのものを3年間続けてやっていくというのは難しい状況にあるのは、実態としてあるということをもまず理解していただくと非常にありがたいだろうなと思っています。

ただ、この3年間の見通しを立てた、24ページにあるようなものやってみたくていう学校もあるかもしれないですけども、35校が全部できるかという、なかなか難しい状況もあるので、先ほど校長先生がおっしゃっていたのは、いろいろなパターンとか、いろいろな切り口を用意しておいていただくと、もしかしたら、使う側としては、これはチョイスできるよねというところで、モビリティ・マネジメントに近づくようなことを少しずつやっていけるだろうと。例えば、4年生で知るといふところがあるけれども、もしかしたら、学校によっては3年生や2年生でやる場所もあるかもしれないし、4年生でやりたいところを5年生、6年生がやるということも考えられるし、あるいは特別支援学級の子なんかは、将来の自立のために公共交通機関に乗らなければいけないので、1年生からやるということだって考えられるし、いろいろなパターンがあると思う

んです。

そういうさまざまな事例とかやり方を、例えば、知るという部分についてはこういうやり方があるよね、深めるんだったらこういうやり方があるよねというあたりをいろいろ出しておいてもらえると、多分、学校としては、そこをうまく選択して、プログラムしていくんだろうなと。カスタマイズは多分学校がやっていくんだろうなということだと思っんです。こちらで、こういうカスタマイズをつくったので、これでちょっとやってみてくださいよというふうにやってしまうと、さっきも言ったように、学校の教育課程があるので、その中に組み入れていくことが時間的に非常に厳しいというのは実際問題あります。やっていることはモビリティ・マネジメントだけではないということで、申しわけないですが、学校でやってねというのがいっぱい出てきている中で、難しさが出てくるかなと思います。いろいろな何とか教育というのを各学校は自分たちでカスタマイズして、6年間、教育課程を組み立てている、それと同じ形でモビリティ・マネジメントも自分たちでカスタマイズしながらやっていくというやり方が、先ほどあった目標、子どもたちの目指す姿に近づくやり方で、一番近道かなと思っっている次第です。

○谷口会長 ありがとうございます。その方向でぜひ進めていただければと思います。

鈴木委員、コメントをよろしいですか。

○鈴木委員 余り難しいことはわからないんですけども、ちょうど小学校4年生の子どもがいて、先日、路線バスで社会科見学に行ったところだったので、思っことは、4年生は、車以外のいろんな交通手段があるんだよということを知るということは、わざわざたわなくても、もう既に実施されていることなのかなということと、そのときに、うちの子に関しても、ふだん車で通りかかっているところが、実は自分の住んでいるところからバス1本で行ける場所にあったんだということを知ることがきっとできたと思っるので、そういう意味では、導入の知るというのは、実際にできているのかなというのがまず1つ。

あと、カスタマイズするのにも、恐らくこの知る、深める、体験し、自信をつけるという順番にはどうしてもなるんじゃないかなということと、外せないポイントみたいなものだけ提示すると言ったらあれですけども、それを学校のほうで入れていただくような感じだと取り入れやすいのかなということのは感じました。

○谷口会長 ちなみに、鈴木委員は3ページで言う何色のあたりにお住まいなんですか。

○鈴木委員 私は御所見小学校なので、中里小学校と同じ赤いところです。

○笠松委員 うちの保護者です。奥座敷です。

○鈴木委員 ふだんの生活は車を利用することが多くて、それこそ1人で動くなら、子ども1人のときは電車やバスを使わせるんですけども、家族で動くとなると、電車代が3倍かとか考えると、結局駐車場込みでも車のほうが金額的に安かったりするので、時間の短縮とかもあって、家族で動くとか車という選択肢があるんです。いろんな選択肢があっ、そのときによって使い分けるといっふうに考えられる子どもをふやすといっの

が目的だと思うんですけども、何となく車がだめで、公共交通機関がいいよという方向に感じてしまう気がするので、先ほどの中里小の5年生、6年生の感想のところでも、その目的に合った回答をされている児童の割合はちょっと少ないのかなと感じたので、これがあと半年ぐらいの間でどのぐらいふえるのかなというのが、ちょっと楽しみなところでもあります。

○谷口会長 ありがとうございます。車を悪者にするような内容には絶対にしたくないと思っていますので。

○事務局（相良） 一番最初にそういうお話を学校の先生からもいただきましたし、CO₂というのは、やっぱり数字で見えてしまう部分で、数字だけ見ると車が悪いと出てきてしまうんですけども、気づきとか最後の感想の部分でそこを補ったり、家族で行くんだったらやっぱり車のほうがいいよねみたいところでフォローというか、TPOに合わせてというところを気づいてもらえるような工夫が、こちらの授業の構成だったり、教材として必要なのかなと思っています。そこはぜひお知恵をおかりしたいと思います。

○谷口会長 本当は、私たちはすごく車にポジティブなんです。基本的にすごくポジティブなんです。1960年代から車1台当たり10万円分ぐらい広告費なんです。その広告に私たちは生まれたときからずっと洗脳されているようなものなので、私たちは車にめちゃくちゃポジティブなんです。そこをちょっと揺り戻して、ネガティブな部分も見せるというのが意図なので、車がいいよというふうにはならないようにはしたいんですけども、基幹産業でもありますし、必要以上に悪いとはならないように、そこはバランスですよね。

6時に終わらないといけないということで、あと議題が1つあるので、最後に全体で御質問を受ける時間を設けるためにも、次の議題に移らせていただきます。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

○谷口会長 議題3、交通事業者の検討会への参加について事務局から説明をお願いします。

○事務局（香川） それでは、議題3、交通事業者の検討会への参加について、香川から説明させていただきます。

ちょっと時間もないので、簡単に説明させていただきます。資料3をお配りしておりますけれども、こちらは江ノ島電鉄株式会社から提供された資料で、これは実はこの会議のために提供された資料ではなくて、江ノ島電鉄がこういったものを使ってモビリティ・マネジメント教育というものに取り組んでいきたいという中でつくられたものとなっております。その中で、江ノ島電鉄さんのほうが、地域貢献の観点からモビリティ・マネジメント教育に取り組んでいきたいという姿勢がございまして、どのように参画していくのがよいかという御相談を受けているところでございます。きょうの中里小学校のお話にもあったんですけども、公共交通をどうやって使うとか、そういったところについて、交通事業者さんとお話しするというのは、こういった協議会の運営におい

でもプラスになる点が多いという認識がございますので、我々事務局側としては、こういった公共交通事業者さんもこの協議会の構成員——委員としてではなくて、いろんな資料とか、学校の学習活動をお手伝いいただけるという意思があれば、そういったところに参画していただいて、今後、こういった協議会を進めていきたいと考えております。

○谷口会長 御説明ありがとうございました。

多分、交通事業者さんが入ると、この資料がもっと充実した形になる可能性もありますし、江ノ電さんだけじゃなくて神奈中さんとか小田急さん。

○事務局（香川） 市内にある事業者さんで意思確認をとった上で、参加の意思がある事業者さんには出ていただくというような形を今想定しております。

○谷口会長 皆さんに声をかけて、オブザーバー的にですか。

○事務局（香川） オブザーバーか事務局かわからないんですけども、そういった立場で出ていただきたいと思っています。

○谷口会長 今の御説明に対しまして、意見、コメント等ございましたらお願いします。

私がぜひやってくださいとお願いしたんですけども、お試しチケットをちょっと提供してもらったり、あと、これだと歴史の内容ですよ。地域愛着とか、3年生の地域学習にも使える資料をもらえるかもしれないですし、いろいろ最初から入れておいてもらったほうが多分いいと思います。

エコモさんの今までされていたプロジェクトで、事業者さんが入っているのを私は余り見たことがない気がするんですが、入っているのはありましたか。

○加藤部長 帯広で今いますね。

○谷口会長 十勝バス。

○加藤部長 はい。

○岡本課長補佐 あとは京都府です。

○谷口会長 どこの業者さんですか。

○岡本課長補佐 JRと京阪京都バス。

○谷口会長 それは最初から入っていただいたんですか。

○岡本課長補佐 最初から。

○谷口会長 事例もあることすし、ぜひ。

○岡本課長補佐 あとは、ちょっと変わっているかもしれないですけども、せっかく工場があるので、いすゞ自動車とか。例えばバスとかトラックの車両の工夫の話とか、場合によっては、そういう情報を提供していただいたりというのは、藤沢市さんならではあるんじゃないかなと。工場見学も行かれていますはずなので、そういったところでも協力をいただけたりとかがあると思います。

○谷口会長 いすゞさんもぜひお声かけして、もし来てくださるんなら、来ていただいたらいいんじゃないですか。

○事務局（香川） 以前にいろいろ御協力させていただいたところもあるので、相談でき

るチャンネルはありますので、声だけかけさせていただきます。

- 事務局（相良） ちょっと追加で、江ノ電さんのほうも、実際、車庫体験ですとか、駅の見学といったものを行っているそうで、できるだけ鎌倉市と藤沢市に枠をあけていると聞いているんですけども、ほかの何人かの先生に聞くと、それをやっていることすら小学校として認識がないといったようなギャップみたいなものもあるようなので、どのぐらいの規模で、100何人いて、すぐ対応してくれるのかはまだ把握はできていないところはありますけれども、そういう地域貢献の1つとして、車庫見学ですとか駅の見学みたいなどを江ノ電さんは頑張りたいと言っている部分があるそうなので。
- 本橋委員 片瀬小学校のクラブ活動で、地域を知るようなクラブ活動があるんです。そこで、江ノ電の江ノ島駅の見学なんていうのをやっていました。自分が片瀬小にいたときですから。そういった面では、先ほど谷口会長からありましたけれども、ちょうど社会科の3年生あたりの地域学習、地域の歴史を探る中で、片瀬なんかは本当に有効に活用できるのかなと思います。今までは、みんな自分たちの足で稼いで話を聞いたり、こういったものをつかんできたり、地域の方々に昔の片瀬の様子をお話ししていただいて学んできたんですけども、それと同列の資料になるのかなと思います。
- 事務局（相良） 実際、これは片瀬小学校で江ノ電さんがやったときの資料で、まさに今先生がお話ししていただいた、こんなことをやっていきたい……。
- 本橋委員 これはきっとクラブか何かでやったやつです。
- 事務局（相良） そうです。クラブ活動、授業外でというところで、江ノ電さん自体も、これをずっと説明して終わってしまうような説明だったので、そこを改善したいとかという部分もあるんですけども、それをどうやっていいのかといった部分もあるので、学校との連携の仕方みたいなのについても、いろいろお話をさせていただきたいというようなことをおっしゃっていますので、ぜひ情報交換といった意味でも、事務局として参加していただけるように御了解いただければと思うんです。
- 鈴木委員 例えば神奈中さんとかだと、土日は子どもはどこからでも50円で乗れたりするんです。夏休みとか冬休みとか、横浜市営地下鉄なのでちょっと藤沢とは違うかもしれないんですけども、どこまで行っても110円とか、そういう使ってみないとわからない情報が、それも券売機の横に張ってあるみたいな形で、片道50円も車内に張ってあるという感じなので、みんなに知られているわけではないと思うので、こういうふうに来ていただいたときに、そういうアピールをしていただいたりするのも、保護者としても、選択肢の1つとして、子どもとしてもふえるんじゃないかなという気はします。
- 谷口会長 ありがとうございます。授業でそういうことをPRもできますよね。電車に乗りたかったら、夏休みはすごく安いから、行きたいところに行けるよと。
- 小木曾委員 中学ぐらいになると、江ノ電のフリーパスの乗りおりくんを使っていますよね。
- 谷口会長 次回から入っていただくということでよろしいですかね。——ありがとうございます

ざいます。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

- 谷口会長 その他として、全体を通して御意見、御要望など何かございますでしょうか。きょうは時間が押してしまったところもあって、もし何かコメントがございましたら、事務局に直接、後から言ってもよろしいですか。ちょっと細かいところがいろいろあるかもしれないので。
- 柚原委員 1つだけ。中里小学校なんですけれども、実は「ナカザト」ではなくて「ナカサト」ですので、今後、使うときには「ナカサト」と言ってくださると助かります。中島というところと古里が一緒になったものですので、「ナカサト」です。
- 谷口会長 重要な御指摘ありがとうございます。
それでは、事務局から何かその他として。
- 事務局（大澤） 事務局から、次回の検討会の開催時期なんですけれども、今までの御意見をいただきまして、大体まとめさせていただいたり、議事録を起こしたりしますので、ことしの秋ごろに次回開催を予定させていただきたいと思っております。そして、その開催のときの主な議題といたしましては、新たなモデル校に実施いたしますMM教育の授業内容ですとか、教材についての御議論を深めていただければと思います。開催場所等は、会長と御相談させていただきながら、決まり次第、早目に委員の皆様には通知をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。そして、先ほど会長からもありましたように、戻られてから何か意見等ございましたら、事務局の都市計画課までいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。
- 谷口会長 ほかはよろしいでしょうか。
では、進行を事務局のお返しします。
- 事務局（大澤） 会長、長い間、ありがとうございます。
それでは、以上をもちまして第2回藤沢市地域公共交通会議モビリティ・マネジメント教育検討会を終わらせていただきたいと思います。本日は台風の影響のある中、このような会に出席していただきまして、長時間にわたる御議論まことにありがとうございました。それでは、これをもちまして閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。
- 柚原委員 最後に、中里小学校の森先生、授業をしっかりとっていただきましたので、大きな拍手をしていただければと思います。（拍手）
- 森教諭 ありがとうございます。

午後6時1分 閉会

**第3回 藤沢市地域公共交通会議
モビリティ・マネジメント教育
(交通環境学習) 検討会**

資料一式及び議事要旨

第3回 藤沢市地域公共交通会議 モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習） 検討会

日 時：2016年（平成28年）2月26日（金）
午後3時30分開会
場 所：藤沢商工会館ミナパーク
5階 501会議室

次 第

1. 開会

2. 議題

議題1 モデル校におけるMM教育の取組みについて

1. 中里小学校における取組み
2. 滝の沢小学校における取組み
3. 駒寄小学校における取組み
4. 高谷小学校における取組み

議題2 今後の藤沢市におけるMM教育の進め方について

議題3 藤沢市MM教育における交通事業者との連携について

3. その他

<資料一覧>

- ・ 次第
- ・ 委員名簿
- ・ 出席者名簿
- ・ 座席表

- ・ 資料 1-1 モデル校におけるMM教育の取組みについて（一覧）
- ・ 資料 1-2 中里小学校における取組み報告
- ・ 資料 1-3 滝の沢小学校における取組み報告
- ・ 資料 1-4 駒寄小学校における取組み報告
- ・ 資料 1-5 高谷小学校における取組み報告
- ・ 資料 2 今後の藤沢市におけるMM教育の進め方
交通環境学習手引書
- ・ 資料 3 藤沢市MM教育における交通事業者との連携

モデル校におけるMM教育の取組みについて（一覧）

授業スタイル

教室内の授業形式





校外学習形式

宿題

資料 1-1

学校名	1. 中里小学校		2. 滝の沢小学校	3. 駒寄小学校	4. 高谷小学校
年度・学年	H26年度・小学5年生	H27年度・小学6年生	H27年度・小学4年生	H27年度・小学5年生	H27年度・小学3年生
授業の狙い	1. 鎌倉への交通について理解 2. クルマと公共交通の短所長所の理解 3. TPOにあわせた移動手段選択の理解		1. 藤沢駅と周辺の交通について理解 2. クルマと公共交通の短所長所の理解 3. TPOにあわせた移動手段選択の理解	1. 江の島への交通について理解 2. クルマと公共交通の短所長所の理解 3. TPOにあわせた移動手段選択の理解	1. 歩くことと健康の関係の理解 2. 健康の視点からみた移動手段選択の理解
実施時間	【授業1】 …1 時限分 【授業2】 …1 時限分	【授業3・校外学習】 …1 日実施 【授業4】 …1 時限分	【授業1】 …1 時限分 【授業2・校外学習】 …1 日間実施 【授業3】 …1 時限分 【授業4】 …1 時限分	【授業1】 …1 時限分 【授業2・校外学習】 …1 日間実施 【授業3】 …2 時限分	【授業1】 …1 時限分 【授業2】 …1 時限分
	小学5年時から6年時にかけて2カ年間継続で実施				
連携する科目	・社会（自動車工業(5年)、国土と自然(5年)、歴史(6年)) ・理科（生活環境(6年)、生物と地球環境(6年)) ・国語（ディベート） ・総合的な学習（かまくらめぐり）		・社会（県のまちづくり(4年)、国土と自然(5年)) ・総合的な学習（図画工作展の見学）	・社会（自動車工業、国土と自然） ・総合的な学習（江ノ島ミステリーツアー）	・保健（健康、運動について知る）
※ 上位学年での学習事項	【宿題】ディベート授業に向けてクルマ、公共交通を調べる【国語】、【社会】、【理科】		【授業1】公共交通で藤沢駅に行く経路等を調べる【社会】	【授業1】公共交通で江ノ島に行く経路等を調べる【社会】	【宿題】万歩計をつかって記録（3日間）をとり、普段の歩行量を知る【保健】
授業概要	ステップ1	↓ ・旅行に出かけるなら、公共交通機関か、クルマか？という議題でディベート授業を実施するため、5年生が自由に材料集めを行い準備する。	↓ ・藤沢駅まではどのような経路があるのか、どのように公共交通を使うのか、を調べる。	↓ ・江ノ島まではどのような経路があるのか、どのように公共交通を使うのか、を調べる。	↓ ・歩いた歩数と移動手段を交通きろくカードにまとめ、自分たちの歩数を知る。
	ステップ2	↓ 【授業1】クルマ派、公共交通派に分かれディベートする【国語】、【社会】、【理科*】 ・5年生がクルマ派、公共交通派のグループに分かれて、ディベートを実施する。討論の内容を聞き、6年生がジャッジを行う。	↓ 【授業2】バス、電車を使って藤沢駅に行く【総合学習】 ・公共交通を使い、便利なところ、不便なところ、分かりやすさ、分かりにくさなどを感じ発見する。	↓ 【授業2】バス、電車を使って江ノ島に行く【総合学習】 ・公共交通を使い、便利なところ、不便なところ、分かりやすさ、分かりにくさなどを感じ発見する。	↓ 【授業1】歩くことが健康につながることを理解する【保健】 ・歩くことが運動の一つであること、健康につながるということを知る。
	ステップ3	↓ 【授業2】クルマと公共交通の長所・短所を理解する【社会】 ・討論会の授業で調べたことをもとに、クルマの長所と短所を列挙し理解を深めた。また、目的に応じた移動手段の使い分けなどについて考える。	↓ 【授業3】校外学習をふりかえる【社会*】 ・公共交通を利用して感じたこと、考えたことをふりかえる。公共交通とクルマの、長所、短所を考えてみる。	↓ 【宿題】江ノ島への移動体験をふりかえる【社会】 ・公共交通を利用して感じたこと、公共交通の長所、短所や、江の島にある交通施設をふりかえり、まとめる。	↓ 【宿題】万歩計をつかって記録（1日間）をとり、授業後の歩行量を計る【保健】 ・もういちど万歩計をつけて1日生活をして、交通きろくカードにまとめ前回の歩数の記録と比べてみる。
	ステップ4	↓ 【授業3】バス、電車を使って鎌倉に行ってみる【総合学習】、【社会】 ・自分たちの力で公共交通を利用できるよう、バス停、バスの車内、駅、電車の車内の表示などの意味を考えてもらう。また、実際に利用してみる。	↓ 【宿題】横浜への移動手段を考える【社会】 ・横浜に行く移動手段、経路を考え、公共交通とクルマの長所、短所を、児童と保護者で考えてみる。	↓ 【授業3】校外学習をふりかえる【社会】 移動手段の目的に応じた使い分けの必要性を認識する ・宿題を利用しながら、公共交通とクルマの、長所、短所などを考えてみる。 ・目的に応じた移動手段の使い分けの必要性を発見し、今後、出来そうなことについて考える。	↓ 【授業2】移動手段による歩数の違いや、健康につながることを理解する【保健】 ・日によって歩数が違うこと、生活で使う移動手段によって歩数が違うことを知る。
	ステップ5	↓ 【授業4】CO2排出量や金額等の算出、比較。移動手段の使い分けの重要性などを発見する【社会】、【理科】 ・行動プランに基づくCO2排出量や金額等を算出した。クルマで移動した場合との比較を行い、環境等への配慮と移動手段を考える。	↓ 【授業4】移動手段の目的に応じた使い分けの必要性を認識する ・目的に応じた移動手段の使い分けの必要性を発見し、今後、出来そうなことについて考える。	↓ 【授業3】校外学習をふりかえる【社会】 移動手段の目的に応じた使い分けの必要性を認識する 今後、6年生の総合的な学習（かまくらめぐり）での展開を予定	
実施の成果及び反省点	<ul style="list-style-type: none"> 調べる、体験する、ふりかえるの流れを、5年生で国語(ディベート)と社会(自動車工業・環境)の科目等を連携させて実施した。6年生も総合的な学習と社会(歴史、環境)の科目連携により授業を行った。 ディベートのテーマを公共交通に設定したため、MMのみのための授業時間を別途設ける必要性がなかった。(負荷の軽減) 5年生から6年生にかけて2年連続で進めることにより、MMの理解が深まった。実施が、2年連続で複数クラスで取り組むことが必要であったため、学校側と十分な調整を要した。 CO2排出量の算出などで、難しい点があったため、実施方法の工夫(簡略化、分かりやすい方法)が必要である。 		<ul style="list-style-type: none"> 保護者との移動が中心である学年であることが考えられ、公共交通の利用を不安に思う児童も多かった。このため、児童の自主的な交通行動変容につなげるためには、実施内容の改善が必要と考えられた。 授業後の保護者アンケートでは、授業を肯定的に捉える積極的な意見もあり、家庭への広がりという点について、MMとしての一定の成果が得られた。宿題を保護者と一緒に行った点などが効果的であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べる、江ノ島に行き、ふりかえり認識するという一連の流れにおいて、特にふりかえりと発見の授業(授業3)において2時限分連続で実施したことにより、発見(気づき)への展開、児童の理解が円滑であった。 小学校5年生までに修得した学習内容(社会-自動車工業、国土と自然等)があることより、今回のMM教育の理解が進んだと考えられる。 	実施中
詳細資料	資料 1-2		資料 1-3	資料 1-4	資料 1-5

中里小学校における取組み報告

実施概要	・国語（ディベートをする）に合わせ、ディベートのテーマをクルマ、公共交通に設定し、移動で公共交通を体験することで社会の県の交通について知るプログラムとした。						
年度・学年	H26年度・小学5年生 H27年度・小学6年生 (小学5年時から6年時にかけて2カ年間継続で実施)						
授業の狙い	1. 鎌倉への交通について理解 2. クルマと公共交通の短所長所の理解 3. TP0にあわせた移動手段選択の理解						
実施時間	【授業1】 …1時限分	【授業2】 …1時限分	【授業3・校外学習】 …1日実施	【授業4】 …1時限分			
授業形式	教室内の授業形式	校外学習形式	宿題				
連携する教科と単元名	【社会】 自動車工業(5年)、国土と自然(5年)、歴史(6年) 【理科】 生活環境(6年)、生物と地球環境(6年) 【国語】 ディベート 【総合学習】 かまくらめぐり ※上位学年での学習事項	MMの構成要素	習熟の深度化 公共交通の知識 公共交通の利用(実践) 移動の及ぼす影響の把握 公共交通とクルマの対比 移動計画(行動プラン) 仮定した状況下での 評価・共有 選択した交通行動の				
学習構成【授業の進め方】							
授業時間概要	ステップ1	【宿題】 ディベート授業に向けて調べる 【国語】【社会】【理科】  <ul style="list-style-type: none"> 旅行に出かけるなら、公共交通機関か、クルマか？という議題でディベート授業を実施するため、5年生が自由に材料集めを行い準備する。 	●				
	ステップ2	【授業1】 ディベートする 【国語】【社会】【理科】*  <ul style="list-style-type: none"> 5年生がクルマ派、公共交通派のグループに分かれて、ディベートを実施した。討論の内容を聞き、6年生がジャッジを行った。 		●	●		
	ステップ3	【授業2】 クルマと公共交通の長所・短所を理解する 【社会】  <ul style="list-style-type: none"> 討論会の授業で調べたことをもとに、クルマの長所と短所を列挙し理解を深めた。また、目的に応じた移動手段の使い分けなどについて考える。 		●	●		
	ステップ4	【授業3】 バス、電車を使って鎌倉に行ってみる 【総合学習】、【社会】  <ul style="list-style-type: none"> 自分たちで公共交通を利用できるよう、バス停、駅、電車表示などの意味を考え、実際に利用してみる。 		●			
	ステップ5	【授業4】 CO2排出量や金額等を算出、比較し、移動手段による使い分けの重要性などを発見する 【社会】【理科】 <ul style="list-style-type: none"> 行動プランに基づくCO2排出量や金額等を算定し、クルマで移動した場合との比較をして考える。 			●	●	●
実施の成果及び反省点	<ul style="list-style-type: none"> 調べる、体験する、ふりかえるの流れを、5年生で国語(ディベート)と社会(自動車工業・環境)の教科等を連携させて実施した。6年生も総合的な学習と社会(歴史、環境)の教科連携により授業を行った。 ディベートのテーマを公共交通に設定したため、MMのみのための授業時間を別途設ける必要性がなかった。(負荷の軽減) 5年生から6年生にかけて2年連続で進めることにより、MMの理解が深まった。実施が、2年連続で複数クラスで取り組むことが必要であったため、学校側と十分な調整を要した。 CO2排出量の算出などで、難しい点があったため、実施方法の工夫(簡略化、分かりやすい方法)が必要である。 						

【宿題】ディベート授業に向けて調べる【国語】【社会】【理科】

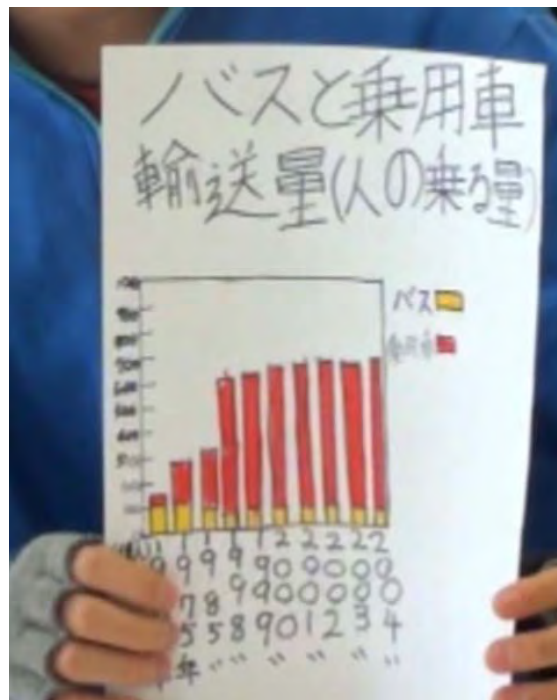
1) 実施概要

旅行に出かけるなら、公共交通機関か、クルマか？という議題でディベート授業を実施するため、5年生が自由に材料集めを行い準備する。資料書式などは指定せず、生徒は自分たちが調べた結果を、文章やグラフを用いて資料としてまとめた。

2) 宿題の内容

実際に授業で活用している様子を参考として記載する。

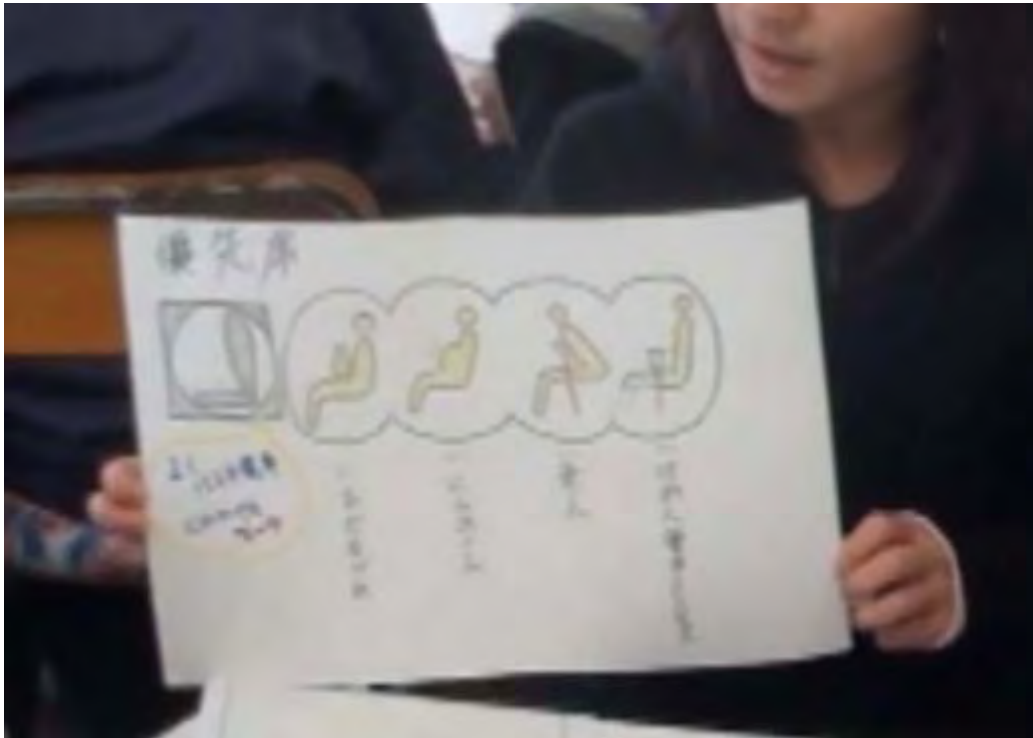
①グラフを用いた資料（バスと乗用車輸送量に関するグラフ）



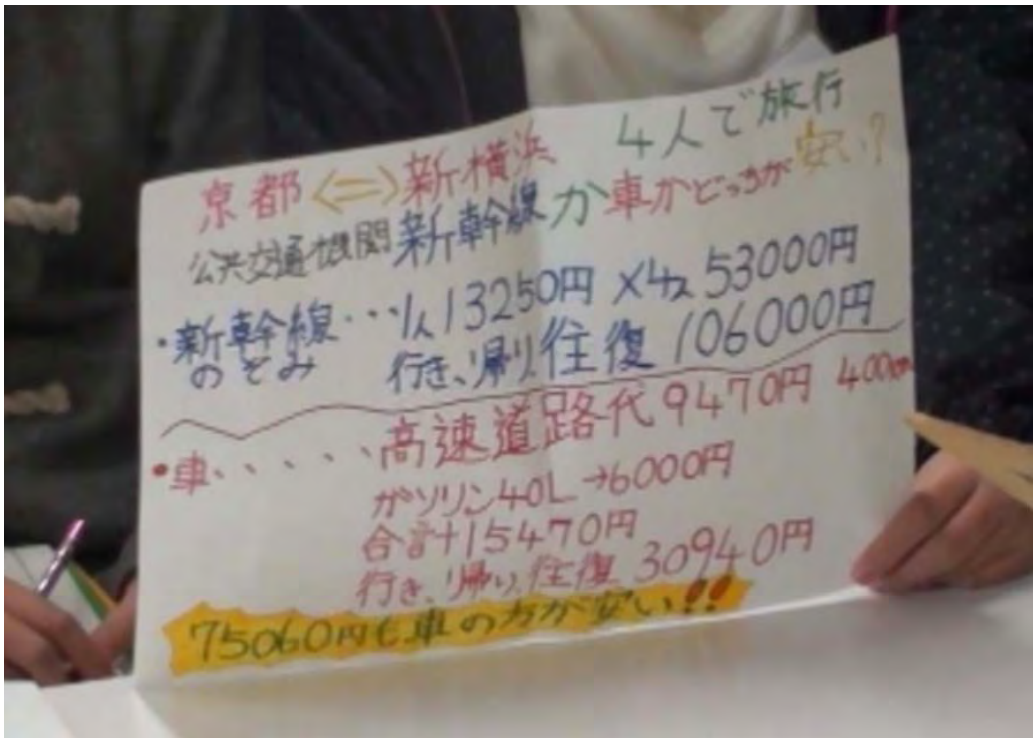
②イラストを用いた資料（バスとクルマに乗る荷物の量を示したイラスト）



③イラストと文章を用いた資料（優先席に関する説明資料）



④文章を用いた資料（公共交通とクルマでの移動を比較した資料）



【授業1】ディベートする【国語】

1) 実施概要

「旅行に出かけるなら、公共交通機関か、車か」というテーマについて、5年生の国語の授業を用いた討論会を行い、クルマと公共交通の長所・短所を理解した。

2) 場所：藤沢市立中里小学校 5年1組と6年1組合同
5年2組と6年2組合同

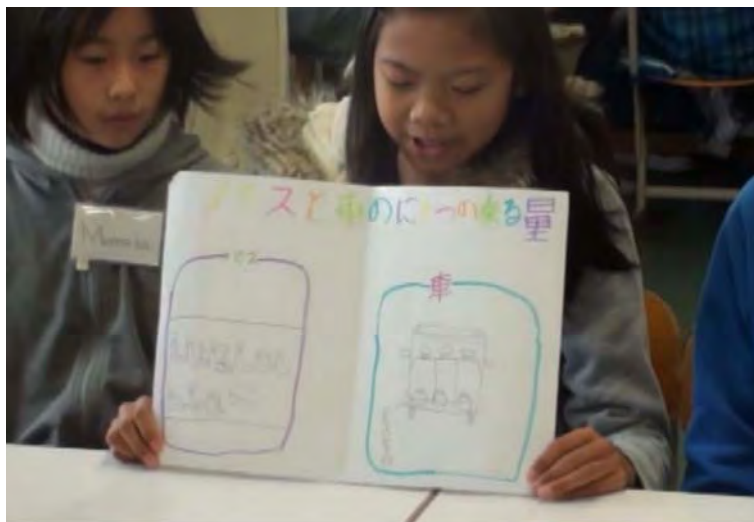
3) 日時：2014年（平成25年）12月15日及び12月16日
（実施クラスにより異なる）

4) 授業の展開

学習活動		指導上の留意点 ◎共通 ◆5年、▲6年
めあてをつかむ。		◎討論会の流れ、話し方、聞き方を確認し、学習の見通しを持たせる。 ◆相手を言い負かすような話し方ではなく、「なるほど!」と説得できる話し方を目指すよう意識づける。
5年 討論会を行う。	6年 討論会を判定する。	◆最初の主張は、前時までにノートに書かせチェックしておく。
討論会「旅行に出かけるなら、公共交通機関か、車か」		
① 主張を行う。 ② 質問を考える。 ③ 質問をする。 ④ フリートークを行う。 ⑤ 最後の主張を考える。 ⑥ 最後の主張を行う。 ⑦ 感想を記入する。 ⑧ 判定を受ける。	① 主張を聞く。 ② 質問を考える。 ③ 質問をする。 ④ フリートークを聞く。 ⑤ 感想を記入する。 ⑥ 最後の主張を聞く。 ⑦ グループで判定を相談する。 ⑧ 判定を行う。	◆ノートを見て読むのではなく、相手を見て話すように声をかける。 ◎互いの主張を予想し、質問を考えさせておく。 ▲判定材料となる内容について質問するよう声掛けする。 ◎フリートークが上手く進められないグループには、資料を使って、より詳しい説明をするよう、声をかける。 ▲判定を決めた要因をしっかりと伝えさせる。
感想やアドバイスを伝える。		◆資料の提示の仕方等、工夫した点をアドバイスするよう声掛けする。

5) 当日の実施状況の報告

① 討論を行う（公共交通とクルマの良いところ、悪いところを発表）



② 6年生によるジャッジ（判定）



③ 6年生による評価（反省点などの発表）



【授業 2】クルマと公共交通の長所・短所を理解する【社会】

1) 実施概要

中里小学校の5年生におけるプレMMプログラムとして、昨年12月に実施した討論会の授業をふまえ、前半にクルマと公共交通の長所・短所を理解すること及び後半にかしこいクルマの使い方を考えるという、2部構成で行った。

2) 場所：藤沢市立中里小学校 5年1組

3) 日時：2015年（平成27年）2月10日（火） 10:30～11:30 の約1時間

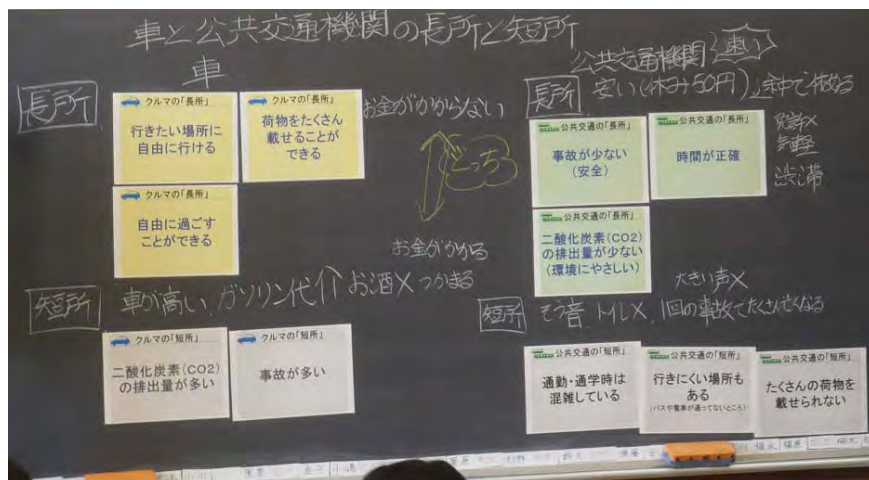
4) 授業の展開

	学習活動	指導上の留意点
20分	<p>①討論会の振り返りとクイズ</p> <p>討論会での議論を思い出しながらクルマ・公共交通の長所、短所を挙げてもらう。</p> <p>CO2の排出量、健康などに関するクイズを実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黒板を使い、出た意見はマトリックスで整理する。 ・ 事前に用意した教材と異なる意見は、先生が手書きで付け加えて対応する。 ・ 子どもたちから、CO2の排出量、健康、バス路線の減少についての発言にあわせて、クイズを実施する。 ・ マトリックスでまとめた結果を見て、公共交通とクルマはどちらも一長一短があることを確認し、うまく使いわけができないかの問いかけをする。クルマが悪い、公共交通が良いということではないことを説明する。
20分	<p>②かしこいクルマの使い方を考えてもらう</p> <p>自分が大人になって免許を取得してクルマを所有することを想定して考えてもらう。</p> <p>便利なのはクルマが、便利なことばかりでは無いことを説明します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人数は一人で行ったときを想定して考えてもらう。 ・ 周辺道路の渋滞がわかる地図、鎌倉駅周辺の駐車場の満空状況がわかる地図、中里小学校から鎌倉駅周辺までのクルマと公共交通での所要時間やCO2の排出量の比較ができる資料などを用いて説明する。

5分	<p>③日常生活でも、どんな移動手段を使うのが良いのかを考えてみるように伝える</p> <p>④授業の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先生から生徒に対して、授業の内容を振り返る説明を行い、生徒に対して日常生活の移動について考えるように伝える。 ・授業を通じての感想の他、今日の授業をふまえて、どのような行動をとろうと思うか、感想シートなどを準備して書き込んでもらう。
----	---	--

5) 当日の実施状況の報告

① 討論会の振り返りとクイズ (クルマと公共交通機関の短所と長所のまとめ)



① 討論会の振り返りとクイズ (クイズを用いた授業の様子)




② かしこいクルマの使い方を考えてもらう (模造紙を用いた授業の様子)




6) 授業で使用した教材

①クイズで使用した教材【模造紙】

 **クルマの「長所」**


**自由に過ごす
ことができる**

1

 **クルマの「長所」**


**荷物をたくさん
載せることが
できる**

2

 **クルマの「短所」**

**渋滞があると
遅れる**

5

 **クルマの「短所」**

**二酸化炭素(CO₂)
の排出量が多い**

6



公共交通の「長所」

安全で事故が
少ない

9



公共交通の「長所」

遠い目的地には
早く行くことが
できる

10



公共交通の「短所」

たくさんの荷物を
運べない

13



公共交通の「短所」

行きづらい場所も
ある
(バスや電車が通ってないところ)

14

クイズ

問題 <環境>

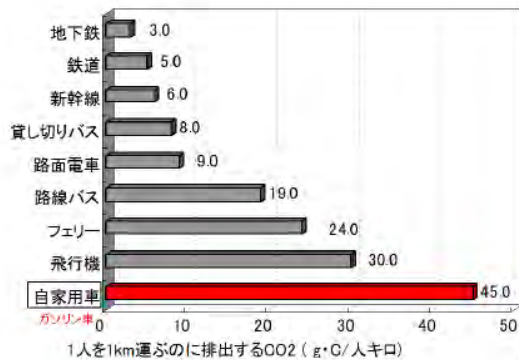
バス、電車、新幹線、クルマ。地球温暖化の原因となるCO2は、どの乗り物からも出ています。では、一人を1kmはこぶときに出るCO2は、クルマはバスの何倍出るのでしょうか？



- a. 0.5倍
- b. 2倍
- c. 8倍



■ 1人を1km運ぶのに排出するCo2



■ 次世代自動車のCo2の排出量の比較

従来ガソリン車、ディーゼル車と次世代自動車のCO2排出量の比較



クイズ

問題 <健康>

公共交通を利用した場合とクルマを利用した場合で消費カロリーは、どれくらい違うでしょうか？

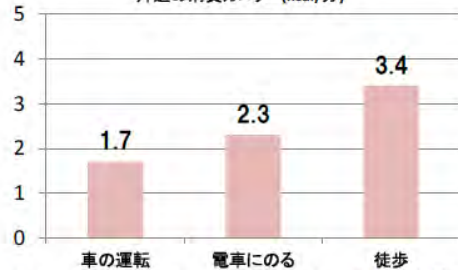


- a. 同じ
- b. 2倍
- c. 4倍



■ 移動に伴う消費カロリー

片道の消費カロリー(kcal/分)



～210kcalって？～

ジョギング(軽め)を約25分

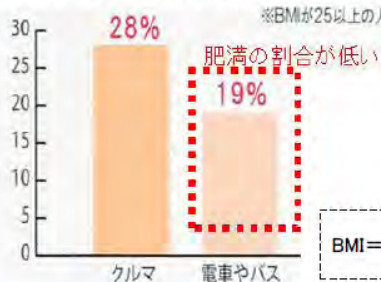
コーラを500ml分



出典: 第5次改訂日本人の栄養所要量(1994)

■ 通勤手段と肥満の割合

※BMIが25以上の人を肥満と仮定



$$BMI = \frac{\text{体重(kg)}}{\text{身長(m)} \times \text{身長(m)}}$$



出典: 日本モビリティ・マネジメント会議

クイズ

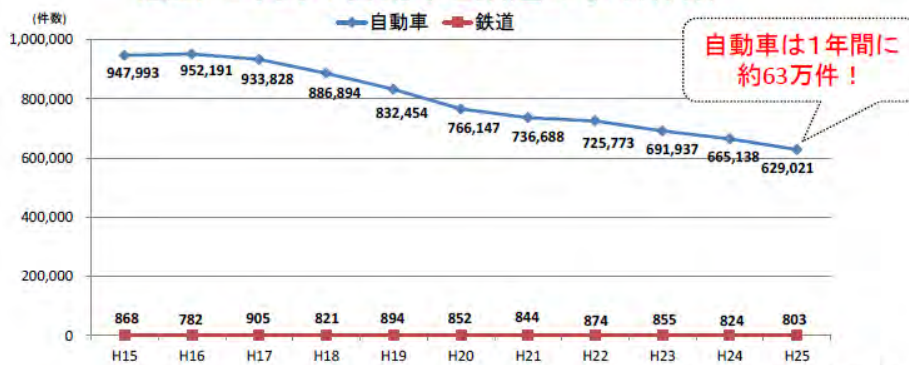
問題 <事故>

全国で、自動車事故は1日あたり約1,700件発生していますが、鉄道の事故は、何件くらい発生しているのでしょうか？

- a. 2件くらい
- b. 20件くらい
- c. 200件くらい



過去10年間の自動車と鉄道の事故件数



出典：交通安全協会

- ・交通事故は年間約63万件発生しているので、
 $63万 \div 365日 = 1,720件/日$

他の交通機関だと、
バス8.6件/日、飛行機0.005件/日、鉄道2.2件/日

出典：国土交通省「運輸事業における事故件数および事業者数の推移」

クイズ

問題. 5 <渋滞>

クルマが渋滞しているときと、していないときで、同じ距離を進むのに排出するCO₂は、どれだけ違うのでしょうか？

- a. 変わらない
- b. 渋滞時が1.5倍多い
- c. 渋滞時が5倍多い

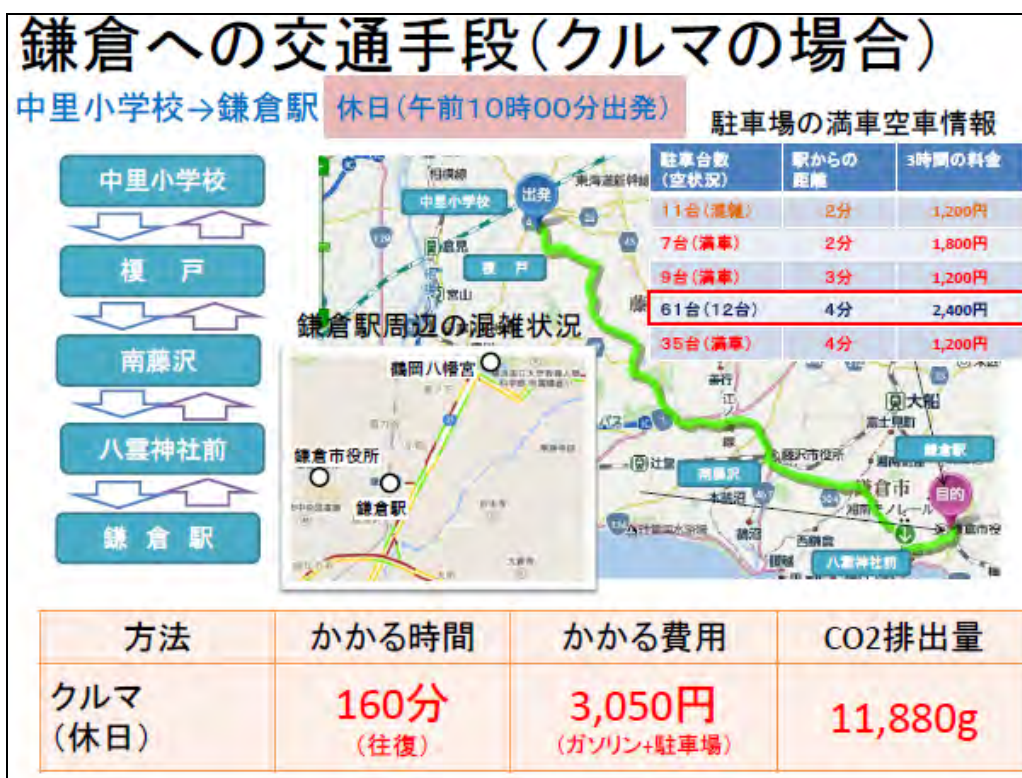
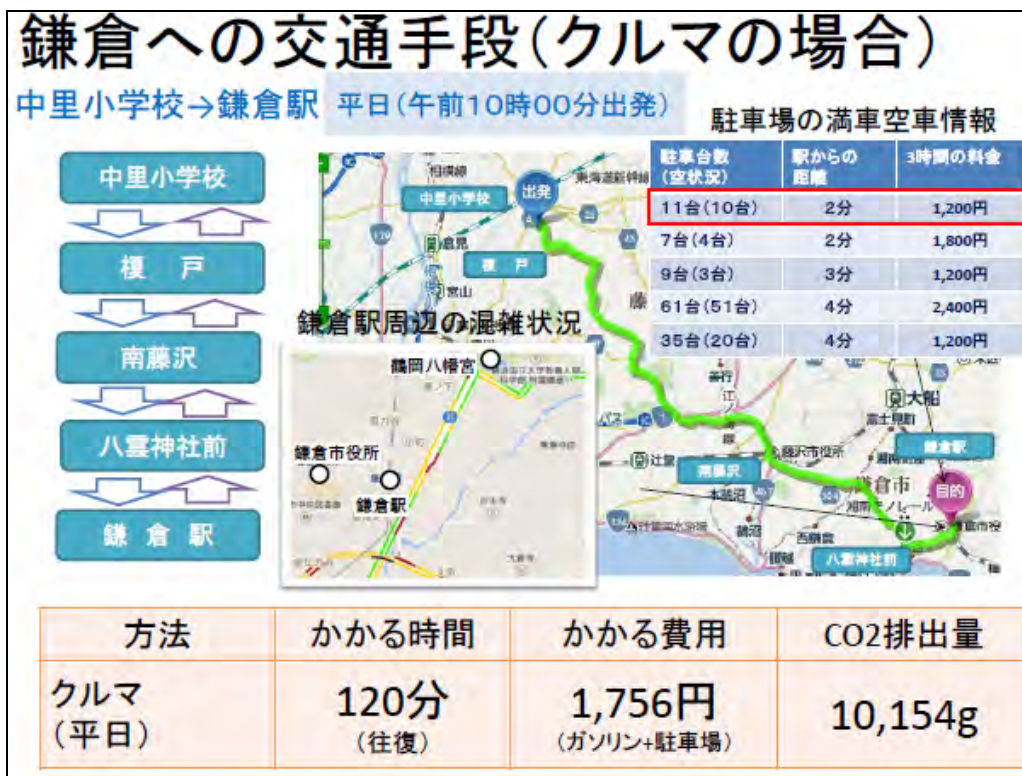


走行速度とCO₂排出量

	走行速度(km/時間)	CO ₂ 排出量(g/km)
最も多い	10	340
	20[渋滞している]	220
	40[渋滞していない]	150
最も少ない	70	120
	100	150

- ・クルマが時速40km/hで走っているときは、
約160g/kmのCO₂を排出する。
- ・渋滞で時速20km/hまで低下すると、
約220g/kmのCO₂を排出する。

②鎌倉までの移動手手段比較【模造紙】



鎌倉への交通手段(公共交通の場合)

中里小学校→鎌倉駅 平日(午前10時00分出発)



7) 実施結果および感想 【※一部誤字・脱字の修正を実施している。】

クルマを選択した児童の意見

番号	理由	感想
1	僕は車の方が良いと思いました。理由は途中でトイレやご飯が食べたければ、コンビニに寄れて良いと思うからです。	中里から鎌倉まで行くのに平日と休日では時間や、かかる費用があんなに変わるなんて思いませんでした。
2	車、コンビニも行ける。	
3	平日、車で行くとかかる時間が少ないから車にした。コンビニにも寄り道できるから。	公共交通機関も良いが車の方が自由に過ごせる。でも公共交通機関の方が CO2 の排出量が少ないから良いと思った。
4	車が良いと思います。	まず僕は時間がかかると思いました。考えたことは CO2 を沢山排出することは悪いことだと分かりました。
5	もし、中里から鎌倉までいくとしたら、…車です。なぜかというとお金やかかる時間は、あまり気にしないで自由に過ごすことを僕は優先するから。しかも、自分の好きな時間に出られるからです。	車や、公共交通機関のメリットやデメリットが沢山あったので、どちらが良いのか分かりませんでした。でも、車の方が自由に過ごせるから車の方が良いです。
6	私は、車にしました。なぜかという、車は、良いことが沢山あって、駄目なところが少ないので良いなと思いました。	車と公共交通機関の長所と短所は、どちらも似ていたと思います。似ていないところは、自由に過ごすことができるのは車、その反対が公共交通機関です。
7	車?公共交通機関?車です。その理由は、公共交通機関だと時間通りでないと駄目だけど、車だったらいつでも変更できるから車の方が良いと思いました。	
8	大人1人だと車の方が少し寄り道できたり、トイレに行きたい時でも行けるからです。	車だと混雑や休日に行くとき CO2 の排出量が倍になると思いました。公共交通機関は環境に優しいけど、少し時間がかかる。
9	車でドライブをしたいし休日でも駐車場は沢山あるから。	多分出かける時は、時間、場所、お金など、人間はその時々判断がくだされると思う。
10	車を選びました。なぜ車を選んだかと言うと、車でいった方が他の人に気を使わずに、しかも寄り道が出来るので選びました。	今日の授業を受けて思った事は、車も良いけど、電車も良いので、どちらもバランスよく使った方が良いと思いました。

公共交通を選択した児童の意見

番号	理由	感想
1	公共交通機関の方が車より混雑しないと思うし、ガソリン代や駐車場のお金も関係ないから。そこまで遠いわけでもないし、事故が少なく安全なので、公共交通機関にした。	今日改めて車の長所と短所、公共交通機関の長所と短所をあげたことで、行く場所などで、どっちを使った方がより良いのか、平日と休日とではどちらを使った方が良いのか、メリット、デメリットを考えて使うことが大切だと分かりました。
2	なぜ、公共交通機関を選んだかと言うと、すごく楽だからです。車だとガソリンが無駄だから。機関の方がとっても便利だからです。	車と公共交通機関どっちが楽かと言うと、公共交通機関の方が良いと思いました。車だと CO2 の排出量が多いからです。途中で、迷いました。
3	中里→鎌倉なら、僕は公共交通機関が良いです。なぜなら値段や CO2 の量が低いし、車は事故が起きないようにと神経をとがらせなければならぬけど、公共交通機関は耳だけ聞いて、のんびりしていれば良いからです。	車と公共交通機関、どちらかをとるなら、距離が長いのか短いのかと、話し合う人がいるかいないかで決まると思いました。
4	時間はかかるけど、お金は車より安いから。混むかもしれないけど運転をしなくてすむから。	たまには車が役立ち、公共交通機関も良いということが分かった。やはりCO2は車が多いのであまり良くないと思いました。
5	やはり、かかる費用安く、時間が早いから。	もし、1人で遠くに行く時は、公共交通機関が良い。なぜなら、1人で行くと、かかる費用などが安くて良い。もし、家族で行くなら、車が良い。なぜなら、家族で話し合ったり出来る。
6	公共交通機関です。平日の車と比べてお金がかからないからです。	もり先生が太る理由が分かって面白かった。
7	お金がかからないから。	車のお金がかかるか、かからないか、という問題で僕は、公共交通機関がよいと思いました。なぜかというとお金がかからないというところからです。
8	公共交通機関の方が良いです。お酒が飲めるし車だと前しか見られないから。公共交通機関だと風景が見れるから公共交通機関の方が良いと思いました。	休日だと公共交通機関の方が良い。なぜなら渋滞しなくて時間通りに着くから。
9	私は中里から鎌倉へ行くなら公共交通機関で行きます。公共交通機関なら、バスや電車で、鎌倉行きなどがあり、あまり道を間違えないから公共交通機関の方が良いかなと思いました。	今日は色々なクイズなどをしてとても勉強になりました。鎌倉へ行くだけで2時間もかかるんだなと思いました。
10	私は公共交通機関が良いと思います。まず車は1人で行くと、とても寂しいけどバスや電車は人が多く、知らない人でも誰かがいれば安心します。しかも、たとえ着く時間が遅くても、CO2の量が少ない方が良いと思ったからです。	たとえ着くのが遅くても、CO2が少ない方が良いと思いました

番号	理由	感想
11	私は公共交通機関です。1人だと安いのは公共交通機関の方で楽し良いと思う。でも車は寄り道出来るけど、私は公共交通機関が良いと思います。	車では好きなことが出来るし、家族で行くなら、車の方が良いと思った。公共交通機関も環境のことを考えていて、次に車やバスに乗る時は環境のことを意識してみようと思いました。
12	鎌倉に行くまでにCO2は車の方がやはり多いしお金もかかるから公共交通機関にしました。	1人で行くとなると車だとやはり寂しい気持ちになるから公共交通機関の方が他のお客さんもいるからまだ良いなと思いました。
13	公共交通機関にした理由は、1自分は本当は車の方が好きだけど、CO2の排出量のことを考えたら、環境の方が大事だと思ったから。2公共交通機関だと渋滞がなくすぐ目的地に着くから。	ヨーカドーに行く場合多人数だと車の方が楽しくて楽し1人でもすぐ近くだから楽に行けると思いました
14	大人1人で中里⇒鎌倉まで車で行くか、公共交通機関か、私は公共交通機関が良いと思いました。なぜかという、車だと、10分早く着くだけで、費用とCO2が多い。でも公共交通機関だと10分遅く、費用とCO2が少ないから良いなと思いました。	私は今日、車と公共交通機関の良い所、悪い所を沢山知りました。悪い所は少し怖い所がありました。
15	環境にも優しいし、乗っている時にゆっくり出来るから。あと、そこまで細い道に車や、電車で行く必要は、ないと思う	中里から鎌倉まで、車か公共交通機関どちらかだったら交通機関です。時間が正確だし、外の景色を見ながらゆっくりできて、環境に優しいからです。行きにくい場所があるけど、そこまで車や電車で移動する必要はないと思う
16	公共交通の方が良い。表に書いている通り事故も少ないしCO2の排出量も少ないからです。	事故が少ない公共交通機関が良いと思いました。自由に行動出来るとなると車も捨て難いのですが、やはり公共交通機関の方が良いと僕は思います。
17	大人1人だったら公共交通機関を選びます。公共交通機関は、1人だと料金が車で行くより少ないので、公共交通機関が良いと思いました。	大人1人だったら、少ない人数なので、車などのガソリン代の料金より、安くなりますが、大人2小人2だと、人数が多いので、1人あたりの料金の4倍になってしまいます。でも車だと、ガソリン代などは、人数が増えても、同じ料金なので、大人2小人2だったら、車の方が良いと思いました。
18	公共交通機関、大人1人で車に乗るのは寂しいけど公共機関だと旅の気分を味わえるし、安いから。	今日の授業を聞いて思ったことは、車と公共交通機関の乗り換えの難しさです。なぜなら近場だと車の方が値段がかからないけど、遠い所は公共交通機関の方が安いからです。
19	中里⇒鎌倉、公共交通機関、1人だとあまりお金もかからないし、それにCO2の排出量も少ない人のためにもなるから。	車は色々な場所に行けるけど渋滞になったら、予定の時間に間に合うかどうか分からない。交通機関だと渋滞になることもないし時間に間に合うから。

8) 実施後の気づき

- ・授業の後半に実施した「②かしこいクルマの使い方を考えてもらおう」では、鎌倉に行くにあたり、クルマを選択する児童が多いと想定して授業を進める予定であったが、実際には多くの児童が公共交通を選択した。これは、週末は自動車が渋滞するといった現状を知っていたことや、前半部分の「クルマと公共交通の長所・短所の比較」が影響したと考えている。

9) 教材の修正

- ・クイズで使用した教材（模造紙）の解答部分については、解答の根拠となるグラフ等が掲載されている一方で、答えそのものが記載されていないため、分かりにくい状況であった。このため、「答え」を明記する修正を行った。

【授業3】バス、電車を使って鎌倉に行ってみる【総合学習】、【社会】

1) 実施概要

中里小学校の6年生において、総合学習の一環として実施され、事前にグループごとに、鎌倉周辺での見学先及び自宅から見学先までの移動手段・ルート等を計画したうえで、その計画に基づき、公共交通を利用して鎌倉に向かい、お寺等の施設を見学し、公共交通を利用して帰ってくるというものである。

2) 場所：藤沢市及び鎌倉市

3) 日時：2015年（平成27年）6月16日（火） 7:30～16:00

4) 校外学習の構成(スケジュール)

①御所見市民センターに集合（7：30～7：50の間に班ごとに集合）

○バスを利用して、長後駅に向かい、小田急江ノ島線に乗り換え、藤沢駅に行く。

②公共交通を利用して鎌倉へ移動

○移動ルートは「御所見市民センター前バス停→(神奈中バス)→小田急長後駅→(小田急江ノ島線)→藤沢駅→(徒歩移動)→江ノ電藤沢駅→(江ノ電)→江ノ電長谷駅または鎌倉駅

③かまくらめぐり（9：30～14：30）

○訪問先は、班ごとに午前3か所（A：大仏コース B：銭洗い弁天・寿福寺コース・C：頼朝の墓、鎌倉宮コース）、午後3か所（A：銭洗い弁天・寿福寺コース B：頼朝の墓、鎌倉宮コース・C：北鎌倉コース）の中からそれぞれ1つずつ選択。

④公共交通を利用して帰りの移動（14：30～16：00）

○移動ルートは鎌倉駅または北鎌倉駅→(横須賀線)→大船→(東海道線)→藤沢駅→(小田急江ノ島線)→小田急長後駅→(神奈中バス)→御所見市民センター前バス停

⑤御所見市民センターで解散（16：00頃）

5) 校外学習当日の様子

長後駅で電車を待っている様子



鎌倉駅での様子

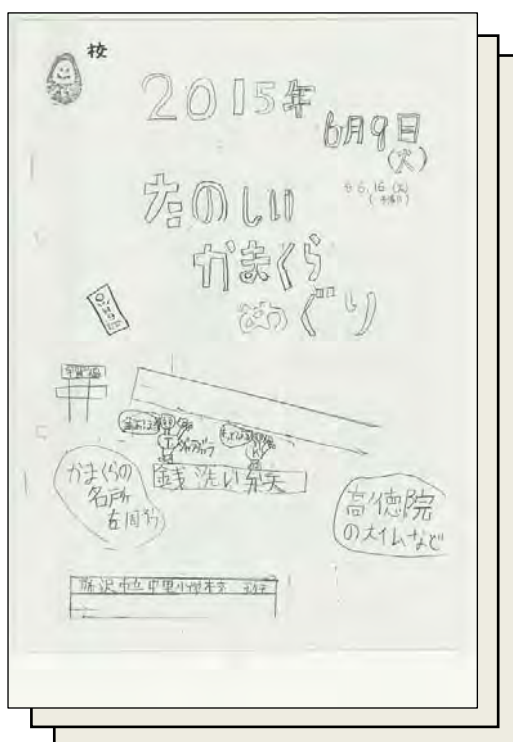


JR 藤沢駅で乗り換え切符を購入している様子



6) 校外学習で使用した教材

①かまくらめぐり（スケジュール等が記載された冊子）



②バスの乗り方・電車の乗り方ガイドブック（A4版）

公共交通を普段から利用しない児童のために、バスや鉄道といった公共交通の利用方法、ルールやマナーについて記載したガイドブック。

バス・電車の乗り方

バスの乗り方・電車の乗り方 ガイドブック

-目次-

【行き】	
その1・バスの乗り方	p. 2
その2・電車（小田急）の乗り方	p. 5
その3・藤沢駅での乗り換え	p. 8
その4・電車（えのでん）の乗り方	p. 11
【帰り】	
その5・電車（JR）の乗り方	p. 15
その6・大船駅での乗り換え	p. 18
その7・藤沢駅での乗り換え	p. 19

1

7) 実施後の気づき

- 行きの御所見市民センターから長後駅に向かうバスのダイヤが乱れ、当初乗車する予定であった電車の時刻を過ぎて、長後駅に到着した。下車駅である藤沢駅は、急行、各停ともに停車するため、来た電車に乗れば良いが、行き先が「片瀬江ノ島駅」となっていたためか、どの電車に乗って良いかわからず、来た電車に乗らずに見過ごすという状況があった。
- 駅での切符購入については、行きの段階では手間取る姿が見受けられたものの、帰りにおいては、購入に慣れたせいも、比較的スムーズに切符購入をすることが出来ていた。
また切符の購入については、児童がこれまでに切符の購入経験があり問題なく購入できる児童、購入できる子の様子を後ろから見たり、我々が配布したガイドブックを見て購入できる児童、そして、購入している子の様子も見ていなく、自分の番になってから、買い方がわからず困る児童と、大きくはこの3パターンにわかれるように見受けられた。
- 鎌倉駅から藤沢へ戻る際、大船駅で横須賀線から東海道線に乗り換えしなければならないが、鎌倉駅の掲示板には、大船駅に向かうには、どちらの電車に乗れば良いのか案内がないため、児童がどちらの電車に乗れば良いのか困惑する状況があった。
- 鎌倉駅で大船に向かう電車の中で、「次は、北鎌倉です」という車内アナウンスを聞いた児童が、反対方面の電車に乗ってしまったと判断して降車しようとする場面がみられた。想像するに北鎌倉の「北」に反応し、反対方面の電車に乗ったと勘違いしたのではないかと考えられる。

8) 教材の修正

- 配布したガイドブックには、路線図や大船駅や藤沢駅での乗り場案内を掲載しておらず、児童がどの電車に乗れば良いのか困惑する状況になったため、ガイドブックには周辺エリアの路線図を掲載し、自分の乗車する電車でどこに行けるのか、どの駅に停車するのか理解できるようにする必要がある。

【授業 4】CO₂排出量や金額等を算出、比較し、移動手段による使い分けの重要性などを発見する【社会】

1) 実施概要

6月16日(火)に実施した校外学習「かまくらめぐり」の際、自分たちが移動したルートについて、公共交通で移動した場合とクルマで移動した場合とで費用とCO₂排出量がどれくらい違うかを計算し、その比較を実施した。

2) 場所：藤沢市立中里小学校 6年2組

3) 日時：2015年(平成27年)6月24日(水) 9:40~11:00 の約1時間半

4) 授業の展開

	学習活動	指導上の留意点
10分	<p>①討論会を振り返り、クルマと公共交通のCO₂排出量の差を予想する</p> <p>校外学習「かまくらめぐり」とも併せて、これまでの取組を簡単に振り返る。</p> <p>クルマと公共交通ではどちらが、どのくらいCO₂排出量が多いか考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 先生から、これまでの授業1~3でどのようなことを学んだのか説明、あるいは生徒に意見を求める。 生徒に対して、どちらがどのくらい多いと思うか発言をしてもらう。 ⇒具体的には「クルマと公共交通はほとんど変わらない」「クルマの方が公共交通よりも1.5倍程度多い」というように、数値で示すように促す
40分	<p>②校外学習で移動したルートの費用とCO₂排出量を計算する。</p> <p>行動したルートの費用(運賃)とCO₂排出量の計算を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1人ですべての計算を行うのは難しいため、班内で手分けして作業を行うよう助言する。 班ごとにルートを変えて計算してもらうことで、どのルートだとどのような長所や短所があるのか比較できるようにする。 計算結果を資料にまとめてもらう。

25分	<p>③発表</p> <p>班ごとに調べたルートのコストとCO₂排出量の計算結果を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数値の発表に加えて、各ルートの長所や短所、他の班のルートと比較してどのような違いがあるのか、適宜質問や意見を発表してもらおう。
10分	<p>④この結果を受けての感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通じての感想の他、自分の予想と比較してどのような結果であったのか、どのように感じたのか、それぞれ書き込んでもらおう。

5) 当日の実施状況の報告

CO²の比較予想



計算して記入する様子



発表



6) 授業で使用した教材 (A3サイズ)

1. 「かまくらめぐり」で行ったルートをふりかえってみよう



1

2. 行動きろく表

■きろく表 (行き)

内容	運賃	移動手段	距離 × CO ₂ の単位 = CO ₂ 排出量		
御所見市民センター集合					
御所見市民センター ↓ 長後駅	140円	バス	5.4km	51g	275.4g
長後駅 ↓ 藤沢駅	—円	電車 (小田急)	—km	—g	—g
藤沢駅 ↓ —駅	—円	電車	—km	—g	—g
—駅 ↓ —駅	—円	電車	—km	—g	—g
	0円	徒歩			
①合計	—円		—km	—g	—g

■きろく表 (帰り)

内容	運賃	移動手段	距離 × CO ₂ の単位 = CO ₂ 排出量		
—駅 ↓ 藤沢駅	—円	電車	—km	—g	—g
藤沢駅 ↓ 長後駅	—円	電車 (小田急)	—km	—g	—g
長後駅 ↓ 御所見市民センター	140円	バス	—km	—g	—g
御所見市民センター解散					
②合計	—円		—km	—g	—g

表 CO₂排出量の単位一覧

	クルマ	バス	電車
1kmごとに	170g	51g	21g

徒歩と自転車は0g(※電車の乗車時間以外より、1.6gと1.4gの差が生じることがあります)

2

3. クルマで行ったら、いくらになるか計算してみよう。

※移動にかかる費用とCO₂排出量をかきましよう。

経路	距離 ×	費用 +	駐車料 =	料金	距離 ×	CO ₂ の単位 =	CO ₂ 排出量
中里小学校	1	_____円	_____円	_____円	_____km	_____g	_____g
1	_____円	_____円	_____円	_____円	_____km	_____g	_____g
1	_____円	_____円	_____円	_____円	_____km	_____g	_____g
1	_____円	_____円	_____円	_____円	_____km	_____g	_____g
中里小学校							
合計							

①ルート：中里小学校⇒長谷駅⇒鎌倉駅⇒中里小学校 (駐車する駅：長谷駅、鎌倉駅)
 ②ルート：中里小学校⇒鎌倉駅⇒中里小学校 (駐車する駅：鎌倉駅)
 ③ルート：中里小学校⇒鎌倉駅⇒北鎌倉駅⇒中里小学校 (駐車する駅：鎌倉駅、北鎌倉駅)
 ④ルート：中里小学校⇒長谷駅⇒鎌倉駅⇒北鎌倉駅⇒中里小学校 (駐車する駅：長谷駅、鎌倉駅、北鎌倉駅)

～クルマの費用を計算する時の注意～
 ・クルマで移動するときは、1kmあたり8円の費用がかかります。
 ・駐車料金は、1箇所あたり600円がかかります。
 ・クルマで移動するときは、1kmあたり170gの二酸化炭素を排出します。

3

4. まとめ

移動する時にかかるお金やCO₂排出量の違いを知ろう

★運賃（費用）を知ろう

電車やバスで移動するとどれぐらいの運賃がかかったのか、実際に乗ったときに、2ページ目にあるスケジュールに書きましよう。

★CO₂排出量を知ろう

電車やバスで移動した距離を1ページ目の地図で調べて、2ページ目にあるスケジュールに書きましよう。

★クルマの費用とCO₂排出量を比べてみよう

電車で移動したときと同様に、クルマで移動したときの費用とCO₂排出量を書きましよう。

移動距離と使った交通手段によってCO₂排出量は違うので、下の表を使って合計を出し、最後に公共交通機関とクルマの場合の費用とCO₂排出量を比較ましよう。

	費用	CO ₂ 排出量
公共交通機関	①行き：_____円	①行き：_____g
	②帰り：_____円	②帰り：_____g
	③合計：_____円	③合計：_____g
クルマ	①行き：_____円	①行き：_____g
	②帰り：_____円	②帰り：_____g
	③合計：_____円	③合計：_____g
結果（比較）	_____の方がCO ₂ 排出量が_____g少ない。	_____の方がCO ₂ 排出量が_____g少ない。

計算欄

4

7) 実施結果

①授業を実施する前に、クルマと公共交通ではどのぐらいCO²の排出量が違うか。

②授業を踏まえて、今後はクルマと公共交通どちらを使いたいか。また授業の感想は。

番号	①	②
1		僕は車と公共交通機関では、車が良いと思いましたが、車より公共交通の方がCO ² 少なくお金も安いので公共交通機関の方が良いと思います。
2	僕は、車と公共交通機関のCO ² の排出量や距離、お金などほとんどがかわらないと思っていました。ですが、鎌倉めぐりの班で調べたら、CO ² の排出量が5~6倍違うことを初めて知りました。	それと、グループのチームワークも活かせない事が出てきたので、次の日光修学旅行でのチームでチームワークを活かしたいと思いました。
3	僕は、車と公共交通機関は、CO ² 排出量の差は、あまり変わらないものかと予想していました。	ですが、鎌倉のルート調べて、計算してみたら、CO ² の排出量は車が、公共交通機関よりも約5~6倍も違う事が衝撃的でした。値段は、駐車場にとまる数で差を無くすることが出来るけど、CO ² 排出量の差はすごかったです。なので僕は、使うなら環境と値段を考えて、公共交通機関にしたいです。
4	自分の予想車 120% 公共交通機関	これから車ではなく公共交通機関で鎌倉などに行こうと思いました。公共交通機関の方が安いからです。
5	120 ぐらいだと思っていたけど 5 倍から 6 倍までも CO ² の排出量が違うなんて驚きました。	車の駐車料金も全然違うというのも驚きました。公共交通機関は、環境にも良いし車は便利だけど、公共交通機関の方が、お金の無駄にならないし、便利だなあと思いました。駐車にとまった数でもあるけど、やはり交通機関の方がいいです。
6	自分の予想は 120 ぐらいだと思いました。だけれど 5~6 倍と知って、びっくりしました。	駅に沢山行ったので車のお金もかかりました。けれど公共交通機関は環境にいいし、お金も車よりかかりません。車はすごく便利だけど公共交通機関の方がお金もかからないしCO ² 排出量も少ないから、すごく良いと思いました。車と公共交通機関のCO ² 排出量が 5780g も違うことがすごいと思いました。車より公共交通機関を出かけるときに使いたいです。
7	僕は最初 CO ² 排出量は車が少しだけ多いと思っていましたが、車は約 7,038 だと分かってびっくりしました。	後、料金は公共交通機関が多いと思っていましたが、車が多いとは全く思っていませんでした。これから自分はバスや電車など使っていきたいです。でも車もほぼ毎日乗っているので乗らないのは嫌ですねえ。免許ぐらいは欲しいです。

番号	①	②
8	僕は、車の方より交通機関の方が CO ² ガスが沢山でているのかなぁと思っていたけど、調べると公共交通機関の方が量が少なくびっくりしました。(お金も車より交通機関の方が安い。)	だから分かった事は、遠い所は、公共交通機関を使って、近い所は、車を使った方が良いと思いました。
9	僕の予想は、公共交通機関 100g に対して、車は 120g だと思いました。	でも結果を見たら、公共交通機関 1299g に対して、車が 6613g と CO ² 排出量が驚くほど違うことにびっくりしました。お金も公共交通機関 750 円に対し、車は 1512 円と全然違ったので驚きました。これで公共交通機関の方がお得ということが分かりました。
10	自分の予想 車 90%、公共交通 100% ぐらいだと思いました。	これからは公共交通機関をなるべく使い、でも近い所は歩き、また自転車を使います。車は、なるべく使わないようにしたいです。
11	最初、私は、CO ² の方が多いと思っていました。	でも今回の授業で公共交通機関の方が CO ² の排出量が車より少ない事が分かりました。車と電車の値段の差がすごい事も分かりました。車は 1km に 170g、バスは 51g、電車は 21g です。車は、CO ² の排出量が多い事がよく分かりました。CO ² を増やさないためには、自転車や徒歩の方が良いと感じました。半年前の討論会では、公共交通機関の方が良いと分かりました。今回も、公共交通機関の方が良いと分かりました。今回の授業は、大切だと思いました。
12	CO ² の排出量は、少ないかと思ったけど意外と多かった。	分からない事が、分かって良かったです。書くのが大変だったけど、ちょっと友達に見せてもらって書きました。いくらかかるとかなど、分かったからそれを利用してどこかに行きたいです。
13		僕は、車と公共交通機関では、値段の差がこんなにあるなんて思っていませんでした。予想が結構はずれました。車より公共交通機関の方が CO ² が 5792 も差があるのでびっくりしました。最初は車と公共交通機関で結構差があるので疑ったけど意外でした。
14	まず CO ² ガスは車の方が 20 倍ぐらい多いかなと思ったけど実際は 5~6 倍ぐらいでした。	感想としては、まず CO ² ガスの差にびっくりしました。さらにお金も公共交通機関の方が安いから良いことづくしすぎてさらにおどろきました。なのでこの結果から僕は公共交通機関が良いと思います。
15	私は、車より公共交通機関の方が CO ² が多いと思っていました。	でも車の方が公共交通機関より多いのが分かりました。最初は、疑いました。でも今夏の授業で、これからはあまり車を使わないで、なるべく公共交通機関を利用した方が良いことが分かりました。

番号	①	②
16	私は、最初車は、公共交通機関に比べて、9倍ぐらいで、クラスのほとんどが、あまりないと思っていたけど、計算してみても5、6倍だったので、私もクラスのみみんなもびっくりしました。また、お金も班ごとに差はあるけど、思ったより公共交通機関の方が安かったので、これにもびっくりしました。	このことから、公共交通機関が車より、環境にも優しいし、お金もあまりかからないことを頭の中に入れて、公共交通機関を利用したいと思いました。
17	自分の予想 車が120% 公共交通機関が100%	今日、私が見つかったことは、まず、公共交通機関の方が、かかる料金が安いということ、CO ² 排出量が少ないということです。なのでこれからは、なるべく車ばかりではなく、公共交通機関を使ったり、自転車や歩くこともしたいと思います。
18	私の予想は、公共交通機関と車の差は5倍ぐらい車が多いと予想しました！！	計算をしてみるととても大きな差があることが分かりました。わたしたち10班はいろいろな駅に行ったので、とても沢山お金を使いました！振り返ってみると、違う班の人より1番多くお金を使っている、1つの駅の近くしかまわっていない人と大きな差があるのに気が付きました。でもCO ² の排出量は思ったより少なくて良かったです。私は移動手段に車を多く使わないようにし、公共交通機関を利用するか、近くに行くならば、自転車や徒歩で行くことを優先で頑張りたいです。
19	僕は最初はCO ² （二酸化炭素）の排出量はそんなに違いがないと思いました。	しかし、計算してみると、どんどん違いが出てきてついには5~6倍ぐらいの差があることに気づきびっくりしました。しかも僕はお金は車の方が安いと思っていましたが、その予想は全くはずれて、電車の方が料金も安いし、しかも公共交通機関と車は1381円の違いがあったのです。この結果を受けて僕はなるべく電車やバスの公共交通機関を使うようにしようと思いましたが、CO ² が排出されない自転車や歩きを使おうと思います。
20	自分の予想 車120%、公共交通機関100%	私がこの時間で分かった事は、車と公共交通機関を比べると公共交通機関の方がCO ² 排出量が少ない事が分かりました。なので、これからはなるべくCO ² の排出量が少ない公共交通機関を使うようにしようと思います。
21	ぼくの予想は、公共交通機関190gとして車は180gとっていました。	結果を見たら公共交通機関の方がCO ² も削減できるし安くすむので、公共交通機関の方が良いと思いました。

番号	①	②
22	前から公共交通機関の方が、お金も CO ² も車より少ないのは知っていたけれど 2倍くらいかと思っていた。	でも今回調べてみて 5~6倍と知ってとても驚きました。いつも移動のほとんどが車だったけどこれからは車で出かけていた所を公共交通機関で移動しようと思いました。あまり電車やバスの乗り方に慣れていないけど、乗りたいと思いました。
23	最初に思っていたことは、車と公共交通機関あまり差がないと思っていました。	でも、鎌倉に行ったルートで比べてみると車の方がお金もかかるし、CO ² の排出量が全然違うことが分かって、びっくりしました。僕は、普段公共交通機関を使うことが少なく、車で色々な所へ行くことが多いので、このことを知って、これからは、普段の生活でも公共交通機関をもっと使っていきたいと思いました。
24	最初は、電車と公共交通機関そんなに差はないかなあと思っていたけど、CO ² は車と公共交通機関で5~6倍もあるのに、とてもびっくりしました。	お金は（私たちのチームは）764円も違うのにもびっくりしました。CO ² は環境にも悪いので、車も良いけど、電車やバスをなるべく使い、CO ² も減らしつつ、お金も沢山使わないので、私は公共交通機関はとて素晴らしいと思いました。（討論会では私は、車を選びました！）
25	最初の予想は、CO ² が 20%違うと予想しました。	でもこれをやって分かりました。公共交通機関は、車より CO ² の量が少ないし、かかるお金の料金も少なかった。もしも、友達と映画とかなに行くとしたら、CO ² が少ない、かかるお金が少ない公共交通機関にしたいです。もし、この勉強をしなかったら、映画とかも車で行ってたかもしれません。
26		今回の授業で思った事は、自分の予想よりすごく違いました。なんと 400%でした。これは、少しショックでした。これからは、車より公共交通機関を使おうと思いました。
27		私は、5年生のときの討論会で CO ² の事を調べ、どの位の差があるのか知りました。なので予想は、歩美さんと同じ予想（車 900、交通機関 100）をすることができましたが、今回の授業で車、バス、電車、それぞれ 1km ずつ何gの CO ² を排出するのかを学びました。自分たちが実際に行った鎌倉めぐりのルートで調べることで、こんなにも排出するのかと、初めて実感しました。私の家族は、車で出かけることが多いので、公共交通機関をもっと使うようにしたいです。50gの排出でどんな事が起きるのか、そのような所も調べてみたいです。

番号	①	②
28	最初、僕の予想は CO ² の排出量が車の方が、20%ぐらい多いのかなと思っていたけど、予想は大はずれ。なんと 500%もありました。これはやられたと思いました。	今回の結果を受けて、将来、車に乗ってみたいけど、なるべく電車やバスを使っていきたいと思います。半年前、僕は、車の側についていました。けど、調べているうちに、バスの方が環境に良い事に気が付きました。でも、僕は、乗りやすさのことばかり考えていました。でも、今回の授業で環境にも目を向けて行く事が大切だと思いました。
29	予想は、公共交通機関の方が良いと思いました。	なぜなら 5 年生の時に討論会で公共交通機関の方が良いと言っていたからです。予想が当たっていたので良かったと思いました。





8) 実施後の気づき

- ・ 今回の授業は、CO₂ の排出量の計算に時間がかかり、最後の計算結果を見て、気づいたことを児童に発表してもらう部分の時間を十分確保することができなかつたため、気づきを発表してもらう授業構成の工夫が必要である。
- ・ クルマと公共交通の比較だけでなく、徒歩や自転車に着目する児童もいたことから、自転車や徒歩についても考えられるような授業構成等の工夫が必要である。

9) 教材の修正

- ・ クルマの距離を計算する際に、どこまでの移動が「行き」の欄に記載し、どこからが「帰り」の欄に記入するのかがわからないといった状況があったため、わかりやすい計算シートにするなどの修正が必要である。
- ・ CO₂ の排出量の計算時間を短縮できるよう、教材を工夫する必要がある。

滝の沢小学校における取組み報告

実施概要	・総合的な学習の校外学習（図画工作展の見学）に合わせ、移動で公共交通を体験することで社会の県の交通について知るプログラムとした。						
年度・学年	H27年度・小学4年生						
授業の狙い	1. 藤沢市とその周辺の交通について理解する 2. クルマと公共交通の良いところ、悪いところを理解する 3. TPOにあわせて移動手段を選択することが、大切であることを理解する						
実施時間	【授業1】 …1 時限分	【授業3】 …1 時限分	【授業2・校外学習】 …1 日間実施	【授業4】 …1 時限分			
授業形式	教室内の授業形式	校外学習形式	宿題				
連携する教科と単元名	【社会】 県のまちづくり(4年)、国土と自然(5年) 【総合学習】 総合的な学習（図画工作展の見学） ※上位学年での学習事項		MMの構成要素	習熟の深度化 公共交通の知識 公共交通の利用（実践） 移動の及ぼす影響の把握 公共交通とクルマの対比 仮定した状況下での移動計画（行動プラン） 選択した交通行動の評価・共有			
学習構成【授業の進め方】							
授業概要 時間軸	ステップ1	【授業1】 公共交通で藤沢駅に行く経路等を調べる【社会】  <ul style="list-style-type: none"> 藤沢駅までどのような公共交通の経路があるのか、自分たちのグループはどの経路で行くのか、どのように公共交通を使うのか、を調べる。 	●		●		
	ステップ2	【授業2】 バス、電車を使って藤沢駅に行く【総合学習】  <ul style="list-style-type: none"> 実際に公共交通を使い、便利なところ、不便なところ、分かりやすさ、分かりにくさ、不安などを感じ、発見する。 		●			
	ステップ3	【授業3】 校外学習をふりかえる【社会*】  <ul style="list-style-type: none"> 自分たちが利用した経路を確認し、公共交通を利用して感じたこと、考えたことをふりかえる。公共交通とクルマの、良いと思う、良くないと思うところを考えてみる。 		●	●		
	ステップ4	【宿題】 横浜への移動手段を考える【社会】  <ul style="list-style-type: none"> 横浜に行く移動手段、経路を考え、公共交通とクルマの良いところ、悪いところを、児童と保護者で考える。 		●	●	●	●
	ステップ5	【授業4】 移動手段の目的に応じた使い分けの必要性を知識する <ul style="list-style-type: none"> クルマと公共交通などの目的に応じた使い分けの必要性を発見し、今後、家庭で出来そうなことについて考える。授業後、保護者へのアンケート実施。 				●	●
実施の成果及び反省点	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との移動が中心である学年であることが考えられ、公共交通の利用を不安に思う児童も多かった。このため、児童の自主的な交通行動変容につなげるためには、実施内容の改善が必要と考えられた。 授業後の保護者アンケートでは、授業を肯定的に捉える積極的な意見もあり、家庭への広がりという点について、MMとしての一定の成果が得られた。宿題を保護者と一緒に行った点などが効果的であった。 						

【授業 1】 公共交通で藤沢駅に行く経路等を調べる【社会】

【授業 2】 バス、電車を使って藤沢駅に行く【総合学習】

1) 実施概要

滝の沢小学校の4年生における事前学習として、藤沢駅近くで開催される図画工作展へ見学に行くという校外学習に向けて、市内の公共交通について確認し、どの経路を使って移動するのかを検討する授業を実施した。その後、校外学習としてバス、電車を使って藤沢駅に行った。

2) 場所：藤沢市立滝の沢小学校 4年生

3) 日時：2015年（平成27年）11月2日（月）14：00～14：45の1時限分【授業1】
2015年（平成27年）11月12日（木）【授業2の校外学習】

4) 授業の展開【授業1】

	学習活動	指導上の留意点
20分	①藤沢駅まではどのような公共交通の経路があるのか	<ul style="list-style-type: none">・地図帳を見ながら、藤沢市内にはどのような道路（どこへ行くことができる道路）があるのかを確認する。・神奈川県交通、藤沢市の公共交通の特徴を理解する。
20分	②自分たちのグループはどの経路で行くのか	<ul style="list-style-type: none">・チームごとに自分たちの使う経路の特徴を発表する。 (乗り換えが発生する、運賃が高い 等)・藤沢市のカラー写真を使って自分たちの使う経路、目的地の場所を確認する。・各ルートにおける公共交通の利用手段、所要時間について先生から説明する。
5分	③どのように公共交通を使うのか	<ul style="list-style-type: none">・ガイドブックを配布し、自分たちが宿題で調べたこと（所要時間、運賃）と相違がないか確認する。

5) 当日の状況【授業1】



地図で交通の状況を確認



地図で目的地を確認

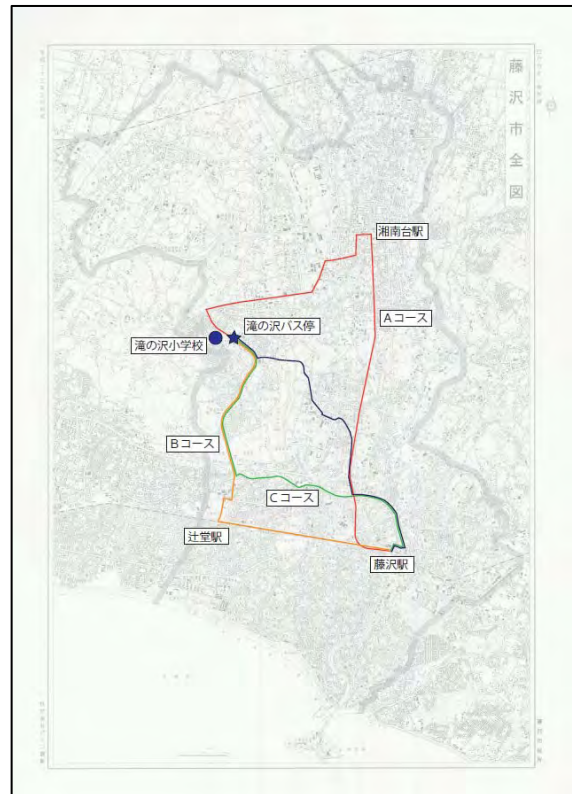


先生からガイドブックの説明

6) 授業で使用了教材

①藤沢市の地図（市全域が掲載された図）

【授業 1】



②バスの乗り方・電車の乗り方ガイドブック（A4版）【授業 1】【授業 2 の校外学習】

公共交通を普段から利用しない児童のために、バスや鉄道といった公共交通の利用方法、ルールやマナーについて記載したガイドブック。全 51 頁構成

表紙

1 ページ目



【授業3】 校外学習をふりかえる【社会※】 ※上位学年での学習事項

【宿題】 横浜への移動手段を考える【社会】

1) 実施概要

11月12日(木)に実施した校外学習(図画工作展の見学)で自分たちが移動したルートを振り返りながら、公共交通で移動した場合とクルマで移動した場合との良いところ、悪いところの比較などを行った。また、授業3のあとに横浜への移動手段を考える宿題を行った。

2) 場所：藤沢市立滝の沢小学校 4年生

3) 日時：2015年(平成27年)11月16日(月) 10:40~11:30の1時限分 **【授業3】**

4) 授業の展開【授業3】

	学習活動	指導上の留意点
25分	①校外学習を振り返る	<ul style="list-style-type: none">・校外学習の時に利用したルートの所要時間、運賃等をまとめる。・校外学習の感想を記載する。 (⇒校外学習当日に、バスの到着が遅れたため、乗りたい電車に乗れなかった等の意見があがった。)
15分	②公共交通とクルマの良いところ、悪いところを発表する	<ul style="list-style-type: none">・校外学習を体験した結果を踏まえ、公共交通の良いところ、悪いところを発表し、それに合わせてクルマと比較してもらう。 (⇒校外学習の際、しゃべり声が大きくて注意されたという意見があがった。それに対してクルマではどうか質問を投げかける事で、公共交通とクルマの比較を行った。)
10分	③宿題(横浜へ移動する手段を考える)の配布、説明	<ul style="list-style-type: none">・自宅学習のための資料を配布し、内容について説明を行った。

5) 当日の状況【授業3】



振り返り内容について発表




良いところ、悪いところの発表




宿題の配布、説明

6) 授業で使用した教材


①公共交通の良いところ、悪いところの札 (A5サイズ) (一例)【授業3】

 公共交通の「長所」


**家族やお友達と
みんなで
移動できる**

 クルマの「短所」

CO² (二酸化炭素)
を多く出す

 クルマの「長所」

好きなところに行ける

 公共交通の「短所」

**行きづらい
場所もある**
(バスや電車が通ってないところ)

②児童への配布教材（A3サイズ）【宿題】

宿題の記入シート

宿題① 児童は、横浜駅までどのような公共交通、経路で行こうと思うか、ペンでなぞってみましょう

宿題② 児童は、自分で考えた公共交通のルートの良いところ(○)や悪いところ(×)を記入しましょう。保護者の方は、横浜駅までクルマで行く場合と公共交通で行く場合の両方について、良いところ(○)や悪いところ(×)を記入してみてください。

記入者 分類	児童 が記入する欄 (自分の考えた公共交通の経路は…)	保護者の方 が記入する欄	
		(クルマで行くと…)	(公共交通で行くと…)
記入例	○ 渋滞の心配がなく、時間通りに目的地に行ける × どの電車に乗ればよいかわからない など	○ 家から出て車に行くことができる × 日曜日など道路が混雑して遅れる など	○ 駐車場の心配がない × 電車が混んでいると乗ることができない など
快適性・利便性			
目的地までの所要時間			
目的地までかかる金額(運賃)			
地球環境			
【 】			
【 】			

③保護者への配布教材（取組みに関する説明と宿題への参加依頼・A4サイズ）【宿題】

保護者各位

2015年（平成27年）11月16日

藤沢市立滝の沢小学校

校長 加藤 優子

現在、社会科の学習と併せて、「かしこいクルマの使い方」について学習を行っております。

この学習では、クルマは便利で、私たちの生活になくてはならない乗り物である一方で、地球温暖化問題（CO2）や交通渋滞など、クルマが引き起こす問題もあり、万能な乗り物ではないことを知ってもらいたいと考えております。また、この学習を通じて、子どもたちが、目的や行き先などにあわせて、移動手段を考え、かしこくクルマ・公共交通・自転車・徒歩等を使うことができる（かしこいクルマの使い方ができる）ようになって欲しいと考えております。

これまでの授業では、11月12日に校外授業（藤沢市民ギャラリーの図画工作展見学）で、自分たちが調べたルートで、公共交通を使い藤沢駅まで行く経験をしました。その経験をもとに、11月16日にふりかえり授業として、公共交通を利用した際に発見した点、クルマと公共交通の違いなど、体験の感想もとにしながら、交通手段というものを考えてみました。

この宿題は、クルマ、公共交通の良い点、悪い点を意識する事前学習として行うものです。

次の内容は、普段、知る機会の少ないクルマと公共交通に関する話題です。ご一読いただき、この点も踏まえ、児童とともに宿題を実施していただければと思います。

●交通手段とエネルギー

クルマはエアコンの10倍程度のエネルギーを使っており、テレビ、エアコンなど、家庭における色々な消費の中で最も大きくなっています。クルマの使用を少し減らすだけで、エアコンの調整などの他の方法に比べて、10倍以上も、効率的にCO2を減らせるのです。

●交通手段と渋滞問題（クルマによる交通渋滞）

車の渋滞によって国民一人あたり年間30時間分時間がムダになっています。これをお金の価値にかえると、年間12兆円、つまり、日本の国民一人あたり10万円に相当する価値が無駄になっています。渋滞をすることは時間とお金がムダになっている状況といえます。

●交通手段と健康

厚生労働省が1日8,000歩～10,000歩の歩行を推奨しているなかで、公共交通の通勤者の64%以上が1日8,000歩以上歩いており、一方、クルマ通勤の場合には、わずか7.5%となっています。

肥満の目安とされるBMI25以上の人を通勤手段別に分析した結果では、公共交通で通勤する人の肥満の割合が、クルマ通勤の方に対して10%程低くなっています。クルマ通勤の方は、通勤手段を見直せば健康的かもしれません。

●交通手段と事故（安全）

国土交通省が運輸事業における事故件数を集計した結果、平成25年における自動車の事故件数は年間約63万件、1日当たり1,730件にものぼります。一方、公共交通の場合ではバスが8.6件/日、飛行機が0.005件/日、鉄道が2.2件/日となっており、自動車と比較して公共交通は事故件数が少ない乗り物であることが分かります。

資料作成・提供 藤沢市計画建築部都市計画課

【授業4】 移動手段の目的に応じた使い分けの必要性を知識する

1) 実施概要

これまでの校外学習（図画工作展の見学）や【授業3】を踏まえて、自分たちが移動したルートについて、公共交通で移動した場合とクルマで移動した場合との良いところ、悪いところを比較しながら、振り返りを行う。さらにその結果を踏まえて、横浜に行く場合のシチュエーションにおいてどのような移動手段を用いるか考える。

2) 場所：藤沢市立滝の沢小学校 4年生

3) 日時：2015年（平成27年）12月21日（月） 13:10~14:10 の1時限分【授業4】

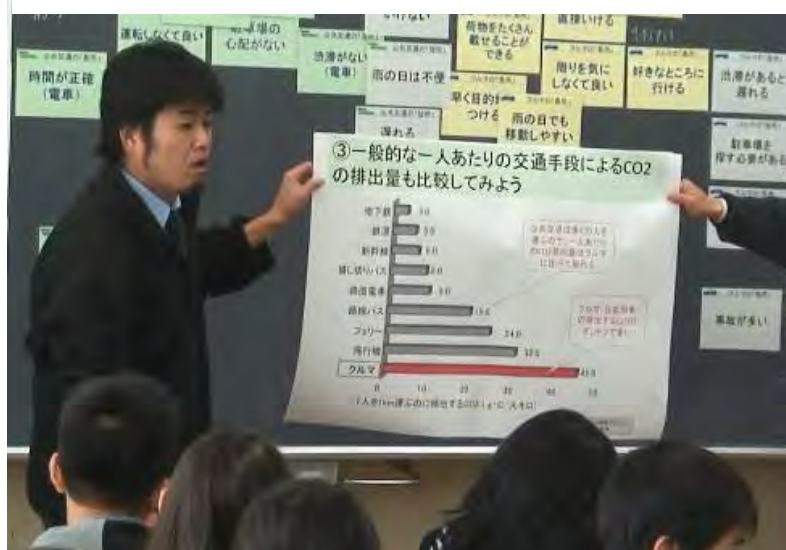
4) 授業の展開【授業4】

	学習活動	指導上の留意点
20分	①宿題の内容を確認しながら公共交通とクルマの良いところ、悪いところを発表する	<ul style="list-style-type: none"> 校外学習による体験や宿題の結果を踏まえ、公共交通やクルマの良いところ、悪いところを発表してもらう。保護者の意見としてもこのような意見があったということ saying してもらう。 出た意見は、事前に準備したA5サイズの札で整理を行い、黒板に札を貼り付けていく。
10分	②CO2の排出量、事故の件数に関するデータを見て理解を深める	<ul style="list-style-type: none"> 便利なクルマでもCO2の排出量が多いことや、事故の発生件数が多いということを、模造紙（データ）を示しながら、説明する。
20分	③班ごとに横浜に行くシチュエーションを決めて、移動手段を考える	<ul style="list-style-type: none"> 「いつ」「何の目的」「誰と」という3つのテーマについて、班ごとに条件を設定して、その移動をする際の移動手段を考える。 班だけでなく、個人でもシチュエーションごとの移動手段を考える。 <p style="text-align: center;">シチュエーション設定</p> <p style="text-align: center;">A どんな天気？ B 何の目的？</p> <p style="text-align: center;">C 家族何人で？ 横浜へ行く</p>
5分	④発表	<ul style="list-style-type: none"> 班ごとに決めた移動手段とその理由を発表する。
	⑤先生からの講評、家庭へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> TPO※に応じて公共交通、クルマを使い分けしていくことができる、必要ということを知ってもらう。 ※TPO（ティーピーオー）. Time（時間）、Place（場所）、Occasion（場合、Opportunity） 家庭へのフィードバックの説明を行う。

5) 当日の状況【授業4】



良いところ、悪いところの発表



データを見て理解を深める




班ごとに発表


6) 授業で使用した教材【授業4】

①公共交通とクルマの良い所、悪い所の札（A5サイズ）


ふりかえり1授業で用いた札に加えて、宿題の内容に基づいてキーワードを追記して利用。

 公共交通の「長所」


**安全で
事故が少ない**

 クルマの「短所」

維持費などが
かかる

 公共交通の「短所」

たくさんの荷物を
運べない

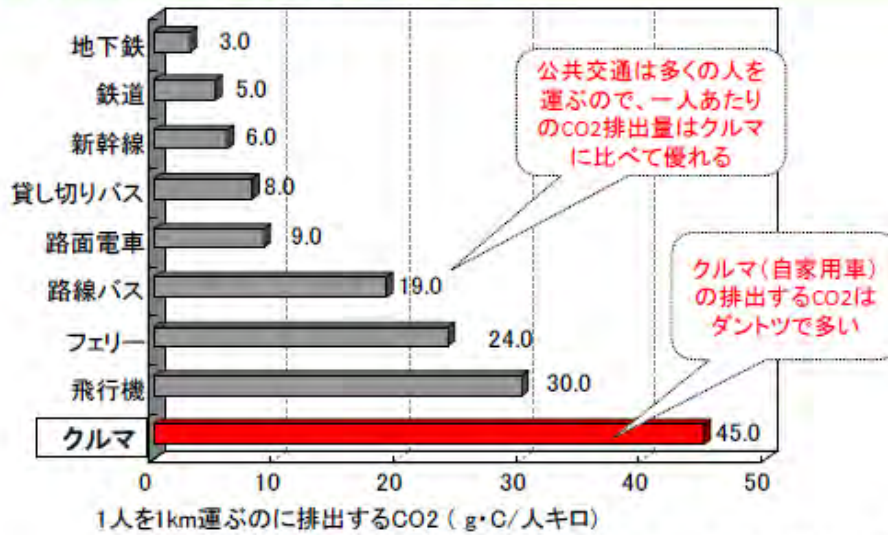
 クルマの「長所」

**目的地に
直接いける**

② データを示す模造紙 (A1サイズ)

※授業の構成上、児童に提示していないものがあります。

③ 一般的な一人あたりの交通手段によるCO₂の排出量も比較してみよう



出典: モビリティ・マネジメントの概要とポイント
筑波大学谷口綾子先生 資料

9

⑤ 事故のリスクを見てみよう

事故の件数はクルマがとて多く、年間630,000件、1日あたり1,720件も発生しています。

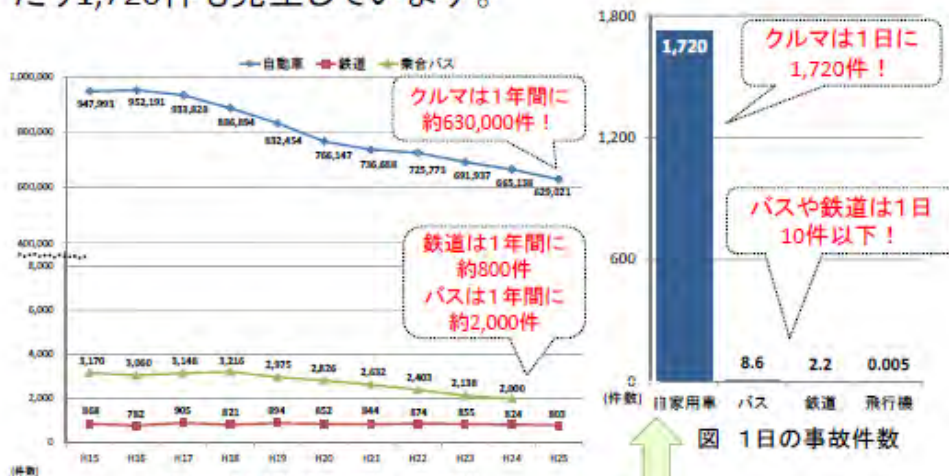


図 1年間の事故件数の推移

※貸合バスH25は集計中のためなし。

出典: 国土交通省「運輸事業における事故件数および事業事故数の推移」

12

③シチュエーション設定シート（A4ヨコ）

横浜に家族と行く状況を設定し、交通手段を考えよう！

年 組 名前: _____

(1) AとBには選んだカードに○をつけてください。Cには自分で考えた人数を書いてください。

自宅	A. どんな天気? 晴れた日 ・ 雨の日	B. 何の目的? 買い物（始まる時間が決まっていない） ・ 習い事（始まる時間が決まっている）	C. 家族何人で? おとな () 人 小学生以上のこども () 人 小学生未満のこども () 人 あわせて () 人	どこへ? 横浜
----	--------------------------------------	---	---	----------------

(2) あなたが設定した上記の状況（シチュエーション）では、クルマと公共交通のどちらの交通手段を選びますか？（いずれかに○をつけてください）

① クルマ ② 公共交通

(3) (2)の交通手段を選んだ理由は何ですか？

MM授業に関する保護者の感想（保護者向けアンケートの結果）

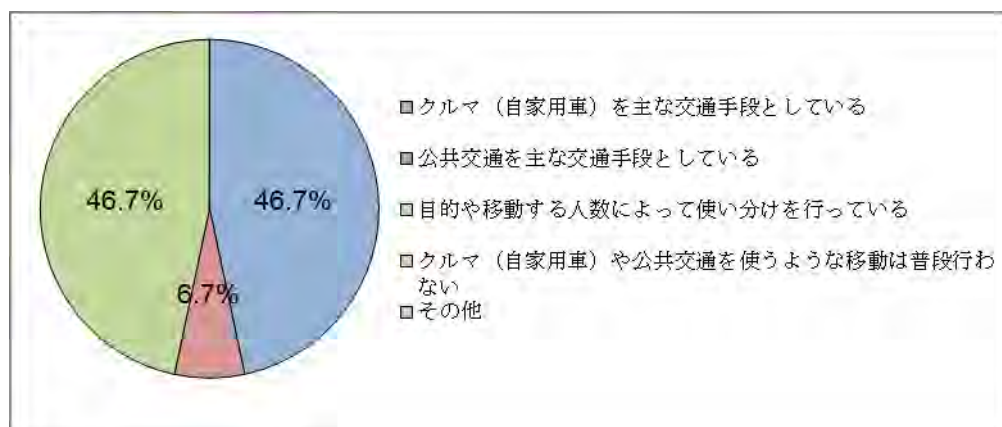
1) 保護者へのアンケート結果

問1：日常的な移動についてお答えください。

日常的な移動手段としては、クルマ（自家用車）を主としている割合が約47%と高く、公共交通を主としている割合が約7%と低くなっている。曜日別の平均歩数を見ると、

しかしながら、目的や移動する人数によって移動手段を使い分けしている割合が約47%と高く、日常的にTPOにあわせて、移動手段を選択していることがわかる。

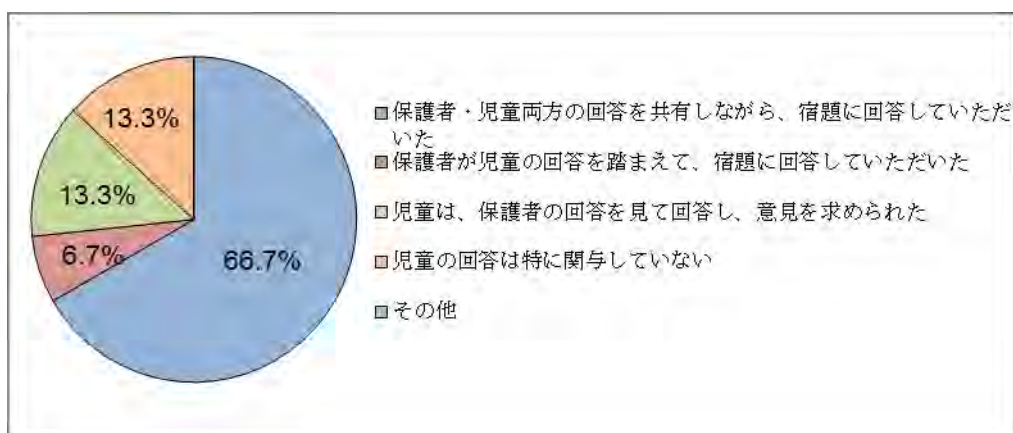
	人数	割合
クルマ(自家用車)を主な交通手段としている	14	46.7%
公共交通を主な交通手段としている	2	6.7%
目的や移動する人数によって使い分けを行っている	14	46.7%
クルマ(自家用車)や公共交通を使うような移動は普段行わない	0	0.0%
その他	0	0.0%



問2：今回の宿題を行うにあたって、保護者と児童とのやり取りについてお答えください。

宿題の実施にあたっては、保護者が児童の回答に対し、何らかの関与している割合（「児童の回答には、特に関与していない」を除いた割合）が、約87%と高い結果になっている

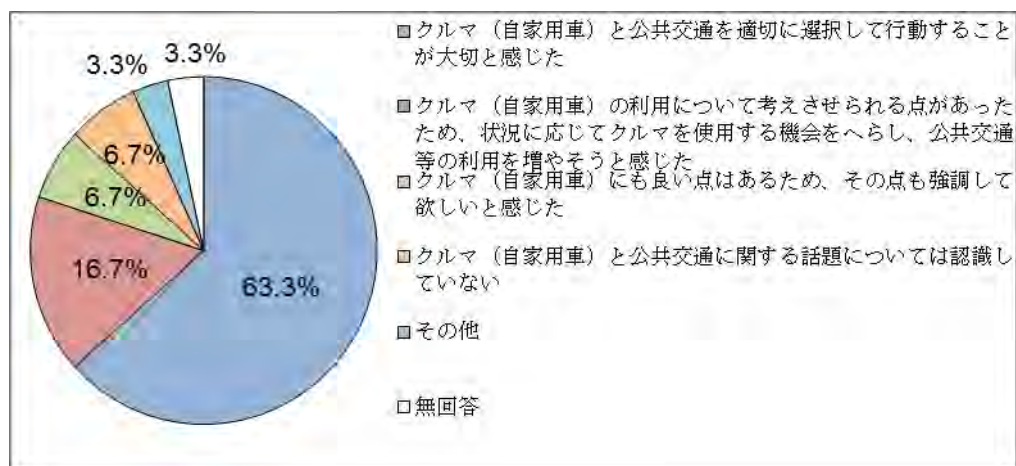
	人数	割合
保護者・児童両方の回答を共有しながら、宿題に回答していただいた	20	66.7%
保護者が児童の回答を踏まえて、宿題に回答していただいた	2	6.7%
児童は、保護者の回答を見て回答し、意見を求められた	4	13.3%
児童の回答は特に関与していない	4	13.3%
その他	0	0.0%



問3：今回の宿題にあたってクルマ（自家用車）と公共交通に関する話題を添付しましたが、考えさせられた点があれば、お答えください。（複数回答可）

「クルマ（自家用車）の利用について考えさせられる点があったため、状況に応じてクルマを使用する機会をへらし、公共交通等の利用を増やそうと感じた」の回答が約17%であったが、「クルマ（自家用車）と公共交通を適切に選択して行動することが大切と感じた」の回答が、約63%と高い結果が得られた。

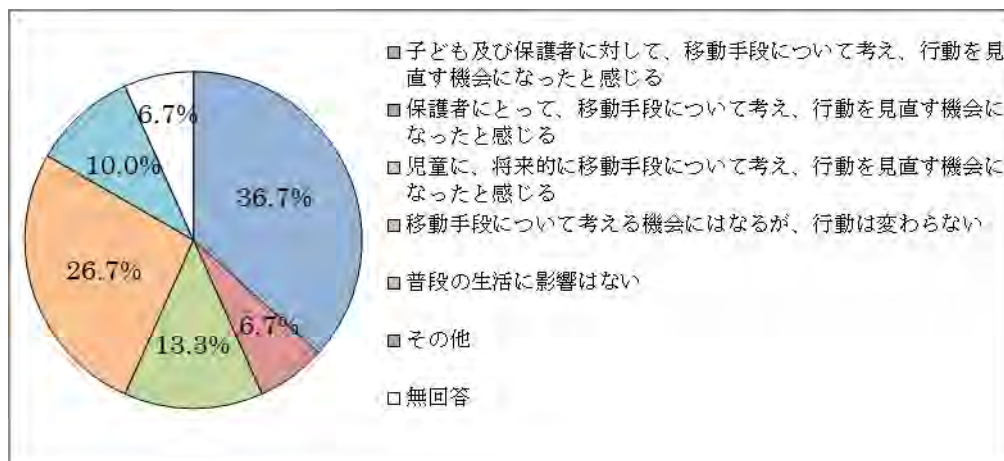
	人数	割合
クルマ（自家用車）と公共交通を適切に選択して行動することが大切と感じた	19	63.3%
クルマ（自家用車）の利用について考えさせられる点があったため、状況に応じてクルマを使用する機会をへらし、公共交通等の利用を増やそうと感じた	5	16.7%
クルマ（自家用車）にも良い点はあるため、その点も強調して欲しいと感じた	2	6.7%
クルマ（自家用車）と公共交通に関する話題については知識していない	2	6.7%
その他	1	3.3%
無回答	1	3.3%



問4：このようなクルマ（自家用車）と公共交通について考える機会を設ける授業についてどのような影響がある（あった）と感じますか。

「子ども及び保護者にとって、移動手段について考え、行動を見直す機会になったと感じる」の回答が、約 37%であり、「保護者もしくは児童にとって移動手段について考え、行動を見直す機会になったと感じる」を含めると、約 57%となっており、半数以上が、この授業（宿題）を通じて、見直す機会になったと回答している。

	人数	割合
子ども及び保護者に対して、移動手段について考え、行動を見直す機会になったと感じる	11	36.7%
保護者にとって、移動手段について考え、行動を見直す機会になったと感じる	2	6.7%
児童に、将来的に移動手段について考え、行動を見直す機会になったと感じる	4	13.3%
移動手段について考える機会にはなるが、行動は変わらない	8	26.7%
普段の生活に影響はない	3	10.0%
その他	0	0.0%
無回答	2	6.7%







問5：授業についての意見。(自由記入)

意見1：なかなか普段じっくり話し合う機会はなかったので、環境の事も含め、自分達に出来る事は何か考える良い時間になったと思います。
意見2：環境との関係につき、学校でも教えてもらいたいし、家庭でも話し合いたいと感じた。
意見3：自家用車を主に生活していますが、行楽などの時は公共交通を利用しています。それは社会性の勉強もでき、子供が自分の力で目的地までどのようにして？いくら必要なのか？が勉強できる為です。学校でも授業でとりあげて頂けるとふだん係わる事ができない方に情報が入りとてもいいと思います。
意見4：クルマの使用にて起こる環境問題について、具体的に指導願います。
意見5：横浜に行くのは年に1回あるかないかで車で行く事もない為ピンとこない授業を聞かないでほしい。
意見6：子供と一緒に考える機会も日常生活においてなかなかないので時にはこういった授業も良いのかなと感じました。
意見7：小学生にはまだ早い。何を学ばせたいのか広範囲すぎる。
意見8：地域によっては「公共交通の本数・路線が少ない」⇒「利用が減る」⇒「廃線」という悪循環が起きている現状も知り、自分たちの地域がいかに恵まれているかということも感じてほしい。
意見9：授業参観でやってほしい。

2) 考察（全体を通じて）

- ・日常生活において約半数の家庭が、TPOにあわせて移動手段を選択しているという実態を把握できた。
- ・今回の取組（授業・宿題）を通じて、今後の行動について見直す機会となったとの回答が半数近く得られたとともに、宿題についても、大半の家庭が保護者と児童と一緒に実施しており、授業実施による保護者等への広がりについても効果が見られた。
- ・自由意見においては、否定的な意見はあったものの「授業参観でやって欲しい」など肯定的な意見が多く得られた。

駒寄小学校における取組み報告

実施概要	・総合的な学習の校外学習（江ノ島探検ミステリーツアー）に合わせ、移動で公共交通を体験することで社会の自動車工業、地球環境について知るプログラムとした。					
年度・学年	H27年度・小学5年生					
授業の狙い	1. 江の島までの交通について理解する 2. クルマと公共交通の良いところ、悪いところを理解する 3. TPOにあわせて移動手段を選択することが、大切であることを理解する					
実施時間	【授業1】 …1 時限分	【授業3】 …2 時限分	【授業2・校外学習】 …1 日間実施			
授業形式	教室内の授業形式	校外学習形式	宿題			
連携する教科と単元名	【社会】自動車工業、国土と自然 【総合学習】江ノ島ミステリーツアー		MMの構成要素	 公共交通の知識 公共交通の利用（実践） 移動の及ぼす影響の把握 公共交通とクルマの対比 移動計画（行動プラン） 仮定した状況下での 選択した交通行動の 評価・共有		
学習構成【授業の進め方】						
授業概要 時間軸	ステップ1	【授業1】公共交通で江ノ島に行く経路等を調べる【社会】  <ul style="list-style-type: none"> 江の島まではどのような公共交通の経路があるのか、自分たちのグループはどの経路で行くのか、どのように公共交通を使うのか、を調べる。 	●		●	
	ステップ2	【授業2】バス、電車を使って江ノ島に行く【総合学習】  <ul style="list-style-type: none"> 実際に公共交通を使い、便利なところ、不便なところ、分かりやすさ、分かりにくさ、不安など感じ、発見する。 		●		
	ステップ3	【宿題】江ノ島への移動体験を振り返る【社会】  <ul style="list-style-type: none"> 公共交通を利用して感じたこと、公共交通の長所、短所や、江の島にある交通施設をふりかえり、まとめる。 			●	
	ステップ4	【授業3】校外学習をふりかえる【社会】 移動手段の目的に応じた使い分けの必要性を知識する <ul style="list-style-type: none"> 自分たちが利用した経路を確認し、公共交通を利用して感じたこと、考えたことをふりかえる。公共交通とクルマの、良いと思う、良くないと思うところを考えてみる。 クルマと公共交通などの目的に応じた使い分けの必要性を発見し、今後、家庭でもどのようなことが出来そうかを考えてみる。 		●	●	●
実施の成果及び反省点	<ul style="list-style-type: none"> 調べる、江ノ島に行き、ふりかえり知識するという一連の流れにおいて、特にふりかえりと発見の授業（授業3）において2時限分連続で実施したことにより、発見（気づき）への展開、児童の理解が円滑であった。 小学校5年生までに修得した学習内容（社会-自動車工業、国土と自然等）があることにより、今回のMM教育の理解が進んだと考えられる。 					

【授業1】公共交通で江ノ島に行く経路等を調べる【社会】

【授業2】バス、電車を使って江ノ島に行く【総合学習】

【宿題】江ノ島への移動体験を振り返る【社会】

1) 実施概要

駒寄小学校の5年生における事前学習として、江の島探検ミステリーツアーに向けて、市内の公共交通について確認し、どの経路を使って移動するのかを検討する授業を実施した。なお、外出の時に見るべき施設や考えといった着眼点を説明した。その後、ミステリーツアーを開催し、バス、電車を使って江ノ島に行った。また江ノ島への移動体験を振り返る宿題を行った。

2) 場所：藤沢市立駒寄小学校 5年生

3) 日時：2015年（平成27年）校外学習の実施前【授業1】 クラスによって適宜実施
2015年（平成27年）11月19日木曜日【授業2の校外学習】

4) 授業の構成：内容（授業1）

- 江の島探検ミステリーツアーに向けての着眼点を説明した。
- ・電車の出発した時間と駅に着いた時間（所要時間）
（バスで来る児童については、バスについても同様に確認する）
 - ・クルマと公共交通の比較（クルマで行ったことのある人）
 - ・江ノ島島内にある交通施設関係等（バス停・バス時刻表・駅から島内までに歩いた場合の所要時間・駐車場・タクシー台数等）

5) 授業で使用した教材

①バスの乗り方・電車の乗り方ガイドブック（A4版）【授業1】【授業2の校外学習】

公共交通を普段から利用しない児童のために、バスや鉄道といった公共交通の利用方法、ルールやマナーについて記載したガイドブック。集合場所についても記載。全34頁構成。

表紙



1 ページ目



②江の島探検ミステリーツアーの感想シート（児童用）【宿題】

☆「江の島探検 ミステリーツアー」に行ってみて☆

名前

辻堂駅までの行き方・かかった時間

電車に乗ってみた感想・気づいたこと

公共交通（電車・バス）の良いところ・悪いところ

クルマの良いところ・悪いところ

江の島にあった交通施設・気づいたこと

【授業3】 校外学習をふりかえる【社会】

移動手段の目的に応じた使い分けの必要性を知識する

1) 実施概要

校外学習での体験や日常生活での経験をもとに、公共交通とクルマの良いところ、悪いところを整理した。また、公共交通とクルマの違いについて、データ等をもとに知識を深めた。

クルマと公共交通の良いところ・悪いところを理解したうえで、TPO に応じた移動手段を選択することが、大切であることを伝え、理解した。

2) 場所：藤沢市立駒寄小学校 5年生

3) 日時：2016年（平成28年）1月19日（火）～22日（金） 【授業3】
2時限分（実施した時限はクラスにより異なる）

4) 授業の展開 【授業3】

	学習活動	指導上の留意点
	ふりかえり授業を始める前に	・感想シートを利用した授業なので、授業の最初に感想シートを返却する。
1時 限分	①【問3】公共交通（電車、バス）の良いところ、悪いところについて、【問4】クルマの良いところ、悪いところについて、を中心に授業を開始する	・公共交通、クルマの良いところ、悪いところについての意見を児童に求める。児童の意見は「利便性・快適性に関するもの」、「目的地までの所要時間に関するもの」のように、大まかな分類に整理する。 ・生徒の発言に合わせて、事故件数のデータ等も示して、知識を深めてもらう。
	②【問1】「辻堂までの行き方・かかった時間は」で出された意見を発表してもらう	・感想シートで出された意見を児童に発表してもらう。自分の感想と、①で整理した意見との相違なども確認する。実際に移動にかかった時間と、時刻表上の時間を比べ、バスや電車が移動に正確な乗り物であることを認識してもらう。
	③【問2】「電車を乗ってみた感想・気づいたこと」で出された意見について紹介する	・感想シートで出された意見を児童に発表してもらう。同じような意見でも公共交通とクルマで食い違うものを確認する。
	④公共交通、クルマの良いところ、悪いところについての意見交換を行う	・児童から出た意見を先生が整理し、意見がくい違う点や、多く意見があった点について話題提供を行う。意見のくい違いについては、公共交

	<p>⑤【問5】江の島にあった交通施設・気づいたことを発表してもらう</p>	<p>通、クルマのどちらかが移動手段として優れるものではなく、状況によって選択が異なるということなどを解説する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平日および休日における江の島大橋、駐車場の様子（写真）を提示し、どんな交通施設があったのか挙げてもらう。 模造紙の平日と休日の混雑について、理解を深める。休日にクルマで行くと渋滞になってしまうと同時に公共交通で行くと駅から歩かなければいけないことも併せて気づいてもらう。
<p>1 時 限分</p>	<p>⑥日常生活で江ノ島に行く状況（シチュエーション）を設定する</p> <p>⑦設定した状況においてクルマか公共交通のいずれを選ぶか考える</p> <p>⑧先生から講評する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自宅から江ノ島に行くことは固定条件として、以下のA～Cの状況をグループごとに決めるグループごとにA～Bのカードをくじ引きのようにひいて、出た内容に応じた設定を行う。Cはグループで設定する。 シチュエーション設定 A どんな日に？ B 何をするために？ C 家族何人で？ 江の島へ行く 設定した状況において、クルマ・公共交通の手段をまとめる。TPO※に応じて公共交通、クルマを使い分けしていくことができる、必要ということを知ってもらう。 グループごとにクルマと公共交通のどちらを使うかとその理由を発表する。 ※TPO（ティーピーオー）. Time（時間）、Place（場所）、Occasion（場合。Opportunity） 公共交通、クルマを状況に応じて選択することが地球環境、目的を全うするために重要という趣旨の説明をする。日常生活においても、TPOに応じた移動手段の選択を実践してみるよう伝える。
	<p>授業についての感想を書く</p>	

5) 当日の状況 【授業3】



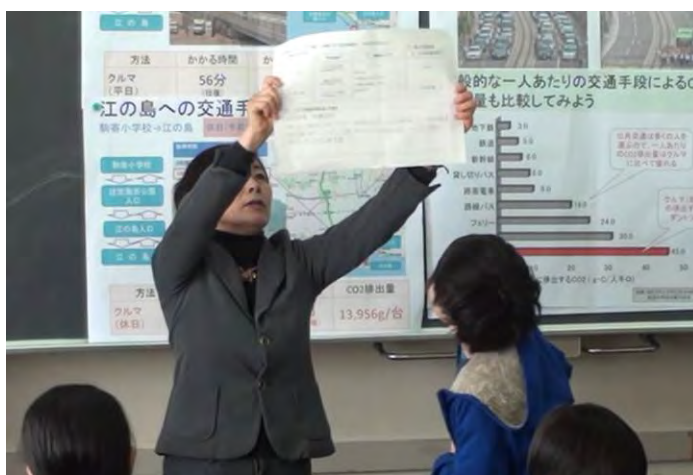
良いところ、悪いところを考える



データ等をもとに知識を深める



TPOに応じた移動手段を考える

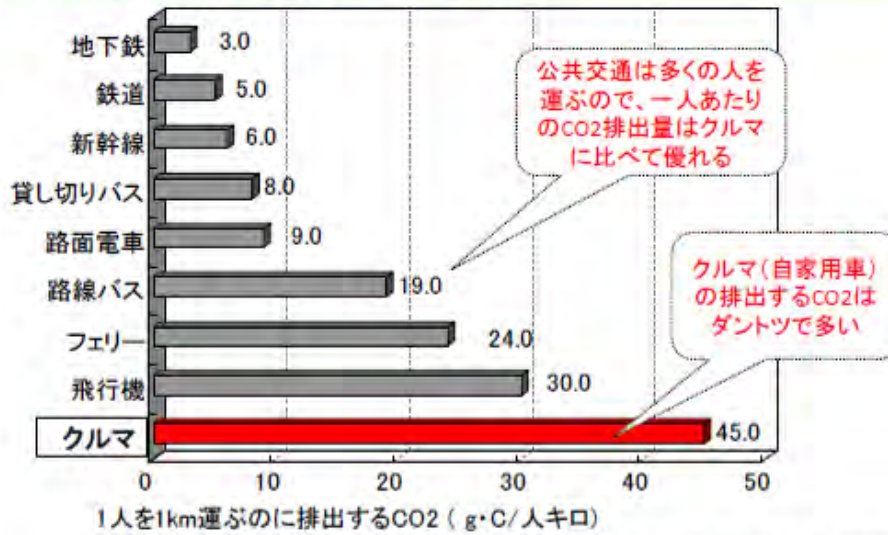


考えた移動手段について発表

6) 授業で使った教材 【授業3】

②知識を深めるためのデータ集 (A1サイズ模造紙)

③一般的な一人あたりの交通手段によるCO2の排出量も比較してみよう



出典:モビリティ・マネジメントの概要とポイント
筑波大学山口綾子先生 資料

⑤事故のリスクを見てみよう

事故の件数はクルマがとても多く、年間630,000件、1日あたり1,720件も発生しています。

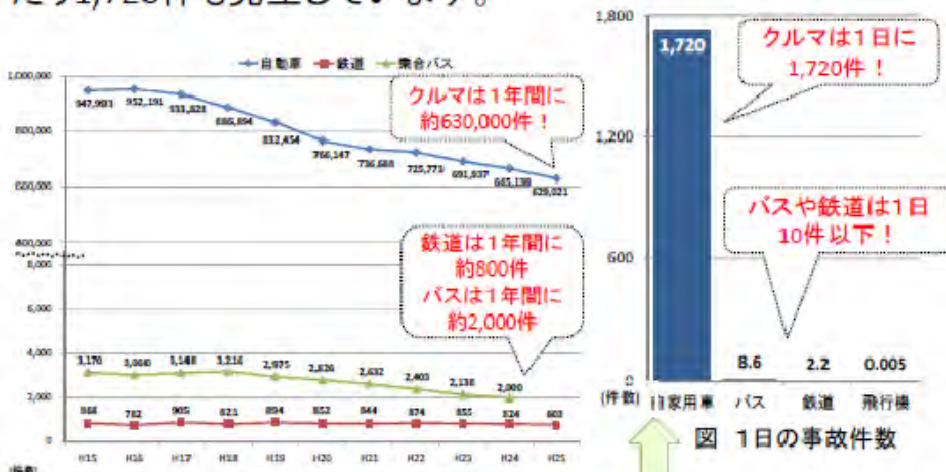


図 1年間の事故件数の推移

※乗合バスH25は集計中のためなし。

出典:国土交通省「運輸事業における事故件数および事業者数の推移」

渋滞対策 クルマと路線バスを比べてみよう



乗用車50台と50人



路線バスと50人

出典：(公財)とやま環境財団HPより 撮影地：富山県高岡市

1

③交通施設を確認する際に用いた地図（A1サイズ）



④江の島の平日と休日の様子（A3サイズカラー写真）



⑤江の島へ行く際の所要時間、費用及びCO²排出量一覧（A1サイズ模造紙）

江の島への交通手段(クルマの場合)

駒寄小学校→江の島 平日(午前10時00分出発) 江の島の平均駐車料金

駒寄小学校

⇕

辻堂海浜公園入口

⇕

江の島入口

⇕

江の島

駐車時間	料金
2時間	620
3時間	1,020

方法	かかる時間	かかる費用	CO ₂ 排出量
クルマ (平日)	56分 (往復)	1,280円 (ガソリン+駐車場)	4,984g

江の島への交通手段(公共交通の場合)

駒寄小学校→江の島

平日(午前10時00分出発)



方法	かかる時間	かかる費用	CO2排出量
公共交通機関	70分 (往復*乗換含まない)	1,132円 (往復のバス、電車代)	660g

江の島への交通手段(クルマの場合)

駒寄小学校→江の島

休日(午前10時00分出発)

江の島の
平均駐車料金



方法	かかる時間	かかる費用	CO2排出量
クルマ (休日)	130分 (往復)	1,498円 (ガソリン+駐車場)	13,956g

⑥シチュエーションカード（A5サイズ）

1) いつ

平日	休日 (土曜日や日曜日)
----	-----------------

2) 何の目的

江ノ島から遊覧船に 乗る(11時)	新江の島水族館の イルカショー
展望台に登る	

⑦状況設定シート（個人、班ともにA3ヨコサイズ）

年 組 名前: _____

『自宅』から『江の島』に家族と行く状況を設定し、交通手段を考えよう！

(1) はじめに状況を設定してください。 → (2) 交通手段を選んでください。

AとBは、グループのリーダーが選んだカードと同じものにOをつけてください。	Cには、自分で考えた、人数を書いてください	あなたがA～Cで設定した状況で、「クルマ」と「公共交通」のどちらの交通手段をつかうか考えて、選んだ方にOをつけてください
---------------------------------------	-----------------------	--

A. いつ？	B. 何の目的？	C. 家族何人で？	D. どんな交通手段で？
<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">平日</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">土・日・祝日</div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">へんてん丸に乗る (始まる時間が決まっている)</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">展望灯台に登る (始まる時間が決まっていない)</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">イルカショーを見る (始まる時間が決まっている)</div>	おとな () 人 小学生以上のこども () 人 小学生未満のこども () 人 あわせて () 人	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">クルマ</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; text-align: center;">公共交通</div>

(3) (2) の交通手段を選んだ理由は何ですか？あてはまるものすべてにOをつけてください。 ←
 その他の場合は理由を書いてください。

<input type="checkbox"/> 快適性や利便性	<input type="checkbox"/> 所要時間（かかる時間）	<input type="checkbox"/> 金額（運賃）	<input type="checkbox"/> 地球環境	<input type="checkbox"/> 事故
<input type="checkbox"/> その他（→具体的に： _____）				

_____ 班

『自宅』から『江ノ島』に家族と行く状況を設定し、交通手段を考えよう！

(1) 設定した状況 (2) 選んだ交通手段

A. どんな日に？	B. 何をするために？	C. 家族何人で？	D. どんな交通手段で？
<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">平日</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">休日</div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">アイランドスバ</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">新江ノ島水族館</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">江の島周辺観光</div>	おとな () 人 小学生以上のこども () 人 小学生未満のこども () 人 あわせて () 人	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">クルマ</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; text-align: center;">公共交通</div>

(3) (2) の交通手段を選んだ理由

<input type="checkbox"/> 快適性や利便性	<input type="checkbox"/> 所要時間（かかる時間）	<input type="checkbox"/> 金額（運賃）	<input type="checkbox"/> 地球環境	<input type="checkbox"/> 健康
<input type="checkbox"/> その他（→具体的に： _____）				

MM授業をふりかえっての感想

授業4の実施後、これまでの授業に対する感想を生徒に聞きました。

【授業を終えての感想】

感想としては、提示したデータについて初めて知ったという事への驚きや、公共交通に関する知識が増えたという意見がありました。

また、「CO²等の環境問題」と「移動手段の選択」の関連性を学んだという声もありました。

【主な感想】

- ・今まで何も考えずに、なんとなく乗っていた車や公共交通ですが、車の事故が1日1,000件以上あったとは、びっくりしました。
- ・これからは CO2削減や、かかる時間、安全性などを考えて、公共交通に乗りたいと思います。
- ・となりの人や、班の人と車&公共交通のことについて、いろいろと話し合っ、車&公共交通のメリット・デメリットを知ることが出来た。
- ・藤沢市の公共交通のことや車のことが知れたので良かったです。
- ・私は、だいたいいつも車なのでCO₂も含め、電車やバスでも良いなと思いました。もっとも公共交通に乗ってみたいになりました。
- ・公共交通が地球に優しいというのは、バスの上のチラシみたいなのに書いてあるのを見たので知っていましたが、具体的にどんなふうに地球に優しいかは知りませんでしたので、とても勉強になりました。





【今後できそうなこと】

自分たちの家族構成や状況に合わせてクルマと公共交通を使いわけるといった意見が多く挙げられました。また、環境問題を考えた移動手段の選択をしたいという意見もありました。

【主な感想】

- ・道路が渋滞すると、バスの時刻表がずれてしまったり、待ち合わせの時間に遅れてしまうなど、良くないことが起こると知ったから、これからは車に頼りすぎずに、バスや電車、自転車なども使っていこうと思った。
- ・人数が多くて、車に乗りきれない時は公共交通など。車に乗りきれたり、犬もいたりする時は車で行ったりしたら良いと思いました。
- ・車は渋滞するといっぱい排出ガスが出るから、できるだけ公共交通を使っていきたいなと思いました。
- ・今後できそうなことは、車と公共交通の使い分けです。私は、いつも車の方が便利で、身内の人しか乗っていないから楽だと思っていたけど、車はあんなにもガスがでていると思ったので、地球のためにもバスや電車も使います。

高谷小学校における取組み報告

実施概要	・保健の授業に合わせ、健康をテーマとして歩くことや移動手段を考えるプログラムとした。					
年度・学年	H27年度・小学3年生					
授業の狙い	1. 歩くことと健康の関係の理解 2. 健康の視点からみた移動手段選択の理解					
実施時間	【授業1】 …1 時限分 【授業2】 …1 時限分					
授業形式	教室内の授業形式	校外学習形式	宿題			
連携する教科と単元名	【保健】健康、運動について知る		MMの構成要素	習熟の深度化 		
学習構成【授業の進め方】				公共交通の知識	公共交通の利用(実践)	移動の及ぼす影響の把握
授業概要 時間軸	ステップ1	【宿題】万歩計をつかって記録(3日間)をとる【保健】  ・万歩計をつけて3日間生活をし、歩いた歩数と移動手段を交通きろくカードにまとめ、自分たちの歩数を知る。		●万歩計	●	
	ステップ2	【授業1】歩くことが健康につながることを理解する【保健】  ・歩くことが運動の一つであること、健康につながるということを知る。			●	
	ステップ3	【宿題】万歩計をつかって記録(1日間)をとる【保健】  ・授業1を受けた後に、もういちど万歩計をつけて1日生活をして、交通きろくカードにまとめる。 ・前回の歩数の記録と比べてみる。		●万歩計	●	
	ステップ4	【授業2】移動手段による歩数の違い、健康との関係を理解する ・日によって歩数が違うこと、生活で使う移動手段によって歩数が違うことを知る。			●	● ●
	ステップ5					
実施の成果及び反省点	実施中					

今後の藤沢市における MM 教育の進め方

藤沢市におけるモビリティ・マネジメント教育については、平成 30 年度（目標）からの全市展開に向け、平成 28 年度からは、引き続きモデル校における授業を通じた MM 教育授業例を蓄積するとともに、全市展開に向けた仕組みづくり等の検討を進めます。

1. 実施目的

藤沢市版モビリティ・マネジメント教育は、次の「子どもたちのめざす姿」の実現を目的に実施します。

～子どもたちのめざす姿～

子どもたちが

- ・ TPO にあわせて、移動手段を考え、かしこく公共交通、クルマ、自転車、徒歩等を使うことができる
- ・ 地球環境問題などの社会的な影響に配慮して行動することができる

2. 実施方針

モビリティ・マネジメント教育の実施にあたっては、上記の目的のもと、実際に授業する先生が、授業例、教材等をもとに教育課程と整合のとれる部分のみを実施、または新たな授業内容を考案するなど、アレンジしながら実施していくことを想定しています。

3. 特徴

つぎの3つの特徴をふまえた MM 教育の展開を図ります。

特徴1： 知識と実践の構成による MM 教育の展開

特徴2： 教育課程と連携した MM 教育の展開

特徴3： 児童の公共交通の利用状況を勘案した MM 教育の展開

特徴1：知識と実践の構成による MM 教育の展開

→児童が『「知っている」＋「乗れる」』ことを基本とした授業構成にする。

特徴2：教育課程と連携した MM 教育の展開

→社会科・総合的な学習など様々な教育課程と連携した取り組みが出来る MM 教育とする。

特徴3：児童の公共交通の利用状況を勘案した MM 教育の展開

→児童の公共交通への利用状況を考慮した MM 教育として実施する。

4. 連携する学習内容とMM教育の構成要素との関係

連携する学習内容とMM教育の構成要素との関係については、下表のとおりと考えております。

その中で、「公共交通の知識」、「公共交通の利用（実践）」、「移動の及ぼす効果（影響）の把握」については、様々な学年及び教科で連携が可能であると考えており、実施を検討します。

また、高学年を中心に、MM教育の核となる構成要素（「公共交通とクルマの対比」、「仮定した状況下での移動計画（行動プラン）」、「選択した移動（計画）の評価・共有」）の実施を検討します。

表1-連携する学習内容（学年別）

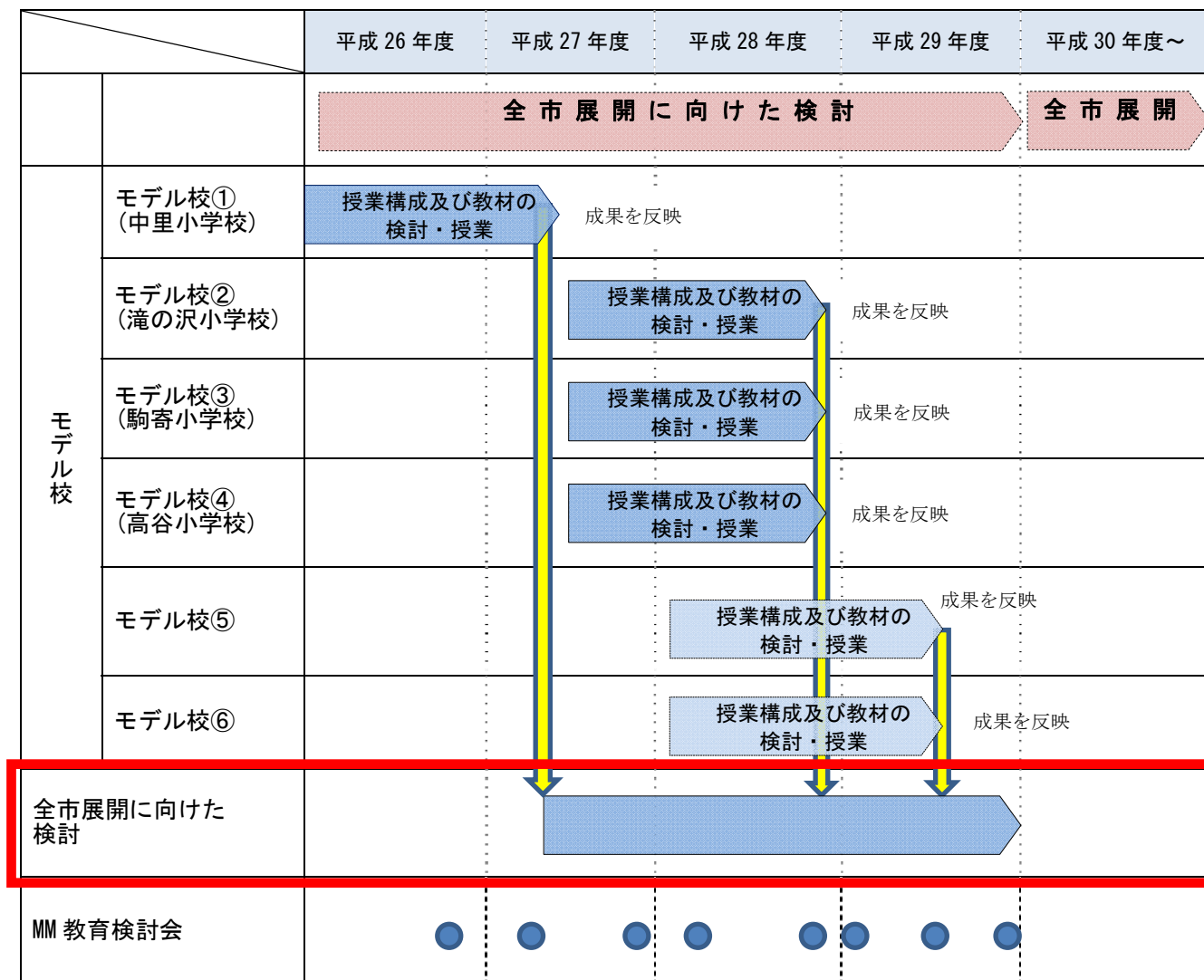
			MM教育の構成要素					
			公共交通の知識	公共交通の利用(実践)	移動の及ぼす効果(影響)の把握	公共交通とクルマの対比	仮定した状況下での移動計画(行動プラン)	選択した移動(計画)の評価・共有
<p><凡 例></p> <p>●：実施済</p> <p>○：未実施</p> <p> ：MM教育の核(TPOに合わせて移動手段を考える構成要素)</p> <p>(●)：要素の部分的実施</p>								
連携する内容								
学年	教科	単 元						
小3	社会	わたしたちの大好きなまち	○		○			
		変わるわたしたちの暮らし	○		○			
	保健	毎日の生活と健康			●		(●)	(●)
		育ちゆく体とわたし			●		(●)	(●)
総合	地域等の学習		○	○ (○)	○ (○)	○ (○)	○ (○)	
小4	社会	わたしたちの県のまちづくり	●			●	●	●
	総合	地域等の学習		●	● (●)	● (●)	● (●)	● (●)
小5	社会	工業生産を支える人々	●		●	●	●	●
		暮らしを支える情報	○		○	○	○	○
		国土の自然とともに生きる			●	●	●	●
	国語	ディベート	●		●	●		
総合	地域等の学習		●	● (●)	● (●)	● (●)	● (●)	
小6	社会	暮らしの中の政治	○		○	○		
	理科	わたしたちの生活と環境			●	●	●	●
		生物と地球環境			●	●	●	●
総合	地域等の学習		●	● (●)	● (●)	● (●)	● (●)	

表2-連携する学習内容（教科別）

			MM教育の構成要素					
			公共交通の知識	公共交通の利用(実践)	移動の及ぼす効果(影響)の把握	公共交通とクルマの対比	仮定した況下での移動計画(行動プラン)	選択した移動(計画)の評価・共有
<p>＜凡 例＞</p> <p>●：実施済 ○：未実施</p> <p>□：MM教育の核(TPOに合わせて)移動手段を考える構成要素 (●)：要素の部分的実施</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・路線・利用方法の現状・公共交通の仕事 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動計画の立案 ・公共交通利用の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的影響 ・個人への影響 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動手段選択の複数の評価軸認識 ・メリットデメリットの整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数評価軸での移動の選択 	<ul style="list-style-type: none"> ・TPOを意識した移動の必要性の認識 ・交通行動の意識変化の共有
連携する内容								
教科	学年	単 元						
社会	小3 小4	わたしたちの大好きなまち	○		○			
		変わるわたしたちの暮らし	○		○			
		わたしたちの県のまちづくり	●			●	●	●
	小5	工業生産を支える人々	●		●	●	●	●
		暮らしを支える情報	○		○	○	○	○
		国土の自然とともに生きる			●	●	●	●
小6	暮らしの中の政治	○		○	○			
理科	小6	わたしたちの生活と環境			●	●	●	●
		生物と地球環境			●	●	●	●
国語	小5	ディベート	●		●	●		
保健	小3	毎日の生活と健康			●		(●)	(●)
	小4	育ちゆく体とわたし			●		(●)	(●)
総合的な学習	小3	＜学習内容＞		○	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)
	小4	環境、福祉・健康、		●	●(●)	●(●)	●(●)	●(●)
	小5	地域の人々の暮らし、		●	●(●)	●(●)	●(●)	●(●)
	小6	社会と政治など		●	●(●)	●(●)	●(●)	●(●)

5. スケジュール

平成 28 年度からは、協力校での MM 教育授業の実施とともに、手引書等の教材作成や実施・周知方法等の平成 30 年度（目標）からの全市展開に向けた検討を進めます。



6. 全市展開に向けた教材等の作成

MM 教育の全市展開に向けては、次の教材等の作成・検討を行っていきます。

(1) 藤沢市 MM 教育手引書の作成

授業を行う先生が、MM 教育授業実施の参考となるよう、次の内容を記載した手引書の作成を進めます。

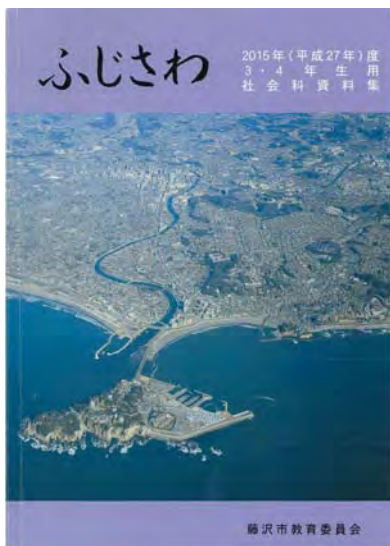
また、協力校での MM 教育授業をもとに、授業で活用可能な図面等の教材を作成し、手引書とあわせて、その教材データを配布できるようにします。

<記載内容>

- ・モビリティ・マネジメント教育を実施する意義・効果
- ・藤沢市における MM 教育の位置づけについて
- ・教育課程における MM 教育と連携が可能な学習分野について（1年を通じて）
- ・学年別、テーマ別（環境等）の授業例、
- ・実践・活動の記録集（ふれあい・人権・環境・平和教育）の記載例
- ・教材データ

(2) 3・4年生向け副読本「ふじさわ」への MM 教育の掲載

3・4年生用の社会科資料集として、全児童に配布されている「ふじさわ」において、『交通と人々の暮らし（電車）・（バス）』欄に MM 教育に関する内容の記載に向け、内容を検討するとともに、関係者との協議・調整を行います。



「ふじさわ」表紙



現在の記載内容<交通と人々の暮らし（電車）>



現在の記載内容＜交通と人々の暮らし（バス）＞

(3) 電車・バスの乗り方ガイドマップの作成

電車・バスの乗り方ガイドマップについては、これまで協力校の校外学習等にあわせて作成しておりましたが、全市展開に向けては、市内全小学校が活用可能なガイドマップの作成に向けた検討を進めます。

具体的には、鉄道の乗換えがある藤沢駅、湘南台駅のわかりやすい乗換えマップ等の作成など、提供方法を含め、先生や児童が利用しやすいガイドマップの作成を行います。



現時点での乗り方ガイドマップ（滝の沢小バージョン）

7. 全市展開時の実施・周知方法

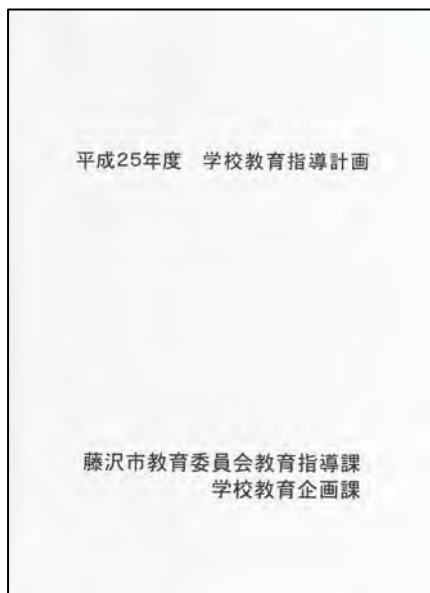
平成30年度（目標）からの全市展開時におけるMM教育の実施・周知方法として、次の検討・協議を進めます。

(1) 学校教育指導計画へのMM教育の関する記載の追加

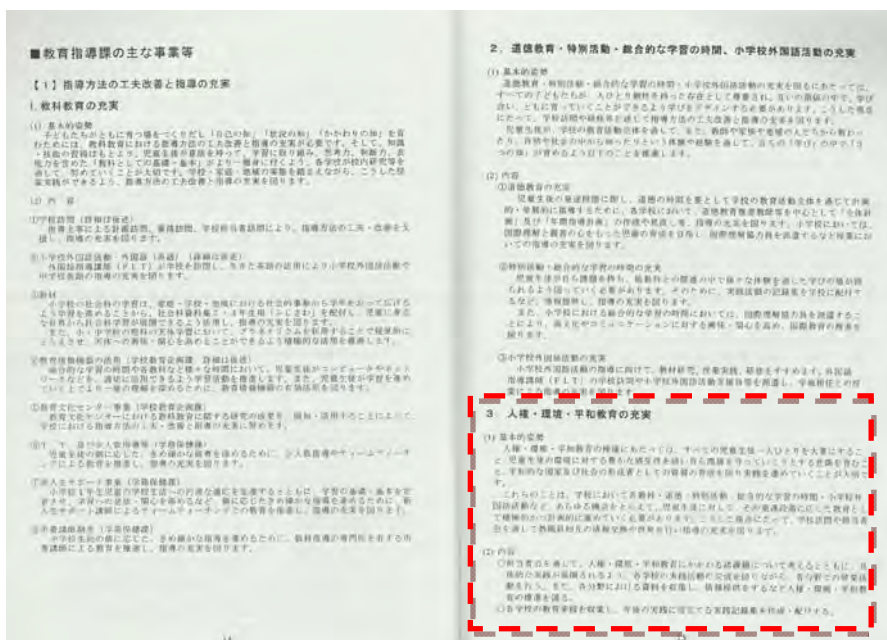
藤沢市の小学校教育におけるMM教育の位置づけを明確にするため、学校教育指導計画への記載を検討します。

○学校教育指導計画

藤沢市教育委員会教育指導課、学校教育企画課が毎年発行している「本市の学校教育の目標と重点目標」や「指導方法の工夫改善と指導の充実」等を記載した本市の学校教育における指導計画



「学校教育指導計画」表紙



記載例「指導方法の工夫改善と指導の充実」

(2) 実践・活動の記録集（ふれあい・人権・環境・平和教育）へのMM教育の追加

市内小学校におけるMM教育の継続的な実施を促すため、学校教育指導計画に基づき作成することとされている、各学校における実践をまとめた「実践・活動の記録集（ふれあい・人権・環境・平和教育）」の活動（領域）にMM教育（交通環境学習）の追加を検討します。

○実践・活動の記録集（ふれあい・人権・環境・平和教育）

学校教育指導計画において、人権・環境・平和教育の充実を図り、各学校における教育実践を収集し、今後の実践に役立てる記録集を作成・配付することとされている。「自然を知る、環境を学ぶ」や「福祉・社会を体験する」などの複数の「領域」に分類しまとめられている。



「実践・活動の記録集」表紙

＊「領域」について

コード	領域	領域に基づく活動	具体的な行事・実践例
A	自然を知る環境を学ぶ	・自然・環境学習 ・自然体験	・チャレンジ「かわせみ」での活動 ・植物(米・野菜等)の栽培や動物の飼育観察 ・八ヶ岳野外体験教室等での体験活動
B	スポーツやレクリエーションを楽しむ	・自然を生かしたスポーツやレクリエーション ・人とのふれあいを深めるスポーツ、レクリエーション ・異学年交流	・八ヶ岳野外体験教室等で実施する登山、ハイキング、フィールドゲーム等 ・校内における球技大会、老人会とのゲートボール、近隣学校との交流スポーツ大会 ・学校たんけん、地域探検等
C	文化に親しむものを作る	・工作(もの作り体験等) ・文芸(口承文芸等) ・文化(芸術鑑賞等)	・木、竹のクラフト、郷土工芸等 ・昔話、童話等の読み聞かせ ・音楽会、演劇鑑賞教室、史跡巡り
D	福祉・社会を体験する	・福祉ボランティア活動等 ・職場見学や体験、職業講話等	・点字、盲導犬、アイマスク体験、ユニバーサルデザイン、ボランティア清掃等 ・スーパー、消防署等の社会科見学
E	地域ぐるみでの活動	・伝統芸能 ・地域生産活動 ・歴史・文化 ・地域交流(地域教育力の活用) ・幼保小中連携等	・和太鼓、伝承遊び等 ・地域に関わる農業体験、米作り ・地域の歴史や文化を学ぶ活動 ・公民館祭りの参加、地域指導講師の招聘等 ・園児、児童生徒、高校生、大学生との交流
F	外国の人たちと交流する	・国際理解・交流活動等	・国際理解教室 ・FLT教師との交流
G	人権に関する事	・リーフレットを活用した授業 ・障がい者に関わる人権 ・高齢者に関わる人権 ・いじめ、差別に関わる問題 ・男女平等や性別に関わる人権	・こどもの権利条約啓発リーフレット、スクールセクハラ防止リーフレット等 ・アイマスク、車椅子体験 ・介護施設等の見学や体験 ・人権教育移動教室の参加
H	平和に関する事	・平和の尊さについて学ぶ	・戦争体験、原爆被爆体験講話等 ・戦争に関わる資料館見学やビデオ鑑賞等
Z	その他	・上記に当てはまらないもの、領域が不明なもの	

現在の「領域」

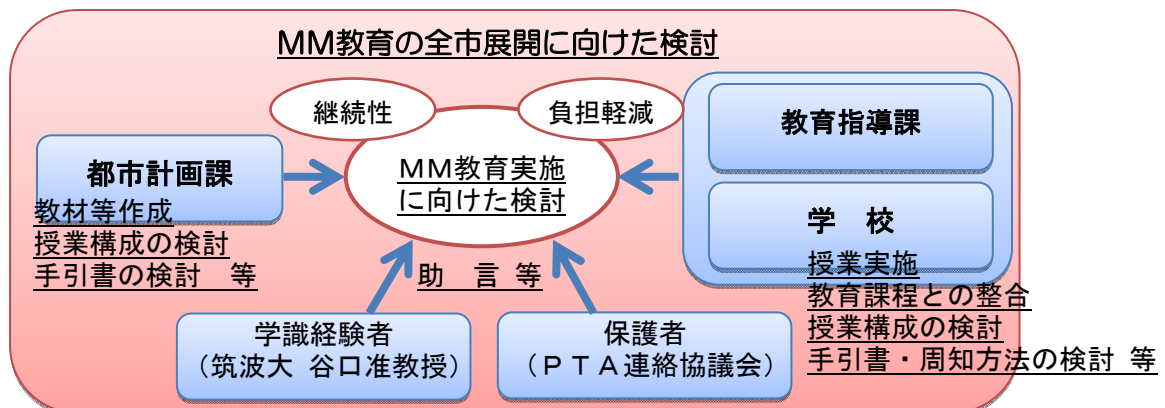
(2) 先生向け MM 教育研修会の実施

MM 教育の全市展開及び各学校における継続的な実施に向けては、実際に授業する先生が、MM 教育の意義や効果を理解し、MM 教育の授業例を知ることが重要であると考えており、既存の人権・環境・平和教育担当者会(年 2 回開催)等を活用した、先生向け MM 教育研修会の実施に向けた検討を進めます。

8. 役割分担

MM 教育の全市展開に向けては、下図の役割分担のもと、それぞれが連携しながら進めていきます。

また、検討会等を通じ学識経験者及び保護者からの助言等を受けながら進めて行きます



藤沢市 MM 教育における交通事業者との連携

- ・ 交通事業者との連携について、詳細は今後検討していく予定です。
- ・ 概略は次のように進めることを想定しております。

実施概要	・ バス車両の乗車体験や鉄道施設の見学等について交通事業者の連携しながら行う。						
年度・学年	H28年度・小学3～4年生程度						
授業の狙い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通を利用することに興味をもつ。 ・ 疑似体験などをおして、公共交通を利用する意欲を増やす。 						
実施時間	未定						
授業形式	教室内の授業形式	校外学習形式	宿題				
連携する教科と単元名	【社会】 わたしたちの大好きなまち（3年）、 県のまちづくり（4年）など		MMの構成要素	習熟の深度化			
学習構成【授業の進め方】				公共交通の知識	公共交通の利用（実践）	移動の及ぼす影響の把握	公共交通とクルマの対比
授業概要 時間軸	ステップ1	<div style="border: 2px solid purple; border-radius: 50%; padding: 20px; width: fit-content; margin: auto;"> 自発的に移動手段の転換を直接もたらしものではないが、高学年になった際に公共交通も移動手段の1つとして選択できるよう準備をするもの。 簡易な内容のMM実施を検討。 </div>					
	ステップ2						
	ステップ3						
	ステップ4						
	ステップ5						
実施の成果及び反省点							

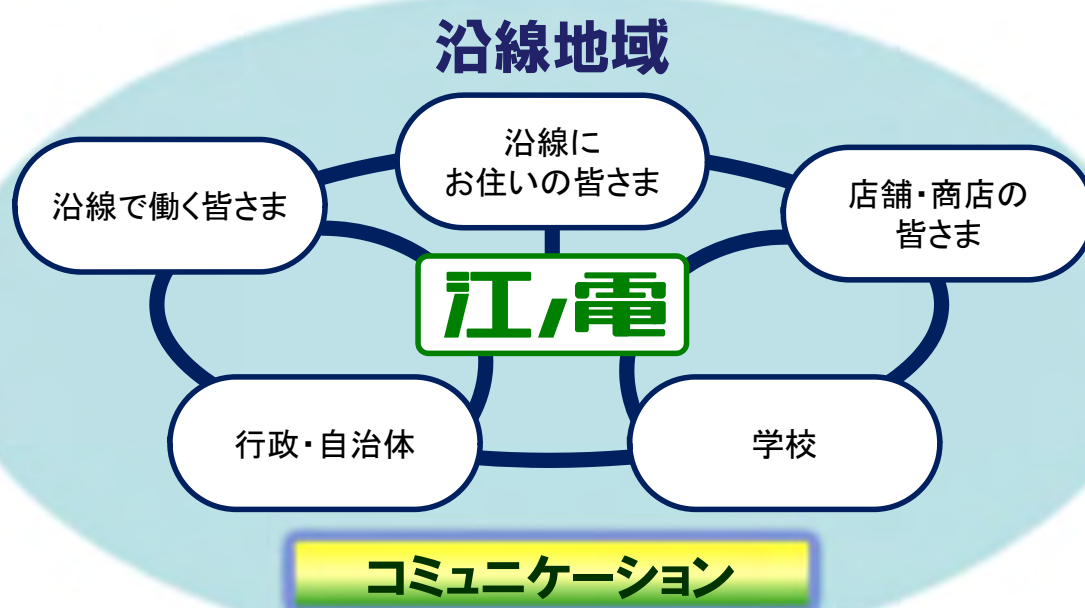
学校教育モビリティ・マネジメントのご提案



江ノ島電鉄株式会社 鉄道部

Enoshima Electric Railway Co.,Ltd.

学校教育MMの目的



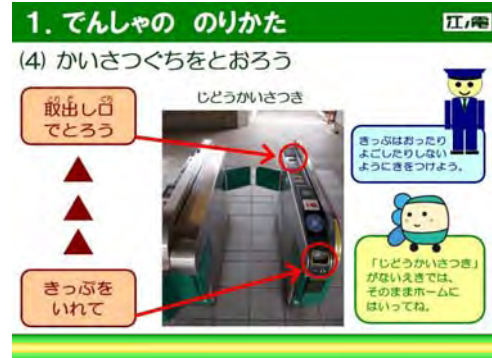
身近で安心な江ノ電

地域・江ノ電がともに成長

学校教育MMのご提案

1. 電車の乗り方学習

きっぷの買い方・改札の通り方・ホームでの過ごし方・車内での過ごし方などを教材または模擬ツールで体験



2. 安全啓発学習

ホームの安全設備や踏切の渡り方・安全設備を教材または模擬ツールで体験



学校教育MMのご提案

3. まちと江ノ電の歴史学習

藤沢・鎌倉地域と江ノ電がどのように関わり、どのような歴史をたどってきたかをスライドを用いて紹介。テーマに基づくディスカッション等。



－実施例－

片瀬小学校むかし探検クラブにて、「まちと江ノ電」というタイトルで片瀬地域と江ノ電の歴史を紹介。後日江ノ島駅にて駅務機器の見学、乗車券の入紙体験を実施。



弊社が対応可能な方法

1. 弊社施設で行う場合

(1) 駅構内

体験型向き

- ・弊社藤沢駅または江ノ島駅にて行う。
- ・参加人員は30名様まで。
- ・駅施設見学の場合は10名までのグループごと。

(2) 留置車両内

ディスカッション型向き

- ・弊社検車区(極楽寺駅徒歩3分)にて行う。
- ・参加人員は30名様まで(1両の着席定員)。
- ・検査の関係で13時から15時まで可能。

弊社が対応可能な方法

2. 弊社係員が学校にお伺いする場合

- ・資料・体験ツール・機材(以下をご参照ください)等を持参しお伺いする。
- ・学年単位程度の人数は対応可能と思われる。
- ・駐車場・電源を借用。

体験型

どちらも可

ディスカッション型

★電車の乗り方資料「江ノ電に乗ってでかけよう」

1. でんしゃの のりかた

(3) きっぷをかおう



1. でんしゃの のりかた

(4) かいさつぐちをとおろう



1. でんしゃの のりかた

(6) えきでおりよう



弊社が対応可能な方法

★模擬自動券売機



※イメージ

★模擬自動改札機



※イメージ

弊社が対応可能な方法

★模擬踏切警報機



※イメージ

★模擬踏切非常ボタン



※イメージ

★模擬列車非常停止
押しボタン



おわりに

以上弊社よりご提案させていただきます。内容・方法等は現在可能であると考えられるものをご提案させていただきました。より実りあるものとなりますよう、関係者の皆さまにもご教示いただけましたら幸甚でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

江ノ島電鉄株式会社 鉄道部

第3回 藤沢市地域公共交通会議
モビリティ・マネジメント教育検討会

議 事 録

日 時 2016年（平成28年）2月26日（金）
場 所 藤沢商工会館ミナパーク 5階 501議室

藤沢市計画建築部都市計画課

午後 3 時 29 分 開会

○事務局（大澤） 皆さん、こんにちは。定刻より若干早いですけれども、委員の皆様が見えられましたので、これから第 3 回藤沢市地域公共交通会議モビリティ・マネジメント教育検討会を開催させていただきたいと思ひます。

本日事務局を務めます都市計画課の大澤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。議事に入るまでの間、進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

早速、本日の会議の終了予定時刻ですけれども、こちらの会場の都合により、おおむね 5 時半には終了させていただきたいと思ひますので、皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

それでは、お手元の資料の確認に移らせていただきたいと思います。

まず本日の次第、委員名簿、出席者名簿、本日の座席表、そして資料 1-1、モデル校における MM 教育の取組みについて、資料 1-2、中里小学校における取組み報告、資料 1-3、滝の沢小学校における取組み報告、資料 1-4、駒寄小学校における取組み報告、資料 1-5、高谷小学校における取組み報告、次に資料 2、今後の藤沢市における MM 教育の進め方、資料 3、藤沢市 MM 教育における交通事業者との連携、最後に交通環境学習手引書となりますが、よろしいでしょうか。ちょっと資料が多くなりますけれども、よろしくお願いします。

それでは、早速次第に従いまして会議を進めさせていただきたいと思ひます。

初めに、開会に当たりまして都市計画課長の石原より御挨拶申し上げます。

○石原都市計画課長 皆さん、こんにちは。藤沢市都市計画課長の石原でございます。

本日は大変お忙しい中、お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

会議の開会に当たりまして、一言御挨拶させていただきます。

昨年 7 月に第 2 回の検討会を開催しまして、それから期間がしばらくあいてしまいましたが、本日で第 3 回目の開催となります。

昨年度、中里小学校におきまして、モデル校として授業が始まり、校長会や関係者の御支援を受けながら、それに続く形で新たに滝の沢小学校、駒寄小学校、高谷小学校の 3 校をモデル校として取り組ませていただいているところでございます。関係者の皆様におかれましては、授業などで多大な御協力をいただいておりますこと、この場をおかりしまして御礼を申し上げます。

本日は、これまで積み上がってきておりますモデル校の実績を幾つか御報告させていただきますが、それらの実績をもとにして、今後の全市展開に向けた仕組みづくりについても議論させていただければと考えております。本日の検討会におかれましても、忌憚のない御意見を賜りたいと思ひますので、よろしくお願いいたします。

以上、簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

○事務局（大澤） それでは続きまして、本日の議題1、モデル校におけるMM教育の取組みに関連いたしまして、実際に授業を実施していただきました先生に本日出席していただいておりますので、ここで御紹介させていただきたいと思います。

まず初めに、滝の沢小学校4年3組担任の江尻先生でございます。

続きまして、駒寄小学校5年3組担任の南先生でございます。

続きまして、前回の検討会の中で交通事業者の参加についても御了承いただいておりますので、本日は江ノ島電鉄株式会社より2名の方に出席をしていただいております。ここで改めて御紹介させていただきたいと思います。江ノ島電鉄株式会社鉄道部役務掛の大塚様、同じく吉田様でございます。

÷÷

○事務局（大澤） それでは続きまして、本日の検討会の成立について御報告とさせていただきます。この検討会の運営要領によりまして、委員の過半数の出席が必要となっております。現在の委員は8名、そして本日5名の委員の方に出席していただいておりますので、本日の検討会が成立していることをまず報告させていただきます。

それでは早速、次第の2、議題に移らせていただきます。これからの議事につきましては谷口会長にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いたします。

÷÷

○谷口会長 それでは、議題に入ります。

次第2、議題の議題1、モデル校におけるMM教育の取組みについて、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（香川） それでは議題1、モデル校におけるMM教育の取組みについて、初めにお配りさせていただきました資料1-1から1-5及び撮影したビデオに基づいて説明させていただきます。

資料1-1、A3の資料をごらんください。こちらには、モデル校におけるMM教育の取組みについて（一覧）を示しております。モデル校は、実施中のものを含めまして、中里小学校、滝の沢小学校、駒寄小学校、高谷小学校の4校となっております。これらの取り扱いですが、今後の授業例を蓄積していくに当たって、共通の項目に基づいて整理を行い、今後作成を予定する手引等に整理するデータとして取り扱うことを考えております。手引等の説明については、議題2の中で詳しくお話ししますが、ここでは各学校の取組みについて御説明させていただきます。

このうち中里小学校につきましては、昨年7月に行いました第2回の検討会で報告させていただきますので、簡単に説明させていただきます。

引き続きまして、資料1-2、中里小学校における取組み報告をごらんください。1ページ目の内容につきましては、一覧で示した資料1-1の内容をより詳しく示したものとなっております。

上から順に説明してまいりますけれども、実施概要につきましては、国語のディベ

トに合わせ、テーマをクルマ、公共交通に設定し、移動で公共交通を体験することで社会の県の交通について知るプログラムとしております。

年度・学年は、平成26年度に小学校5年生、平成27年度に小学校6年生で実施しております。

授業の狙いは3点ほどございまして、1つ目が鎌倉への交通についての理解、2つ目がクルマと公共交通の短所長所の理解、3つ目がTPOにあわせて移手段の選択の理解となっております。

実施内容は、下のステップに示しました授業1から授業4までで、ごらんとおりの時間で実施しております。

連携する科目につきましては、社会の自動車工業、国土と自然、歴史、理科の生活環境、生物と地球環境、国語のディベート、総合学習のかまくらめぐりとなっております。

授業概要は、授業のスタイル、連携する教科を示し、MMの構成要素——真ん中やや右側にMMの構成要素とあるんですけども——を分類した上、時間軸で各段階の授業の内容を示しております。

表の右側に整理したMMの構成要素は、議題2で詳細を説明しますが、習熟の深さ順に、左から構成要素を示しております。1つ1つ説明しますが、1つ目が、公共交通の知識とし、公共交通を知るということを念頭に示したものとなっております。2つ目が、公共交通の利用（実践）として、利用するために時刻表などを調べることで、利用の実践を示しております。3つ目が、移動の及ぼす影響の把握として、移動により発生するCO₂、渋滞、健康への影響などを示しております。4つ目が、公共交通とクルマの対比として、公共交通、クルマを利用することに関するメリット、デメリットを比べることとしております。5つ目が、仮定した状況下での移動計画として、行動プランを立てることとしており、幾つかの設定した条件で、自分がどのように移動するかを決定する計画の立案を行うこととしております。6つ目が、選択した交通行動の評価・共有として、5つ目で設定した行動プランについて、クラスや保護者などで共有し、相互の選択の違いについてメリット、デメリットを確認することにしております。

ステップごとの内容につきましては、前回検討会でビデオを含め説明させていただきましたので割愛させていただきますが、MMの構成要素の関係では、授業の後半のステップで習熟が深くなっていくというような構成となっております。

下の実施の成果及び反省点につきましては、青字で記載したものを肯定的要素とし、赤字で記載したものが課題となるものを示しております。肯定的要素といたしましては、ディベートのテーマを公共交通に設定したため、MMのための授業時間を別途設ける必要性がなく、授業実施において、実施時間の面で負荷の軽減が図られたと認識しております。また、課題といたしましては、2年連続で複数クラスで取り組む必要性があったため、5年生の終わりの段階で学校側と十分な調整を要しました。以前の検討会では、2カ年連続の実施を目指すというようなカリキュラムを目指していたところですけど

も、実施に当たってあらかじめ調整した上で実施することが重要だと認識されたものです。

なお、中里小学校の詳細な内容につきましては、今回は説明を行いませんので、資料1-2の2ページ以降に記載した内容を参考にいただければと思います。

引き続きまして、資料1-3に基づいて説明します。

1ページをごらんください。滝の沢小学校の取り組みとなりますけれども、先ほどと同様に、上から順に説明します。

実施概要は、総合的な学習の校外学習に合わせ、移動で公共交通を体験することで社会の県の交通について知るプログラムとしました。

年度・学年については、平成27年度に小学校4年生で実施しております。

授業の狙いですが、1つ目が藤沢市とその周辺の交通について理解する、2つ目がクルマと公共交通の良いところ、悪いところを理解する、3つ目がTPOにあわせて移動手段を選択することが大切であることを理解するとしております。

授業の実施時間は、4回に分け、校外学習に午前中の4時間をかけ、その他の教室形式の授業は3回で、各1時間となっております。

連携する教科につきましては、社会の県のまちづくり、4年生での授業内容と、あと国土と自然という5年生でのCO₂に関する学習があります。総合的な学習で図画工作展の見学となっております。

授業の概要は、ステップごとに説明させていただきますと、ステップ1では、公共交通で藤沢駅に行く経路等を調べるとして、社会と連携した授業としております。ステップ1のMMの構成要素は、公共交通の知識及び仮定した状況下での移動計画（行動プラン）となります。

ステップ2では、バス、電車を使って藤沢駅に行くとして、総合学習と連携する授業としております。ステップ2のMMの構成要素は、公共交通の利用となっております。

ステップ3では、校外学習をふりかえるとして、環境に関する要素が5年生の社会の国土と自然と連携した授業としております。ステップ3のMMの構成要素は、移動の及ぼす影響の把握、公共交通とクルマの対比となります。

ステップ4では、横浜への移動を考えるとして、児童と保護者で考えることを宿題形式で行ったものとなります。社会と連携する内容としておりまして、ステップ4のMMの構成要素は、移動の及ぼす影響の把握、公共交通とクルマの対比、仮定した状況下での移動計画、選択した交通行動の評価・共有となります。

ステップ5では、移動手段の目的に応じた使い分けの必要性を知識するとして、教科との直接的な連携はない内容となっておりますが、ステップ5のMMの構成要素は、移動の及ぼす影響の把握、公共交通とクルマの対比、仮定した状況下での移動計画、選択した交通行動の評価・共有となります。

続きまして、教材等に関する補足ですけれども、4ページをごらんください。②のバ

スの乗り方・電車の乗り方ガイドブックを作成し、授業1から授業4を通じて使用しております。これは先ほど説明させていただきました中里小学校でも使用したものを拡充して作成したものとしております。

続きまして、資料の8ページをごらんください。②児童への配布教材は、ステップ4で宿題用の教材を配布したもので、児童は、自宅から横浜駅までの公共交通のルートを考え、それらのメリット、デメリットを下のほうに示した表の分類に沿って評価し、保護者はクルマ、公共交通で行く場合のルート及びルートの評価を同じく行うものとしております。

10ページをごらんください。ステップ5の授業4に該当する部分ですけれども、実際の利用で公共交通を利用することや、宿題で移動について考えてもらった知識や経験を生かして授業を行ったものです。前半では、公共交通で移動した場合とクルマで移動した場合との良いところ、悪いところを比較しながら振り返りを行いました。後半では、特定のシチュエーションでの移動手段と理由を選択する内容として、14ページを見ていただきますと、どんな天気、何の目的、家族何人かというシチュエーションの設定シートに沿った条件で宿題を実施したと。横浜駅に行く移動手段の検討に基づき、交通手段を自由に選択することとして、その理由等をクラスで共有しました。

説明は駆け足で行ってしまったんですが、授業の様子について把握していただくため、実際の授業の様子を10分程度のビデオに編集しましたので、今、ステップ5の授業4に該当する部分を流していきたいと思います。よろしくをお願いします。

(ビデオ放映)

○事務局（香川） 授業の内容のビデオについては、簡単に編集したものですけれども、以上のような話となっております。

続きを説明させていただきます。再び資料1-3に戻っていただきまして、15ページをごらんいただければと思います。

授業後の保護者へのアンケートですけれども、5つの設問に対して回答を得ております。結果については目を通していただければと思うんですけれども、MMの状況に応じた交通手段の使い分けについて肯定する意見が多く、保護者へも一定の広がりがあったと認識しております。特に抽出する意見なんですけれども、18ページをごらんいただければと思います。青字で書いているところになりますけれども、意見3では、「自家用車を主に生活していますが、行楽などの時は公共交通を利用しています。それは社会性の勉強もでき、子供が自分の力で目的地までどのようにして？いくら必要なのか？が勉強できる為です。学校でも授業でとりあげて頂けるとふだん係わる事ができない方に情報が入りとてもいいと思います。」といった意見もあり、児童を核とした家族等への広がりについては一定の成果があったと認識しております。

今まで御説明した結果を踏まえまして、実施の結果及び反省点ですが、1ページに戻っていただきまして、一番下になりますけれども、肯定的要素といたしましては、家庭への

広がりという点について、MMとしての一定の成果が得られた、宿題を保護者と一緒に行った点などが効果的であったと認識しております。また、課題といたしましては、保護者との移動が中心である学年であることから、公共交通の利用を不安に思う児童も多かったと認識されたところでございます。また、題材とした横浜への行動プランの作成は、小学4年生ではなじみのない児童もあり、もっと身近な題材への変更も必要であったのではないかとこのところが課題として挙げられたところです。

資料1-3に基づく説明は以上となりますけれども、本日は、MM教育の授業を行っていただきました滝の沢小学校4年3組の担任をしておられます江尻先生に事務局として出席していただいておりますので、これらの授業を行っての子供たちの変化や感想について補足していただければと思います。

江尻先生、よろしく申し上げます。

○江尻教諭 今紹介をいただきました江尻です。

実際にこの授業を担当させていただきました、よかった点をまず挙げさせていただきたいと思います。

今、私が受け持っている学年は、小学校2年生のときに、神奈中バスさんにお世話になり、郵便局見学に行きました。滝の沢小学校は、それまではライフタウンの中にあるライフタウン郵便局という学校から歩いて行ける小さな郵便局を見学するのがメインだったんですけれども、偶然、私の今受け持っている学年の子供たちと、もう1つ下の学年、今の3年生たちは、当時の学年をされていた先生たちの判断で、公共交通機関を使って郵便局見学に行っていました。既に小さなときのそういう種まきがあったので、実際にこのお話を受けたときに、授業を考えて、子供たちが移動するという実際の場面を持ってこない、多分、学習するときに机上の空論みたいになってしまって、余り身につかないんじゃないかというのがありましたので、今回、図工の作品展を見に行こうというのを急遽授業の中に取り入れて、実施をさせていただきました。子供たちが過去に経験したことよりももう1つステップアップをしまして、自分たちの班行動で、公共交通機関を3種類の方法の中から選んで移動したという部分に関しましては、学校の中だけではなく、実際に経験するという意味での学びがあったんじゃないかなと考えています。

ただ、この資料を読んでいただくとわかると思うんですけれども、何分まだ4年生ですので、地域的に、ライフタウンのお子さんは、ふだん保護者にクルマでどこかに連れていってもらったことのほうが多い傾向がありますので、バス一つ乗るにしても、子供たちはまだまだ緊張のほうがたくさんありまして、3パターンのうちの1つは、バスで直接藤沢駅に乗りつけるという方法だったんですけれども、それ以外の辻堂駅で乗りかえるとか湘南台駅で乗りかえるという方法を選ぶのは、子供たちに冒険心がないとできないというのが現状です。

資料の中に紹介があるんですけれども、実際に都市計画課につくっていただきましたパンフレットとか乗りかえ用のリーフレットをいただいたのも、学校としてはメリット

だったんじゃないかと考えています。ただ、何度も来ていただいてお話をした中で、もう少し持ちやすいコンパクトなものの方が、例えばこれを全市に広げるときには役に立つんじゃないかという話は後々させていただきました。

1つ、授業を一緒に考える中で、これは失敗でしたねという話をしたのは、目的地が横浜という子供にとって身近じゃないところというのは、子供は実際には考えるんですけども、そこがイメージとしてぴんとこないというのが少し改善する必要のある点じゃないかと、後で大人は話をしたところです。ただ、子供たちは、4年生の学習内容だけではおさまり切らない部分がありますので、これをやったことが、例えば5年生になったり、6年生になったときの環境問題を考えると、そういうところにつながれば、それはそれでよかったんじゃないのかなと。逆を返すと、駅近の学校だったり、条件が整っている学校だったら、もしかすると3年生ぐらいの市内の勉強の中で、同じような取り組みができるんじゃないのかなというのも、こちらとしては考えた次第です。

○事務局（香川） ありがとうございます。

引き続きまして、駒寄小学校の取組みについて報告させていただきたいと思います。資料1-4に基づいて説明させていただきます。

資料1-4の1ページをごらんください。駒寄小学校における取組みですが、上から順に説明させていただきます。

実施概要は、総合的な学習の校外学習に合わせ、移動で公共交通を体験することで社会の自動車工業、地球環境について知るプログラムとしました。

年度・学年につきましては、平成27年度に小学校5年生で実施しております。28年度には、中里小学校と同様に、6年生のかまくらめぐりで実施することを想定しておりますが、一旦5年生で完結したものとしまして、5年生の内容で報告させていただきます。

授業の狙いにつきましては、1つ目が江の島までの交通について理解する、2つ目がクルマと公共交通の良いところ、悪いところを理解する、3つ目がTPOにあわせて移動手段を選択することが、大切であることを理解するとしております。

授業時間は、3回に分け、校外学習に1日かけました。その他教室形式の授業は2回で合計3時間とし、後半は2時間連続で実施しております。

連携する教科は、社会の自動車工業及び国土と自然、総合的な学習の江ノ島ミステリーツアーとしております。

授業概要ですが、各ステップに関して説明させていただきます。

ステップ1では、公共交通で江ノ島に行く経路等を調べるとして、社会と連携した授業としております。ステップ1のMMの構成要素は、公共交通の知識、仮定した状況下での移動計画となります。

ステップ2では、バス、電車を使って江ノ島に行くとして、総合学習と連携する授業としております。ステップ2のMMの構成要素は、公共交通の利用となります。

ステップ3では、江の島への移動体験を振り返る「江の島探検 ミステリーツアー」

に行ってみて」の感想シートを記入するという内容で、感想シートは3ページにありますけれども、このような感想シートに記入するということになります。宿題形式で行っており、社会と連携する内容としております。ステップ3のMMの構成要素は、公共交通とクルマの対比となります。

続きまして、ステップ4では、校外学習をふりかえる、移動手段の目的に応じた使い分けの必要性を認識するとして、社会と連携した授業としております。ステップ4のMMの構成要素は、移動の及ぼす影響の把握、公共交通とクルマの対比、仮定した状況下での移動計画、選択した交通行動の評価・共有となります。

教材等に関する補足ですが、先ほどごらんいただきました3ページ、ステップ3で説明した内容ですけれども、②江の島探検ミステリーツアーの感想シートでは、振り返りの授業に先立って、江の島に行ってみた感想を、1、辻堂駅までの行き方・かかった時間、2、電車に乗ってみた感想・気づいたこと、3、公共交通の良いところ・悪いところ、4、江の島にあった交通施設・気づいたことについて、ステップ3の宿題で実施し、MM教育の内容を事前に学習させる形で次の授業に向けた準備を行っております。

9ページ、10ページをごらんいただければと思います。こちらがステップ4の授業3に該当する部分です。シチュエーションの違いを平日、休日で示すとともに、移動手段を公共交通とクルマで対比した場合、時間、費用、CO₂の排出という観点で、視覚的な表現を中心に示したものとなっております。

続きまして、12ページをごらんください。先ほどの滝の沢小学校で説明した内容と似たものですが、江の島を目的地として実施したものです。

ざっと駆け足で説明しておりますけれども、授業の様子につきまして、先ほどと同様に10分程度のビデオに編集しておりますので、ステップ4の授業3に該当する部分をお流しします。

(ビデオ放映)

○事務局（香川） 授業の内容をかいつまんだものとしてのビデオは今のとおりです。

引き続きまして説明をさせていただきます。

13ページをめくっていただければと思います。こちらは授業後の感想になりますけれども、授業を終えての感想及び今後できそうなことのうち、主な感想を示したものとなっております。授業の中でも、シチュエーションによって公共交通とクルマの使い分けでそれぞれの理由に分かれ、MMの意図することが伝わったと感じる中で、感想においても、下の段の今後できそうなことの中に公共交通とクルマの使い分けに関するものも多く、一定の成果があったと認識しております。

今まで説明した結果を踏まえ、実施の成果及び反省点としまして、再び1ページに戻っていただきまして、御説明します。下のところになりますけれども、肯定的要素としたしましては、ふりかえりと発見の授業（授業3）において2時限分連続して実施したことにより、発見への展開、児童の理解が円滑であったと認識しております。また、小

学校5年生までに修得した学習内容（社会—自動車工業、国土と自然等）がありまして、今回のMM教育の理解が進んだ点も肯定的な要素と認識しております。

資料1－4に基づく説明は以上となります。

本日は、MM教育を実施していただきました駒寄小学校5年3組を担当しておられます南先生に出席いただいておりますので、これらの授業を行っての子供たちの変化等について補足していただければと思います。

南先生、よろしく申し上げます。

○南教諭 駒寄小学校の南です。どうぞよろしくお願いたします。

お恥ずかしい授業を見ていただきまして、本当に恐縮しております。ありがとうございました。

私が勤務しております駒寄小学校は、駅から少し離れているという点で交通の便が不便なところがありまして、辻堂駅から湘南台駅のほうに行くバスはたくさんいるんですけども、バス停まで結構時間がかかるということもありまして、ほぼ何も考えずにふだんはクルマを使っているおうちがほぼ100%であります。クルマに乗ることが当たり前の子供にとって、今回、公共交通というものを勉強したことは、とても新鮮で、新しい発見があったのではないかと思います。後から知ったんですけども、子供たちの親御さんは、クルマにこだわっているお父さんたちが多くて、クルマの中に、ビデオを見られたりとか、アクセサリみたいなものにすごくこだわっているおうちが多くて、クルマが一番大事みたいな、クルマにお金をかけているなというのを後から感じて、公共交通という選択は御家族にはないのかなと思いました。

ただ、この勉強の中で、子供たちが一番強く感じたのが、排気ガスを出す、CO₂という言葉に子供たちはピピッと心が動いたというか、排気ガスが地球の環境を汚しているんだなというのを初めて知ったというか、実体験としてはふだん考えたこともなかったようで、今回、具体的にお勉強させていただき、そういうことを考えてくれるきっかけができただけでも本当によかったなと思っております。

11月に江の島探検に行ったんですけども、その後、それとは別に、お休みの日に家族で江の島に出かけたお子さんたちの話を聞きますと、クルマではなくて今回は公共交通、電車とバスで行ったんだなんていう日記を読んだり、子供たちの話を聞いたりすることで、少し考えてもらえたんだなと思ってうれしくなりました。ただ、11月に行った江の島探検なんですけれども、結構朝が早かったもので、8時台の電車に辻堂駅から藤沢駅まで乗ったんですけども、一番のラッシュ時で、それは子供たちも初めての体験で、ラッシュ時は公共交通は大変な面もあるなというのを感じたようで、学校のほうも、来年度以降、江の島に行くときは少し時間をずらして9時台ぐらいでもいいのかな、ラッシュの時間が終わったあたりに出発するように計画を見直そうかなということにもなりました。

ちょっとおもしろかったんですけども、うちの学校は3学期に自動車の勉強を回さ

せてもらって、1月、2月に自動車の勉強をしたんですが、ふだん余りテストでいい点数をとれない子供たちもみんな100点ばかりで、これは今回のモビリティ・マネジメント教育も一翼を担っているのかなと思って、うれしい誤算というか、そういうこともありました。

簡単ですけども、以上です。どうもありがとうございました。

○事務局（香川） ありがとうございました。

引き続きまして、高谷小学校の取組みなんですけれども、現在までの概要を資料1-5にまとめております。現在、実施中の途中段階となりますので、報告としましては、次回の検討会で改めてさせていただければと思います。

以上、議題1の説明となります。

今回の議題では授業の実施結果を報告しましたが、今後の授業例として、今回報告した様式を定型の様式として今後まとめていくことを検討しております。内容の過不足、構成などについて御意見をいただければと思います。よろしく願いいたします。

○谷口会長 御説明ありがとうございました。

それでは、この議題につきまして、もう終わってしまった報告となっておりますので、御意見というよりは質問、あるいは今後こうしたらという提案がございましたらお願いします。また、授業例の記載様式を固めるのがこのプロジェクトの結構重要なところだと思いますので、こういう項目も追加したほうがいい、そのほうが先生方にわかりやすいということがありましたら、ぜひ御指摘いただければと思います。

○鈴木委員 滝の沢小学校の横浜を設定してというのが4年生には難しかったという話で、我が家も4年生がいるので考えてみたんです。やっぱり横浜と言われると、びんとくる家庭とこない家庭がすごく分かれてしまうと思うんですけども、余り自由にしてしまうと、まとめるのが大変な気もするので、基準は横浜とかにして、ただし子供によっては湘南台か辻堂を選んでもよいみたいな選択肢をふやすと取り組みやすいのかなと感じました。

○事務局（相良） 5年生で、今、駒寄小学校を見ていただいたんですが、そちらは江の島ということで、授業の中で少し出ていましたけれども、行ったことがあるとか、こんなだったというような話があったので、江の島も結構行かれているようですし、観光としても行っているという部分もあります。今おっしゃっていただいたように湘南台駅、もしくは藤沢駅を目的地に変えた形で同じような展開をすると、また違った形に、子供たちがイメージできる中で同じような授業ができるのかなと思っておりますので、その点は我々も見直したいと思っております。

○谷口会長 ありがとうございます。ほかによろしいですか。

ちょっと伺っていて思ったのですが、すごく細かい点かもしれないんですけども、滝の沢小学校の取り組みでは、あらかじめパネルみたいなものをつくっておいて、クルマのメリット、デメリットを張っていましたよね。あれは多分、時間短縮のため、黒板

に書くより早いのかなと。結局探していて遅くなっていたのかどうかはわからないですけども。駒寄小学校は書いていましたよね。先生方はどっちのほうが楽なんですか。率直な御意見をお願いします。

○江尻教諭 うちの場合は、2回、都市計画課でつくっていただいたものを使わせていただいたんですけども、1度目はもっとざっくりした感じのカードをつくっていただいて、結局、それだと張るスペースと、黒板をまとめるのにいろいろ支障があったので、2度目はもう少し細かい小さなものをつくっていただいたら、あれはあらかじめ、子供がこういうものを出しそうだなというのを子供の吸い上げたプリントからつくっているんですけども、今度は、言われたとおりで、枚数が多過ぎてしまって、探すのに時間がかかるので、私たち現場から言うと、大まかな項目軸だけはああいうものを張ってもいいと思うんですけども、やはり自分で書いたほうが確実に早いかなと思います。ただ、あのメリットは何かというと、カードがあるということは、黒板を消してもまた戻ってくるものになるじゃないですか。自分も今、駒寄小学校の実践を見させていただいて、ホワイトボードが使われていたのは、そういうところが改良された結果なんだろうなというのは感じていました。うちのほうが若干授業をやったのが早くて、その辺も多分、都市計画課で話された中で改善されているんじゃないかなと感じています。

○谷口会長 非常に貴重なコメントをありがとうございました。

○事務局（相良） ちょっと追加で、滝の沢小学校で、探しづらいということもありまして、次の駒寄小学校では、そのためにホワイトボードを先に用意させていただくという話をしたんですけども、実は駒寄小学校も小さいカードを用意していたんです。ホワイトボードに張ってもらうというふうにしていたんですけども、駒寄小学校は5年1組から3組まで授業をやらせていただいて、1組でカードを使ったんですけども、ホワイトボードに変えただけでは探すのに時間がかかってしまったので、ちょっとそこは修正させていただいて、最後の授業だった5年3組の南先生には、軸だけは最後に張っていただいて、黒板に書いてもらうという形にしたのが現状でございます。

○谷口会長 それでだんだんやりやすい感じになったんですか。

○南教諭 そうなんです。3回目だったものですから、最初の先生たちから話を伺って、どうしても探すのに時間がかかってしまったという反省を聞いていましたので、やっぱり書いたほうが早いかなということで、雑な字になってしまったんですけども、私の授業のときには書くという手法で授業をさせていただきました。

○谷口会長 すごくきれいな字だったと私は思います。

○小木曾委員 駒寄小学校と滝の沢小学校は意外と近いところで、学区が隣同士になっているんです。だから、多分、保護者、家庭の生活形態もそれほど変わらずというところがあると思います。それが例えば電車、JRや私鉄の沿線上の学区とはまた別の考え方とか、あるいは子供たちの公共機関の利用の仕方があると思うので、藤沢市全体でモビリティ・マネジメントを考えていったときには、どこに住んでいるのかというところで

も大分変わってくるだろうなど。今、たまたま2つの学区は近場にバスしか路線がないところの実践だった。中里小学校もそういうところだったので、またそこで少し変わってくるだろうというのがまず1個。その辺は考えて、実践例を組み立てていかなければいけないだろうと思いました。

もう1つは、駒寄小学校と滝の沢小学校で似たような部分で授業をやっていたところもあったんですが、学年が1つ違っていることによって発達段階が違うので、話の深まりがかなり違っていたと思うんです。5年生と4年生で話の深まり方が大分違うので、どこを目標に授業を設定するかによって、何年生でやったらいいかというあたりは少し考えていかないと、同じようなところを今回、滝の沢小学校は4年生でやっていたんだけれども、もっと深く意見が欲しかったなと思っているところも授業者はあると思うんです。それは発達段階によって若干変わってくるので、どこまで子供たちの考え方を到達させてあげられるのかということを考えて授業を組んでいかななくてはいけない、実践例を組んでいかなければいけないだろうと、地域性と発達段階は今見ていて思いました。

- 谷口会長 地域性については、確におっしゃるとおりバスしか使えないようなところが多いんですが、今後は電車みたいなところも選ぶんですか。
- 事務局（相良） もう1つ、先ほど説明は省略と言った高谷小学校は、バスがメインかもしれないんですが、藤沢駅から歩いて20分ぐらいになります。今お話ししている先生が3年生で、ことしは余りできなかったんですけども、来年度、学校の体制が変わってからはなりますけれども、ターミナル駅の藤沢駅に近い場所でもありますので、そういった地域性も見させていただいて、今、基本とした3校でやらせていただいて、地域性がありそうな部分は我々も認識していますので、そこは今後、また校長会とかと相談させていただきながら、新たなモデル校をお願いするとかも調整していきたいと考えております。
- 谷口会長 せっかく江ノ電さんもいらしていただいているので、江ノ電さんの近くとかでできるといいですけども。
- 鈴木委員 高谷小学校は3年生がやっていて、駒寄小学校は4年生がやっているんですけども、この学年は6年生まで続けてやるということなんですか。
- 事務局（相良） そこも学校の体制がありますので、先ほど言った駒寄小学校につきましては、6月ぐらいに6年生でかまくらめぐりの授業がありますので、そこはある程度続けてというようなお話をさせていただいているんです。滝の沢小学校と高谷小学校のほうは、我々の希望としては、2カ年でとか、同じ子供たちを連続でという思いはあるんですけども、ちょっと学校との調整がありますので、今は何とも言えないのが現実となっています。
- 笠松委員 学校の現場からいくと、学校をやっていく上で、単年度の担任のほうが多いんです。例えば高谷小学校の先生が今は3年生なので、子供たちの発達段階に応じて、

こういう保健の自分の健康面からやっているんだと思うんですが、来年度、学年を持つときというのは4月になってみないと、3月の下旬ぐらいになって初めて新年度の担任がわかるわけです。まず、その先生が何年生を持つのかというのは学校の事情によりますので、そういったところを配慮していくと、この先生がモビリティ・マネジメントのために高学年とか、そういったことは学校現場としては約束できないです。

ただ、系統的に、学年に応じてうまく交通機関を使いながらやっていく学習というのはすぐ答えが出るものじゃないので、こういったことを通して、学校である程度、子供たちが、このときはクルマを使う、こういったときは公共交通機関を使ったほうがいいよねという道筋を体験しながら学んでいくというのが一番のことになっているので、その部分だけふれないでいただければ、あとは学校のほうで地域に応じた公共交通機関、例えば3・11、こういったときは公共交通機関は使えないよねといったところから、あのとき普通のクルマは使えなかったよねといったところにも発展していくと思うので、そういった身近なところから投げかけると、子供たちはそこからどんどん自分で考えていくんです。これは答えがないから、自分が正しいと思ったところを追求できて、能動的に物すごく勉強できるんです。私がもし今現場にいれば、こういったところで能動的に子供たちの意見を吸い上げながら、子供たちが最後に振り返りで、自分はこうこう思うので、これを使いたい。友達の意見を聞いた上で、やっぱり私はこういうふうな形で考えていきたいという自分の意見を出させるような仕組み、このスタイルだけは絶対に変えないでほしいというのが学校現場の考え方ですので、モビリティ・マネジメントありきじゃなくて、子供の活動ありきということをお願いいただければと思います。

- 谷口会長 非常に重要な御指摘をありがとうございます。一応大枠はプログラムとしてまとめるものの、学校の地域性に応じて柔軟に変えていったりとか、子供第一ということで、プログラム第一では当然ないということです。

ほかによろしいですか。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

- 谷口会長 続きまして、議題2、今後の藤沢市におけるMM教育の進め方について、事務局から御説明をお願いいたします。
- 事務局（相良） それでは、議題2の今後の藤沢市におけるMM教育の進め方について、初めにお配りしました資料2に基づきまして説明させていただきます。

まず、議題2の要旨になりますけれども、これまでは目標である平成30年度からのMM教育の全市展開に向けて、モデル校の協力を得まして、授業例の蓄積を中心に行ってきたのですが、来年度、平成28年度からは、引き続きその授業例の蓄積を進めるとともに、全市展開に向けた仕組みづくりを行っていきたいと考えております。そのため、その具体的な内容について御説明させていただければと考えております。

それでは、資料2の1ページをごらんください。まず、1の実施目的になりますけれ

ども、こちらはこれまでと変わらず、全市展開時におきましても、子どもたちが、TPOにあわせて、移動手段を考え、かしこく公共交通、クルマ、自転車、徒歩等を使うことができること、また、地球環境問題などの社会的な影響に配慮して行動することができることを子どもたちのめざす姿として、この実現を目的に実施していきたいと考えております。

次に、2の実施方針ですが、今まさにちょっとお話が出た部分なんですけれども、全市展開時におきましては、この授業を実施してくださいという形ではなくて、MM教育の授業を実施する先生が、こちらから提供します授業例ですとか教材等をもとにして教育課程との整合をとれる部分の実施ですとか、また新たに授業内容を考案していくなど、アレンジした形で実施していただきたいと考えています。

次に、3の特徴になりますけれども、こちらもこれまでと変わらず、次の3つを引き続き行っていきたいと考えています。

2ページをごらんください。4の連携する学習内容とMM教育の構成要素との関係について御説明させていただきます。

まず、2ページ、3ページ、資料1-2の説明になります。こちらは同じような表がついているんですけれども、どちらも連携する学習内容とMM教育の構成内容との関係を示した表になります。横軸の項目部分を見ていただければと思うんですけれども、2ページにあります表1に関しましては、連携する学習内容に関して、学年別に見た表になります。一方、3ページにあります表2は、連携する学習内容に関して、教科別に見た表になっております。今後どちらか1つの表に統一したいと考えておりますが、説明の都合等もありまして、今、両方併記させていただいております。

それでは、表1の上段をごらんください。先ほどの議題1の中でも触れさせていただきましたけれども、我々としましては、これまでのモデル校での授業や他市の事例等を踏まえまして、MM教育は6つの要素に分けられると考えております。それぞれの要素の内容につきましては、議題1で説明させていただきましたので、割愛させていただきますが、一番左の公共交通の知識から一番右の選択した移動（計画）の評価・共有の順に授業を展開することで、子供たちが実施目標である子どもたちのめざす姿に近づけると考えております。特に赤枠で囲んでおります公共交通とクルマの対比で、公共交通とクルマのメリット、デメリットを理解し、次の仮定した状況下での行動プランで設定された条件で自分がどのように移動するかの計画を立て、その次の選択した交通行動の評価・共有でクラスや保護者などとプランを共有し、それぞれのプランのメリット、デメリットを理解するということが子どもたちのめざす姿の実現につながり、MM教育の核になるものと考えております。一方、左側の3つの要素につきましては、公共交通の知識で路線や利用方法などを知り、公共交通の実践で公共交通を実際に利用し、移動の及ぼす効果の把握で地球環境問題や渋滞などの社会的な影響を知るなど、MM教育の核につながる重要な導入部と考えております。

表の下段をごらんください。今御説明したMM教育の構成要素と連携する学習内容を学年別に見た表になります。こちらの表の説明ですけれども、表の黒丸につきましては、モデル校において実施済みの内容、白丸は、実施してはいたのですが連携できると考えている内容、そして括弧つきの黒丸につきましては、要素の一部を実施したものととなります。

学年別に見ますと、3年生では、連携できる内容が、黒丸、白丸ともに多いものの、要素の左側半分、MM教育の導入部に当たる内容が多いことがわかるかと思えます。また4年生では、要素の左側半分のMM教育の導入部、右側半分の赤枠で囲んだ部分ですけれども、MM教育の核となる部分の両方に丸がついておりますが、連携する教科としては社会科のみであり、しかも1つの単元となっております。5年生につきましては、全ての要素に丸がついており、しかも複数の連携する教科があるという状況になっております。また6年生では、5年生と同様に全てに丸がついておりますし、6年生は最終学年でもありますので、これまでに学習した内容を踏まえてMM教育を展開することができるかと考えております。そのため、赤枠で囲んだMM教育の核となる授業に関しましては、5、6年生の高学年で実施することが適しており、4年生が核となる授業ができるかどうかのボーダーラインになるかと考えているところです。特に、先ほど議題1でも御説明させていただきましたけれども、モデル校であります滝の沢小学校では、4年生でこの授業を実際に行っていますので、無理ではないと思えますけれども、この点につきましても、モデル校との協議にはなりますけれども、今後検証していきたいと考えています。

3ページを開いていただきまして、表2をごらんください。こちらの表につきましては、MMの構成要素と連携する学習内容を教科別に見た表になります。やはり連携する教科としましては社会科が多く、3年生から6年生まで、それぞれ連携可能な単元があることがわかるかと思えます。また、理科や国語、保健、総合的な学習などさまざまな教科とMM教育は連携可能であるということがこの表からもわかるかと思えます。このようなことから、平成28年度につきましては、モデル校との協議次第にはなりますけれども、これらの表の白丸になっている単元とも関連したMM教育の実施、赤枠のMM教育の核となる事業の改善を行っていきたくと考えております。

また、議題3と関連する内容になりますけれども、これまでのモデル校では、このMM教育の核となる部分を中心に授業を行わせていただいていたんですが、3年生もしくは低学年、そこはまた協議とか、きょう御意見をいただければと思うんですけれども、公共交通の利用方法、使い方を知ってもらうといった導入部分のみの授業、核にはつながらないけれども、先ほど種まきですとか、少しずつでもというようなお話がありましたけれども、そういった部分だけの授業も行っていければと考えています。

それでは、4ページをごらんください。5のスケジュールになりますが、冒頭でお話ししましたとおり、平成28年度からはモデル校での授業と組み合わせ、全市展開に向け

た検討、赤枠の部分を並行して行っていきたいと考えております。

5ページをごらんください。6の全市展開に向けた教材等の作成ですが、ここからが全市展開に向けた検討の具体的な内容となります。

まず、(1)藤沢市MM教育手引書の作成ですが、初めに配付させていただきました交通環境学習の手引書が皆様のお手元にあると思います。こちらは、今、事務局に来ていただいておりますエコモ財団さんが、自治体向け、学校関係者向けに作成しましたMM教育を進めるに当たっての手引書になります。中を見ていただきますと、MM教育を導入する意義ですとか効果、あと授業例が多く掲載してあります。藤沢市におきましては、こちらの手引書を参考にさせていただきながら、来年度からの2カ年で、藤沢市版の手引書を作成していきたいと考えております。議題1で説明させていただきました資料1-2とかも、この授業例、実施例のところに掲載していきたいと考えています。

次に、(2)3・4年生向け副読本「ふじさわ」へのMM教育の掲載についてですけれども、この「ふじさわ」は、3・4年生用の社会科資料集としまして全児童に配布され、教科書とあわせて使用されているものでございます。現状、この「ふじさわ」には、5ページの下段及び6ページの上段にありますように、「交通と人々の暮らし」という内容が、5ページは電車編、6ページはバス編となりますけれども、そういうものが見開き4ページにわたって掲載されておりますが、これらのページの後に、少しMM教育に関する内容を追加していければと考えております。掲載する内容につきましては、まだ検討中という段階になりますので、示せるものはないんですけれども、児童が興味を引く内容が、あと先生が授業で使いやすい内容にしていきたいと考えています。

6ページをごらんください。(3)電車・バスの乗り方ガイドマップの作成ですが、この乗り方ガイドマップにつきましては、これまでモデル校の校外学習等にあわせて作成しておりましたけれども、全市展開に向けては、市内の全小学校が利用可能なガイドマップを作成していただきたいと考えております。そのため、鉄道の乗りかえがある藤沢駅、湘南台駅のわかりやすい乗りかえのマップですとか提供方法、先ほどサイズの話もありましたけれども、デザインとかも含めて先生方や児童が利用しやすいガイドマップに向けて、これをブラッシュアップしていただきたいと考えております。

それでは、7ページをごらんください。次に、7の全市展開時の実施・周知方法についてですけれども、現在も校長会や教員の研修会などでMM教育に関する周知を学校関係者にさせていただいているところですが、全市展開に向けては、その周知がまだ不十分であると考えておりますので、そこを強化していただきたいと考えております。また、平成30年度以降、学校において継続してこのMM教育に取り組んでいける仕組みづくりが必要であると考えております。

そのため、その1つ目としまして、(1)学校教育指導計画へのMM教育に関する記載の追加ですが、こちらは主に周知方法になると思います。この学校教育指導計画とは、この箱の中に書いてある部分になりますけれども、藤沢市教育委員会の教育指導課、学校

教育企画課が毎年発行しております本市の学校教育の目標と重点目標や、指導方法の工夫改善と指導の充実等を記載した本市の学校教育における指導計画となっております。ページ中段に、現在の記載内容ということで「指導方法の工夫改善と指導の充実」を掲載しておりますけれども、全市展開時には、場所についてはまだ検討の段階ですけれども、この部分に藤沢市の小学校教育におけるMM教育の位置づけ等について記述を追加していきたいと考えています。

次に、(2)実践・活動の記録集（ふれあい・人権・環境・平和教育）へのMM教育の追加ですが、こちらは主に継続的な実施の仕組みと考えております。この実践・活動の記録集とは、同じ下のほうの箱書きの部分になりますけれども、学校教育指導計画におきまして、人権・環境・平和教育の充実を図り、各学校における教育実践を収集し、今後の実践に役立つ記録集を作成・配付することを目的に取りまとめられているものでございます。

8ページをごらんください。こちらはこの記録集の冒頭部分にあります「領域について」になるんですけれども、記録集に掲載する活動の一覧表となります。この活動の一覧表の中に、2列目の領域の部分ですとか3列目の領域に基づく活動などの中に、こちらはまだ検討中ではございますけれども、MM教育の記載を追加していければと考えております。

次に、(2)先生向けMM教育研修会の実施についてですけれども、こちらは周知及び継続的な実施の両方の仕組みと考えております。各学校における継続的な実施に向けては、実際に授業をする先生がMM教育の意義や効果を理解し、MM教育の授業例を知ることが重要であると考えております。そのため、既存の研修会等を活用しまして、先生向けのMM教育を実施していきたいと考えています。こちらも詳細は今後検討していきたいと考えておりますけれども、このようなことをやっていきたいと考えております。

最後に、8の役割分担についてですが、これまで説明してきた全市展開に向けた取り組みにつきましても、これまでと同様、この場のような検討会ですとか、都市計画課、学校関係者、教育指導課、学校が連携した形で全市展開に向けて進めていければと考えております。

駆け足になりましたけれども、以上が議題2の説明となります。

この議題では、先ほど御説明しました2ページ、3ページにあります連携する学習内容とMM教育の構成要素との関係に関して、実施学年やモデル校での進め方等について御意見をいただければと考えているところです。よろしく願いいたします。

○谷口会長 御説明ありがとうございました。それでは、ただいまの御説明に対して御意見、御質問などがございましたらぜひお願いします。

特に今おっしゃっていた2ページ、3ページの言葉の使い方、学校の先生がわかりやすい言葉を使ったほうがいいと思いますし、ぴんとくる、もしふだんこういうふうに使われているというのがありましたら、ぜひ御指摘いただけるとありがたいです。

後半のほうは、広めていくための具体的なチャンネル、これはほかにもこんなものを私たちは見ているみたいなものがあつたら、ぜひ御指摘いただけるとありがたいです。

ここは先生方に御発言いただいてもいいですか。もし何かありましたらお願いします。

○江尻教諭 今、相良さんが言われたとおりで、実際にMM教育をある程度大きな形にしていく中で、3年生とか4年生、もしくは低学年の1、2年生なんかは、まだまだ体験のほうで重視になってきて、先ほど小木曾課長が言われていたとおり、最終的に何か物を考えると、笠松校長先生が言われていたとおり、自分が最後に意見を述べて手段を選ぶというのは、やはり5年生、6年生と上に上がっていかないとちょっと難しいんじゃないのかなというのは、実際、自分が4年生で授業をやって感じたところでありました。ただ、私も今回このプロジェクトに参加させていただいて感じたことは、小さい学年ではできないことがたくさんあるとかじゃなくて、何か経験していたことが行く行く上の学年になったときの自分の選択の礎になるというか、もともになるんじゃないかなと感じます。偶然、ことしは駒寄小学校も、うちも環境が似たようなところで、やはり保護者がクルマでどこかに連れていくというのが生活の主なスタイルなんですけれども、そういう地区であれば、公共交通を使うという練習も、本当なら学校がすることじゃなくて、各御家庭でしていただけることなのかもしれないんですけれども、学校としても、そういう機会を交通事業者様の協力のもとでできれば随分違ってくるんじゃないかなと感じています。

○谷口会長 これは小3から始まっているのは、何か理由があつたんですか。小1、小2はちょっと難しいかなと。

○事務局（相良） 高谷小学校が3年生だったので、3年生から始めさせていただいたんです。あと、議題3で、少し江ノ電さんからも御提案という形でしていただくのは、そういう体験学習みたいなところだと、学校との相談では、低学年も選択肢に入ってくるのかな、そこもどうなのかなという御意見もいただきながら、交通事業者とも調整していければと考えているところです。そういう意味では、準備が余り要らないと言ったらあれなんですけれども、先生方の負担感の軽減といった部分もあります。南先生にも、江尻先生にも、何回も打ち合わせさせていただいて、授業を進めていただいているという現状がありますので、ただ体験物であれば、種まきと先生方はおっしゃられていますけれども、簡単に、時間の確保ですとか場所の確保といった部分はできるのかなというふうになりますので、そこも検討させていただければと考えているところです。

○谷口会長 小木曾委員に伺いたいんですが、小1、小2で、例えばこの知識と利用（実践）というところに丸がつく単元があるのかどうかわからないんですけれども、それはできそうなものなんですか。

○小木曾委員 実際はちょっと難しいんじゃないですかね。教育課程の中で話をさせていただくと、多分、身近な地域からというところなんです。小学校1年生は学校探検、2年生ぐらいで学区、だんだん広がっていくじゃないですか。なので、公共交通機関を使

った実践的な部分はなかなか難しいのかなとは思うんです。

- 谷口会長 3年生ぐらいで載せると、市町村の学習がありますね。
- 小木曾委員 そうですね。4年生は県になっていくので、ひょっとしたら、その辺の中でちょっとずつというのはあるかもしれません。
- 笠松委員 ちょっとピントがずれたことを言うかもしれませんが、これをもし書いているとおりにやるとしたら、夏の前に子供たちに課題を与えておいて、夏の長期休業中に、子供たちに実際自分たちがどういったときに公共交通機関を使ったかを調べさせる。それを使って2学期以降から組み立てて、どこに持っていかうかという形で、そうすると、時間的には使えるんです。夏の間だと、親御さんもみんな1日家にいるわけではないから、外に動くわけですから、お父さんやお母さんは、どういうときに、どういう交通手段を使っているかというところ。まず1年生や2年生は、どういったときにクルマを使って、どういったときに電車に乗っているのか、そういった生活科の中でも持っていきやすいけれども、これは先生側にそういう狙いがないと無理なんです。そういう狙いみたいなもののハンドブックをこのモビリティ・マネジメントがどんどん出してくれれば、その中から先生たちが選択して、うちのクラスの子たちにはこういう力をつけたいという願いがあったら、これを使ってやってみようかというようなところに進んでいくと思うんです。

そういった部分を考えて、これはやっぱり自分で経験して考えるものだから、教室の中で、机上でやるものじゃないと僕は思うんです。そういったところを大事にして、時期とかも含めて絞っていけば、それなりのものが出てくると思うんです。ただ、急にぼんと言われると、先生たちはいろんなことをやらされていますから、正直言って苦しいです。私が今担任だったら、校長先生、勘弁してよという感じで言うと思います。ただ、前もって言うておいてくれれば組み立てやすいけれども、これまでにやってというものじゃないので、これから先、3、4年生以降になってくると英語科、外国語活動が完全な教科化になってきますし、そうすると、時間数も、またいろんなところで教育課程は編成し直さなくてはいけないときに、要はこればかりやるということじゃないわけです。いろんなものが教育課程の中に入ってきますので、これは絶対にやるものだという形でおろされてしまうと、先生によって考え方が相当……。私がさっきから言っているのは、その部分を踏まえて、子供たちにこういう力をつけたいなというときにヒントになるガイドブックのようなものをつくっていただければというのが私の個人的な願いです。

- 谷口会長 やりようによってはできるかもしれない。アイデア出しをする感じですか。
- 事務局（相良） 今の意見ですと、授業として1時間というものではなくて、先ほど学区探検というお話がありましたけれども、あと3年生になりますと、市を知るといったところもありますので、そこで、例えば学校の近くのバス停はどこにあるかというのと、そのバス停はどこに行けるんだろうと先生が一言言ってもらってその授業は終わりで

も、我々としてはいいのかなと。そこで1回興味を持ってもらうことで、先ほど江尻先生とかもお話していましたが、違う学年、上の学年に上がった段階で、そこがこうつながっているんだ、交通の勉強をしたときに、自分はこのバスを前に調べたなみたいなどころでつながっていけばいいと思っています。そんなところもやり方を学校と相談させていただければと思っています。

○谷口会長 ありがとうございます。

ほかにコメントをお願いできますか。

○鈴木委員 私も、中里小学校の隣の御所見小学校なので、基本はクルマという生活で、そうすると、やっぱり子供も意識的にバスや電車に乗せないと、そういう機会がまずないんです。先ほど滝の沢小学校の保護者の方のコメントでも、基本はクルマだけれども、休みに出かけるときはあえて公共交通機関を使っていますみたいなものがあったんですけども、そういう意識を保護者も持ったり、そういう機会を得るのに、例えば1年生——1年生になると親の手を離れて1人で学校と往復するようになるので、通学路にバス停が何個あるかとか、そういうことを意識するような、バスに乗っていない子は、バス停を見てもバス停とは認識していなかったりして、見たことはあるけれども、それが何だかわからないという、我が子もそういう時期がもっと小さいときにあったんです。なので、これは待つバスに乗っていくんだと、まず知るとというのが低学年だとできるのかなとか、あとは3、4年生ぐらいになったら、保護者のほうでも、先ほど笠松校長がおっしゃったように、夏休みにどういう体験をしたかを発表するというのであれば、意識して体験させたりできると思うので、乗り方なんかについては、本来は家庭で教えることだと思うんです。そうやって親子で意識できるようになるといいのかなと思いました。

○谷口会長 時間がだんだん迫ってきまして、次の議題に進めて、最後にもし時間がありましたら全体の質疑に行きたいと思います。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

○谷口会長 それでは、議題3、藤沢市MM教育における交通事業者との連携について、事務局から御説明をお願いいたします。

○事務局（相良） それでは、議題3の藤沢市MM教育における交通事業者との連携について、資料3に基づいて説明させていただきます。

資料3の1ページをごらんください。こちらには、藤沢市MM教育における交通事業者との連携について提案させていただくものです。交通事業者との連携につきましては、具体的な実施についてはこれからの協議となりますけれども、概略は次のように進めることを想定しております。先ほど議題1で各学校におけるMM教育の取り組みで使用した書式に基づき説明させていただきます。

実施概要は、バス車両の乗車体験や鉄道施設の見学等について交通事業者と連携しながら行うこととしております。

年度・学年については、平成28年度に小学校3年生または4年生で実施したい——こちらも先ほどの低学年という話もありますので、そこは検討になりますけれども、実施できればと考えております。先ほどの議題2の学習单元との関係でも示しましたけれども、公共交通の利用体験の少ない学年として、こういうことができれば考えたものです。

次に、学習の狙いになりますけれども、1つ目が公共交通を利用することに興味をもつ、2つ目が疑似体験などをおして、公共交通を利用する意欲を増やすとしております。なお、その他、組み合わせる学習单元によって追加するものもあるかと考えています。

実施時間については、どのような形でできるのかというのがありますので、未定としております。

連携する教科については、想定では、すぐ考えられますのは、3年生の社会における「わたしたちの大好きなまち」、4年生の社会における「県のまちづくり」と考えてはおります。

授業の概要については、具体的に示すことは難しいのですが、MMの構成要素としましては、公共交通の知識について、利用方法、公共交通に関する仕事などが得られると考えておまして、公共交通の利用につきましては、後ほど江ノ電さんに説明していただく疑似体験等を通じて公共交通の利用の実践が行えると考えております。これらの構成要素は、単体では、自発的に移動手段の転換を直接もたらすというものではございませんけれども、先ほどのお話の繰り返しになりますけれども、高学年になった際に、公共交通も移動手段の1つと考えられるよう準備するものと考えています。このため、簡易な内容の授業を検討しておまして、TPOにあわせた移動手段の選択までは含まれないにしても、公共交通の普及、利用啓発の足がかりになればと考えています。

2枚目以降につきましては、江ノ島電鉄株式会社で学校教育の現場と連携可能な手法について御提案をいただいておりますので、ここからは、江ノ島電鉄株式会社鉄道部駅務掛の大塚様に御説明をお願いしたいと思っております。

それでは、よろしく申し上げます。

○江ノ電（大塚氏） 御紹介いただきました江ノ島電鉄鉄道部駅務掛の大塚でございます。まず、資料3の2ページをごらんください。

最初に、弊社の現在の様子の御紹介をさせていただきますと、御存じのとおり、江ノ島電鉄は藤沢から江の島を通りまして鎌倉までの間、10キロメートルを約34分で結ぶ電気鉄道でございます。2017年には開業115周年を迎えます。最近では、観光のお客様が非常に多くて、鉄道では定期旅客と定期外旅客という、定期券のお客様とそのほかの乗車券を御利用のお客様で分けているんですけれども、定期のお客様が約3割、定期外のお客様が約7割、非常に観光鉄道としての色が濃くなっているところでございます。

弊社がこの学校教育MMに参加する目的をちょっと御紹介させていただきますと、弊

社では、既に始まっている少子高齢・人口減少社会において、お客様とのコミュニケーションによるリピーターの獲得、弊社の特性を生かした地域貢献活動に取り組んでおります。そこで、2ページの下の段ですけれども、沿線の地域にお住まいの皆様、働く皆様、お店をやっている皆様、そして行政・自治体、あるいは学校とコミュニケーションをとりまして、江ノ電が身近で安心な乗り物としてこれからも御利用いただけるように、また、江ノ電を中心としたコミュニケーションにより、地域あるいは江ノ電がともに成長していくということを目的にしております。

3ページをごらんください。ここからは、弊社がどんなことができるのかという御提案になります。

1つ目、電車の乗り方学習です。これは実際にお越しいただいてもいいですし、また、こちらが学校にお伺いして御案内ということもできます。切符の買い方、改札を通過して、ホームではどうやって過ごして、車内ではどうやって過ごしてという一連の流れを写真の教材ですとか、後ほど御紹介いたしますが、模擬ツールで体験をしていただくということと、それから、2つ目に安全啓発学習、鉄道の仕組みというところにも入ってくるんですけれども、どうやって安全が確保されているのか、あるいは危険な状況になったときに何か列車をとめる方法があるのか、具体的にはホームについている列車非常停止装置、あるいは踏切非常ボタン、そういったものの活用、それから踏切の渡り方なんていうのもいいのかなと考えております。

3ページの下に行きまして、3番目といたしまして、まちと江ノ電の歴史学習ということで、これは2年前、片瀬小学校むかし探検クラブにお邪魔いたしまして実際に行っております。どういった内容かといいますと、片瀬小学校でしたので、片瀬の地域と江ノ電がどういうふうにかかわって、どういう歴史をたどって今に至っているのかを御紹介させていただいております。後日、江ノ島駅にお越しいただきまして、駅務機器の見学ですとか信号機の見学、あと当社はまだ改札錠といって、切符にパチンとはさみを入れるものを使っているんです。結構、懐かしいなんて言われるんですけれども、お子さんはそれが楽しかったらしく、切符がはさみだらけでぎざぎざになってしまうまではさみを入れて、楽しそうに切っていらっしゃいました。あとは自動改札機の中をごらんいただいたりして、切符がおよそ1秒で通っていくんですけれども、その様子をごらんいただいたりとか、そっこのほうが受けはよかったかなという感じはありました。こういった学習も行えると思います。

4ページに行きまして、この授業を行うに当たり、弊社がどのようなことができるかということですが、まず、弊社施設で行う場合です。(1)駅構内で行う場合、弊社の駅は、実は事務所が非常に狭くて、15人も入れればいっぱいになってしまうようなところが多いんですけれども、比較的広い藤沢駅、あるいは江ノ島駅で行うのが可能かと思えます。それから、御参加いただけるのは30名様ぐらいが限度かなと。駅の中をごらんになる場合は最大で10名様までで、グループごとの入れかえ制となるかと思えます。(2)

留置車両内、当社の極楽寺駅のそばに検車区という電車の工場があるんですけども、そちらに大概予備車がありますので、体験型にはちょっと向かないんですけども、そちらでディスカッションですとか、そういったのもできるかと思います。そのときなんですけれども、手を触れられるところに電車があるものですから、電車の電源を入れられないんです。その関係で、暑いとき、寒いときは不可能であるということと、あとは放送設備が使えませんので、2両固定の編成なんですけれども1両分の着席定員ということで、こちら30名様までが限度かなというところ、それから、検査がある関係で電車が検車区の中を動いたりしますが、それが無いのが13時から15時ごろまでで電車が動きませんので、そのあたりでできるということです。

下に行きまして、逆に弊社係員が学校にお伺いをする場合です。こちらは以下に御紹介いたします資料、体験ツール、機材などをお持ちしてお伺いします。体育館とかそういうところでやれば、学年単位での対応も可能と思われます。1つお願いがございまして、駐車場と電源をお借りしたい。場合によっては、スクリーンですとか、そういったものもお借りすることが考えられます。

ここからは、資料と体験ツール、機材等の御紹介になります。1つ目、電車の乗り方資料「江ノ電に乗ってでかけよう」で、電車の乗り方ですとか安全に関すること、それから江ノ電の車両の紹介なんか載っている資料でございます。5ページに行きまして、これは実は仙台市の写真をちょっとお借りしたんですけども、模擬自動券売機、あるいは模擬自動改札機で、切符の買い方をあらかじめ模擬の機械で体験していただくということです。下に行きまして、先ほど申し上げましたけれども踏切警報機、これは踏切の渡り方のところになります。それから踏切非常ボタン、列車非常停止押しボタン、これはホームにあるものです。実は、唯一江ノ電にあるのが下の段の列車非常停止押しボタンの機械でございます。踏切非常ボタンにあつては、これは小田急さんのものなんですけれども、これをお借りすることが可能であると。踏切警報機に関しては、今製作を行っているところでございます。こういったツールを学校さんにお持ちしてやるということも可能でございます。

以上、当社から御提案をさせていただきました。よろしくお願いたします。

○事務局（相良） 江ノ島電鉄株式会社様、ありがとうございました。

このほかにも、今、バス事業者とも、グラウンドとかをお借りできればなるんですけども、そこに使用しておりますバスを持ち込みまして、乗り方、SuicaとかPASMOの体験みたいなものですか、乗るときにどうしたらいいんだろうといった体験もできるのではないかという形でバス事業者さんとも調整しております。先ほどの3年生なのか、低学年でもいけるのかといった部分にはなってくるんですけども、導入といった部分で、こんなことをできればと考えているところです。このような形で交通事業者との連携部分、あと保護者の目線から見て、こういう部分で鉄道事業者、交通事業者にこういうことをさせてもらえれば我々もわかりやすいとか、子供たちに教えやす

いといったお話がいただければと考えております。

説明は以上となります。

○谷口会長 ありがとうございます。

ただいまの御説明に対して、何か質問、コメントがございましたらぜひお願いします。

○笠松委員 質問じゃないんですが、お願いがありまして、江ノ電さんはいつもかまくらめぐり等で使わせていただいているんですが、南の学校の子供たちと北の学校の子供たちでは交通費の値段が違うんです。例えばかまくらめぐりなんかに行くときには、その場所場所で切符を買いながら動いているんです。保護者の目線から考えると、この期間のときだけは、かまくらめぐりとか、そういった学習のときだけは、周遊券みたいなものを割安でやっていただけると、行く範囲も広がるし、時間までに戻ってくればいいという視点になりますので、こういう周遊券を使えばもっともっといろんなところへ行けるんだなというところでMM教育につながっていく。あらゆる角度で物事をやっていただけるといいと思うんです。この辺は、学校現場として江ノ電にお願いしたい。

○谷口会長 それは、できればバスも込みですよ。

○笠松委員 そういう学習で使うときには、親御さんは子供のためにお金を出すんです。でも、5、6年生になるといろんな活動があるので、正直な話、大変なんです。

○谷口会長 できれば何か学校MM用にJRさん、小田急さんにそういうものを……。

○笠松委員 そうすると、子供は江ノ電ってすごいなと、JRよりも江ノ電だなという話になっていくんです。

○谷口会長 ありがとうございます。

○鈴木委員 この前見たニュースで、小学生が踏切内の高齢者を助け出したというのがあるって、褒める声もあれば、危ないから非常ボタンを押せばいいのにといい声もあったと思ったんですけども、そもそも子供が非常ボタンの存在を知っているのかというのが疑問だったので、先ほどの非常ボタンとか、実物を見ての案内があるといいなと思いました。

○谷口会長 安全啓発学習というのも重要ですよ。

もしよろしければ先生方も、小木曾委員もコメントをいただければ。

○小木曾委員 券売機とかは、こういう模擬のものが必要だと思います。あと料金表、時刻表の見方は多分必要だろうなと。バスもそうですし、電車もそうですし、その辺は結構難しいところだろうなと。

○谷口会長 模擬券売機は、江ノ電さんも持っているんですか。

○江ノ電（大塚氏） 持っていないんですけども、つくろうと思えばいつでもつくれます。

○谷口会長 本当に動くんですか。

○江ノ電（大塚氏） パワーポイントで、さわったら裏で画面を変えるという感じですよ。うちの会社は何でも手づくりしないと。

○小木曾委員 バスを校庭にというのは、スプリンクラーが埋まっていたりするから、そこはちょっと気をつけたほうがいい。多分できる学校とできない学校があると思うので、そこは考えてもらったほうがいいかもしれない。

○谷口会長 先生方、できるかどうかは別として、もしこんなのがやりたいとかがあれば、ぜひ御要望として何か一言でもいただければ。

○江尻教諭 先ほど笠松校長先生が言われたとおりで、江ノ電さんは、観光という意味で鎌倉と言われると、私たちも子供たちに使ってほしいと言いたいですけれども、いかんせん料金がなくて、特にライフタウン側からそちら方面に攻めるとなると、どうしても1度、辻堂でJRさんに乗らなければいけなくて、藤沢で乗りかえると金額が増し増しになってしまって、よっぽど子供たちが好きじゃない限りは選択肢としてないんです。ただ、私が過去にいた藤沢小学校のときは、江ノ電さんは「のりおりくん」だか何か1日パスみたいなものを持っておられますよね。知っている子は、それを使うと便利だと言って、往復江ノ電しか使わないというチームもあったんですけれども、多分、その辺も駅の環境とかによって違うので、今の学区に移ってからは、子供からそういう発想は出ないんです。修学旅行の練習もするので、向こうでお土産を買うのに幾らか珍しく持って行って、実際に自分で経験しなさいというのをやるためには、少しでも料金を削って自分の益になることをしようというのが子供の生きる力なので、それ用の学校パスみたいなものがあって、ぜひ利用してくださいみたいな話になれば、当然、子供たちは選択肢としてふえるんじゃないのかなというのは、現場としては思うところです。

ただ、券売機は、発券とかができるような何か手づくりのものをつくっていただけると、現場としては非常におもしろいかなと。実際、子供は券売機1つも、焦ってしまうと、自分は子供なのに大人料金を買ってしまって、貴重な、向こうに行って本当はアイスクリームになるはずのお金が、あれっ、俺だけないみたいな子がやっぱりいるので、子供料金があるというのを、1つ押すというのも、子供は痛い目を見て学ぶと、僕なんかはいつもそう言って笑って、それはあなたが悪いでしょうという話をするんですけれども、それを先に経験できると失敗として少なくなるかなと思うので、そういうのをもし本当に学校現場に持ってきていただければ、非常にうれしいと思います。

○谷口会長 ありがとうございます。

南先生、何かよろしいですか。ぜひお願いします。

○南教諭 江ノ電さんがこういうのをいろいろ考えていらっしゃるというのを初めて知りまして、とてもうれしく思います。本当に実現できるのを楽しみにしています。

○谷口会長 本物みたいにはできないんですか。手づくりなんですか。

○江ノ電（大塚氏） 考えてみます。

○谷口会長 資料3だけではなくて、全体を通して何かございますか。

それでは、時間も押しておりますので、本日の議事はこれで終わりさせていただきます。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

○谷口会長 その他として、意見、要望など何かございますでしょうか。

それでは、事務局から何かありましたらお願いします。

○事務局（大澤） 事務局からなんですけれども、その他といたしまして、次回の検討会の開催の時期でございますが、夏ごろを予定させていただいております。そのときの議題といたしましては、本日報告ができなかった高谷小学校における取組みの報告、協力校における28年度の実施計画などについて考えておりますので、よろしく願いいたします。

日程は、詳細が決まりましたら早目に委員のほうには連絡させていただくようにしますので、よろしく願いいたします。

今、会長からもお言葉があったように、今後、何か御質問、もしくはこういうことを確認したいなというような御意見がございましたら、都市計画課のほうまで忌憚なくお電話なり連絡をいただければ説明させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

事務局からは以上となります。

○谷口会長 ほかはよろしいでしょうか。

それでは、進行を事務局にお返しいたします。

○事務局（大澤） 会長、進行、いろいろありがとうございました。

それでは、以上をもちまして第3回藤沢市地域公共交通会議モビリティ・マネジメント教育検討会を終わらせていただきたいと思います。本日は長時間にわたる活発な御議論、ありがとうございました。

午後5時33分 閉会

参考資料

参考-1 藤沢市交通マスタープランにおけるモビリティ・マネジメントの位置づけ

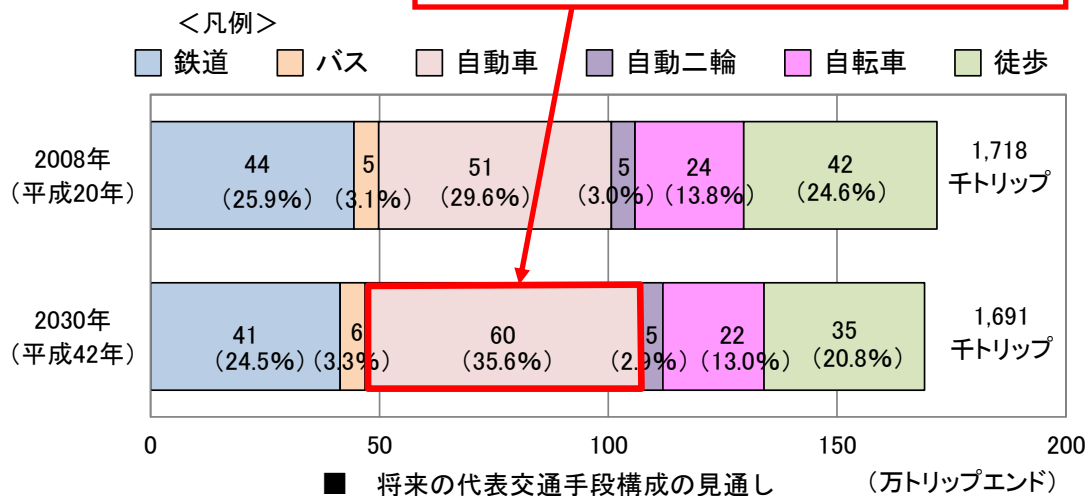
4-4 環境にやさしい交通体系 (p.66 第3章 藤沢市がめざす将来の交通像の紹介)

公共交通や自転車が利用しやすく、ひとが快適に移動できる環境にやさしい都市をめざし、環境にやさしい交通体系を目標とします。

そのため、「最寄り駅まで15分の交通体系」、「藤沢駅周辺(中心市街地)まで30分の交通体系」、**モビリティマネジメントなどによる公共交通の利用促進により**、将来的に増加する見通しとなっている「自動車の利用割合」を下げ、「公共交通の利用割合」を高めていきます。

2030年(平成42年)の自動車利用割合が35.6%と見込まれていますが、2008年(平成20年)の29.6%よりも低下させる一方、公共交通の利用割合を高めていくことで、二酸化炭素などの温室効果ガスの低減につなげていくことを目標とするものです。

公共交通の利用促進を図り、将来見通しでは増加傾向となっている自動車の利用割合の低減をめざします。



【資料：藤沢市都市交通体系策定業務委託報告書 (H24.3)】

基本方針3 環境にやさしい交通まちづくり (p.82 第4章 基本方針と交通施策の紹介)

1. 環境にやさしい交通環境づくり

交通体系としても、二酸化炭素などの温室効果ガスを削減していくことが求められています。環境にやさしい交通環境づくりに向けた交通施策として、環境にやさしい交通行動の意識啓発となる、環境負荷の小さい自転車や公共交通などの利用転換を促すモビリティ・マネジメントの推進、環境負荷の少ない自動車の普及促進、既存交通施設の有効活用などを進めていくことが重要となっています。



参考-2

乗り方ガイドブック中里小学校

バスの乗り方・電車の乗り方 ガイドブック

-目次-

【行き】

その1・バスの乗り方	p. 2
その2・電車（小田急）の乗り方	p. 5
その3・藤沢駅での乗り換え	p. 8
その4・電車（えのでん）の乗り方	p. 11

【帰り】

その5・電車（JR）の乗り方	p. 15
その6・大船駅での乗り換え	p. 18
その7・藤沢駅での乗り換え	p. 19

~その1・バスの乗り方~

1-1. バスのりば案内をしらべる（駅などの大きなバス停）

バス停にはいろいろな情報がかいてあります。バスの時刻表をみて、自分の乗りたいバスが何時にくるか、しらべましょう。



バス停の名前

バス停をとるバスの行先と番号

行先	長後駅西口行			湘南台駅西口行			辻堂駅北口行			行先
	平日	土曜	休日	平日	土曜	休日	平日	土曜	休日	
5	48 58	47		58	58	58				5
6	06 16 23 32 45 53	02 15 29 41 55	26 43 58	18 38 58	28 58	28 58				6
7	02 13 13 23 28 43 50	03 11 26 36 48	11 23 33 48	18 33 53	18 38	18 38	38	38	38	7
8	03 06 14 39 48 58	01 13 31 48	01 08 23 31 43 53	18 48	18 48	18 48				8
9	08 17 35 48	01 13 32 48	01 08 23 32 48	48	48	18 48	08	08	08	9
10	01 13 31 38	02 13 32 48	02 13 32 48	48	18 48	18 48	08	08	08	10
11	01 13 31 38	02 13 32 48	02 13 32 48	18 48	18 48	18 48				11
12	01 13 31 38	02 13 32 48	02 13 32	48	48	48				12
13	01 13 31 38	02 13 32 48	02 13 32	18 48	18 48	48	08	08	08	13
14	01 13 31 38	02 13 32 48	02 13 32	18 48	18 48	18 48				14
15	01 13 31 38 53	02 13 32 48	02 13 32 53	18 48	18 48	18 48	08	08	08	15
16	01 13 33 38 58	02 13 32 48	02 13 32 53	18 48	18 48	18 48				16
17	03 18 28 38 58	02 13 32 48	02 13 32 48	18 48	13 45	18	08	08	08	17
18	08 18 28 38 58	02 17 23 37 48 57	02 17 23 37 48 57	18 48	18 48	18 48				18
19	08 18 37 57	13 32	13 32	18 48	18	18	08	08	08	19
20	08 17 37 43 57	02 13 32 48	02 13 32 48	15						20
21	17 33 57	02 32 48 57	02 32 57	08						
22										
23	03									
24										
25										

バスの時刻表

バスが来る時間は毎日同じではないので、乗る日によって見るところが変わります。

平日…白、土曜日…青、休日(日曜)…赤 のところをみて、しらべましょう。

1-2. バスがとうちゃくしたら

バスがきたら、自分の乗りたいバスか、自分の行きたい所に行くバスか、確認しましょう。バスの前側上と、ドアの横に、どこを、どこへ行くのか表示があります。

バス前面

系統番号

行き先

バス横面
(左側)



1-3. バスに乗るとき

バスに乗るときは、SUICA・PASMO を使うときと、現金を払うときで乗り方が違います。

SUICA・PASMO を使うとき

SUICA・PASMO は入口にある機械にタッチします。

現金を払うとき

どのバス停から乗ったのか分かるように『整理券』をとりましょう。



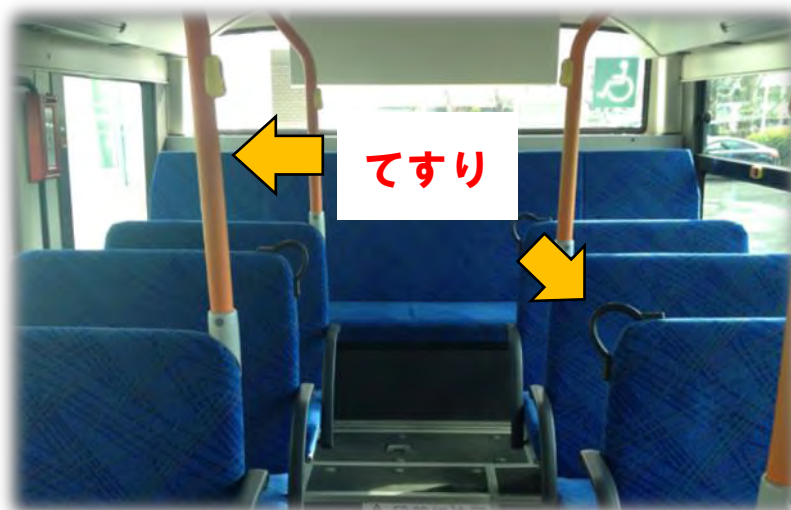
Suica・PASMO で
バスに乗るとき

現金・定期券等で
バスに乗るとき

1-4. バスにのっているとき（ルールやマナーについて）

バスに乗っているときは、他のお客さんにめいわくをかけたりしないように、下書いてあることを守りましょう。守らなかったときは、事故などが起きてケガをしてしまうことがあります。

- ◎大声でしゃべって、他の人にめいわくをかけてはいけません。
- ◎席に座ってないときは、手すりや吊り革につかまりましょう。



- ◎バスが動いているときは、移動したりするのはきけんなので、やめましょう。
- ◎携帯電話やスマートフォンで電話してはいけません。
- ◎窓から手や頭を出してはいけません。

1-5. 降りたいバス停がちかくなったら

降りたいバス停の名前が呼ばれたら、窓側などにある降車ボタンを押して、運転手さんにお知らせします。



現金を払う人は、払うお金がいくらなのか、バスの前に運賃表が書いてあるので、しらべてお金を準備しましょう。

自分の持っている整理券の番号と同じところに書いてある数字が払うお金です。

上段：現金		久 保 沢		
下段：IC		ここは		
整理券	0	1	2	久保沢
運	290	260	260	●城山総合事務所入口
	288	258	258	●原宿
賃	3	4	5	●東原宿
	230	180	180	●終点 橋本駅北口
	227	175	175	

ご乗車ありがとうございました。



運賃は2番の下にある 260 円！

(子供は 130 円)

1-6. バスを降りるとき

お金は降りるときに払います。運転手さんの横を通るときに払いましょう。乗るときと同じように、SUICA・PASMO を使うときと、現金を払うときで違います。

SUICA・PASMO を使うとき

SUICA・PASMO は乗るときと同じように機械にタッチします。

現金を払うとき

現金を払うときは、乗るときにとった整理券と一緒にお金を運賃箱に入れます。



現金は整理券と一緒に運賃箱へ

Suica・PASMO はタッチ

～その2 電車(小田急)の乗り方～

2-1. 運賃をしらべる

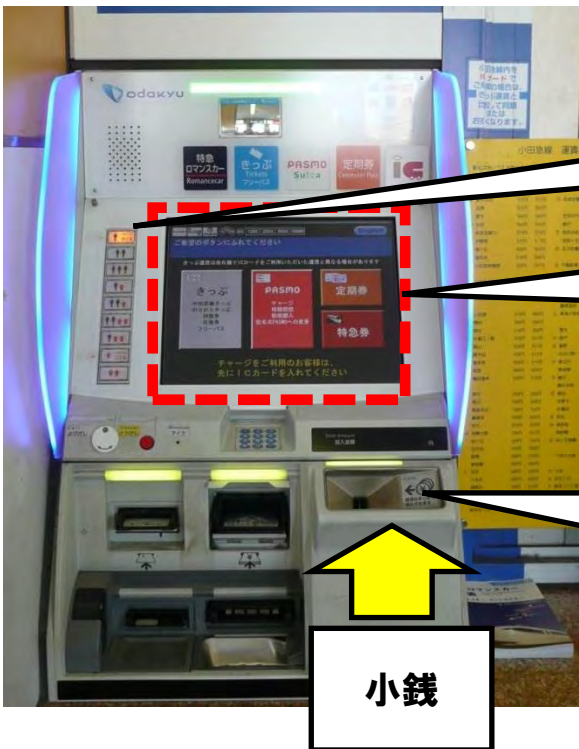
電車にのるためには切符(きっぷ)が必要です。切符を買うには、「運賃表」を見て運賃をしらべてから買います。例えば、下の写真を見て藤沢まで行きたいときは、220なので、220円とわかります。(こどもは赤字の110円です)



2-2. 切符を買う

切符は「券売機(けんばいき)」で買います。お金を入れて切符を買う人数を選んだら、運賃表で見た数字と同じボタンを押します。

ボタンを押したら、切符が出てくるので、切符をもって改札口へ行きましょう。



1. 切符を買う人数(子供)を選びます
2. 画面にある①で見た運賃を押します
3. お金を券売機に入れます

※おつりを忘れずにとりましょう。

※券売機ではSUICA・PASMOにお金をいれるチャージなどができます。

2-3. 改札機（かいさつき）をとおる

電車に乗るためには改札機をってからホームにいきます。改札機は乗る駅と降りる駅で必ずとおりましょう。

SUICA・PASMO を使うときは、機械にタッチします。切符を買った人は機械の前側で切符を入れると、機械の後ろ側で出てくるので必ず取りましょう。

改札機には、きっぷと SUICA・PASMO の両方がつかえるきかいと SUICA・PASMO だけが使えるきかいがおいであります。



2-4. のりばと時刻をしらべる

駅には「電光掲示板（でんこうけいじばん）」があるので、電車の時間、行先やのりばをしらべましょう。とちゅうの駅で、あとからくる早い電車にのりかえたりすることができるので、お知らせもかくにんしましょう。



2-5. 電車をまつとき

ホームで電車をまつときには、いすにすわるか、電車がとまったときに出入口がくる位置に表示があるので、そこに並んでまちましょう。電車がついたら、電車が降りる人がいなくなってから、のりましょう。

◎ホームの端を歩かないようにしましょう。

◎電車をまつときは床に表示してある位置でまちましょう。

2-6. 電車にのっているとき

電車に乗っているときは、他のお客さんにめいわくをかけたりしないように、下書いてあることを守りましょう。守らなかったときは、事故などがおきてケガをしてしまうことがあります。

◎大声でしゃべって、他の人にめいわくをかけてはいけません。

◎席に座ってないときは、手すりや吊り革につかまりましょう。

◎携帯電話やスマートフォンで電話をしてはいけません。

◎優先席ではお年寄りや子供づれの人に席を譲りましょう。

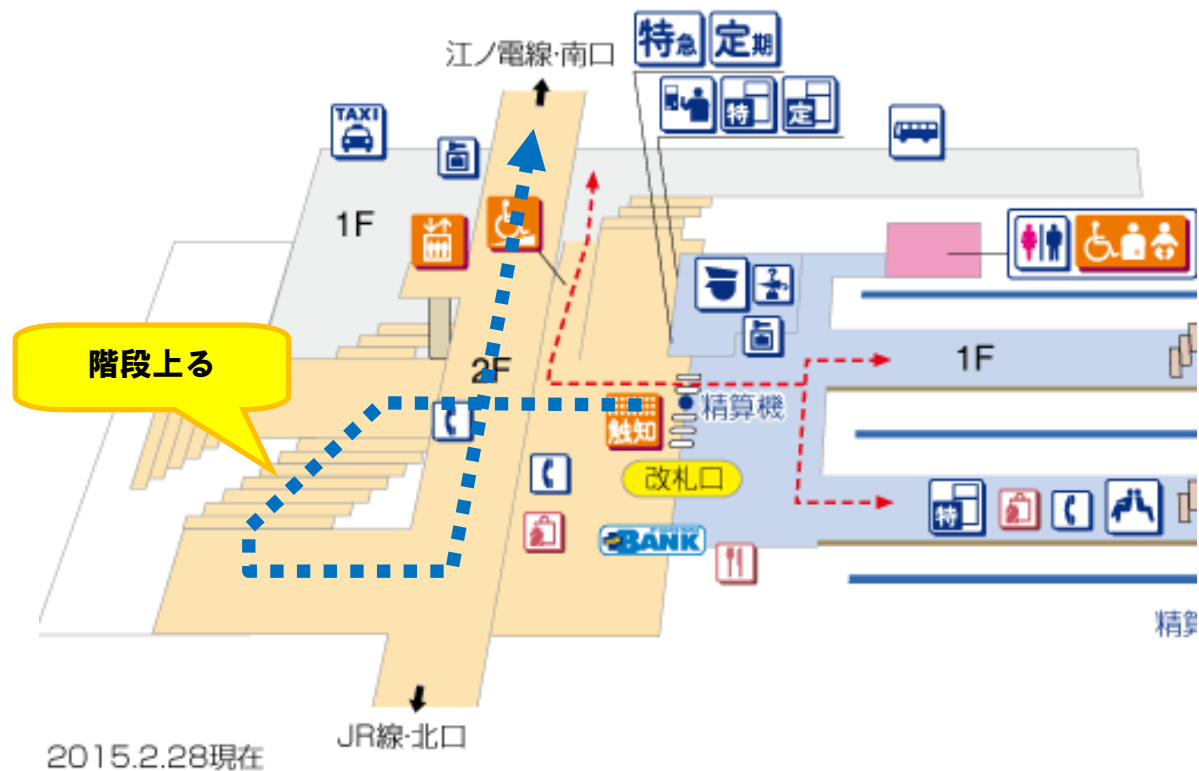


～その3 藤沢駅での乗り換え～

小田急藤沢駅で一度電車から降りてホームに出ます。ホームの端には出口があり、③と同じように切符を入れますが、切符は出てこないで、そのまま改札機を通りぬけてから出ましょう。



江ノ電の改札に行くには、一度階段を上らなければいけません。階段をのぼったらいちど外にでます。



バス・電車の乗り方



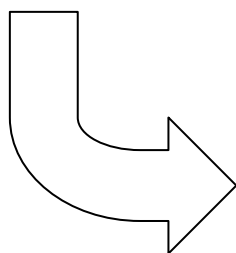
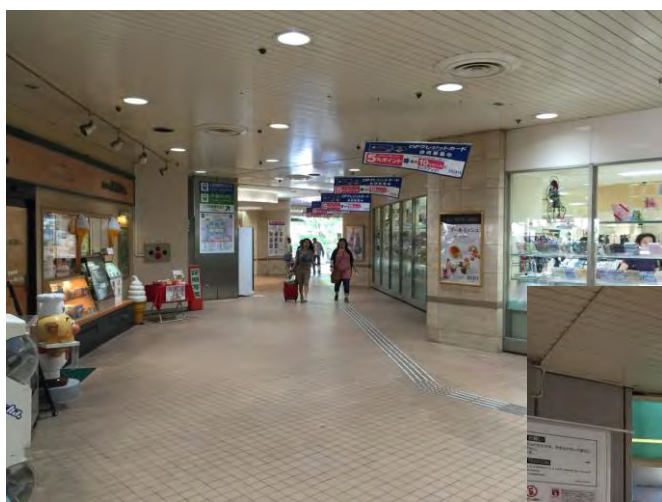
※JRの改札の案内がありますが、江ノ電の改札にも行くことができます。

バス・電車の乗り方

階段を上ったあと、外にあるビルの2Fに江ノ電のりばがあります。



ビルの中を通ります。しばらくすると改札が見えてきます。



～その4 電車(えのでん)の乗り方～

4-1. 運賃をしらべる

電車にのるためには切符(きっぷ)が必要です。切符を買うには、券売機の上にある「運賃表」を見て運賃をしらべてから買います。例えば、下の写真をみて長谷まで行きたいときは、上に300、下に150と書かれています。こどもは下の金額になるので、150円の切符を買きましょう。

※SUICA・PASMOを使う人は切符はいらないので、「③改札機を通る」にそのまま行きます。

駅名	運賃
鎌倉	300
和田	300
比ヶ谷	300
長谷	300
極楽寺	300
稲村ヶ崎	260
七里ヶ崎	260
鎌倉高校前	260
腰越	220
江ノ島	220
湘南海岸公園	220
鵠沼	190
柳沼	190
石路	190
藤沢	190

4-2. 切符を買う

切符は「券売機(けんばいき)」で買います。お金を入れて切符を買う人数を選んだら、運賃表で見た数字と同じボタンを押します。

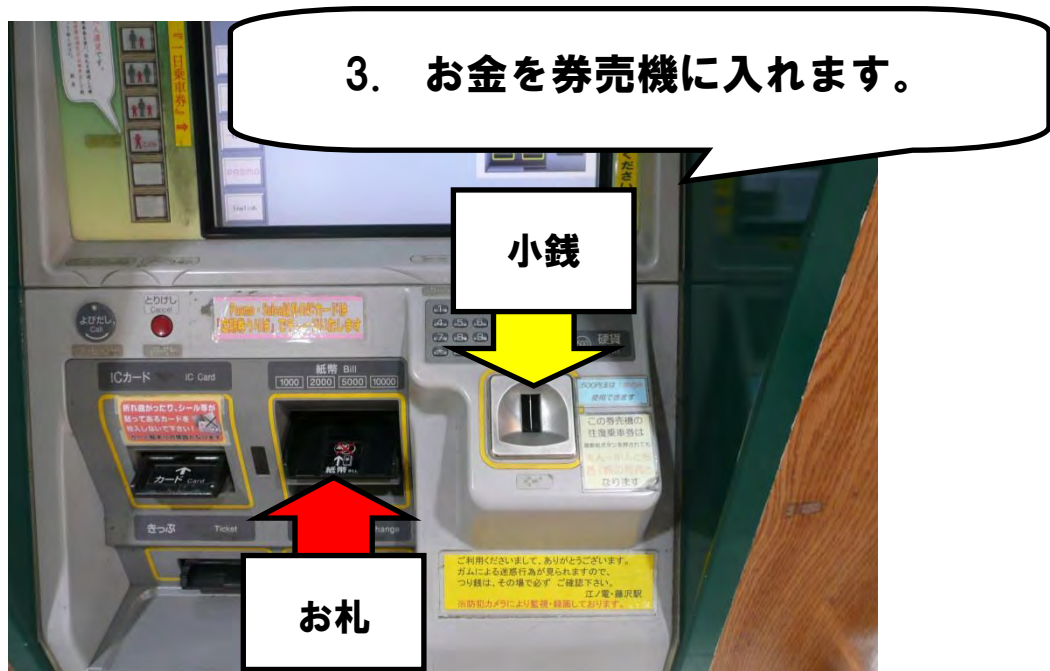
ボタンを押したら、切符が出てくるので、切符をもって改札口へ行きましょう。

1. きっぷを買う人数(子供)を選び

ます

2. 画面にある①で見た運賃を押します





※おつりを忘れずにとりましょう。

※券売機では SUICA・PASMO にお金をいれるチャージなどができません。

4-3. 改札機（かいさつき）をとおり


電車に乗るためには改札機を通してからホームにいきます。改札機は乗る駅と降りる駅で必ずとおりました。

SUICA・PASMO を使うときは、機械にタッチします。切符を買った人は機械の前側で切符を入れると、機械の後ろ側で出てくるので必ず取りましょう。改札機には、きっぷと SUICA・PASMO の両方がつかえるきかいと SUICA・PASMO だけが使えるきかいがおいであります。



4-4. じかんやのる電車をしらべるとき

いつ、どこへいく電車がくるのかしらべるときには、時刻表を見てしらべましょう。江ノ電では電車はぜんぶの駅にとまる「各駅停車」ですが、どの駅まで行くかは時間によって違います。自分の行きたい駅まで電車がとまるのか、時刻表と電車の停まる駅の案内を見て確認しましょう。



The image shows a timetable board titled "江ノ電 標準時刻表" (Enoden Line Timetable). It lists train numbers (5 to 23) and their arrival and departure times at various stations. Below the timetable is a section titled "路線・所要時間" (Route and Travel Time) showing the line layout and travel times between stations. Three yellow callout boxes point to specific parts of the board:

- 時刻表** (Timetable) points to the main table of train numbers and times.
- 行き先** (Destination) points to the "行き先" column in the timetable.
- 電車のとまる駅の案内** (Station information for the train) points to the "路線・所要時間" section.

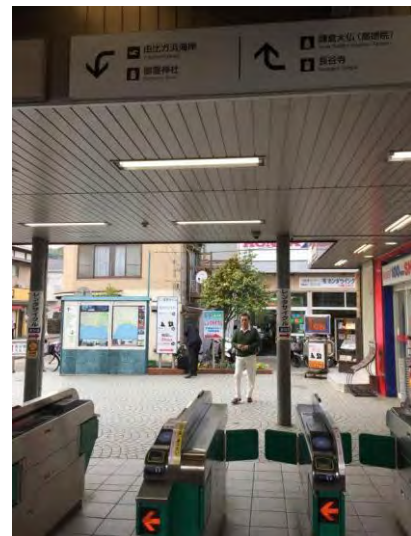
4-5. 電車をまつとき・電車にのっているとき

7ページに書いてあることと同じようにして、ルールを守って電車にのりましょう。

4-6. 電車を降りるとき（長谷駅で降りるとき）

※鎌倉駅で降りる人は次のページを見ましょう。

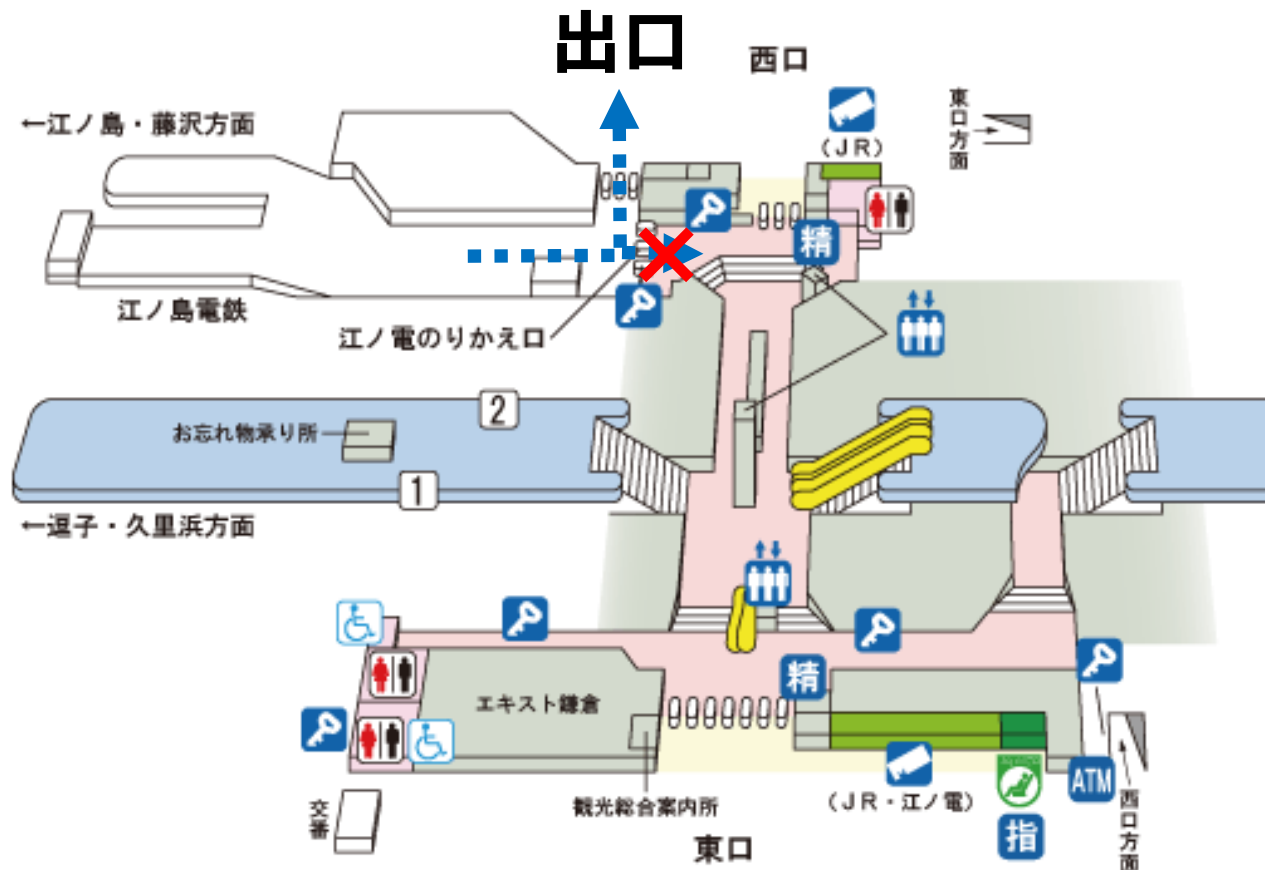
長谷駅に着いたら、掲示板に書かれた出口の方向に行きましょう。出口まできたら、同じように切符を入れますが、切符は出てこないのです、そのまま改札機を通りぬけてから出ましょう。



4-7. 電車を降りるとき（鎌倉駅で降りるとき）

鎌倉駅に着いたら、掲示板に書かれた出口の方向に行きましょう。入るときと同じように切符を入れますが、切符は出てこないのので、そのまま改札機を通りぬけてから出ましょう。

出口は1箇所です。JRに乗り換えるための改札もありますので、間違えないようにしましょう。



～その5 電車（JR）の乗り方～

5-1. 運賃をしらべる（JR 北鎌倉駅）

小田急や江ノ電と同じように、券売機の上にある「運賃表」を見て運賃をしらべてから買います。例えば、下の写真をみて鎌倉まで行きたいときは、200なので、200円とわかります。（こどもは半額の100円です）

※SUICA・PASMO を使う人は切符はいらないので、「③改札機を通る」にそのまま行きます。



5-2. 切符を買う

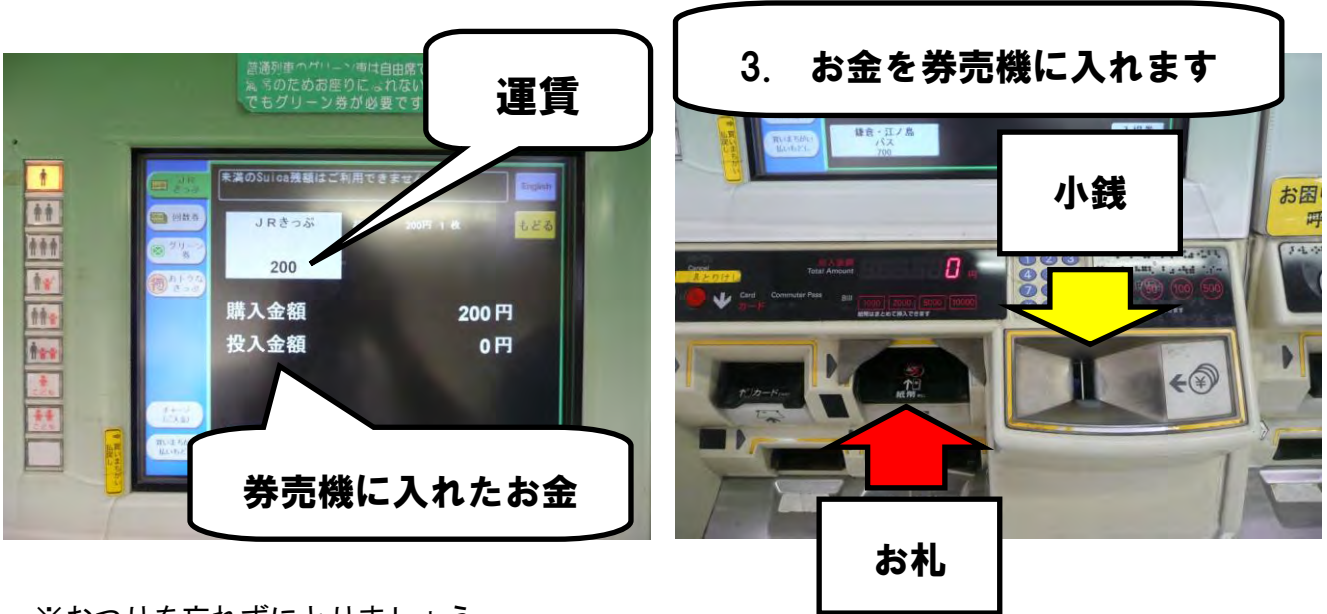
切符は「券売機（けんぱいき）」で買います。お金を入れて切符を買う人数を選んだら、運賃表で見た数字と同じボタンを押します。

ボタンを押したら、切符が出てくるので、切符をもって改札口へ行きましょう。

1. 切符を買う人数(子供)を選びます

190	200	240	320	410	500
580	670	760	840	970	1140
1320	1490	1660			

2. 画面にある①で見た運賃を押します



※おつりを忘れずにとりましょう。

※券売機では SUICA・PASMO にお金をいれるチャージなどができます。

5-3. 改札機（かいさつき）をとおる

電車に乗るためには改札機を通してからホームにいきます。改札機は乗る駅と降りる駅で必ずとおりましょう。

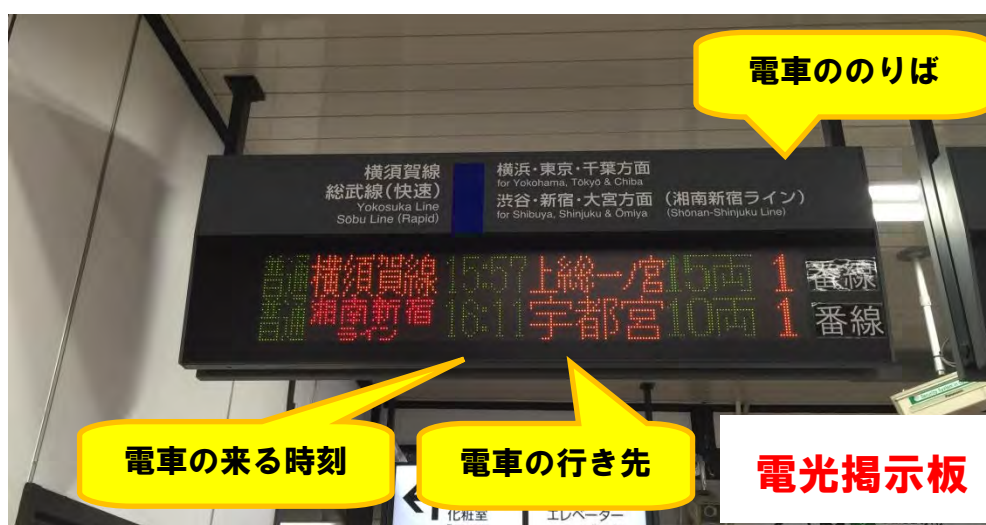
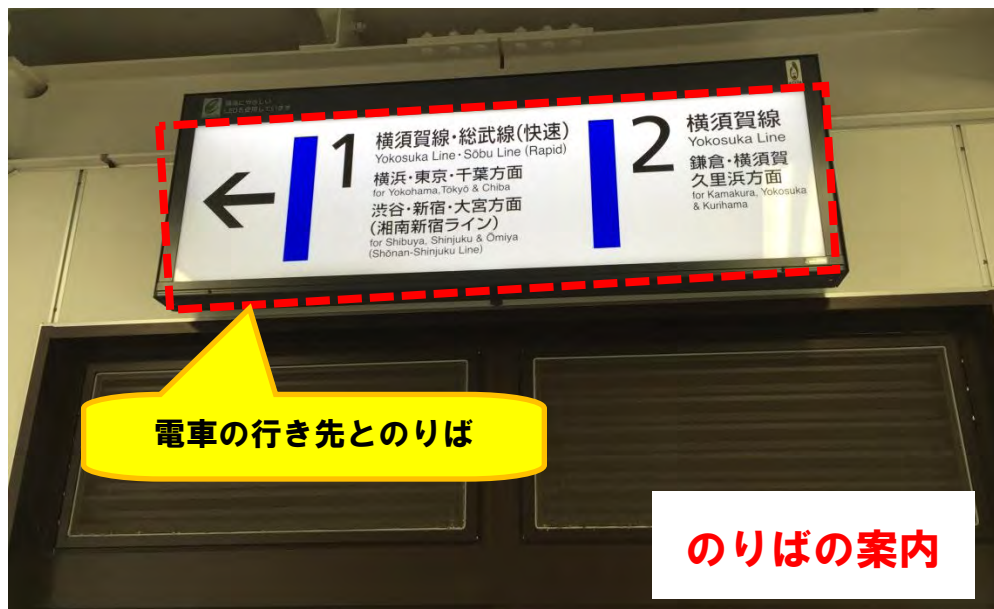
SUICA・PASMO を使うときは、機械にタッチします。切符を買った人は機械の前側で切符を入れると、機械の後ろ側で出てくるので必ず取りましょう。

改札機には、きっぷと SUICA・PASMO の両方がつかえるきかいと SUICA・PASMO だけが使えるきかいがおいであります。



5-4. のりばと時刻をしらべる

改札から入ると、のりばの案内があるので、行先やのりばをしらべましょう。また電光掲示板（でんこうけいじばん）では、のりばごとに電車の出る時刻や行き先をしらべることができます。

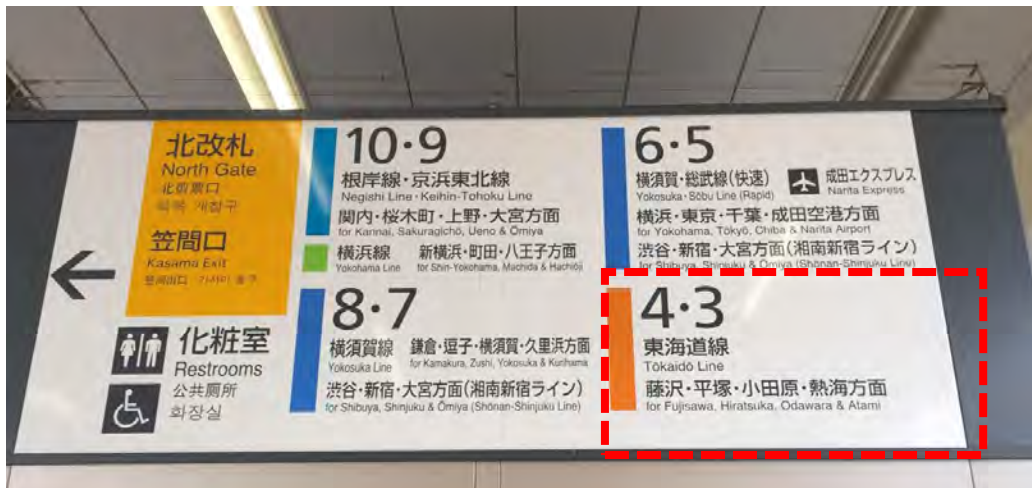
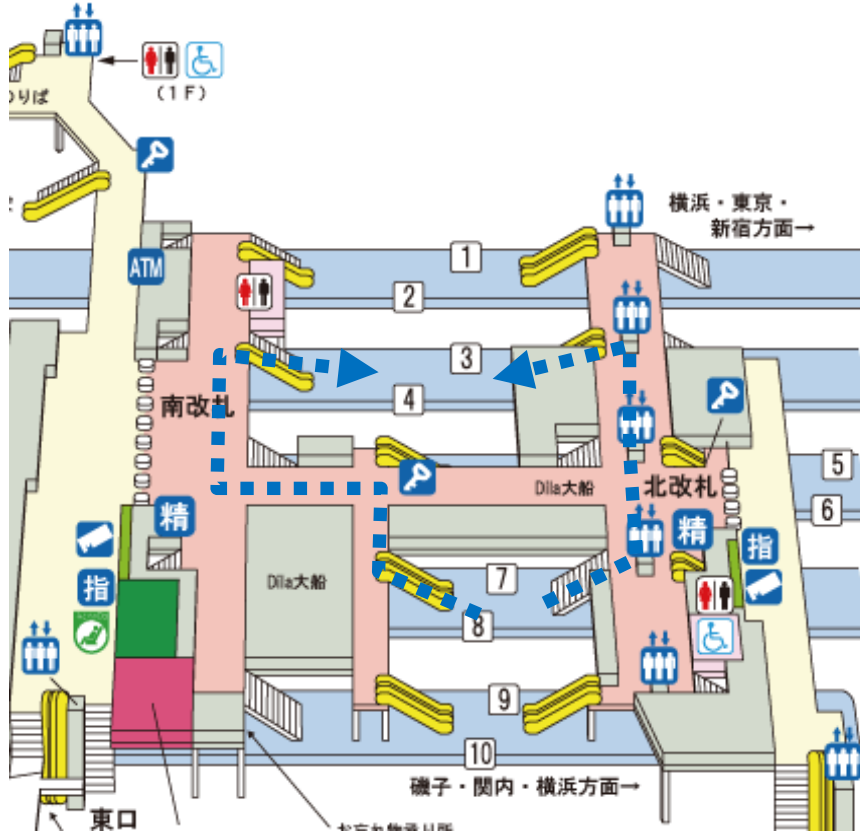


5-5. 電車をまつとき・電車にのっているとき

7ページに書いてあることと同じようにして、ルールを守って電車にのりましょう。

~その6 大船駅での乗り換え~

JR 大船駅で一度電車から降りてホームに出ます。掲示板の表示を見て、階段を上りましょう。乗り換えるためには階段を上ったら、改札機は通らずに、掲示板を見て3・4番ホームに行きます。



ホームに下りたら、来た電車に乗ります。「小田原」や「平塚」などの行先が書いてあることを確認しましょう。(※千葉や東京方面行ではありません。)

～その7 藤沢駅での乗り換え～

7-1. 乗り換え改札に行く

JR藤沢駅で一度電車から降りてホームに出ます。ホームには2か所階段がありますが、そのうち『小田急のりかえ口』と書いた階段を上りましょう。出口に行つてはいけません。階段を上ると改札があります。改札を通る前に小田急の切符を買いましょう。券売機が改札機の横にあります。



小田急のりかえ口

券売機→



7-2. 切符を買う

持っているJRの切符をいれ、小田急の切符を買います。
上にある運賃表で長後駅までの運賃を確認しましょう。
ボタンを押したら、新しい切符が出てくるので、切符をもって改札口へ行きましょう。

1. JRの切符を入れます。

2. 画面にある①で見た運賃を押します

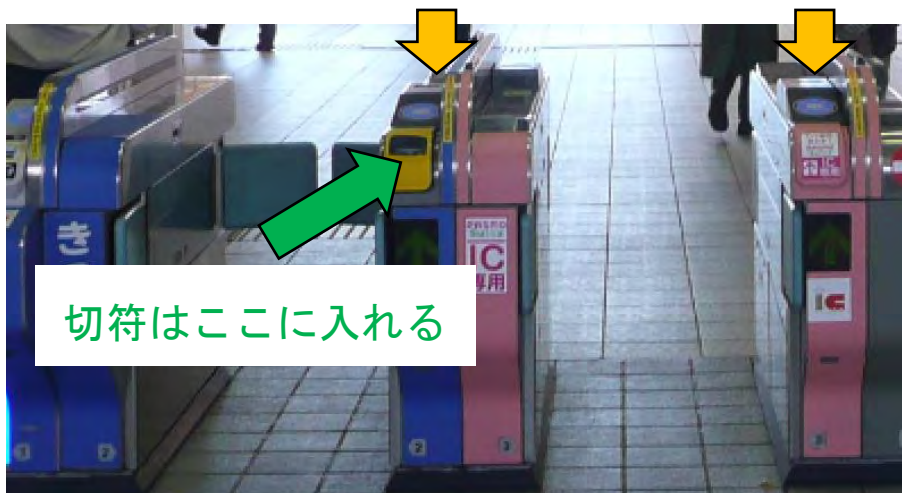
3. 新しい切符をとります



7-3. 改札機（かいさつき）をとおる

電車に乗るためには改札機をってからホームにいきます。改札機では新しく買った切符がでてくるので、忘れずに取りましょう。

Suica・PASMO はタッチ



Suica・PASMO ときっぷ

Suica・PASMO せんよう

7-4. のりばをしらべる

駅には「電光掲示板（でんこうけいじばん）」があるので、電車の時間、行先やのりばをしらべましょう。とちゅうの駅で、あとからくる早い電車にのりかえたりすることができるので、お知らせもかくにんしましょう。



電車ののりば

電車の行き先

電車の来る時刻

電光掲示板

7-5. 電車をまつとき・電車にのっているとき

7ページに書いてあることと同じようにして、ルールを守って電車にのりましょう。

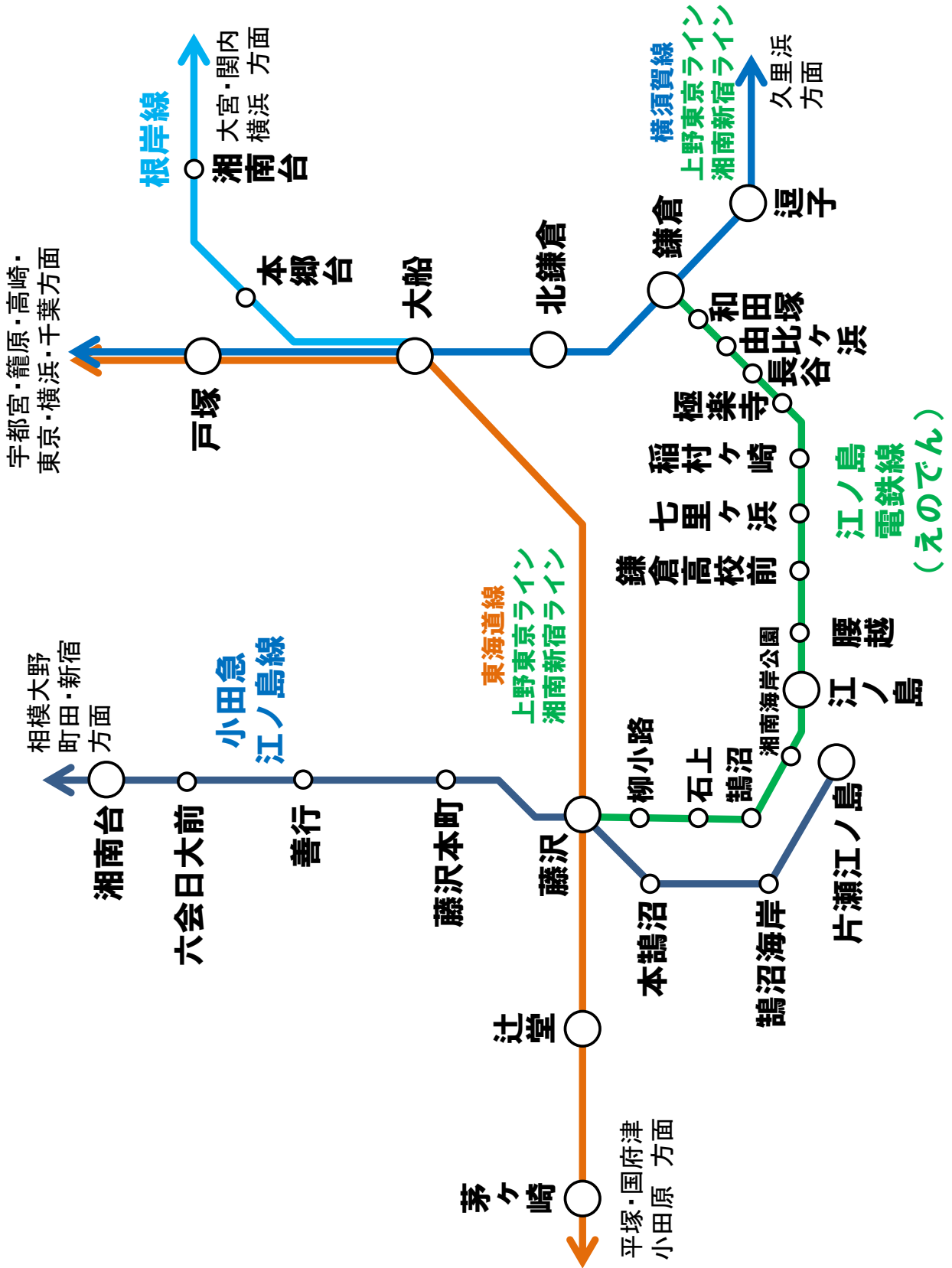
7-6. 電車を降りるとき

長後駅に着いたら、掲示板に書かれた出口の方向に行きましょう。出口まできたら、③と同じように切符を入れますが、切符は出てこないなので、そのまま改札機を通りぬけてから出ましょう。



改札機

【藤沢・鎌倉周辺の鉄道路線図】



参考-3

乗り方ガイドブック滝の沢小学校

バスの乗り方・電車の乗り方

ガイドブック

-目次-

【行き】

その1・バスの乗り方	p. 2
その2・バス→電車に乗り換える（辻堂駅）	p. 5
その3・バス→電車に乗り換える（湘南台駅）	p. 16
【参考】藤沢駅へのルート別時刻表	p. 22

【帰り】

その4・電車の乗り方（JR 藤沢駅）	p. 25
その5・電車→バスに乗り換える（辻堂駅）	p. 30
その6・電車の乗り方（小田急藤沢駅）	p. 38
その7・電車→バスに乗り換える（湘南台駅）	p. 41

【その他】

辻堂周辺の電車路線図	p. 48
辻堂駅～滝の沢小学校周辺のバス路線図	p. 49
湘南台駅～滝の沢小学校周辺のバス路線図	p. 50
藤沢駅～滝の沢小学校周辺のバス路線図	p. 51

~その1・バスの乗り方~

1-1. バスを調べる

バス停にはいろいろな情報がかいてあります。バスの時刻表を見て、自分の乗りたいバスが何時に来るか、調べましょう。



バス停の名前

バス停を通るバスの行先と番号

行先	長後駅西口行			湘南台駅西口行			辻堂駅北口行			行先
	平日	土曜	休日	平日	土曜	休日	平日	土曜	休日	
5	48 58	47		58	58	58				5
6	06 16 23 32 45 53	02 15 29 41 55	26 43 58	18 38 58	28 58	28 58				6
7	02 13 13 23 28 43 50	03 11 26 36 48	11 23 33 48	18 33 53	18 38	18 38	38	38	38	7
8	03 06 14 39 48 58	01 13 31 48	01 08 23 31 43 53	18 48	18 48	18 48				8
9	08 17 35 48	01 13 32 48	01 08 23 32 48	48	48	18 48	08	08	08	9
10	01 13 31 38	02 13 32 48	02 13 32 48	48	18 48	18 48	08	08	08	10
11	01 13 31 38	02 13 32 48	02 13 32 48	18 48	18 48	18 48				11
12	01 13 31 38	02 13 32 48	02 13 32	48	48	48				12
13	01 13 31 38	02 13 32 48	02 13 32	18 48	18 48	48	08	08	08	13
14	01 13 31 38	02 13 32 48	02 13 32	18 48	18 48	18 48				14
15	01 13 31 38 53	02 13 32 48	02 13 32 53	18 48	18 48	18 48	08	08	08	15
16	01 13 33 38 58	02 13 32 48	02 13 32 53	18 48	18 48	18 48				16
17	03 18 28 38 58	02 13 32 48	02 13 32 48	18 48	18 48	18 48	08	08	08	17
18	08 18 28 38 58	02 17 23 37 48 57	02 17 23 37 48 57	18 48	18 48	18 48				18
19	08 18 37 57	13 32	13 32	18 48	18	18				19
20	08 17 37 43 57	02 13 32 48	02 13 32 48	15						20
21	17 33 57	02 32 48 57	02 32 57	08						21
22										22
23	03									23
24										24
25										25

バスの時刻表

バスが来る時間は毎日同じではないので、乗る日によって見る所が変わります。

平日…白、土曜日…青、休日(日曜)…赤 の所を見て、調べましょう。

1-2. バスがとうちゃくしたら

バスがきたら、自分の乗りたいバスか、自分の行きたい所に行くバスか、かくにんしましょう。バスの前側上とドアの横に、どこを通過して、どこへ行くのか表示があります。



1-3. バスに乗るとき

バスに乗るときは、Suica・PASMO を使うときと、現金を払うときで乗り方がちがいます。

Suica・PASMO を使うとき

Suica・PASMO は入口にある機械にタッチします。

現金を払うとき

どのバス停から乗ったのか分かるように『整理券』をとりましょう。



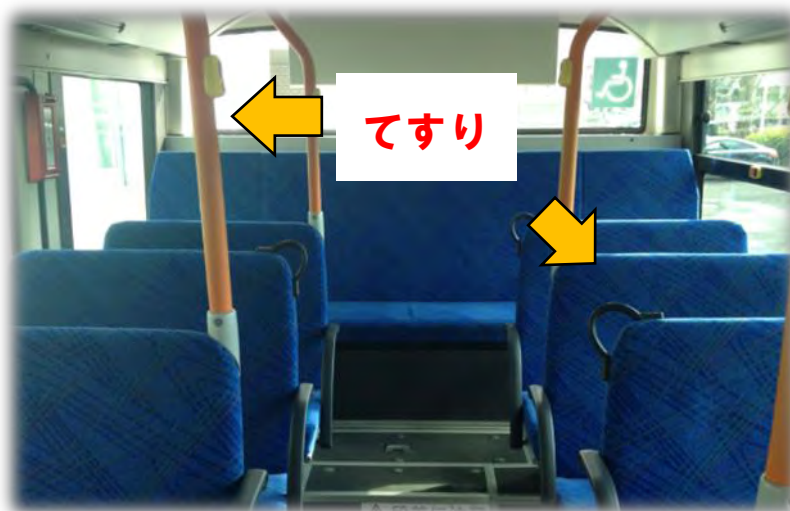
Suica・PASMO で
バスに乗るとき

現金・定期券等で
バスに乗るとき

1-4. バスに乗っているとき（ルールやマナーについて）

バスに乗っているときは、他のお客さんにめいわくをかけたりしないように、下書いてあることを守りましょう。守らなかったときは、事故などが起きてケガをしてしまうことがあります。

- ◎大声でしゃべって、他の人にめいわくをかけてはいけません。
- ◎席にすわってないときは、手すりや吊り革につかまりましょう。



- ◎バスが動いているときは、移動したりするのはきけんなので、やめましょう。
- ◎携帯電話やスマートフォンで電話してはいけません。
- ◎窓から手や頭を出してはいけません。

1-5. 降りたいバス停が近くになったら

降りたいバス停の名前が呼ばれたら、窓側などにある降車ボタンを押して、運転手さんにお知らせします。



現金を払う人は、払うお金がいくらなのか、バスの前に運賃表が書いてあるので、調べてお金を準備しましょう。

自分の持っている整理券の番号と同じ所を書いてある数字が払うお金です。

上段：現金	久 保 沢			
下段：IC	ここは			
整理券	0	1	2	久保沢
運	290	260	260	城山総合事務所入口
	288	258	258	原宿
賃	3	4	5	東原宿
	230	180	180	● 終点 橋本駅北口
	227	175	175	

ご乗車ありがとうございました。



運賃は2番の下にある260円!

(子供は130円)

1-6. バスを降りるとき

お金は降りるときに払います。運転手さんの横を通るときに払いましょう。乗るときと同じように、Suica・PASMOを使うときと、現金を払うときで違います。

Suica・PASMOを使うとき

Suica・PASMOは乗るときと同じように機械にタッチします。

現金を払うとき

現金を払うときは、乗るときにとった整理券と一緒にお金を運賃箱に入れます。



現金は整理券と一緒に運賃箱へ
Suica・PASMOはタッチ

～その2・バス→電車に乗り換える（辻堂駅）～

2-1. 辻堂駅の改札へ向かう

バスが辻堂駅についたら、電車に乗るために辻堂駅の改札へ向かいます。

バス停から改札までは下の地図の様に進みます。詳しくは次のページから説明します。



バス・電車の乗り方

①バス停を降りると改札へ向かうためにエスカレータか階段で2階へ上がります。



②屋根のついた通路を歩きます。



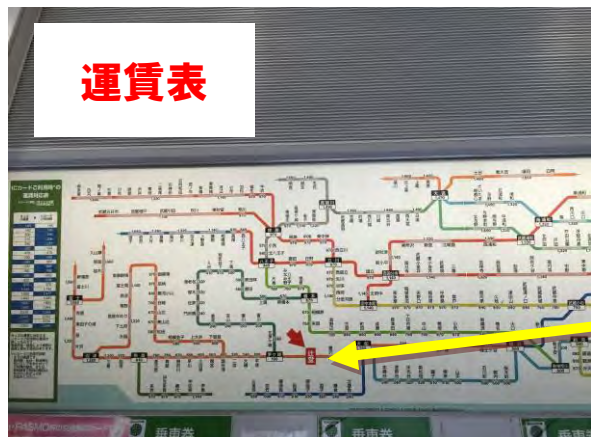
③「東改札」と書かれた看板が見えてきたら、改札が見えますので切符売り場へ向かいます。



2-2. 切符を買う (JR 辻堂駅)

券売機の上にある「運賃表」を見て運賃を調べてから買います。例えば、下の写真を見て藤沢まで行きたいときは、190なので、190円と分かります。(こどもは半額の100円です)

※Suica・PASMO を使う人は切符はいらないので、「③改札機を通る」にそのまま行きます。

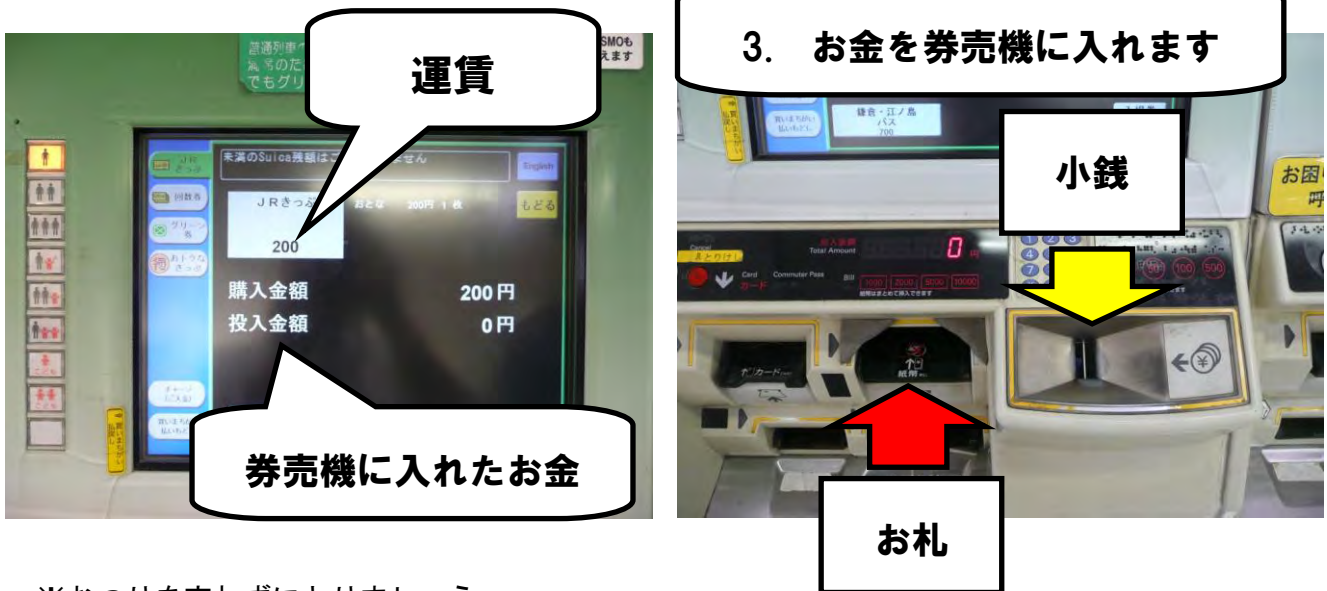
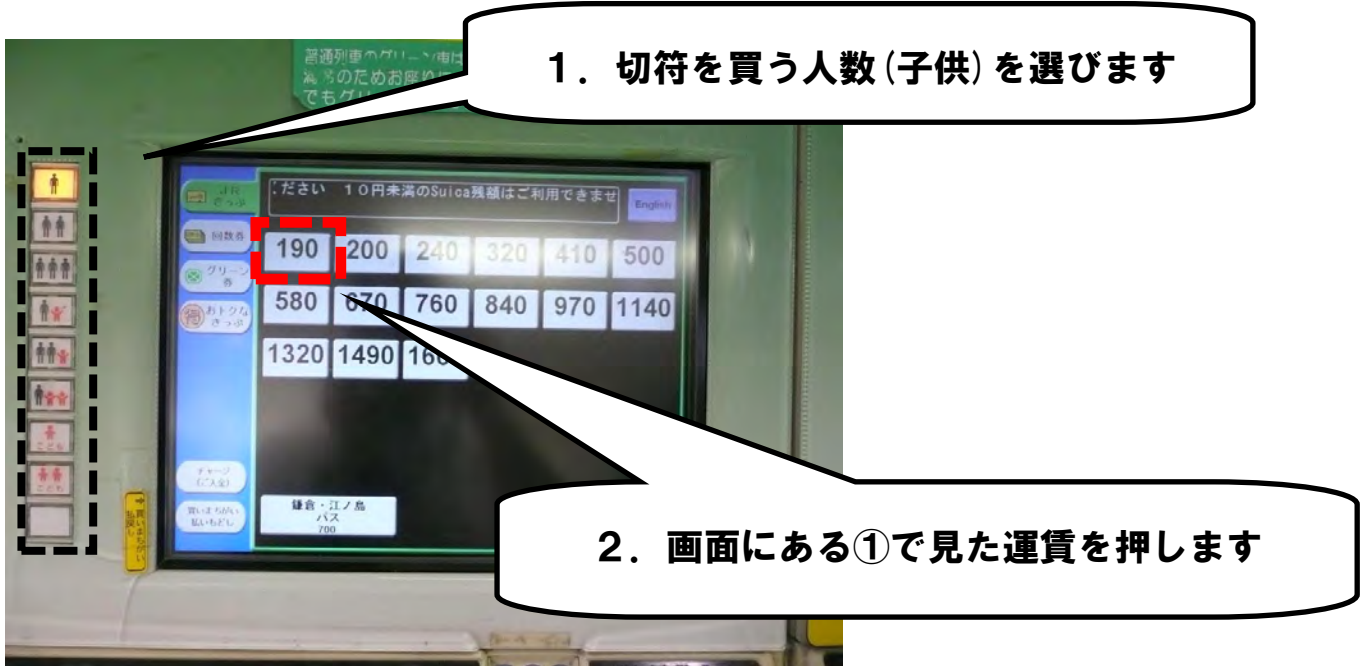


券売機

2-3. 切符を買う

切符は「券売機（けんばいき）」で買います。お金を入れて切符を買う人数を選んだら、運賃表で見た数字と同じボタンを押します。

ボタンを押したら、切符が出てくるので、切符をもって改札口へ行きましょう。



※おつりを忘れずにとりましょう。

※券売機では Suica・PASMO にお金をいれるチャージなどができます。

2-4. 改札機（かいさつき）を通る

電車に乗るためには改札機を通過してからホームに行きます。改札機は乗る駅と降りる駅で必ず通らしましょう。

Suica・PASMO を使うときは、機械にタッチします。切符を買った人は機械の前側で切符を入れると、機械の後ろ側で出てくるので必ず取りましょう。

改札機には、きつぷと Suica・PASMO の両方が使える機械と Suica・PASMO だけが使える機械が置いてあります。



2-5. 乗り場と時刻を調べる

改札から入ると、乗り場の案内があるので、行き先や乗り場を調べましょう。また電光掲示板（でんこうけいじばん）では、乗り場ごとに電車の出る時刻や行き先を調べることができます。辻堂駅は1番線と2番線があります。



2-6. 時間や乗る電車を調べるとき

いつ、どこへ行く電車が来るのか調べるときには、時刻表を見て調べましょう。東海道線ではぜんぶの駅に停まる「普通」と停まらない駅がある「快速」「特別快速」があります。どの駅まで行くかは時間によって違います。自分の行きたい駅まで電車が停まるのか、時刻表と電車の停まる駅の案内を見てかくにんしましょう。



電車の停まる駅の案内

バス・電車の乗り方

時間や行き先を調べる際には、駅に必ず時刻表があるのでそれを見てかくにんしましょう。
平日と休日では時間が違うので、乗る日が平日か休日かかくにんしましょう。

東海道線(湘南新宿ライン・上野東京ライン)時刻表
Timetable of Tokaido Line (Shonan-Shinjuku Line-Ueno-Tokyo Line)

大船・横浜・品川・東京・上野・渋谷・新宿方面 for Ofuna, Yokohama, Shinagawa, Tokyo, Ueno, Shibuya & Shinjuku		平塚・小田原・熱海方面 for Hiratsuka, Odawara & Atami	
平日 Weekdays	土・休日 Saturdays, Sundays and Holidays	平日 Weekdays	土・休日 Saturdays, Sundays and Holidays
4	4	4	4
5 0 27 50	5 0 27 30	5 18 52	5 18 52
6 2 11 19 31 37 40 44 46 52 55 58	6 2 11 19 31 37 40 51 55	6 12 40	6 12 40
7 7 1 7 13 15 16 17 22 25 29 31 34 37 40 46 48 51 54 58	7 7 0 5 10 14 18 24 26 32 36 41 47 51 57	7 7 1 9 17 25 34 41 44 53	7 7 1 9 17 25 34 39 44 53
8 1 4 9 12 16 19 23 30 35 40 43 56	8 1 6 14 21 26 34 41 47 56	8 3 11 19 26 33 40 44 52 56	8 3 11 19 26 31 35 44 48 54 59
9 5 14 24 34 42 51 57	9 5 14 23 30 43 51 55	9 2 11 15 22 27 31 36 46 54	9 3 16 25 31 39 49 56
10 7 17 23 27 49 55	10 5 15 22 27 47 53	10 3 9 15 25 30 36 47 55 58	10 11 24 29 34 47 58
11 4 15 22 37 47 53	11 4 15 23 38 48 52	11 3 9 21 24 37 50	11 5 10 22 24 37 51
12 3 18 23 37 48 52	12 3 21 30 36 46 52	12 0 7 21 24 38 50	12 1 7 23 24 38 51
13 3 17 22 35 43 51 57	13 1 13 22 29 48 53	13 0 8 20 25 37 50 59	13 0 8 21 25 37 50 59
14 3 15 22 38 46 53	14 2 14 22 36 46 53	14 8 20 24 37 50	14 8 20 24 37 50 59
15 3 14 22 37 45 53	15 3 14 22 37 45 53	15 0 7 20 24 37 48 58	15 0 8 21 30 34 48 59
16 3 16 23 34 46 50 57	16 4 16 23 34 46 50 57	16 7 21 24 27 48 57	16 7 20 24 38 48 58
17 3 15 22 35 31 39 55	17 3 15 22 35 31 39 55	17 7 17 24 36 47 53	17 8 18 24 36 47 53
18 3 14 17 28 33 41 47 53 56	18 3 14 17 28 33 41 47 53 55	18 8 16 24 30 34 39 46 51 57	18 8 16 24 30 33 39 46 53
19 3 9 20 31 35 43 51 59	19 3 4 15 25 35 40 48 51	19 1 7 13 18 24 28 33 37 42 49 53 58	19 0 3 8 12 19 24 30 36 42 50 54
20 7 13 18 29 37 42 49	20 5 13 18 29 36 45 49	20 5 9 15 22 27 40 43 53 57	20 3 9 15 25 28 40 47 57
21 7 12 18 27 36 41 50 58	21 5 12 17 29 38 50 58	21 5 9 14 17 25 30 44 47 56	21 5 9 14 24 30 40 44 56
22 10 25 33 36 46 58	22 7 25 33 36 46 58	22 4 8 15 17 30 40 43 55 59	22 2 7 14 28 40 46 55 59
23 14 27 39	23 14 27 39	23 5 13 17 26 31 40 45 54 57	23 6 14 25 35 41 45 54 59
0	0	0 4 13 17 25 32 42 50	0 4 13 25 32 50
1	1	1	1

時刻表

※辻堂駅にある時刻表は次のページにも載っているのて調べながら乗りましょう。

※辻堂駅から乗った電車がどこへ行くのか、分からない場合には最後のページについている路線図を見ましょう。

2-7. 辻堂駅の時刻表

藤沢方面の時刻表には快速・普通停車などの種類の電車が走っていますが、全ての電車が藤沢駅に止まります。

辻堂駅 東海道本線 横浜・東京・宇都宮・高崎方面(上り)																			
時																			
5	高(東京) 00	高(東京) 27	快 ^う 宇(東京) 50																
6	快 ^高 新(宿) 02	宇(東京) 11	高(東京) 19	金(東京) 31	快 ^龍 新(宿) 37	宇(東京) 40	高(東京) 44	快 ^う 宇(東京) 48	湘 ^う 東 52	龍(東京) 55	上 58								
7	宇(東京) 01	快 ^高 新(宿) 04	上 07	龍(東京) 10	上 13	金(東京) 16	快 ^龍 新(宿) 19	上 22	快 ^ア 高(東京) 25	上 29	宇(東京) 31	上 34	前(東京) 37	快 ^高 新(宿) 40	上 46	金(東京) 48	上 51	龍(東京) 54	上 58
8	金(東京) 01	上 04	上 09	宇(東京) 12	上 15	快 ^龍 新(宿) 19	快 ^ア 高(東京) 23	古(東京) 30	湘 ^う 東 36	高(東京) 40	宇(東京) 48	前(東京) 56							
9	宇(東京) 05	高(東京) 14	金(東京) 29	古(東京) 34	高(東京) 42	金(東京) 51	快 ^龍 新(宿) 55												
10	龍(東京) 07	龍(東京) 17	金(東京) 23	古(東京) 37	高(東京) 49	快 ^龍 新(宿) 53													
11	龍(東京) 04	龍(東京) 15	宇(東京) 22	古(東京) 37	高(東京) 47	快 ^龍 新(宿) 52													
12	龍(東京) 09	龍(東京) 18	黒(東京) 23	古(東京) 37	高(東京) 48	快 ^龍 新(宿) 52													
13	龍(東京) 08	龍(東京) 17	金(東京) 22	古(東京) 39	高(東京) 48	快 ^龍 新(宿) 53													
14	龍(東京) 03	前(東京) 15	宇(東京) 22	古(東京) 38	前(東京) 48	快 ^龍 新(宿) 53													
15	高(東京) 03	龍(東京) 14	金(東京) 22	宇(東京) 37	高(東京) 46	快 ^龍 新(宿) 53													
16	高(東京) 05	龍(東京) 16	宇(東京) 23	金(東京) 34	高(東京) 46	快 ^龍 新(宿) 50	金(東京) 57												
17	高(東京) 09	金(東京) 18	龍(東京) 22	快 ^高 新(宿) 26	宇(東京) 31	前(東京) 39	快 ^龍 新(宿) 52	龍(東京) 56											
18	金(東京) 06	高(東京) 14	快 ^龍 新(宿) 17	快 ^龍 新(宿) 28	黒(東京) 33	高(東京) 41	金(東京) 47	深(東京) 53	快 ^前 新(宿) 56										
19	龍(東京) 03	宇(東京) 09	高(東京) 20	快 ^龍 新(宿) 24	宇(東京) 35	高(東京) 43	黒(東京) 51	快 ^前 新(宿) 54											
20	龍(東京) 07	快 ^龍 新(宿) 13	金(東京) 18	龍(東京) 29	金(東京) 37	快 ^龍 新(宿) 42	前(東京) 49												
21	快 ^高 新(宿) 03	龍(東京) 10	龍(東京) 19	金(東京) 27	快 ^高 新(宿) 30	龍(東京) 40	宇(東京) 50	龍(東京) 58											
22	東 10	東 25	東 33	快 ^高 新(宿) 36	東 46	東 58													
23	品 14	品 27	品 39																

列車種別・列車名： 無印=普通 快=快速 湘^う=湘南ライナー ア=アーバン ラ=ラビット
 行き先・経由： 龍=龍原 高=高崎 金=小金井 宇=宇都宮 上=上野 前=前橋 古=古河 東=東京 黒=黒磯 品=品川 深=深谷
 (東京)=東京経由 (新宿)=新宿経由

2-8. 電車を待つとき

ホームで電車を待つときには、いすにすわるか、電車がとまったときに出入口がくる位置に表示があるので、そこに並んで待ちましょう。電車がついたら、電車から降りる人がいなくなってから、のりましょう。

◎ホームの端を歩かないようにしましょう。

◎電車を待つときは床に表示してある位置で待ちましょう。

2-9. 電車に乗っているとき

電車に乗っているときは、他のお客さんにめいわくをかけたりしないように、下に書いてあることを守りましょう。守らなかったときは、事故などがおきてケガをしてしまうことがあります。

◎大声でしゃべって、他の人にめいわくをかけてはいけません。

◎席にすわってないときは、手すりや吊り革につかまりましょう。

◎携帯電話やスマートフォンで電話をしてはいけません。

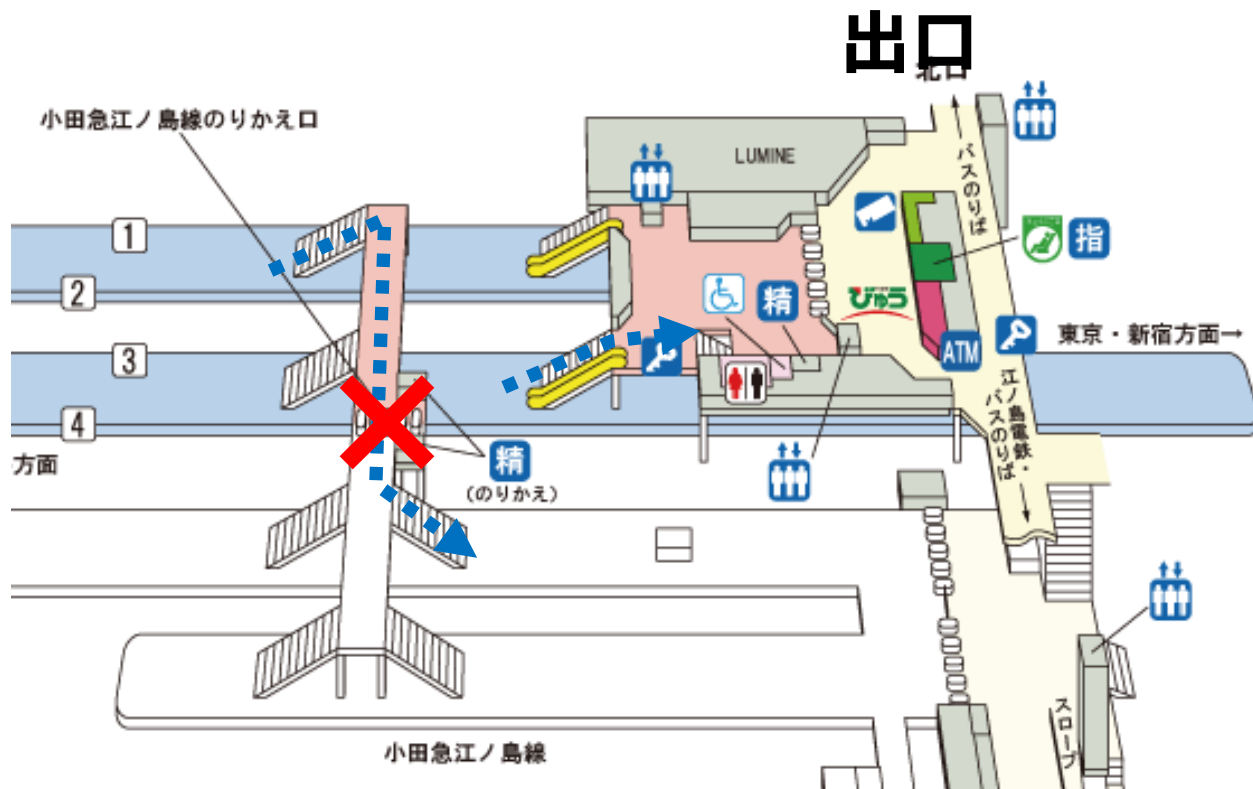
◎優先席ではお年寄りや子供づれの人に席を譲りましょう。



2-10. 電車を降りるとき（藤沢駅で降りるとき）

藤沢駅に着いたら、掲示板に書かれた出口の方向に行きましょう。入るときと同じように切符を入れますが、切符は出てこないで、そのまま改札機を通りぬけてから出ましょう。

出口は1箇所です。小田急に乗り換えるための改札もありますので、間違えないようにしましょう。



～バス→電車に乗り換える（湘南台駅）～

3-1. 湘南台駅の改札へ向かう

バスが湘南台駅についたら、電車に乗るために湘南台駅の改札へ向かいます。電車は地下にあるので、写真のような入口からエスカレータか階段で地下に入ります。湘南台には「横浜市営地下鉄」「相模鉄道（相鉄）」「小田急」の3つの電車がありますので、間違えないように改札へ向かいましょう。

①バス停を降りると地下へ向かうためにエスカレータか階段で下ります。



②地下通路内は広いので、天井にある看板などを見て小田急改札に向かいます。

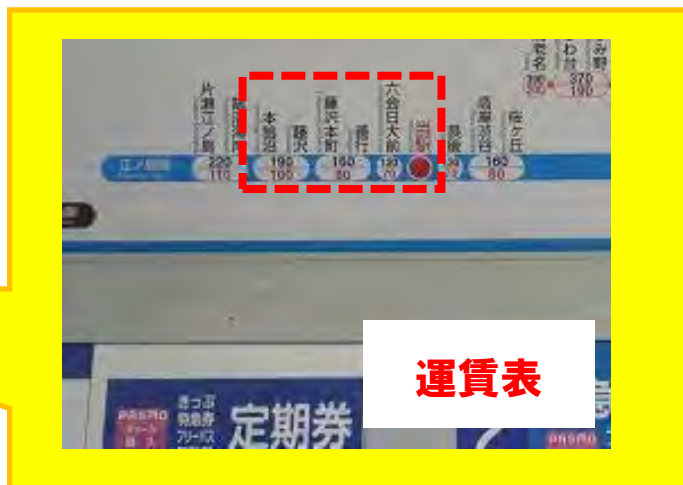


③写真のような小田急湘南台駅の改札があります。もう一つ横浜市営地下鉄の改札もありますが、行ってはいけません。



3-2. 運賃を調べる

電車に乗るためには切符（きっぷ）が必要です。切符を買うには、「運賃表」を見て運賃を調べてから買います。例えば、下の写真を見て藤沢まで行きたいときは、190なので、190円と分かります。（こどもは赤字の110円です）



3-3. 切符を買う

切符は「券売機（けんばいき）」で買います。お金を入れて切符を買う人数を選んだら、運賃表で見た数字と同じボタンを押します。

ボタンを押したら、切符が出てくるので、切符をもって改札口へ行きましょう。



1. 切符を買う人数 (子供) を選びます

2. 画面にある①で見た運賃を押します

3. お金を券売機に入れます

※おつりを忘れずにとりましょう。

※券売機では Suica・PASMO にお金をいれる
チャージなどができます。

3-4. 改札機（かいさつき）を通る

電車に乗るためには改札機を通過してからホームにいきます。改札機は乗る駅と降りる駅で必ず通らしましょう。

Suica・PASMO を使うときは、機械にタッチします。切符を買った人は機械の前側で切符を入れると、機械の後ろ側で出てくるので必ず取りましょう。

改札機には、きっぷと Suica・PASMO の両方が使える機械と Suica・PASMO だけが使える機械が置いてあります。



3-5. 乗り場と時刻を調べる

駅には「電光掲示板（でんこうけいじばん）」があるので、電車の時間、行き先や乗り場を調べましょう。とちゅうの駅で、あとから来る早い電車にのりかえたりすることが出来るので、お知らせもかくにんしましょう。



3-6. 湘南台駅の時刻表

藤沢方面の時刻表には快速急行・快速・各駅停車の3種類の電車が走っていますが、全ての電車が藤沢駅に止まります。

湘南台駅 平日(月-金) Departures For Weekdays											
藤沢・片瀬江ノ島方面 For Fujisawa, Katase-Enoshima											
4											
5	17	33	43 ^急	46	54 ^快						
6	0	7	13 ^急	19	26	29	34 ^急	41	47 ^急	49	57
7	6 ^急	8	15	21 ^急	23	30	38 ^急	40 ^急	45	52	58
8	3 ^急	6	14 ^急	16 ^急	20	29	32	39	49 ^快	52 ^急	59
9	6	14	18	23 ^快	29	40	50 ^快	53			
10	1	8 ^快	13	20	30	40	48 ^急	52	57 ^急		
11	0	10 ^快	13	20	29	32	40	46 ^快	51		
12	1	8	11	16 ^快	21	30	40	46 ^快	51		
13	1	8	11	16 ^快	21	30	40	46 ^快	51		
14	1	8	11	16 ^快	21	30	40	46 ^快	51		
15	1	8	11	16 ^快	21	30	40	46 ^快	51		
16	1	8	11	16 ^快	21	30	42	46 ^快	51		
17	0	8 ^急	13	17 ^快	23	32	44	49 ^快	55		
18	2	9 ^急	13	17 ^快	24	31	41	48	53 ^急	57	
19	0 ^快	6	12	17 ^急	26	31 ^急	36	46	55		
20	0 ^快	5	14	22	30 ^急	34	44	52 ^急	55		
21	3	13	20 ^急	23	32	44	49 ^急	54			
22	2	11	19 ^急	23	31	43	49 ^急	55			
23	5	15	27	41	44 ^快	50	59 ^急				
0	6	20	34 ^急								
1											

<凡例> 白色 快……快速急行 Rapid Express 赤色……急行 Express 青色……各駅停車 Local
 無印……片瀬江ノ島ゆき ■……本線沿、湘南海岸停車の急行
 緑……藤沢ゆき □……行先別番線列車

3-7. 電車を待つとき

ホームで電車を待つときには、いすにすわるか、電車がとまったときに出入口がくる位置に表示があるので、そこに並んで待ちましょう。電車がついたら、電車から降りる人がいなくなってから、のりましょう。

◎ホームの端を歩かないようにしましょう。

◎電車を待つときは床に表示してある位置で待ちましょう。

3-8. 電車に乗っているとき

電車に乗っているときは、他のお客さんにめいわくをかけたりしないように、下書いてあることを守りましょう。守らなかったときは、事故などがおきてケガをしてしまうことがあります。

◎大声でしゃべって、他の人にめいわくをかけてはいけません。

◎席にすわってないときは、手すりや吊り革につかまりましょう。

◎携帯電話やスマートフォンで電話をしてはいけません。

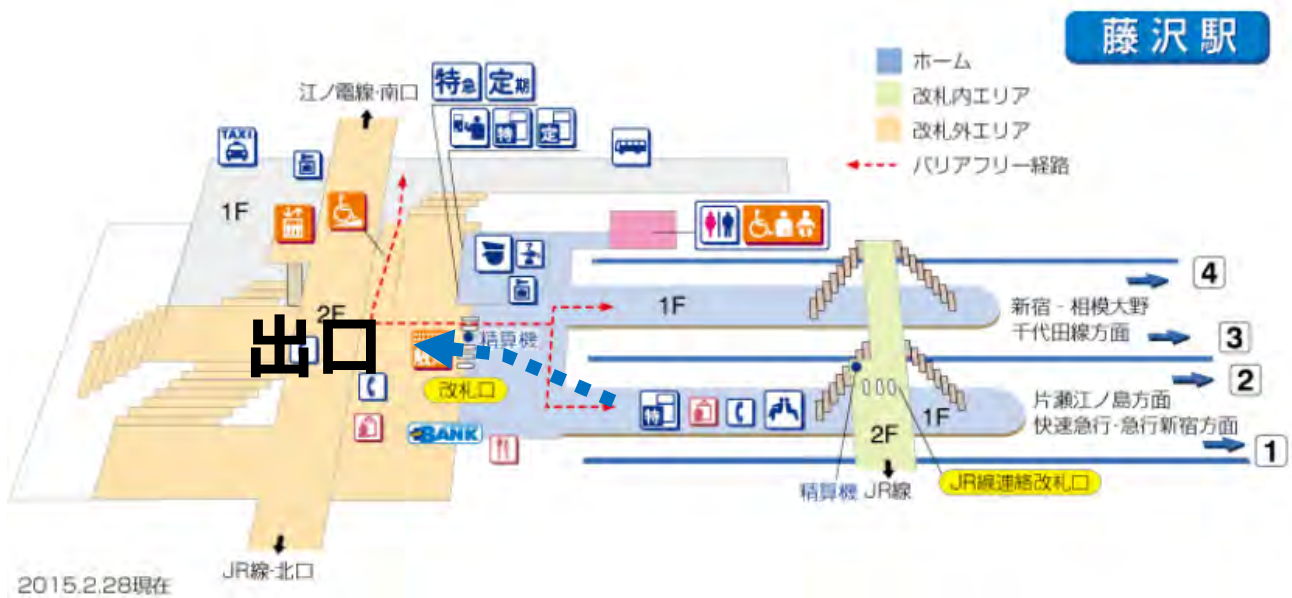
◎優先席ではお年寄りや子供づれの人に席を譲りましょう。



優先席

3-9. 電車を降りるとき(藤沢駅で降りるとき)

藤沢駅に着いたら、掲示板に書かれた出口の方向に行きましょう。出口は1箇所だけです。出口まで行ったら、3-4 (p.18) と同じように切符を入れますが、切符は出てこないの、そのまま改札機を通りぬけてから出ましょう。



【藤沢駅までのルート別時刻表】

藤沢駅へ向かうには

- ①藤沢駅行きのバスに乗る
- ②バスで辻堂駅へ向かいJRで藤沢駅へ向かう
- ③バスで湘南台駅へ向かい小田急で藤沢駅へ向かう

の3つがあります。ここでは各ルートで移動する場合の時刻表を記載します。

①藤沢駅行きのバス（滝の沢バス停）

系統番号	滝の沢	→	藤沢駅
藤 12	8 : 52	→	9 : 28
藤 12	9 : 22	→	9 : 58
藤 13	9 : 47	→	10 : 27

※滝の沢小学校前バス停からは朝9：30～10：30の間に藤沢駅に到着するバスはありません。

②バスで辻堂駅へ向かいJRで藤沢駅へ向かう

<滝の沢バス停から乗る場合> ※乗り換え時間…5分程度

バス				→	電車（JR）		
系統番号	滝の沢	→	辻堂駅	行き先	辻堂駅	→	藤沢駅
辻 26	9 : 01	→	9 : 15	小金井	9 : 29	→	9 : 32
辻 34	9 : 05	→	9 : 18				
辻 24	9 : 08	→	9 : 23				
辻 24	9 : 12	→	9 : 27	高崎	9 : 34	→	9 : 38
辻 26	9 : 16	→	9 : 30	高崎	9 : 42	→	9 : 46
辻 34	9 : 20	→	9 : 33				
辻 24	9 : 23	→	9 : 38	小金井	9 : 51	→	9 : 54
辻 24	9 : 27	→	9 : 42				
辻 26	9 : 31	→	9 : 45				
辻 34	9 : 36	→	9 : 49	快速籠原	9 : 55	→	9 : 58
辻 24	9 : 39	→	9 : 54	籠原	10 : 07	→	10 : 11
辻 26	9 : 46	→	10 : 00				
辻 34	9 : 51	→	10 : 04	籠原	10 : 17	→	10 : 20
辻 24	9 : 55	→	10 : 10				
辻 26	10 : 01	→	10 : 15	小金井	10 : 23	→	10 : 27

<滝の沢小学校前バス停から乗る場合> ※乗り換え時間…5分程度

バス				→	電車（JR）		
系統番号	滝の沢 小学校前	→	辻堂駅	行き先	辻堂駅	→	藤沢駅
辻 29	9 : 00	→	9 : 16	小金井	9 : 29	→	9 : 32
辻 29	9 : 10	→	9 : 28	高崎	9 : 34	→	9 : 38
辻 29	9 : 20	→	9 : 36	高崎	9 : 42	→	9 : 46
辻 29	9 : 30	→	9 : 46	小金井	9 : 51	→	9 : 54
				快速籠原	9 : 55	→	9 : 58
辻 28	9 : 40	→	9 : 58	籠原	10 : 07	→	10 : 11
辻 29	9 : 50	→	10 : 06	籠原	10 : 17	→	10 : 20
辻 29	10 : 00	→	10 : 16	小金井	10 : 23	→	10 : 27

③バスで湘南台駅へ向かい小田急で藤沢駅へ向かう

<滝の沢バス停から乗る場合> ※乗り換え時間…5分程度

バス				→	電車（小田急）		
系統番号	滝の沢	→	辻堂駅	行き先	湘南台駅	→	藤沢駅
辻 26	8 : 53	→	9 : 13	快速急行 藤沢	9 : 23	→	9 : 31
辻 26	8 : 58	→	9 : 18				
辻 26	9 : 03	→	9 : 23	片瀬江ノ島	9 : 29	→	9 : 39
辻 26	9 : 08	→	9 : 28	片瀬江ノ島	9 : 40	→	9 : 50
辻 26	9 : 13	→	9 : 33				
辻 26	9 : 18	→	9 : 38	快速急行 藤沢	9 : 50	→	9 : 58
辻 26	9 : 23	→	9 : 43				
辻 26	9 : 33	→	9 : 53	片瀬江ノ島	10 : 01	→	10 : 11
辻 26	9 : 43	→	10 : 03	快速急行 藤沢	10 : 08	→	10 : 16
				片瀬江ノ島	10 : 13	→	10 : 23
辻 26	9 : 53	→	10 : 13	片瀬江ノ島	10 : 19	→	10 : 30

※滝の沢小学校前バス停からは湘南台駅行きのバスはありません。

～その4・電車の乗り方（JR 藤沢駅）～

4-1. 運賃を調べる（JR 藤沢駅）

券売機の上にある「運賃表」を見て運賃を調べてから買います。例えば、下の写真を見て辻堂まで行きたいときは、190なので、190円と分かります。（こどもは半額の100円です）

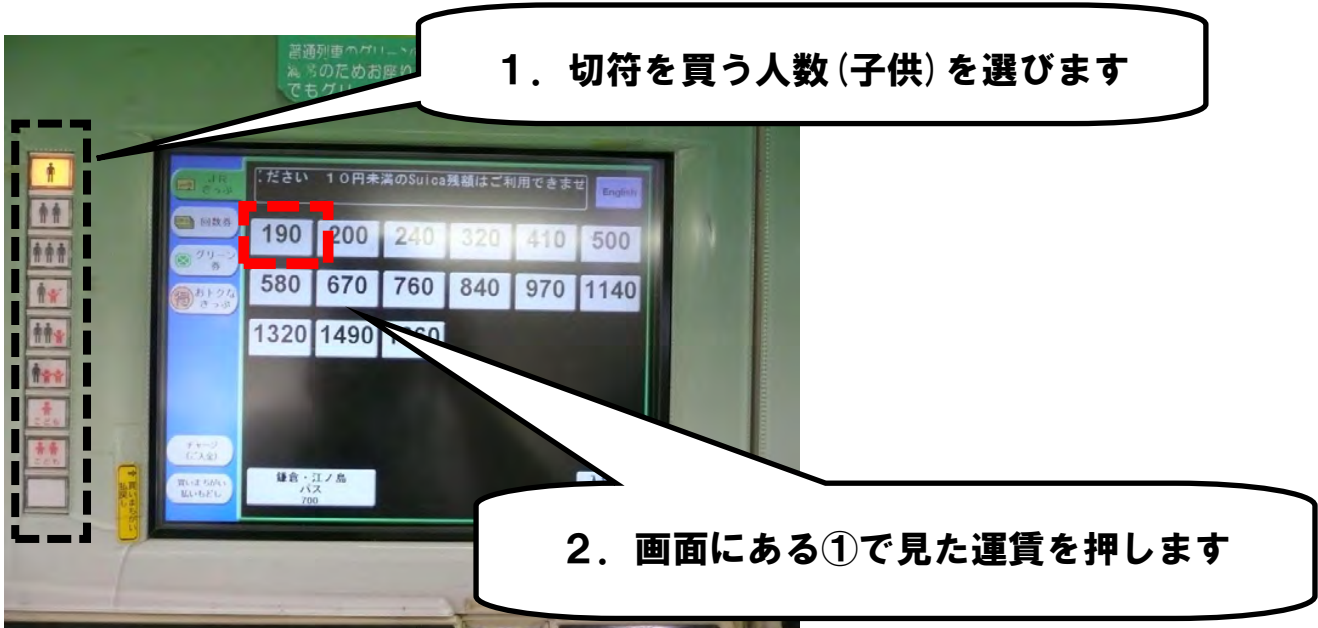
※Suica・PASMO を使う人は切符はいらないので、「③改札機を通る」にそのまま行きます。

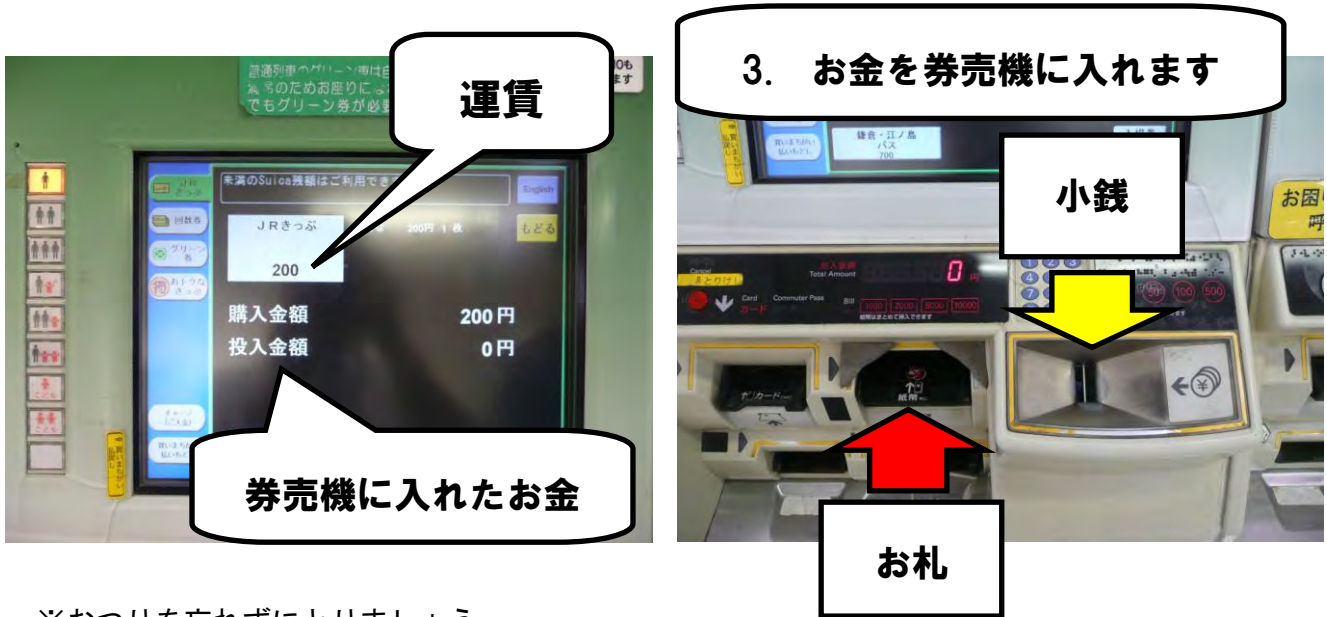


4-2. 切符を買う

切符は「券売機（けんぱいき）」で買います。お金を入れて切符を買う人数を選んだら、運賃表で見た数字と同じボタンを押します。

ボタンを押したら、切符が出てくるので、切符をもって改札口へ行きましょう。





※おつりを忘れずにとりましょう。

※券売機では SUICA・PASMO にお金をいれるチャージなどができます。

4-3. 改札機（かいさつき）を通る

電車に乗るためには改札機をってからホームにいきます。改札機は乗る駅と降りる駅で必ず通らしましょう。

Suica・PASMO を使うときは、機械にタッチします。切符を買った人は機械の前側で切符を入れると、機械の後ろ側で出てくるので必ず取りましょう。

改札機には、きっぷと Suica・PASMO の両方が使える機械と Suica・PASMO だけが使える機械が置いてあります。



4-4. 乗り場と時刻を調べる

改札から入ると、乗り場の案内があるので、ホームに向かいましょう。また電光掲示板（でんこうけいじばん）では、乗り場ごとに電車の出る時刻や行き先を調べることができます。





※最後のページには電車の路線図を記載しているので、乗りたい電車がどこを通るかかくにんしましょう。

4-5. 電車を待つとき

ホームで電車を待つときには、いすにすわるか、電車がとまったときに出入口がくる位置に表示があるので、そこに並んで待ちましょう。電車がついたら、電車から降りる人がいなくなってから、乗りましょう。

◎ホームの端を歩かないようにしましょう。

◎電車を待つときは床に表示してある位置で待ちましょう。

4-6. 電車に乗っているとき

電車に乗っているときは、他のお客さんにめいわくをかけたりしないように、下書いてあることを守りましょう。守らなかったときは、事故などがおきてケガをしてしまうことがあります。

◎大声でしゃべって、他の人にめいわくをかけてはいけません。

◎席にすわってないときは、手すりや吊り革につかまりましょう。

◎携帯電話やスマートフォンで電話をしてはいけません。

◎優先席ではお年寄りや子供づれの人に席を譲りましょう。



～その5 電車→バスの乗り換え～（辻堂駅）

5-1. 辻堂駅のバス停へ向かう

辻堂北口の改札を出たらバス乗り場に向かいます。バス乗り場は天井にある看板を見て「バス」と書かれた北口へ向かいます。

南口にもバス停がありますが、滝の沢小学校へ帰るには北口バス停へ向かいます。

①改札を出るとき

辻堂駅には2か所の改札があります。そのうち東口改札へ向かいましょう。西口改札にはバス乗り場などありません。



②東口改札からバス停までは下の地図の様に進みます。詳しくは次のページから説明します。



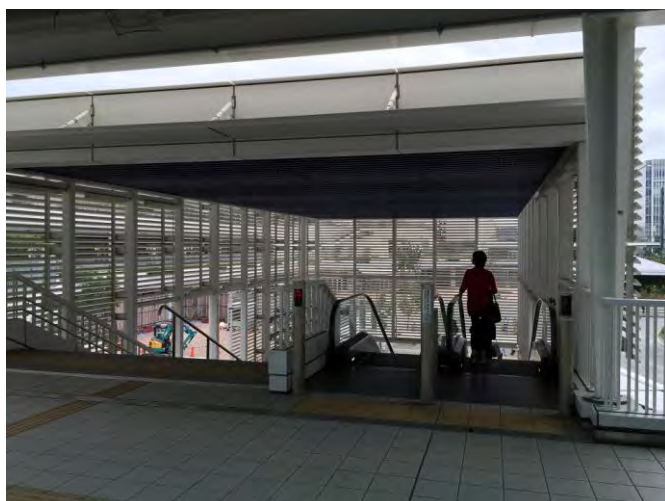
バス・電車の乗り方

①看板をかくにんして北口へ向かいます。



バス・電車の乗り方

②看板を過ぎてすぐ左にあるエスカレータか階段を使って1Fに降ります。



③湘南テラスモールの前に出ます。降りてすぐ右にはバス乗り場が書いてある案内板があります。



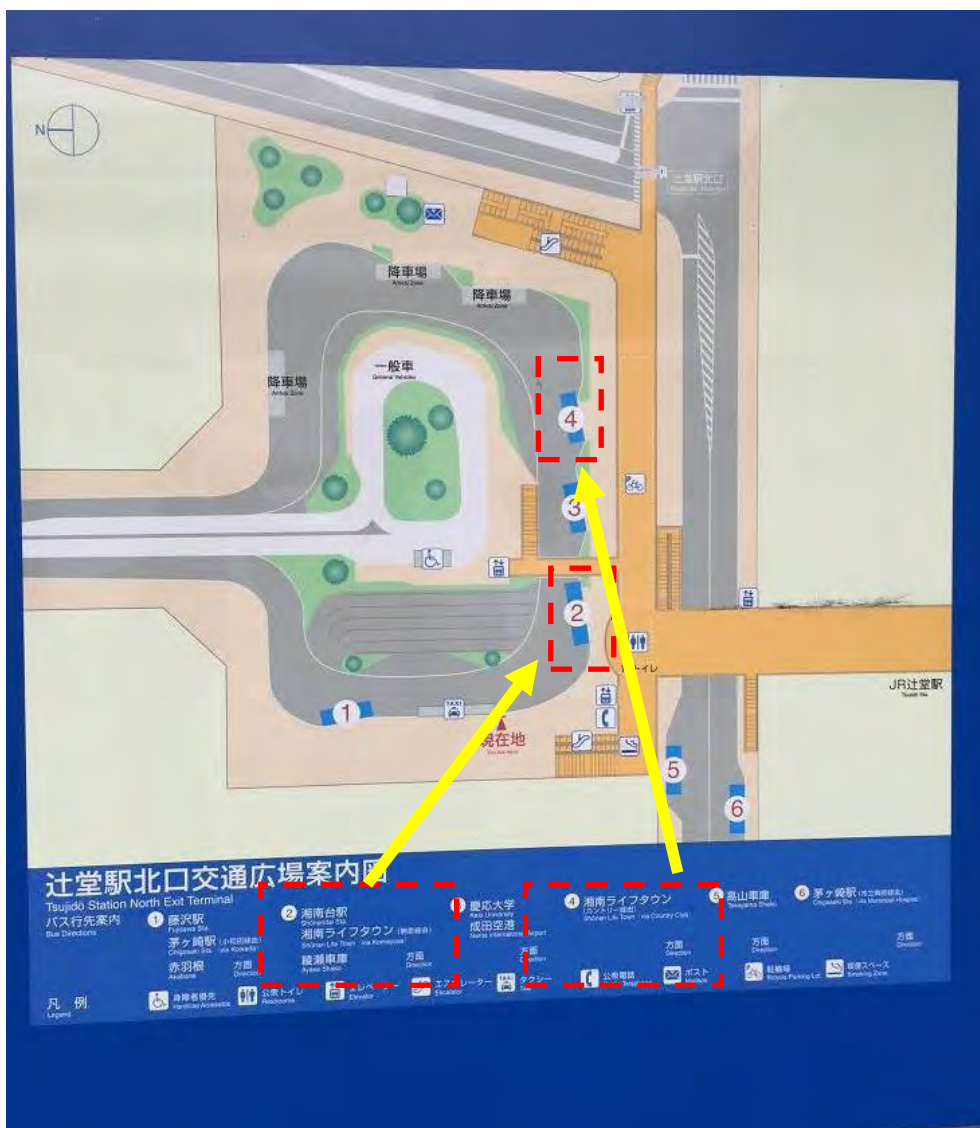
④案内版を見てバス乗り場をかくにんしましょう。



5-2. 乗るバスを調べる

①小学校へ戻るには「滝の沢」バス停と「滝の沢小学校前」バス停のどちらかで降ります。
ただし、どちらのバス停へ向かうかによって、辻堂駅のバス乗り場が違います。

- ・「滝の沢」バス停で降りる場合…湘南台西口・湘南ライフタウン行き【大庭隧道経由】に乗車するので乗り場2へ向かいます。
- ・「滝の沢小学校前」バス停で降りる場合…湘南ライフタウン行き【カントリー経由】に乗車に乗車するので乗り場4へ向かいます。



※最後のページにはバス路線を記載しているので、乗りたいバスが
どこを通るかかくにんしましょう。

バス・電車の乗り方

②バス乗り場を調べたら、バス乗り場まで移動します。バス停には行き先と時刻表が記載されているので、時間を調べたら、並んで待ちましょう。



予 定 時 刻 表

湘南台駅西口行

行先	平日	土曜	休日	行先
5	48	48		5
6	00 10 20 30 40 45 50 55	10 30 50	10 30 50	6
7	00 05 10 15 20 25 30 35 40 45 50 55	00 10 15 20 25 30 35 40 50	00 10 20 30 40 50	7
8	00 05 10 15 20 25 30 35 40 45 50 55	00 10 20 30 40 50	00 10 20 30 40 50	8
9	00 05 10 20 30 40 50	00 10 20 30 40 50	00 10 20 30 40 50	9
10	00 10 20 30 40 50	00 10 20 30 45	00 05 15 20 30 45 50	10
11	00 15 30 45	00 15 30 45	00 05 15 20 30 45 50	11
12	00 15 30 45	00 15 30 45	00 05 15 20 30 45 50	12
13	00 15 30 45	00 15 30 45	00 05 15 20 30 45 50	13
14	00 15 30 45	00 15 30 45	00 05 15 20 30 45 50	14
15	00 15 30 45	00 15 30 45	00 05 15 20 30 45 50	15
16	00 15 30 40 45 55	00 15 30 45	00 05 15 20 30 45 50	16
17	00 10 15 25 30 40 45 55	00 10 15 23 30 40 45 53	00 05 10 15 23 30 40 45 53	17
18	00 10 15 20 30 35 40 50 55	00 10 15 23 30 40 45 53	00 05 10 15 23 30 40 45 53	18
19	00 10 15 20 25 30 40 45 50 55	00 05 10 15 23 30 40 45 53	00 05 10 15 23 30 35 40 45 53	19
20	00 10 15 20 25 30 40 45 50 55	00 05 15 23 30 45 53	00 05 15 23 30 35 45 53	20
21	00 10 15 20 25 30 45 50 57	05 15 25 35 45 55	05 15 25 35 45 55	21
22	05 12 20 25 30 45 55	05 20 35 45 55	05 20 45	22
23	05 深夜25 深夜45	05 深夜45		23
24	深夜08 深夜28 深夜45	深夜05 深夜45		24
25				25

車内でのチャージはお釣りが出ませんのでご注意ください。

2番乗り場の様子

5-3. バスがとうちゃくしたら

バスがきたら、自分の乗りたいバスか、自分の行きたい所に行くバスか、かくにんしましょう。バスの前側上と、ドアの横に、どこを通過して、どこへ行くのか表示があります。



行先と系統番号の確認



経由地の確認

5-4. バスに乗るとき

バスに乗るときは、Suica・PASMO を使うときと、現金を払うときで乗り方が違います。

Suica・PASMO を使うとき

Suica・PASMO は入口にある機械にタッチします。

現金を払うとき

どのバス停から乗ったのか分かるように『整理券』をとりましょう。



Suica・PASMO で
バスに乗るとき



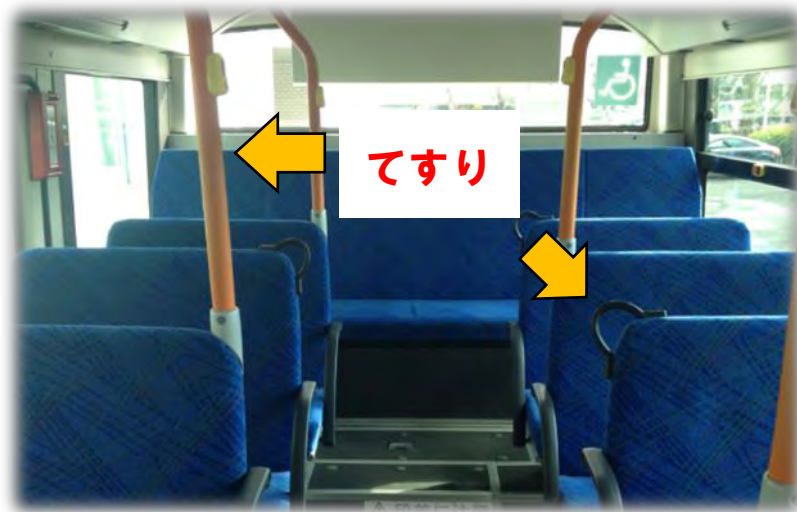
現金・定期券等で
バスに乗るとき

5-5. バスに乗っているとき（ルールやマナーについて）

バスに乗っているときは、他のお客さんにめいわくをかけたりしないように、下に書いてあることを守りましょう。守らなかったときは、事故などがおきてケガをしてしまうことがあります。

◎大声でしゃべって、他の人にめいわくをかけてはいけません。

◎席にすわってないときは、手すりや吊り革につかまりましょう。



◎バスが動いているときは、移動したりするのはきけんなので、やめましょう。

◎携帯電話やスマートフォンで電話してはいけません。

◎窓から手や頭を出してはいけません。

5-6. 降りたいバス停が近くになったら

降りたいバス停の名前が呼ばれたら、窓側などにある降車ボタンを押して、運転手さんにお知らせします。

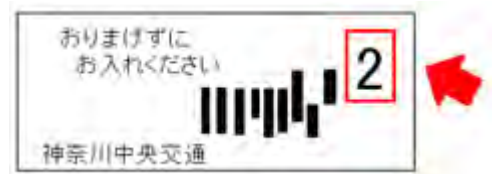


現金を払う人は、払うお金がいくらなのか、バスの前に運賃表が書いてあるので、調べてお金を準備しましょう。

自分の持っている整理券の番号と同じ所を書いてある数字が払うお金です。

整理券	0	1	2	
運賃	290	260	260	久保沢
	288	258	258	城山総合事務所入口
	3	4	5	原宿
賃	230	180	180	東原宿
	227	175	175	● 終点 橋本駅北口

ご乗車ありがとうございました。



運賃は2番の下にある260円!

(子供は130円)

お金は降りるときに払います。運転手さんの横を通るときに払いましょう。乗るときと同じように、Suica・PASMOを使うときと、現金を払うときでちがいます。

Suica・PASMOを使うとき

Suica・PASMOは乗るときと同じように機械にタッチします。

現金を払うとき

現金を払うときは、乗るときにとった整理券と一緒にお金を運賃箱に入れます。

現金は整理券と一緒に運賃箱へ

Suica・PASMOはタッチ



～その6 電車(小田急)の乗り方～

6-1. 運賃を調べる

電車に乗るためには切符(きっぷ)が必要です。切符を買うには、「運賃表」を見て運賃を調べてから買います。例えば、下の写真を見て湘南台まで行きたいときは、190なので、190円と分かります。(こどもは赤字の100円です)



6-2. 切符を買う

切符は「券売機(けんばいき)」で買います。お金を入れて切符を買う人数を選んだら、運賃表で見た数字と同じボタンを押します。

ボタンを押したら、切符が出てくるので、切符をもって改札口へ行きましょう。



1. 切符を買う人数(子供)を選びます

2. 画面にある①で見た運賃を押します

3. お金を券売機に入れます

※おつりを忘れずにとりましょう。

※券売機ではSUICA・PASMOにお金をいれるチャージなどができます。

6-3. 改札機（かいさつき）を通る

電車に乗るためには改札機をってからホームにいきます。改札機は乗る駅と降りる駅で必ず通らしましょう。

Suica・PASMO を使うときは、機械にタッチします。切符を買った人は機械の前側で切符を入れると、機械の後ろ側で出てくるので必ず取りましょう。

改札機には、きっぷと Suica・PASMO の両方が使える機械と Suica・PASMO だけが使える機械が置いてあります。

改札機



6-4. 乗り場と時刻を調べる

駅には「電光掲示板（でんこうけいじばん）」があるので、電車の時間、行き先や乗り場を調べましょう。とちゅうの駅で、あとからくる早い電車にのりかえたりすることができるので、お知らせもかくにんしましょう。



6-5. 電車を待つとき

ホームで電車を待つときには、いすにすわるか、電車がとまったときに出入口がくる位置に表示があるので、そこに並んで待ちましょう。電車がついたら、電車から降りる人がいなくなってから、のりましょう。

◎ホームの端を歩かないようにしましょう。

◎電車を待つときは床に表示してある位置で待ちましょう。

6-6. 電車に乗っているとき

電車に乗っているときは、他のお客さんにめいわくをかけたりしないように、下書いてあることを守りましょう。守らなかったときは、事故などがおきてケガをしてしまうことがあります。

◎大声でしゃべって、他の人にめいわくをかけてはいけません。

◎席にすわってないときは、手すりや吊り革につかまりましょう。

◎携帯電話やスマートフォンで電話をしてはいけません。

◎優先席ではお年寄りや子供づれの人に席を譲りましょう。



～その7 電車→バスの乗り換え～（湘南台駅）～

7-1. 湘南台駅のバス停へ向かう

湘南台駅の改札を出たらバス乗り場に向かいます。バス乗り場は天井にある看板を見て「バス」と書かれた西口へ向かいます。

東口にもバス停がありますが、滝の沢小学校へ帰るには西口Dにあるバス停へ向かいます。

- ①看板をかくにんして西口D出口へ向かいます。看板をかくにんして、エスカレータか階段で外に出ます。



バス・電車の乗り方

②外に出たら案内板を見てバス乗り場をかくにんしましょう。



7-2. 乗るバスを調べる

①小学校へ戻るには「滝の沢」バス停で降ります。

・「滝の沢」バス停で降りる場合…辻堂駅（大庭隧道）に乗車するので乗り場3へ向かいます。



※最後のページにはバス路線を記載しているので、乗りたいバスがどこを通るかかくにんしましょう。

バス・電車の乗り方

②バス乗り場を調べたら、バス乗り場まで移動します。バス停には行き先と時刻表が書かれているので、時間を調べたら、並んで待ちましょう。



湘南台駅西口 発着所 03 予定時刻表
 辻・09・09 掲載
 時刻表時刻表・掲載案内URL: <http://tts.kanarha.jp/>

ライフタウン・胸特経由
 辻堂駅北口行

バス番号	平日	土曜	休日
5			
6	10 20 30 40 45 50 55	20 30 40 50	40 50
7	00 05 10 15 20 30 40 50	00 10 20 30 40 50	00 10 20 30 40 50
8	00 10 20 30 45	00 10 20 30 45	00 10 20 30 45
9	00 15 30 45	00 15 30 45	00 15 30 45
10	00 15 30 45	00 15 30 45	00 15 30 45
11	00 15 30 45	00 15 30 45	00 15 30 45
12	00 15 30 45	00 15 30 45	00 15 30 45
13	00 15 30 45	00 15 30 45	00 15 30 45
14	00 15 30 45	00 15 30 45	00 15 30 45
15	00 15 30 45	00 15 30 45	00 15 30 45
16	00 15 30 40 50	00 15 30 45	00 15 30 45
17	00 10 20 30 40 50	00 15 30 45	00 15 30 45
18	00 10 20 30 40 50	00 15 30 45	00 15 30 45
19	00 10 20 30 40 50	00 15 30 45	00 15 30 45
20	00 10 20 30 40 50	05 25 45	05 25 45
21	00 15 30 45	05 25 45	05 25 45
22	00 15 30 47	05 25	05
23	07:深夜30		
24			
25			

備考
 ① 湘南台駅西口 発着所 03 掲載
 ② 時刻表時刻表・掲載案内URL: <http://tts.kanarha.jp/>

3番乗り場の様子

7-3. バスがとうちゃくしたら

バスがきたら、自分の乗りたいバスか、自分の行きたい所に行くバスか、かくにんしましょう。バスの前側上と、ドアの横に、どこを通過して、どこへ行くのか表示があります。



行先と系統番号の確認



経由地の確認

7-4. バスに乗るとき

バスに乗るときは、Suica・PASMO を使うときと、現金を払うときで乗り方が違います。

Suica・PASMO を使うとき

Suica・PASMO は入口にある機械にタッチします。

現金を払うとき

どのバス停から乗ったのか分かるように『整理券』をとりましょう。



Suica・PASMO で
バスに乗るとき



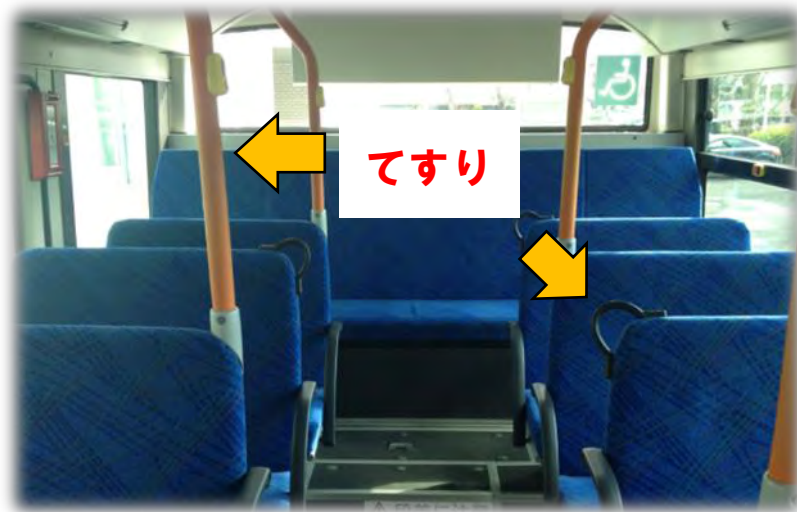
現金・定期券等で
バスに乗るとき

7-5. バスに乗っているとき（ルールやマナーについて）

バスに乗っているときは、他のお客さんにめいわくをかけたりしないように、下に書いてあることを守りましょう。守らなかったときは、事故などがおきてケガをしてしまうことがあります。

◎大声でしゃべって、他の人にめいわくをかけてはいけません。

◎席にすわってないときは、手すりや吊り革につかまりましょう。



◎バスが動いているときは、移動したりするのはきけんなので、やめましょう。

◎携帯電話やスマートフォンで電話してはいけません。

◎窓から手や頭を出してはいけません。

7-6. 降りたいバス停が近くになったら

降りたいバス停の名前が呼ばれたら、窓側などにある降車ボタンを押して、運転手さんにお知らせします。



現金を払う人は、払うお金がいくらなのか、バスの前に運賃表が書いてあるので、調べてお金を準備しましょう。

自分の持っている整理券の番号と同じ所を書いてある数字が払うお金です。

上段：現金	久 保 沢			
下段：IC	ここは			
整理券	0	1	2	久保沢
運	290	260	260	城山総合事務所入口
	288	258	258	原宿
	3	4	5	東原宿
賃	230	180	180	● 東原宿
	227	175	175	● 終点 橋本駅北口
	ご乗車ありがとうございました。			



運賃は2番の下にある260円!

(子供は130円)

7-7. バスを降りるとき

お金は降りるときに払います。運転手さんの横を通るときに払いましょう。乗るときと同じように、Suica・PASMOを使うときと、現金を払うときでちがいます。

Suica・PASMOを使うとき

Suica・PASMOは乗るときと同じように機械にタッチします。

現金を払うとき

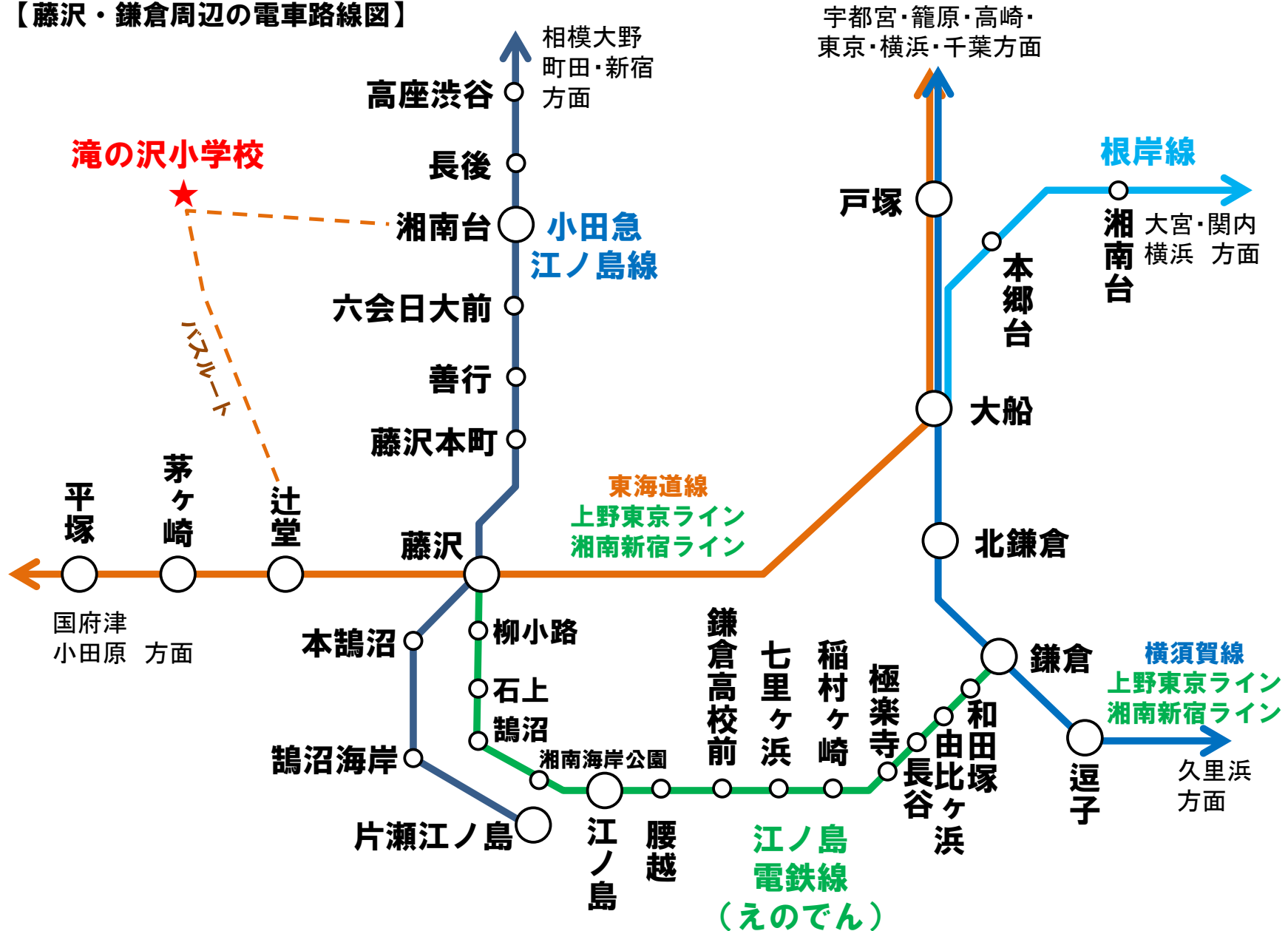
現金を払うときは、乗るときにとった整理券と一緒にお金を運賃箱に入れます。

現金は整理券と一緒に運賃箱へ

Suica・PASMOはタッチ



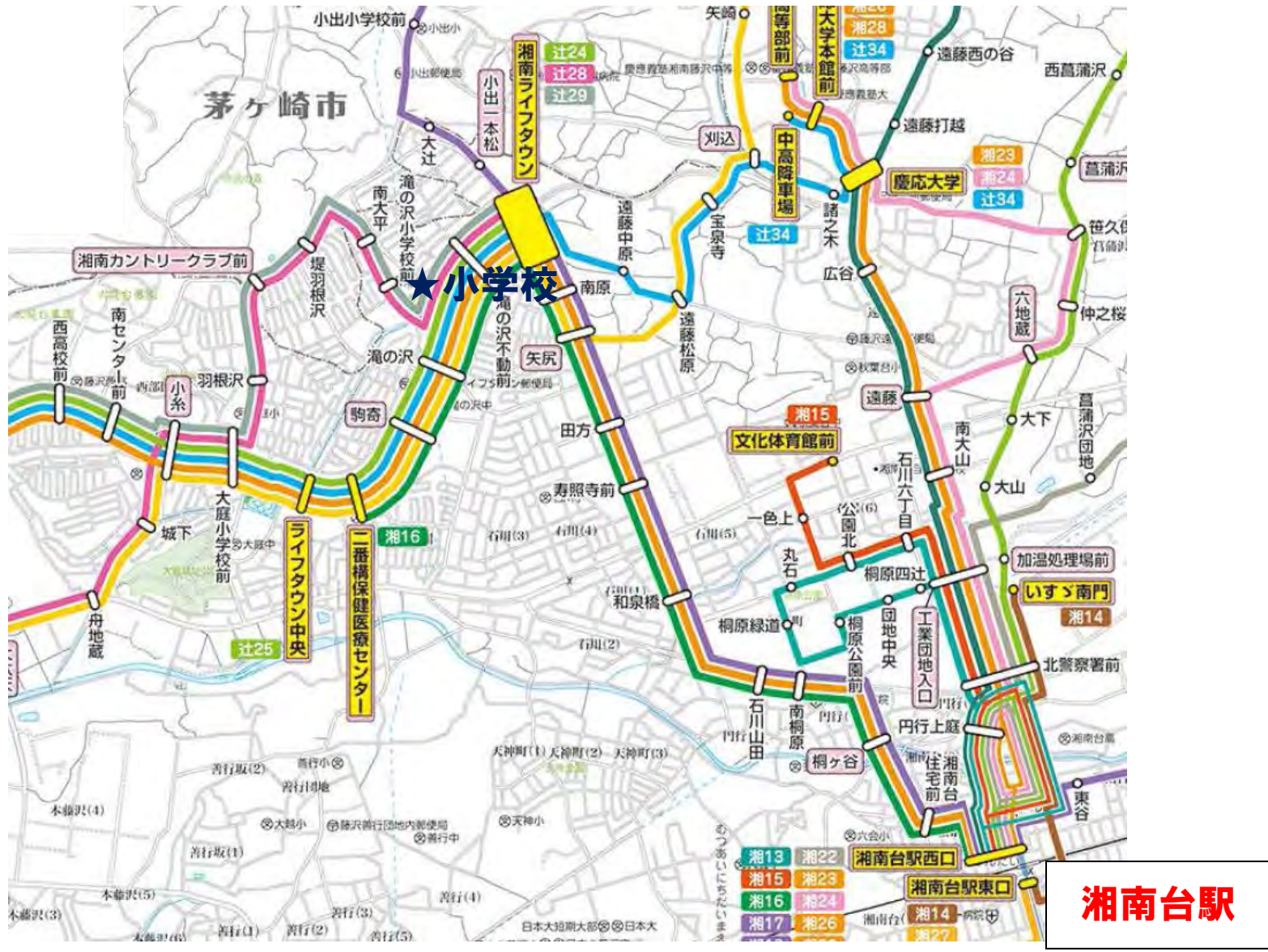
t 【藤沢・鎌倉周辺の電車路線図】



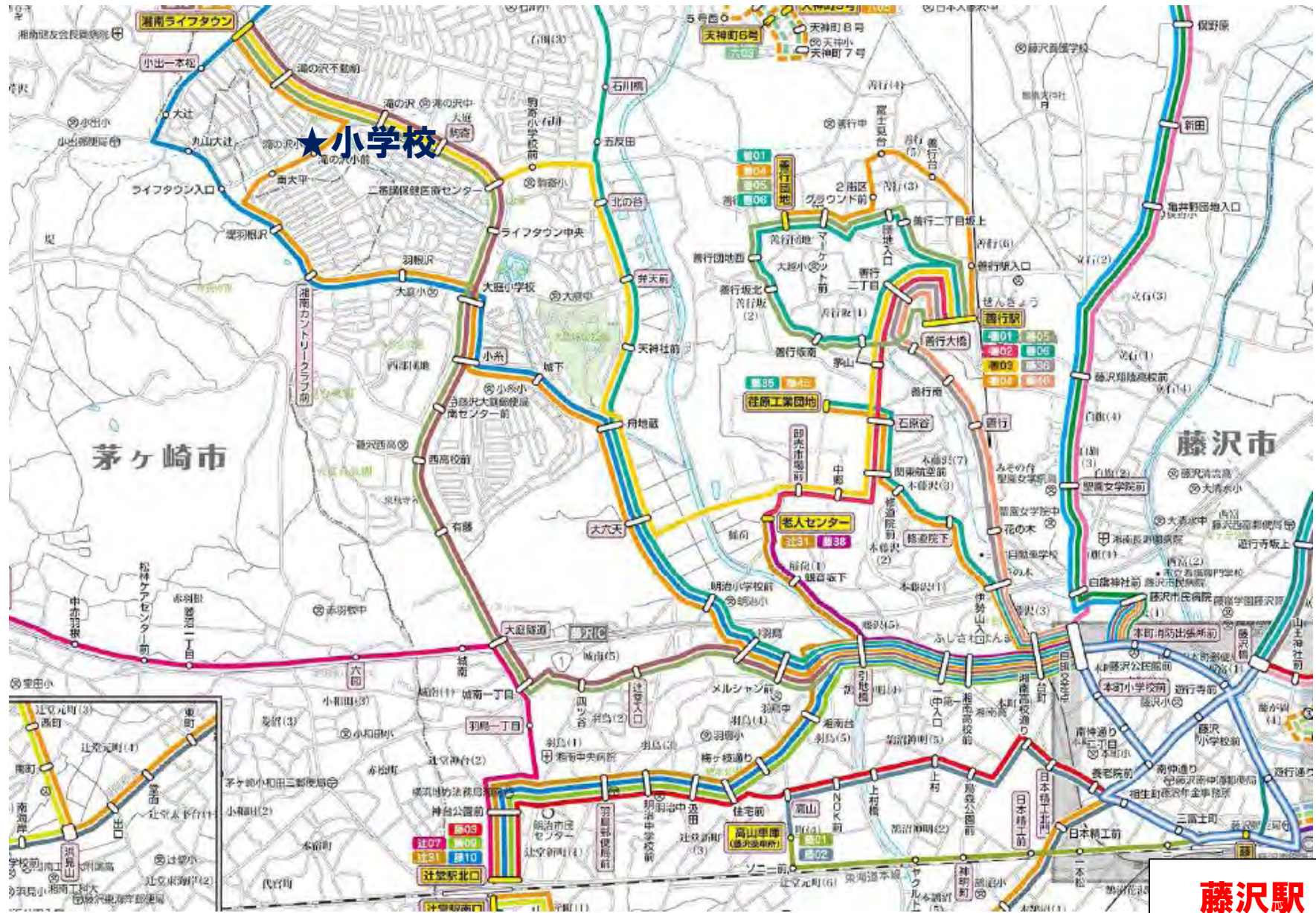
【辻堂駅～滝の沢小学校周辺バス路線図】



【湘南台駅～滝の沢小学校周辺バス路線図】



【藤沢駅～滝の沢小学校周辺バス路線図】



参考-4

乗り方ガイドブック駒寄小学校

バスの乗り方・電車の乗り方

ガイドブック

-目次-

【行き】

その1・集合場所に向かう	p. 2
その2・電車の乗り方（辻堂駅）	p. 5
その3・藤沢駅での乗り換え	p. 15

【帰り】

その4・電車の乗り方（片瀬江の島駅）	p. 20
その5・藤沢駅での乗り換え	p. 24

【参考】

バスの乗り方	p. 30
バス停の時刻表	p. 33

行き…二番構保健医療センター、ライフタウン中央から辻堂駅へ

8：00 までにつくバスの時刻表

帰り…辻堂駅から二番構保健医療センター、ライフタウン中央へ

14：30～16：30 の間に出発するバスの時刻表

～その1・集合場所～

1-1. 集合場所へ向かう

集合する場所は、辻堂駅の改札へ向かうとちゅうにあります。階段をのぼって、屋根のある通路を進んでください。

クルマを下りたあとは集合場所までは下の地図の様に進みます。詳しくは次のページから説明します。



バス・電車の乗り方

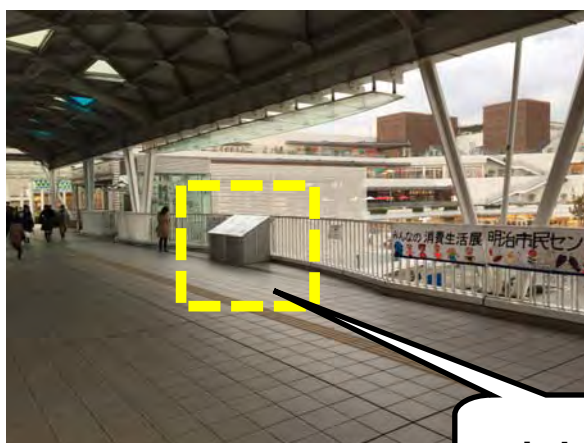
①クルマを降りると改札へ向かうためにエスカレータか階段で2階へ上がります。



②屋根のついた通路を歩きます。



③通路を歩いていくと、右側に案内板があるところにつきます。



案内板

④案内版の左側にはエレベーターがあります。エレベーターと案内版の間が待ち合わせ場所です。



エレベーター

案内版

集合場所

**※通る人のじゃまにならないように、壁がわに集まり
ましょう。**

～その2・電車にのる（辻堂駅）～

2-1. 辻堂駅の改札へ向かう

改札は集合場所のすぐ近くにあり、同じ2階にあります。



バス・電車の乗り方

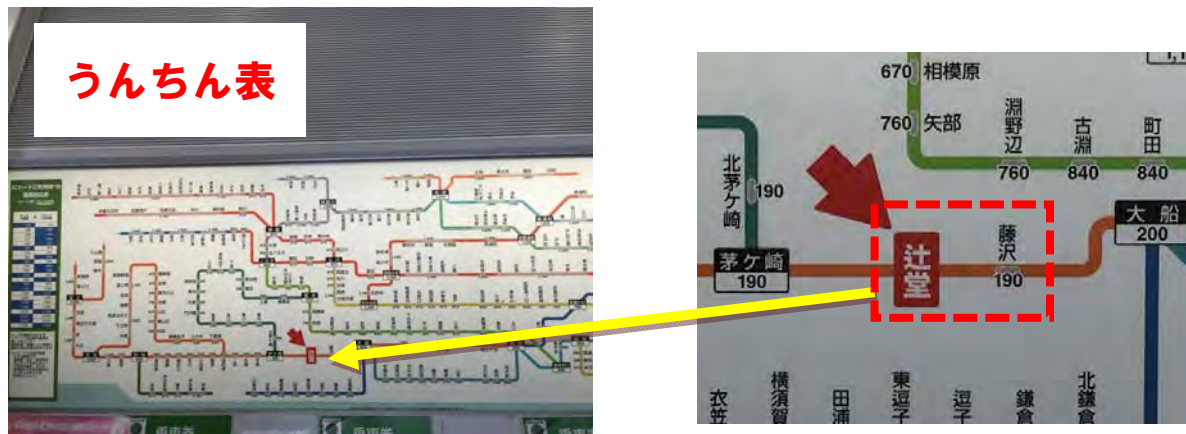
- ①集合場所から改札をみると「東改札」と書かれた看板が見えます。その右側に改札が見えますので切符売り場へ向かいます。



2-2. 切符を買う（JR 辻堂駅）

券売機の上にある「うんちん表」を見てうんちんを調べてから買います。例えば、下の写真を見て藤沢まで行きたいときは、190なので、190円と分かります。（こどもは半額の100円です）

※Suica・PASMO を使う人は切符はいらないので、「③改札機を通る」にそのまま行きます。

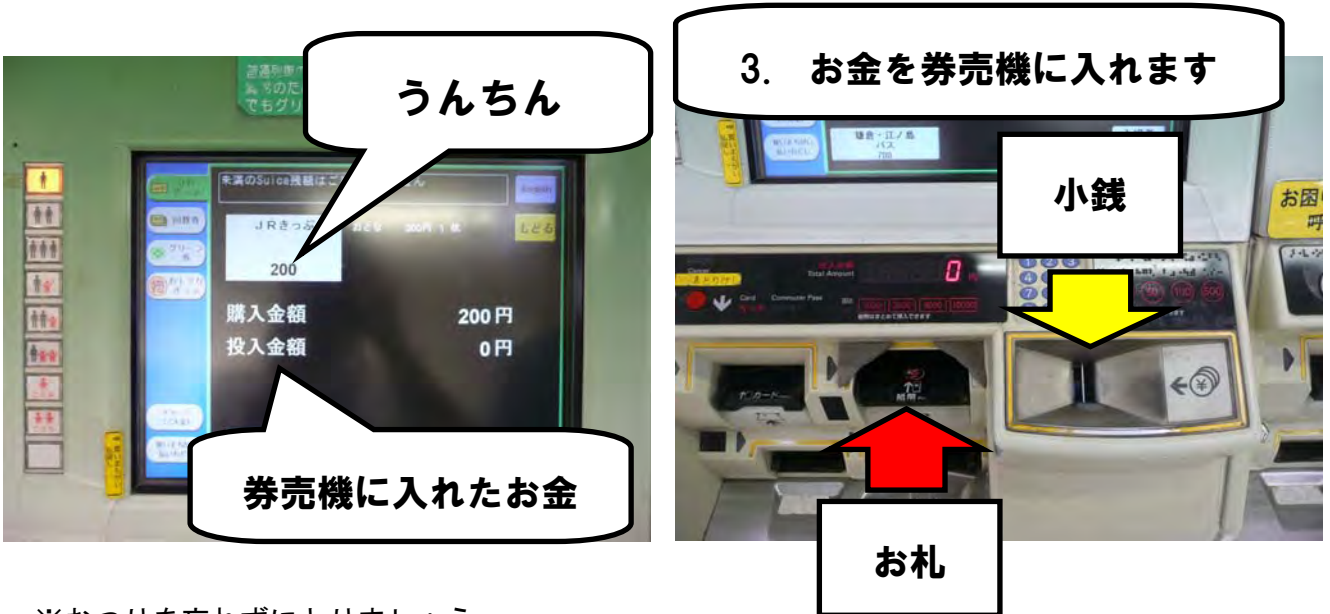
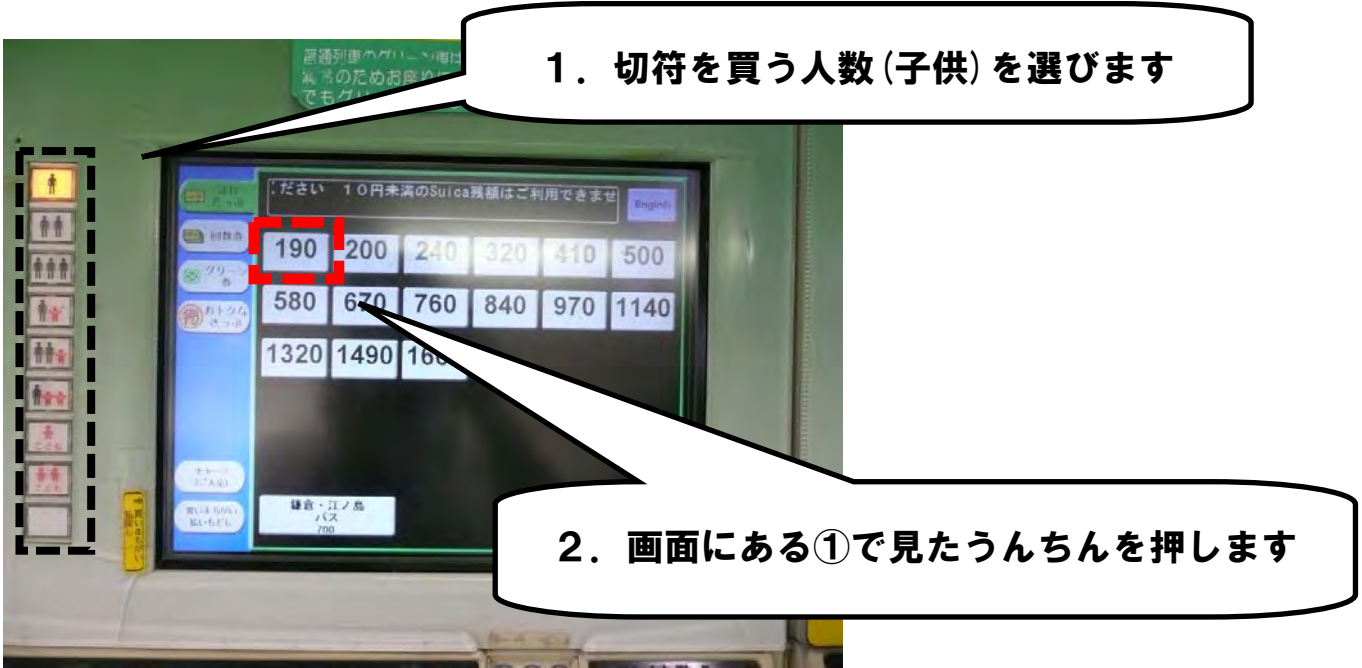


券売機

2-3. 切符を買う

切符は「券売機（けんばいき）」で買います。お金を入れて切符を買う人数を選んだら、うんちん表で見た数字と同じボタンを押します。

ボタンを押したら、切符が出てくるので、切符をもって改札口へ行きましょう。



※おつりを忘れずにとりましょう。

※券売機では Suica・PASMO にお金をいれるチャージなどができます。

2-4. 改札機（かいさつき）を通る

電車に乗るためには改札機をってからホームにいきます。改札機は乗る駅と降りる駅で必ず通らましよう。

Suica・PASMO を使うときは、機械にタッチします。切符を買った人は機械の前側で切符を入れると、機械の後ろ側で出てくるので必ず取りましよう。

改札機には、きつぷと Suica・PASMO の両方が使える機械と Suica・PASMO だけが使える機械がおいてあります。



2-5. 乗り場と時刻を調べる

改札から入ると、乗り場の案内があるので、行き先や乗り場を調べましょう。また電光掲示板（でんこうけいじばん）では、乗り場ごとに電車の出る時刻や行き先を調べることができます。辻堂駅は1番線と2番線がありますが、藤沢へ行くには2番線へ向かいます。



2-6. 時間や乗る電車を調べるとき

いつ、どこへ行く電車が来るのか調べるときには、時刻表を見て調べましょう。東海道線ではぜんぶの駅に停まる「普通」と停まらない駅がある「快速」「特別快速」があります。どの駅まで行くかは種類によってちがいます。自分の行きたい駅で電車が停まるのか、時刻表と電車の停まる駅の案内を見てかくにんしましょう。



電車の停まる駅の案内

バス・電車の乗り方

時間や行き先を調べる際には、駅に必ず時刻表があるのでそれを見てかくにんしましょう。
平日と休日では時間が違うので、乗る日が平日か休日かかくにんしましょう。

東海道線(湘南新宿ライン・上野東京ライン)時刻表
Timetable of Tokaido Line (Shonan-Shinjuku Line・Ueno-Tokyo Line)

大船・横浜・品川・東京・上野・渋谷・新宿方面
for Ofuna, Yokohama, Shinagawa, Tokyo, Ueno, Shibuya & Shinjuku

平塚・小田原・熱海方面
for Hiratsuka, Odawara & Atami

平日 Weekdays	土・休日 Saturdays, Sundays and Holidays	平日 Weekdays	土・休日 Saturdays, Sundays and Holidays
4	4	4	4
5 0 27 50	5 9 27 50	5 18 52	5 18 52
6 2 11 19 31 37 44 48 52 55 59	6 2 11 19 31 37 44 48 52 55 59	6 12 46	6 12 46
7 1 7 13 17 18 19 22 25 29 31 34 37 40 46 48 51 54 58	7 0 5 10 14 18 24 28 32 36 41 47 51 57	7 1 7 17 25 34 41 44 53	7 1 9 17 25 34 39 44 53
8 1 4 9 12 15 19 23 30 36 40 48 56	8 1 6 14 21 26 34 41 47 56	8 3 11 19 26 33 40 44 52 56	8 3 11 19 26 31 35 44 48 54 59
9 5 14 23 34 42 51 55	9 5 14 23 30 43 51 55	9 2 11 18 22 27 31 36 46 53	9 3 16 25 31 39 48 56
10 7 17 25 37 49 53	10 7 16 22 37 47 53	10 3 9 15 25 30 36 47 55 59	10 11 24 29 34 47 59
11 4 15 22 37 47 52	11 4 15 22 30 48 52	11 5 10 22 29 37 50	11 5 10 22 29 37 51
12 3 18 25 37 48 52	12 3 21 30 38 48 52	12 0 7 21 24 38 50	12 1 7 21 24 38 51
13 3 17 22 35 48 53	13 3 19 22 39 48 53	13 0 8 20 25 37 50 59	13 0 8 21 25 37 50 59
14 3 15 22 36 48 53	14 2 14 22 36 48 53	14 8 20 24 37 50	14 8 20 24 37 50 59
15 3 14 22 37 48 53	15 3 14 22 37 48 53	15 0 7 20 24 37 48 58	15 0 8 21 30 34 48 59
16 3 16 23 34 46 50 57	16 4 16 23 34 46 50 57	16 7 21 24 27 48 57	16 7 20 24 38 48 59
17 3 15 22 35 47 55	17 3 18 26 32 39 53 55	17 7 17 24 38 47 59	17 8 19 24 38 47 59
18 3 14 17 28 33 41 47 53 59	18 3 14 18 26 33 41 47 53 59	18 8 16 24 30 34 39 46 51 57	18 8 16 24 30 33 39 46 53
19 3 9 20 31 35 43 51 59	19 3 4 19 26 35 40 48 51	19 1 7 13 18 24 28 33 37 42 49 53 59	19 0 3 8 12 19 24 30 36 42 50 59
20 7 13 18 29 37 42 49	20 7 13 18 29 36 45 49	20 5 9 15 18 27 40 43 47 53 57	20 3 9 15 25 28 46 47 57
21 7 12 19 27 37 41 51 58	21 8 15 21 29 38 50 58	21 5 9 14 17 25 30 40 44 47 56	21 5 3 14 24 30 40 44 56
22 10 25 33 40 46 50	22 7 25 33 39 46 50	22 4 8 15 17 28 40 43 55 59	22 2 7 14 25 40 48 55 59
23 14 27 39	23 14 27 39	23 6 13 17 26 31 40 45 54 57	23 6 14 25 35 40 45 54 59
0	0	0 4 13 17 25 32 42 50	0 4 13 25 32 50
1	1	1	1

※辻堂駅にある時刻表は次のページにも載っているので調べながら乗りましょう。

※辻堂駅から乗った電車がどこへ行くのか、分からない場合には最後のページについている路線図を見ましょう。

2-7. 辻堂駅の時刻表

藤沢方面の時刻表には快速・普通停車などの種類の電車が走っていますが、全ての電車が藤沢駅に止まります。

辻堂駅 東海道本線 横浜・東京・宇都宮・高崎方面(上り)																			
時																			
5	高(東京) 00	高(東京) 27	快(宇) 50																
6	快(高) 02	宇(東京) 11	高(東京) 19	金(東京) 31	快(龍) 37	宇(東京) 40	高(東京) 44	快(宇) 48	湘(東) 52	龍(東京) 55	上 58								
7	宇(東京) 01	快(高) 04	上 07	龍(東京) 10	上 13	金(東京) 16	快(龍) 19	上 22	快(ア) 25	高(東京) 29	宇(東京) 31	上 34	前(東京) 37	快(高) 40	上 46	金(東京) 48	上 51	龍(東京) 54	上 58
8	金(東京) 01	上 04	上 09	宇(東京) 12	上 15	快(龍) 19	快(ア) 23	高(東京) 30	湘(東) 36	高(東京) 40	宇(東京) 48	前(東京) 56							
9	宇(東京) 05	高(東京) 14	金(東京) 29	古(東京) 34	高(東京) 42	金(東京) 51	快(龍) 55												
10	龍(東京) 07	龍(東京) 17	金(東京) 23	古(東京) 37	高(東京) 49	快(龍) 53													
11	龍(東京) 04	龍(東京) 15	宇(東京) 22	古(東京) 37	高(東京) 47	快(龍) 52													
12	龍(東京) 09	龍(東京) 18	黒(東京) 23	古(東京) 37	高(東京) 48	快(龍) 52													
13	龍(東京) 08	龍(東京) 17	金(東京) 22	古(東京) 39	高(東京) 48	快(龍) 53													
14	龍(東京) 03	前(東京) 15	宇(東京) 22	古(東京) 38	前(東京) 48	快(龍) 53													
15	高(東京) 03	龍(東京) 14	金(東京) 22	宇(東京) 37	高(東京) 46	快(龍) 53													
16	高(東京) 05	龍(東京) 16	宇(東京) 23	金(東京) 34	高(東京) 46	快(龍) 50	金(東京) 57												
17	高(東京) 09	金(東京) 18	龍(東京) 22	快(高) 26	宇(東京) 31	前(東京) 39	快(龍) 52	龍(東京) 56											
18	金(東京) 06	高(東京) 14	快(龍) 17	快(龍) 28	黒(東京) 33	高(東京) 41	金(東京) 47	深(東京) 53	快(前) 56										
19	龍(東京) 03	宇(東京) 09	高(東京) 20	快(龍) 24	宇(東京) 35	高(東京) 43	黒(東京) 51	快(前) 54											
20	龍(東京) 07	快(龍) 13	金(東京) 18	龍(東京) 29	金(東京) 37	快(龍) 42	前(東京) 49												
21	快(高) 03	龍(東京) 10	龍(東京) 19	金(東京) 27	快(高) 30	龍(東京) 40	宇(東京) 50	龍(東京) 58											
22	東 10	東 25	東 33	快(高) 36	東 46	東 58													
23	品 14	品 27	品 39																

列車種別・列車名： 無印=普通 快=快速 湘(高)=湘南ライナー ア=アーバン ラ=ラビット
 行き先・経由： 龍=龍原 高=高崎 金=小金井 宇=宇都宮 上=上野 前=前橋 古=古河 東=東京 黒=黒磯 品=品川 深=深谷
 (東京)=東京経由 (新番)=新番経由

2-8. 電車を待つとき

ホームで電車を待つときには、いすにすわるか、電車がとまったときに出入口がくる位置に表示があるので、そこに並んで待ちましょう。電車がついたら、電車から降りる人がいなくなってから、のりましょう。

◎ホームの端を歩かないようにしましょう。

◎電車を待つときは床に表示してある位置で待ちましょう。

2-9. 電車に乗っているとき

電車に乗っているときは、他のお客さんにめいわくをかけないように、下書いてあることを守りましょう。守らなかったときは、事故などがおきてケガをしてしまうことがあります。

◎大声でしゃべって、他の人にめいわくをかけてはいけません。

◎席にすわってないときは、手すりや吊り革につかまりましょう。

◎携帯電話やスマートフォンで電話をしてはいけません。

◎優先席ではお年寄りや子供づれの人に席を譲りましょう。

◎ドアの前をふさぐと、おりる人のめいわくになってしまいます。

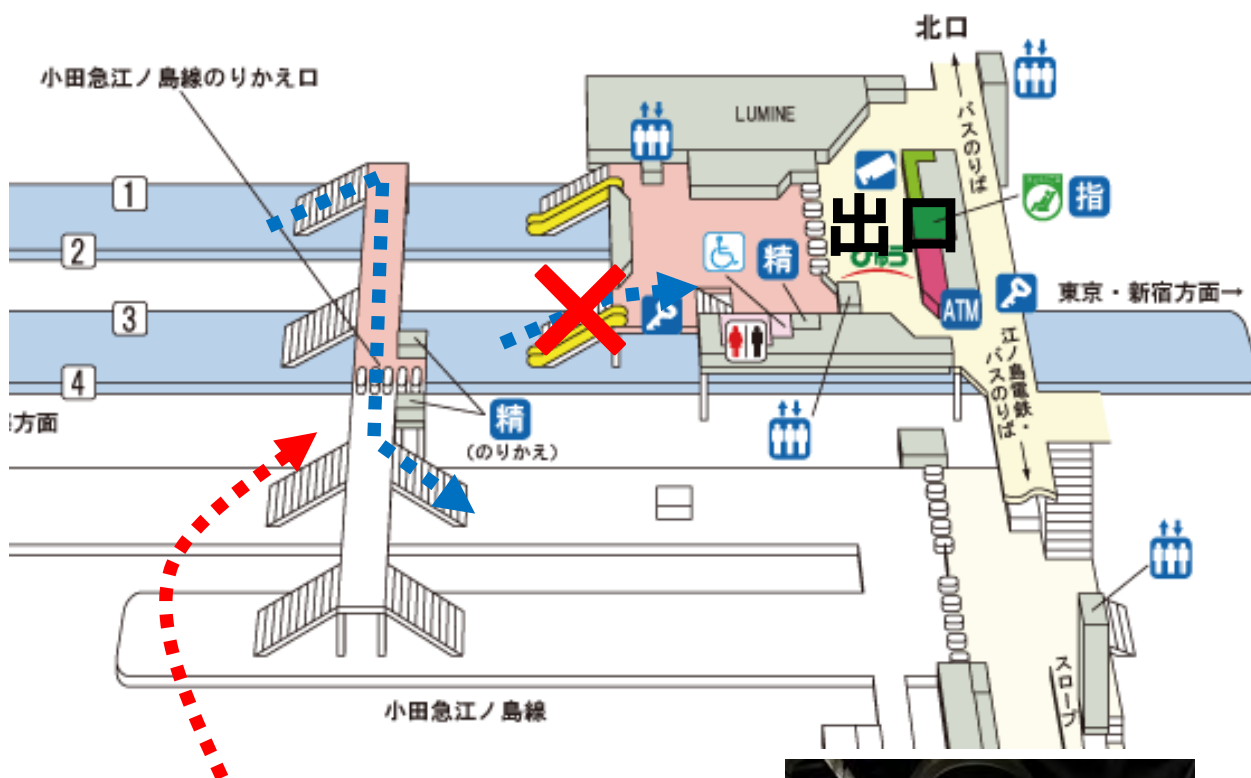


～その3・藤沢駅での乗り換え

3-1. 電車を降りるとき（藤沢駅で乗り換えるとき）

藤沢駅に着いたら、小田急線のりかえ口に行きましょう。のりかえ口は1箇所です。ホームには右下の写真のように「小田急のりかえ口」と書いた案内があるので、それを見て移動します。

出口に向かう階段もありますがのぼってはいけません。間違えないようにしましょう。



3-2. うんちんを調べる

小田急に乗り換えるためにはあたらしい切符（きっぷ）が必要です。のりかえ口にある機
会で買しましょう。

切符を買うには、「うんちん表」を見てうんちんを調べてから買います。例えば、下の写
真を見て片瀬江の島まで行きたいときは、160なので、160円と分かります。（こども
は赤字の80円です）



3-3. 切符を買う

切符は「券売機（けんばいき）」で買います。お金を入れて切符を買う人数を選んだら、
うんちん表で見た数字と同じボタンを押します。

ボタンを押したら、切符が出てくるので、切符をもって改札口へ行きましょう。



1. 切符を買う人数（子供）を選びます

2. 切符を押します

3. 画面にある①で見たうんちんを押します

4. お金を券売機に入れます

※おつりを忘れずにとりましょう。

※券売機では SUICA・PASMO にお金をいれる
チャージなどができます。

3-4. 改札機（かいさつき）を通る

電車に乗るためには改札機をってからホームにいきます。改札機は乗る駅と降りる駅で必ず通らしましょう。

Suica・PASMO を使うときは、機械にタッチします。切符を買った人は機械の前側で切符を入れると、機械の後ろ側で出てくるので必ず取りましょう。

改札機には、きっぷと Suica・PASMO の両方が使える機械と Suica・PASMO だけが使える機械が置いてあります。



3-5. 乗り場と時刻を調べる

駅には「電光掲示板（でんこうけいじばん）」があるので、電車の時間、行き先や乗り場を調べましょう。片瀬江の島方面行きは2番線から発車するので、2番線へ行きましょう。



3-6. 電車を待つとき

ホームで電車を待つときには、いすにすわるか、電車がと待ったときに出入口がくる位置に表示があるので、そこに並んで待ちましょう。電車がついたら、電車が降りる人がいなくなってから、のりましょう。

◎ホームの端を歩かないようにしましょう。

◎電車を待つときは床に表示してある位置で待ちましょう。

3-7. 電車に乗っているとき

電車に乗っているときは、他のお客さんにめいわくをかけたりしないように、下書いてあることを守りましょう。守らなかったときは、事故などがおきてケガをしてしまうことがあります。

◎大声でしゃべって、他の人にめいわくをかけてはいけません。

◎席にすわってないときは、手すりや吊り革につかまりましょう。

◎携帯電話やスマートフォンで電話をしてはいけません。

◎優先席ではお年寄りや子供づれの人に席を譲りましょう。

◎ドアの前をふさぐと、おりる人のめいわくになってしまいます。



3-8. 電車を降りるとき

片瀬江の島駅に着いたら、掲示板に書かれた出口の方向に行きましょう。出口は一か所のみです。出口まできたら、③と同じように切符を入れますが、切符は出てこないで、そのまま改札機を通りぬけてから出ましょう。



～その4・電車(片瀬江ノ島駅)の乗り方～

4-1. 切符うりばへむかう

片瀬江の島駅の切符うり場は赤い屋根の左側にあります。さいしょにここに来て切符を買いましょう。



4-2. うんちんを調べる

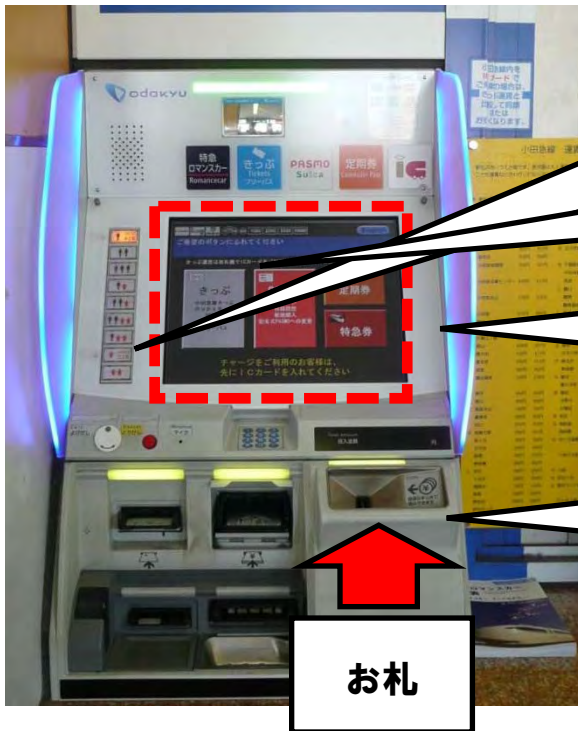
電車に乗るためには切符（きっぷ）が必要です。切符を買うには、「うんちん表」を見てうんちんを調べてから買います。



4-3. 切符を買う

切符は「券売機（けんばいき）」で買います。お金を入れて切符を買う人数を選んだら、うんちん表で見た数字と同じボタンを押します。

ボタンを押したら、切符が出てくるので、切符をもって改札口へ行きましょう。



1. 切符を買う人数(子供)を選びます

2. 切符を押します

3. 画面にある①で見たうんちんを押します

4. お金を券売機に入れます

※おつりを忘れずにとりましょう。

※券売機では SUICA・PASMO にお金をいれるチャージなどができます。

4-4. 改札機（かいさつき）を通る

電車に乗るためには改札機をってからホームにいきます。改札機は乗る駅と降りる駅で必ず通ります。

Suica・PASMO を使うときは、機械にタッチします。切符を買った人は機械の前側で切符を入れると、機械の後ろ側で出てくるので必ず取りましょう。

改札機には、きっぷと Suica・PASMO の両方が使える機械と Suica・PASMO だけが使える機械が置いてあります。



4-5. 乗り場と時刻を調べる

駅には「電光掲示板（でんこうけいじばん）」があるので、電車の時間、行き先や乗り場を調べましょう。とちゅうの駅で、あとからくる早い電車にのりかえたりすることが出来るので、お知らせもかくにんしましょう。1番線と2番線のどちらからも電車は出発するので、一番先に出発する電車が何番線か、確認しましょう。



4-6. 電車を待つとき

ホームで電車を待つときには、いすにすわるか、電車がと待ったときに出入口がくる位置に表示があるので、そこに並んで待ちましょう。電車がついたら、電車が降りる人がいなくなってから、のりましょう。

◎ホームの端を歩かないようにしましょう。

◎電車を待つときは床に表示してある位置で待ちましょう。

4-7. 電車に乗っているとき

電車に乗っているときは、他のお客さんにめいわくをかけたりしないように、下を書いてあることを守りましょう。守らなかったときは、事故などがおきてケガをしてしまうことがあります。

◎大声でしゃべって、他の人にめいわくをかけてはいけません。

◎席にすわってないときは、手すりや吊り革につかまりましょう。

◎携帯電話やスマートフォンで電話をしてはいけません。

◎優先席ではお年寄りや子供づれの人に席を譲りましょう。

◎ドアの前をふさぐと、おりる人のめいわくになってしまいます。

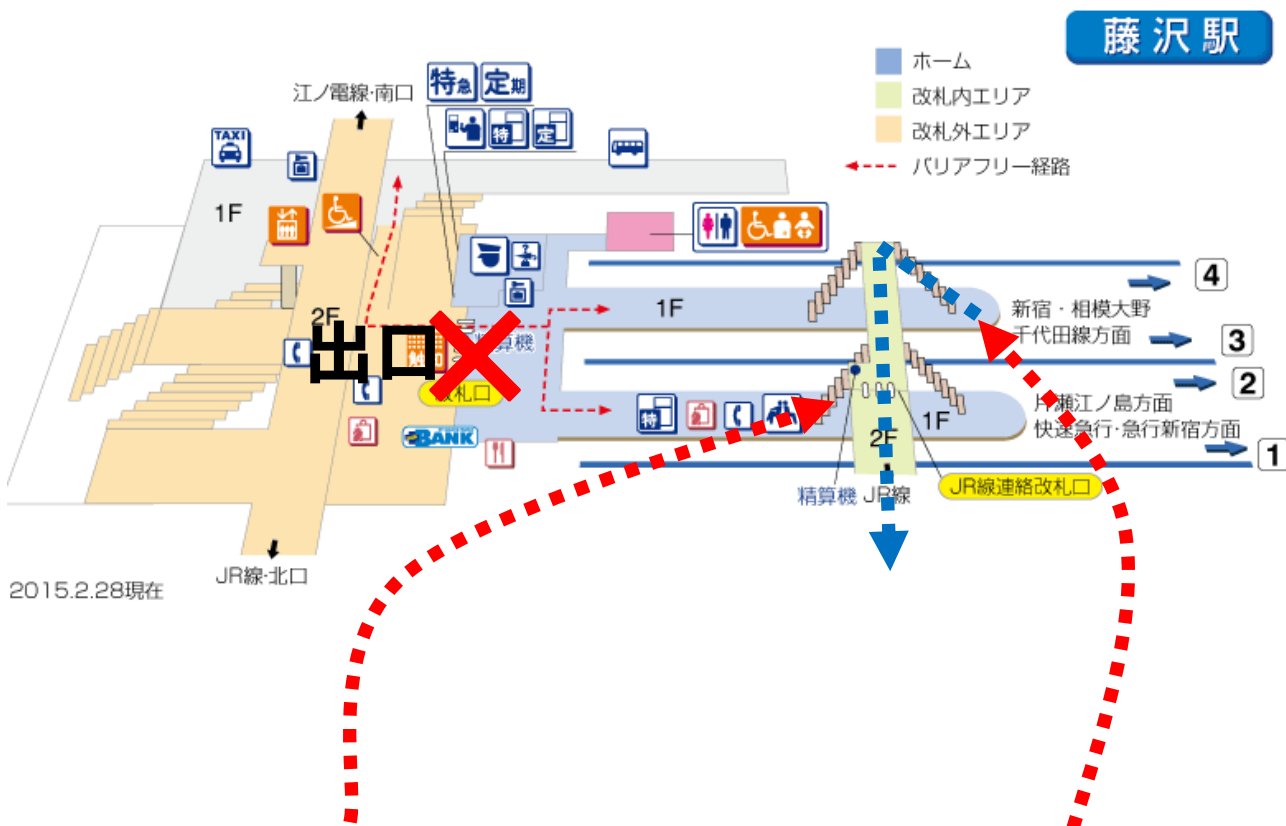


～その5・藤沢駅での乗り換え

5-1. 電車を降りるとき（藤沢駅で乗り換えるとき）

藤沢駅に着いたら、階段をのぼってJR線のりかえ口に行きましょう。階段をのぼらずに改札についたら出口にいってしまいます。間違えないようにしましょう。

のりかえ口は1箇所で、階段を上ります。ホームには右下の写真のように「JR線のりかえ口」と書いた案内があるので、それを見て移動します。



5-2. うんちんを調べる (JR 藤沢駅)

JRに乗るにはあたらしいきっぷが必要です。券売機の上にある「うんちん表」を見てうんちんを調べてから買います。例えば、下の写真を見て辻堂まで行きたいときは、190なので、190円と分かります。(こどもは半額の100円です)

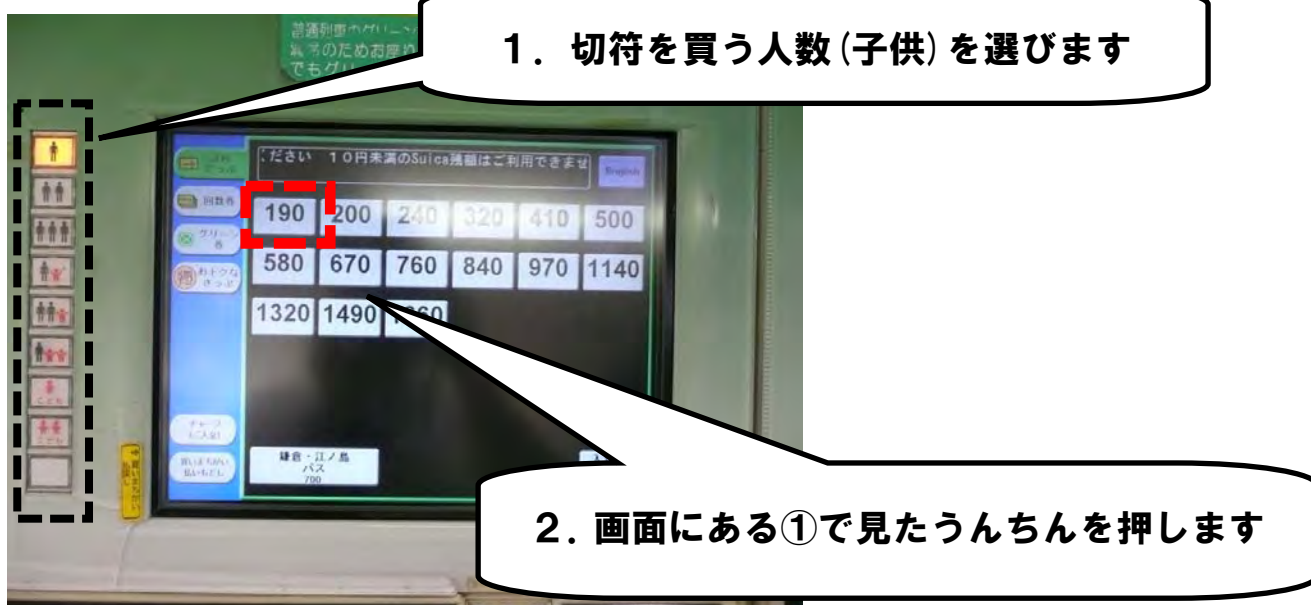
※Suica・PASMO を使う人は切符はいらないので、「③改札機を通る」にそのまま行きます。

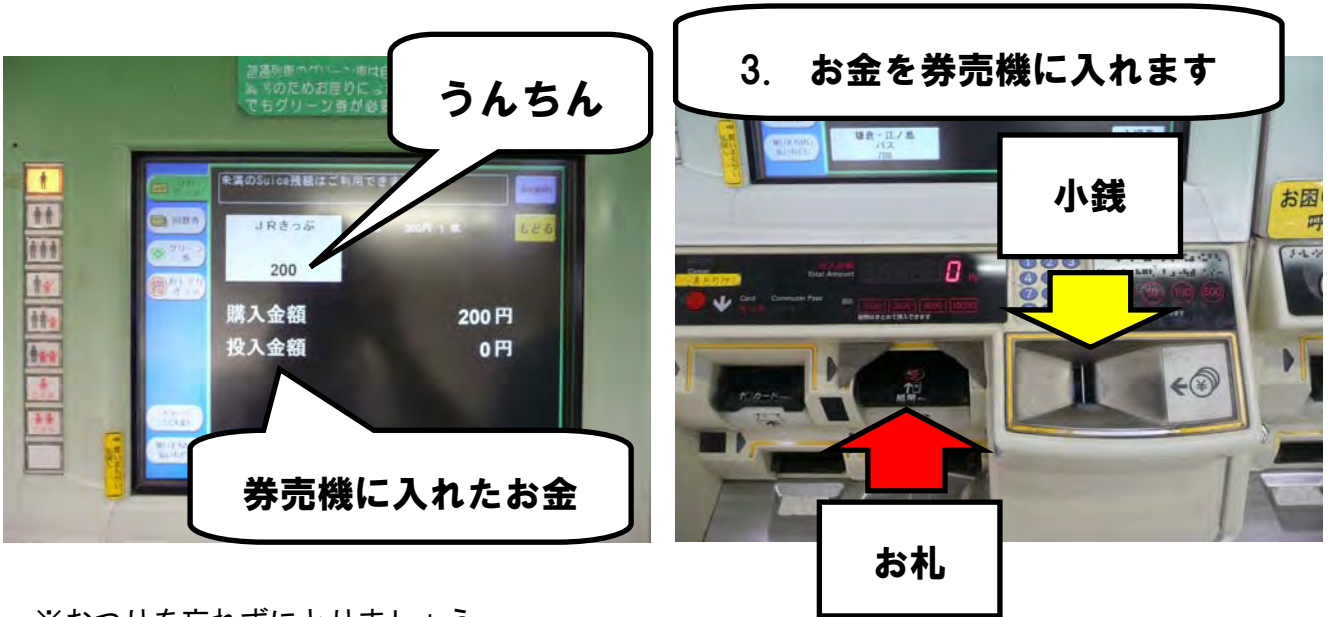


5-3. 切符を買う

切符は「券売機 (けんばいき)」で買います。お金を入れて切符を買う人数を選んだら、うんちん表で見た数字と同じボタンを押します。

ボタンを押したら、切符が出てくるので、切符をもって改札口へ行きましょう。





※おつりを忘れずにとりましょう。

※券売機では SUICA・PASMO にお金をいれるチャージなどができます。

5-4. 改札機（かいさつき）を通る

電車に乗るためには改札機をってからホームにいきます。改札機は乗る駅と降りる駅で必ず通らしましょう。

Suica・PASMO を使うときは、機械にタッチします。切符を買った人は機械の前側で切符を入れると、機械の後ろ側で出てくるので必ず取りましょう。

改札機には、きっぷと Suica・PASMO の両方が使える機械と Suica・PASMO だけが使える機械が置いてあります。



5-5. 乗り場と時刻を調べる

階段をくだると、乗り場の案内があるので乗る電車を確認しましょう。辻堂へいくには4番線の電車（小田原・熱海方面）に乗ります。また電光掲示板（でんこうけいじばん）では、乗り場ごとに電車の出る時刻や行き先を調べることができます。



東海道線ではぜんぶの駅に停まる「普通」と停まらない駅がある「快速」「特別快速」があります。「快速」は辻堂に停まらないので乗ってはいけません。「普通」に乗りましょう。

5-6. 電車を待つとき

ホームで電車を待つときには、いすにすわるか、電車がと待つときに出入口がくる位置に表示があるので、そこに並んで待ちましょう。電車がついたら、電車が降りる人がいなくなってから、乗りましょう。

◎ホームの端を歩かないようにしましょう。

◎電車を待つときは床に表示してある位置で待ちましょう。

5-7. 電車に乗っているとき

電車に乗っているときは、他のお客さんにめいわくをかけたりしないように、下書いてあることを守りましょう。守らなかったときは、事故などが起きてケガをしてしまうことがあります。

◎大声でしゃべって、他の人にめいわくをかけてはいけません。

◎席にすわってないときは、手すりや吊り革につかまりましょう。

◎携帯電話やスマートフォンで電話をしてはいけません。

◎優先席ではお年寄りや子供づれの人に席を譲りましょう。

◎ドアの前をふさぐと、おりる人のめいわくになってしまいます。



5-8. 電車を降りるとき


辻堂駅に着いたら、東口改札へ向かいましょう。西口改札にはバス乗り場などありません。出口まで行ったら、乗るときと同じように切符を入れますが、切符は出てこないの、そのまま改札機を通りぬけてから出ましょう。



～参考・バスの乗り方～

参考－1. バスを調べる

バス停にはいろいろな情報がかいてあります。バスの時刻表を見て、自分の乗りたいバスが何時に来るか、調べましょう。



バス停の名前

バス停を通るバスの行先と番号

行先	長後駅西口行			湘南台駅西口行			辻堂駅北口行			行先
	平日	土曜	休日	平日	土曜	休日	平日	土曜	休日	
5	48:58	47		58	58	58				5
6	08:19 23 32 45 53	02 15 29 41 55	26 43 58	18 38 58	28 58	28 58				6
7	02 03 13 23 28 43 50	03 11 26 36 48	11 23 33 48	18 33 53	18 38	18 38	38	38	38	7
8	03 06 13 39 48 58	01 13 31 48	01 08 23 31 43 53	18 48	18 48	18 48				8
9	08 17 36 48	01 13 32 48	01 08 23 32 48	48	48	18 48	08	08	08	9
10	01 13 31 38	02 13 32 48	02 13 32 48	48	18 48	18 48	08	08	08	10
11	01 13 31 38	02 13 32 48	02 13 32 48	18 48	18 48	18 48				11
12	01 13 31 38	02 13 32 48	02 13 32	48	48	48				12
13	01 13 31 38	02 13 32 48	02 13 32	18 48	18 48	48	08	08	08	13
14	01 13 31 38	02 13 32 48	02 13 32	18 48	18 48	18 48				14
15	01 13 31 38 53	02 13 32 48	02 13 32 53	18 48	18 48	18 48	08	08	08	15
16	01 13 33 38 58	02 13 32 48	02 13 32 53	18 48	18 48	18 48				16
17	03 18 28 38 58	02 13 32 48	02 13 32 48	18 48	18 48	18 48	08	08	08	17
18	08 18 28 38 58	02 17 23 37 48 57	02 17 23 37 48 57	18 48	18 48	18 48				18
19	08 18 37 57	13 32	13 32	18 48	18	18				19
20	08 17 37 43 57	02 13 32 48	02 13 32 48	18						20
21	17 33 57	02 32 48 57	02 32 57	08						21
22										22
23	03									23
24										24
25										25

バスの時刻表

バスが来る時間は毎日同じではないので、乗る日によって見る所が変わります。

平日…白、土曜日…青、休日(日曜)…赤 の所を見て、調べましょう。

参考－2. バスがとうちゃくしたら

バスがきたら、自分の乗りたいバスか、自分の行きたい所に行くバスか、かくにんしましょう。バスの前側上とドアの横に、どこを通過して、どこへ行くのか表示があります。



バス前面

系統番号

行き先

バス横面
(左側)

参考－3. バスに乗るとき

バスに乗るときは、Suica・PASMO を使うときと、現金を払うときで乗り方がちがいます。

Suica・PASMO を使うとき

Suica・PASMO は入口にある機械にタッチします。

現金を払うとき

どのバス停から乗ったのか分かるように『整理券』をとりましょう。



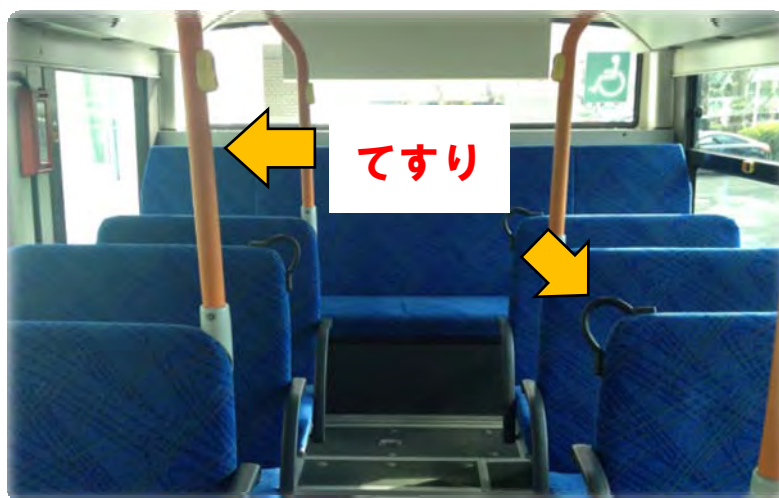
Suica・PASMO で
バスに乗るとき

現金・定期券等で
バスに乗るとき

参考－4. バスに乗っているとき（ルールやマナーについて）

バスに乗っているときは、他のお客さんにめいわくをかけたりしないように、下書いてあることを守りましょう。守らなかったときは、事故などが起きてケガをしてしまうことがあります。

- ◎大声でしゃべって、他の人にめいわくをかけてはいけません。
- ◎席にすわってないときは、手すりや吊り革につかまりましょう。
- ◎バスが動いているときは、移動したりするのはきけんなので、やめましょう。
- ◎携帯電話やスマートフォンで電話してはいけません。
- ◎窓から手や頭を出してはいけません。



参考－5. 降りたいバス停が近くになったら

降りたいバス停の名前が呼ばれたら、窓側などにある降車ボタンを押して、運転手さんにお知らせします。



現金を払う人は、払うお金がいくらなのか、バスの前にうんちん表が書いてあるので、調べてお金を準備しましょう。

自分の持っている整理券の番号と同じ所を書いてある数字が払うお金です。

上段：現金		久 保 沢		
下段：IC		ここは		
整理券	0	1	2	
運	290	260	260	久保沢
	288	258	258	城山総合事務所入口
賃	3	4	5	原宿
	230	180	180	東原宿
	227	175	175	● 終点 橋本駅北口

ご乗車ありがとうございました。



うんちんは2番の下にある
260円！（子供は130円）

参考－6. バスを降りるとき

お金は降りるときに払います。運転手さんの横を通るときに払いましょう。乗るときと同じように、Suica・PASMOを使うときと、現金を払うときでちがいます。

Suica・PASMOを使うとき

Suica・PASMOは乗るときと同じように機械にタッチします。

現金を払うとき

現金を払うときは、乗るときにとった整理券と一緒にお金をうんちん箱に入れます。

- ◎なるべくぴったりの金がかくを用意しましょう。
- ないときは、両がえしましょう。
- (バスが停まっているときに)

現金は整理券と一緒にうんちん箱へ
Suica・PASMOはタッチ



～参考・バス停の時刻表～

1.行きのバス

辻堂駅へ向かうバスの時刻表を記載します。

辻堂駅行きのバス（滝の沢バス停）

系統番号	二番構保健 医療センター	ライフタウン 中央	→	辻堂駅
辻 24	7:00	7:01	→	7:13
辻 26	7:03	7:04	→	7:15
辻 24	×	7:05	→	7:17
辻 24	7:06	7:07	→	7:19
辻 26	7:08	7:09	→	7:20
辻 34	7:12	7:13	→	7:24
辻 26	7:13	7:14	→	7:25
辻 24	×	7:15	→	7:27
辻 24	7:16	7:17	→	7:29
辻 26	7:18	7:19	→	7:30
辻 24	7:20	7:21	→	7:33
辻 26	7:23	7:24	→	7:35
辻 24	×	7:25	→	7:37
辻 24	7:26	7:27	→	7:39
辻 26	7:28	7:29	→	7:40
辻 24	7:31	7:32	→	7:44
辻 26	7:33	7:34	→	7:47
辻 24	×	7:35	→	7:48
辻 24	7:36	7:37	→	7:49
辻 26	7:38	7:39	→	7:50
辻 24	7:40	7:41	→	7:53
辻 24	7:43	7:44	→	7:56

※「辻 24」系統のうち、×がついているバスはライフタウン中央バス停から出発するので、

二番構保健医療センターには停まりません。

2. 帰りのバス

辻堂駅から出発するバスの時刻表を記載します。

系統番号	辻堂駅	→	ライフタウン 中央	二番構保健 医療センター
辻 26	14:30	→	14:40	14:41
辻 34	14:35	→	14:45	14:46
辻 26	14:45	→	14:55	14:56
辻 34	14:50	→	15:00	15:01
辻 26	15:00	→	15:10	15:11
辻 34	15:05	→	15:15	15:16
辻 26	15:15	→	15:25	15:26
辻 34	15:20	→	15:30	15:31
辻 26	15:30	→	15:40	15:41
辻 34	15:35	→	15:45	15:46
辻 26	15:45	→	15:55	15:56
辻 34	15:50	→	16:00	16:01
辻 33	15:58	→	16:10	16:11
辻 26	16:00	→	16:10	16:11
辻 34	16:05	→	16:15	16:16
辻 26	16:15	→	16:25	16:26
辻 34	16:20	→	16:30	16:31
辻 26	16:30	→	16:40	16:51

参考-6
打合せ議事録

こうどう 行動きろくカード

～どのくらい一日歩いているのだろう？～



高谷小学校

【 年 組 番 なまえ 】

万歩計番号

まんぼけい つか かた ～万歩計の使い方～

1 ^{まんぼけい} 万歩計は、ズボンやスカートにつけましょう。

2 ^{まんぼけい} 万歩計は、上に向けてつけましょう。 **こっちを上にする** ↑



正しいつけ方

3 ^{まんぼけい} 万歩計は、朝起きたら、Reset ボタンをおしましょう。

4 ボタンを押して「0」と表示されるのをかくにん^{ひょうじ}しましょう。

「0」になっている
ことをかくにん



Reset ボタン
おす

～きろくのほうほう～

あなたの^{こうどう}行動と1日の^{ほすう}歩数をかきましょう。

なら^{こと}習い事などに^{わす}でかけたときは、**忘れず**にかきましょう。

記入例

第一日目 2月5日(金)

きょうの^{てんき}天気 [はれのちくもり]

①家から学校まで歩く時間は？

家から学校まで [20] 分

②どこに、何の^{もくてき}目的で、どのような^{ほうほう}方法で、でかけましたか？



自分の家



学校



[・歩き (circled) ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 [家] でかける目的 [帰る]



[・歩き (circled) ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 [○○公園] でかける目的 [^{ともだち}友達とおにごっこ]



[・歩き (circled) ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 [家] でかける目的 [帰る]



[・歩き ・自転車 ・電車 (circled) ・バス ・クルマ ・その他]

次のページ

記入例(つづき)

行き先 [○○じゅく] でかける目的 [勉強]

↓ [・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 [家] でかける目的 [帰る]

↓ [・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 [○○レストラン] でかける目的 [家族としゃべり]

↓ [・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 [家] でかける目的 [帰る]

↓ [・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 [] でかける目的 []

↓ [・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 [] でかける目的 []

③一日に何歩歩きましたか？

一日合計 [12000] 歩

第一日目 2月5日(金)

きょうの天気 ^{てんき} ()

①家から学校まで歩く時間は？

家から学校まで () 分

②どこに、何の目的で、どのような方法で、でかけましたか？



自分の家



学校



(・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他)

行き先 () でかける目的 ()



(・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他)

行き先 () でかける目的 ()



(・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他)

行き先 () でかける目的 ()



(・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他)

次のページ

行き先 [] でかける目的 []



[・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 [] でかける目的 []



[・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 [] でかける目的 []



[・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 [] でかける目的 []



[・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 [] でかける目的 []



[・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 [] でかける目的 []

③一日に何歩歩きましたか？

一日合計 [] 歩

①どこに、何の目的で、どのような方法で、でかけましたか？



自分の家



(・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他)

行き先 () でかける目的 ()



(・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他)

行き先 () でかける目的 ()



(・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他)

行き先 () でかける目的 ()



(・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他)

行き先 () でかける目的 ()



(・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他)

次のページ

行き先 [] でかける目的 []



[・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 [] でかける目的 []



[・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 [] でかける目的 []



[・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 [] でかける目的 []



[・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 [] でかける目的 []



[・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 [] でかける目的 []

②一日に何歩歩きましたか？

一日合計 [] 歩

①どこに、何の目的で、どのような方法で、でかけましたか？



自分の家



(・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他)

行き先 () でかける目的 ()



(・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他)

行き先 () でかける目的 ()



(・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他)

行き先 () でかける目的 ()



(・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他)

行き先 () でかける目的 ()



(・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他)

次のページ

行き先 [] でかける目的 []



[・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 [] でかける目的 []



[・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 [] でかける目的 []



[・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 [] でかける目的 []



[・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 [] でかける目的 []



[・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 [] でかける目的 []

②一日に何歩歩きましたか？

一日合計 [] 歩

どうしたらたくさん歩ける？



どうしたらたくさん歩けるか考えてみよう！

なんでそう考えたの？

もくひょう
目標は？

歩



①どこに、何の目的で、どのような方法で、でかけましたか？



自分の家

↓ [・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 [_____] でかける目的 [_____]

↓ [・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 [_____] でかける目的 [_____]

↓ [・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 [_____] でかける目的 [_____]

↓ [・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 [_____] でかける目的 [_____]

↓ [・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

次のページ



行き先 () でかける目的 ()



[・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 () でかける目的 ()



[・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 () でかける目的 ()



[・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 () でかける目的 ()



[・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 () でかける目的 ()



[・歩き ・自転車 ・電車 ・バス ・クルマ ・その他]

行き先 () でかける目的 ()

②一日に何歩歩きましたか？

一日合計 () 歩

かん そう
～ 感 想 ～

じゅぎょう かんそう
授業の感想

れい) 目標の歩数は、歩けたけど、たいへんだった

ほごしや

保護者の方へ※おうちの人にかいてもらってね!

問1：日常的な移動についてお答えください。(適切なものを1つ選択)

1. クルマ（自家用車）を主な移動手段としている
2. 公共交通を主な移動手段としている
3. 目的や移動する人数によって使い分けを行っている
4. クルマ（自家用車）や公共交通を使うような移動は普段は行わない
5. その他（ ）

問2：このような健康に配慮した移動手段(行動)を考える授業について、どのように感じますか。(適切なものを1つ選択)

1. 児童及び保護者にとって、移動手段について考え、行動を見直す機会になった
2. 保護者にとって、移動手段について考え、行動を見直す機会になった
3. 児童にとって、移動手段について考え、行動を見直す機会になった
4. 移動手段について考える機会にはなるが、行動は変わらない
5. 普段の生活に影響はない
6. その他（ ）

問3：このような授業について、ご意見があれば、ご記入ください。

参考-5

高谷小学校 行動きろくカード

打合せ記録簿

第1回						
発注者・印	監督員		担当者	受注者・印	主任技術者	担当者
日時	平成27年5月28日(木) 17:00～17:40			場所	中目黒駅周辺	
業務名	(仮)平成27年度 藤沢市交通環境学習推進事業			打合せ方式	会議	
事務所名 業務担当課	藤沢市建築計画部都市計画課			会社名 (受託者側)	八千代エンジニアリング株式会社	
出席者	発注者側	額賀主幹、香川主査、相良主任				
	学識経験者	谷口先生 (筑波大学)				
	受注者側	藤田、川渕				
<p>1. 打合せの目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かまくらめぐりの資料構成について <p>2. 打合せの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冊子構成について谷口先生より以下の指摘を受けた。 <ul style="list-style-type: none"> →冊子はA3サイズ3ページ程度に要約し、目次をつけること。 →「原単位」という表現は小学生には理解できないため、変更する。 →クルマで移動した場合の距離も地図に記載する。 →鉄道駅での乗り換えについては、各鉄道事業者のHPで公開されている構内図を追加し、図上にルートを示すなどの工夫をしてほしい。 ・秦野市の小学校で実施した際には、CO₂排出量を算出する班、費用を算出する班と分けて実施していた。(谷口先生) ・バスの乗り方や電車の乗り方に関する冊子は、今後、普段から車を利用する方に対する説明資料として活用できる可能性もあることから、デザインも含めた検討を実施してほしい。(谷口先生) →藤沢市においては、全生徒に対してCO₂排出量の計算のみ実施することとしている。(発注者) ・次回の校外行事『かまくらめぐり』は6月9日に実施する予定である。(発注者) <p>3. 今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回の校外行事『かまくらめぐり』は6月9日に実施する予定である。(発注者) ・次回の打合せは7月2日(火)10:30から中目黒周辺にて実施することとし、打合せ場所の確保は受注者が行う。 						
以上						

打合せ記録簿

第2回						
発注者・印	監督員		担当者	受注者・印	主任技術者	担当者
日時	平成27年6月16日(火) 14:00～16:00			場所	藤沢市役所	
業務名	藤沢市交通環境学習（モビリティ・マネジメント教育）推進事業補助業務 <平成27年度>			打合せ方式	会議（現地確認）	
事務所名 業務担当課	藤沢市建築計画部都市計画課			会社名 (受託者側)	八千代エンジニアリング株式会社	
出席者	発注者側	相良主任、阿部様				
	受注者側	川淵				
<p>1. 現地確認内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中里小学校6年生の校外授業「かまくらめぐり」の状況確認 <p>2. 議事内容</p> <p>(1) 校外学習「かまくらめぐり」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中里小学校6年生の校外学習「かまくらめぐり」について、JR鎌倉駅周辺および鎌倉駅から藤沢駅まで鉄道で児童が移動する状況を確認した。 ・鎌倉駅構内では藤沢方面に向かうためには、どの電車に乗れば良いのか分からずに滞留する場面が見られた。 ・乗車した電車が藤沢方面へ向かう電車ではないと誤認して、北鎌倉駅にて降車しようとする場面が見られた。 ・現地確認を踏まえて、乗り方ガイドブックに路線図を添付するなどの修正が必要である事を確認した。資料の詳細な修正内容については、次回打合せにて確認を行うこととした。 <p style="text-align: right;">以上</p>						

打合せ記録簿

第3回						
発注者・印	監督員		担当者	受注者・印	主任技術者	担当者
日時	平成27年6月16日(火) 18:10～19:30			場所	藤沢市役所	
業務名	藤沢市交通環境学習（モビリティ・マネジメント教育）推進事業補助業務 <平成27年度>			打合せ方式	会議	
事務所名 業務担当課	藤沢市建築計画部都市計画課			会社名 (受託者側)	八千代エンジニアリング株式会社	
出席者	発注者側	香川主査、相良主任、阿部様				
	受注者側	藤田、川渕				
<p>1. 打合せの目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度第1回MM会議に向けた資料作成 <p>2. 打合せ資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校3・4年生向け教科書 <p>3. 受領資料（いずれも貸与資料）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学社会6上下巻、小学社会5上下巻、小学社会3・4上下巻（出版：教育出版） ・3・4年生用社会科資料集—ふじさわ—（出版：藤沢市教育委員会） <p>3. 打合せの内容</p> <p>（1）小糸小学校の校長先生との協議内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市と小糸小学校の校長先生と協議した結果、藤沢市の学校 MM の展開方法として必要な事項を以下の通り確認した。 →小学5・6年生に対しては大きな課題を解決したり、取り組みの中で気づきや発見ができるような流れの授業がしたい。そのため、現在用意している CO2 の排出量を算出する資料（空欄を埋めるなどのテキスト）のような形ではない方がよい。 →現在の中里小学校での取り組みでは、個別学習で十分準備をした結果として実施できる内容となっている。今後、広めるうえでは、予習や準備をしないで授業時間（1時間）で実施できる構成とすることが望ましい。 →各学校で授業を実施するかどうか判断することができるよう、資料は別途準備することが必要である。 →MMの授業を前面に実施するという方法では、全市的な展開が難しい。既存授業の流れを活かしながら、無理なく MM の考え方に繋げるような方法を、藤沢型学校 MM としてプログラムをつくる。 →押しつけ型ではなく、子供が考える余地があり、課題解決型のプログラムとする。 						

(2) 第2回会議資料の構成について

●資料構成、内容

- ・小学校4年生からの取り組みのプログラムとする。小学4年生向けと、小学5・6年生向けに分けた資料として検討する。
- ・4年生の社会科の授業で、「県の事を知る」単元があるので、その単元の中で自分の住んでいるエリアの魅力を知るところから検討できるとよい。(なお、3年生では藤沢市を知るという授業を行っている。)
- ・指導要領と整合を図るため、「気づき」「発見」「自発的」といったキーワードに基づいた資料の原案を作成すること。

●会議の進行方法

- ・会議では、以下の流れで進行する。
 - ①委員の変更
 - ②藤沢市におけるMM教育プログラムの進め方を提示
→議事録(1)の内容を踏まえた進め方の資料を作成
 - ③中里小学校での取り組み事例の紹介(ディベート振り返り授業のビデオ映像の放映、鎌倉めぐりの実施状況の紹介)
→1年目の取り組み状況の紹介、
 - ④追加モデル校の選定について
- ・現在受注者にて行っている校外行事における移動手段の集計、分析については社会科に関連する行事の目的地や移動手段について引き続き整理を行うこと。

3. 今後の予定

- ・6月23日(火)までに第2回資料を受託者側で作成して送付する。(その前に、進め方の骨子[たたき]を作成し、送付する)
- ・中里小学校の需要が6月24日(水)9時半よりあり、受託者が主席の上、ビデオ撮影を行う。
- ・谷口先生との打合せを7月2日(火)10:30から、中目黒住区センターにて行う。
- ・第2回MM会議は7月16日(木)に16:00~18:00に行う。

以 上

打合せ記録簿

第4回						
発注者・印	監督員		担当者	受注者・印	主任技術者	担当者
日時	平成27年7月2日(木) 10:30～12:00			場所	中目黒駅周辺	
業務名	藤沢市交通環境学習（モビリティ・マネジメント教育）推進事業補助業務 <平成27年度>			打合せ方式	会議	
事務所名 業務担当課	藤沢市建築計画部都市計画課			会社名 (受託者側)	八千代エンジニアリング株式会社	
出席者	学識経験者	谷口准教授(筑波大学)				
	発注者側	額賀主幹、香川主査、相良主任、阿部様				
	受注者側	川渕				
<p>1. 打合せの目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2回MM会議資料内容の確認 <p>2. 打合せ資料</p> <p>第2回MM会議資料として、</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料1 中里小学校での取り組み報告 資料2-1 藤沢市におけるMM教育の目指す姿 資料2-2 藤沢市におけるMM教育の進め方(修正案) <p>3. 受領資料</p> <ul style="list-style-type: none"> なし <p>4. 打合せの内容</p> <p>(1) 資料1について</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の感想を見る限り、授業の内容を理解して書いている印象である。(谷口先生) 会議当日は、感想一覧からいくつかピックアップして紹介する予定である。(発注者) <p>(2) 資料2-1について</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の実施を説明した後に反省点や改善点について記載し、今後の教材作成に反映していく旨を示した方が良い。(谷口先生) 「学習プログラム」という文言は教育現場では利用されていないのではないか。(谷口先生) →名称については学校に確認をとる。(発注者) <p>(3) 資料2-2について</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料内に記載した図を用いて、「市内でもエリアによって公共交通への理解度が異なることから、エリアごとにMM教育の進め方を変えていく必要がある。」という旨の説明をしたい。なお、資料2-2については、資料2-1に差し込む予定である。(発注者) 						

- ・小学3年生では市の様子を知るという単元があるため、対象学年は小学3年生まで広げる必要があるのではないかと。（谷口先生）
- ご指摘の通り小学3年生で市の様子、小学4年生で県の様子を知るという単元があるものの、MM教育は小学3年生には理解が難しいのではないかと考え、小学4年生から開始するように検討をしている。（発注者）
- ・記載の授業例について、小学5・6年生で行動プランを取り組むのであれば、小学4年生では距離の計算程度が良いのではないだろうか。（谷口先生）
- 授業例については、現在各学年で1つずつ記載しているが、複数作成して提示したい。会議当日は資料に記載した授業例について意見を伺いたい。（発注者）
- ・p.18のプログラム概要では、地域特性を考慮する前の共通の教育ポイントを整理しており、このポイントに沿って地域特性を踏まえながら各学校で配布教材や授業構成を変えていく旨の記載が必要である。（谷口先生）
- ・各学年における目標、進め方、使用する教材例が一覧で整理してあると良い。（谷口先生）

（4）その他会議当日の進行について

- ・校外学習「かまくらめぐり」を実施した際は、トラブルなどはなかったものの、最初に乗車するバスが遅れるなど、想定と異なる事態が発生していた。
- 実際に公共交通を使ってみて分かったことが多々あると思うので、かまくらめぐりの様子は、写真などを交えて会議当日で紹介するのが良いのではないかと。（谷口先生）

（5）ガイドブックについて

- ・校外学習当日は駅の案内表示に掲載された駅名の中に、大船や藤沢といった記載がなく、児童が電車に乗るのに躊躇する場面があった。（受託者）
- 駅の位置が分かるように、周辺エリアの路線図があると良いのではないかと。（谷口先生）
- ・現行のガイドブックはサイズが大きく、ボリュームもあるため、ノートや教科書と同じB5サイズにして、分量を減らした方が良い。（谷口先生）

（6）今後の展開について

- ・交通事業者への協力も依頼しつつ事業の展開を図っていききたい。7月16日に公共交通会議を開催する予定であるため、交通事業者に対して今後の調整を依頼する予定である。（受託者）
- 協力していただける交通事業者のみで良いと思うので、今後のMM教育取り組みにあたっては協力を依頼しながら進めると良い。（谷口先生）

以上

打合せ記録簿

第5回						
発注者・印	監督員		担当者	受注者・印	主任技術者	担当者
日時	平成27年9月9日(水) 9:30~11:00			場所	藤沢市役所	
業務名	藤沢市交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)推進事業補助業務 <平成27年度>			打合せ方式	会議	
事務所名 業務担当課	藤沢市計画建築部都市計画課			会社名 (受託者側)	八千代エンジニアリング株式会社	
出席者	発注者側	香川主査、相良主任、阿部氏				
	受注者側	藤田、森				
<p>1. 打合せ内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 藤沢市MM教育事業の今後の進め方についての確認 <p>2. 資料授受</p> <p>2-1. 提出資料</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料: 業務進捗状況 資料: 指導要領(案) <p>2-2. 受領資料</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業を進める上でのポイント(秦野市) <p>3. 打合せ記録簿</p> <p>3-1. 業務進捗状況の確認について</p> <p>使用項目と対比した実施状況確認表を受託者から発注者に提示し、実施状況について確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 打合せ協議は10回程度実施することとなっており、通常の打合せのほか、谷口先生との打合せ、鎌倉めぐりなども含めた実施を含む形の実施を想定する。 検討会は2回程度実施することとなっており、7月に実施した検討会のほか、11月上旬、2月上旬の実施予定として進める。 <p>3-2. 教材の修正</p> <p>◎5年生</p> <ul style="list-style-type: none"> 7月の検討会で提示した教材案の5年生の内容(p.16~)において、「情報を把握する」の単元に合致した内容となっていなかったため、教材を修正すること。なお、情報を把握する授業は、交通に必ずしも特化したものではないため、情報を把握するという授業の流れの後半において、交通というテーマでも様々な情報を把握することができ、かしこい交通手段の選択に繋がっていきけるような流れを想定すること。(市) →教材の内容を確認の上、修正する。(受託者) <p>◎6年生</p> <ul style="list-style-type: none"> 中里小学校で実施した授業において、CO2の削減量を算出する計算の場面で、時間を予定以上にかかるという課題が確認できた。計算が円滑に進み、MM本来の主旨として実施できるよう改善を検討すること。(市) →簡易な方法等、検討する。(受託者) <p>◎4年生</p> <ul style="list-style-type: none"> 4年生の教材を作成することとなるが、市と学校関係者間の調整状況を受けたのち、作成を検 						

討すること。(市)
→承知した。(受託者)

3-3. 実施要領

・先生の立場に立った形で、進め方の指南となるようなものを作成すること。秦野市の資料を参考とて確認すること。(市)
→承知した。(受託者)

3-4. アンケートの実施検討

・次の2点のアンケートを実施したいと考えており、案を作成すること。児童に対するアンケートは、事例なども参考にしながら、子供用の分かりやすい内容として作成すること。(市)
① 学校側(先生)へのアンケート:MM教育の実施してみた際の負担感や改善の必要性
② 児童に対するアンケート:TFPの要素も含んだアンケート
→承知した。(受託者)

3-5. 今後の作業スケジュール

・本日確認した作業内容のうち、3-4のアンケート案作成を最優先として準備を進める。
・その他の資料準備については、市と学校関係者との調整スケジュール等とも関連するため、資料作成のスケジュール(期限等)について、市より受託者に後日提示する。

以 上

打合せ記録簿

第6回						
発注者・印	監督員		担当者	受注者・印	主任技術者	担当者
日時	平成27年10月30日(金) 16:30~18:00			場所	藤沢市みなパーク	
業務名	藤沢市交通環境学習（モビリティ・マネジメント教育）推進事業補助業務 <平成27年度>			打合せ方式	会議	
事務所名 業務担当課	藤沢市計画建築部都市計画課			会社名 (受託者側)	八千代エンジニアリング株式会社	
出席者	学識経験者	谷口准教授(筑波大学)				
	発注者側	香川主査、相良主任、阿部様				
	受注者側	藤田				
<p>1. 打合せ内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 藤沢市MM教育事業の今後の進め方についての確認 <p>2. 資料授受</p> <p>2-1. 提出資料</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料：進め方の資料 資料：公共交通とクルマ 札のキーワード一覧) 資料：追加指標の解説資料 資料：宿題をするときの注意点資料 <p>2-2. 受領資料</p> <ul style="list-style-type: none"> モビリティ・マネジメントに関するデータ（谷口准教授よりデータ受領） <p>3. 打合せ記録簿</p> <p>3-1. 滝ノ沢小学校MM教育の進め方、資料について</p> <p>滝ノ沢小学校のMM教育の進め方および資料について以下の通りアドバイスを受けた。</p> <p>(1) 進め方の資料</p> <ul style="list-style-type: none"> 進め方のフローの段階と、各資料の関係を明記すること。 <p>(2) 公共交通とクルマ 札のキーワード一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境、安全（事故）、健康に関するキーワードも必要であるため追加すること。 中里小学校のカードと書式を統一し、また内容も更新していくことで、藤沢版のツールをブラッシュアップさせていく。 <p>(3) 追加指標の解説資料</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全（事故）に関する内容も加えること。 本追加指標は、児童の興味に合わせて先生に使っていただく内容であり、その旨、示すこと。 <p>(4) 宿題をするときの注意点資料</p> <ul style="list-style-type: none"> 「宿題のやり方」というタイトルがふさわしい。「保護者の方と一緒に読んでね」という副題も併記すること。 1 ページ冒頭の説明文は、「①横浜駅に公共交通で行く時のルート、②そのルートの良いところや悪いところ、を書いてもらうことが宿題です。」と端的に伝え、例えば以降はトーンを変え 						

るなど記述を工夫すること。

- ・ p.3 の宿題①A3 の図、p.4 の宿題②の A3 の表は 1 ページでまとめるように工夫すること。子供が机の上において記入する際、大きな紙が複数枚は適さない。
- ・ p.3 の図の駅名などの色合いは改善すること。
- ・ 横浜への観光と言っても、横山駅周辺、みなとみらい、中華街など範囲が広いため、本宿題では児童が共通目的地をイメージできるように、横浜駅ということとする。
- ・ 宿題②は、児童が記入する欄と保護者が記入する欄を並べる形とすること。児童は公共交通で行くこととした記入、保護者はクルマを使うことを想定して、児童の記述した溝渠交通と比較できるようにすること。
- ・ 宿題③はクルマと比較して考える欄とすること。

(5) 全体

- ・ 資料出典は明記すること。

(6) その他

- ・ 校外学習用のガイドブックは現在ワードベースで作成しているが、ページ構成、デザインの観点から、藤沢全体で活用していけるように改善するとよい。

3-2. 今後の予定

- ・ 11 月 26 日（木）午後には谷口先生と打合せを行う。また、夕方 16 時ころ、高谷小学校へ行き、教員との打合せを行う予定とする。

以 上

打合せ記録簿

第7回						
発注者・印	監督員		担当者	受注者・印	主任技術者	担当者
日時	平成27年11月04日(水) 17:45~18:30			場所	藤沢市役所	
業務名	藤沢市交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)推進事業補助業務 <平成27年度>			打合せ方式	会議	
事務所名 業務担当課	藤沢市計画建築部都市計画課			会社名 (受託者側)	八千代エンジニアリング株式会社	
出席者	発注者側	香川主査、相良主任、阿部様				
	受注者側	藤田				
<p>1. 打合せ内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 藤沢市MM教育事業の今後の進め方についての確認 <p>2. 資料授受</p> <p>2-1. 提出資料</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料：滝ノ沢小学校のMM教育の進め方(概要書) 資料：教材② 気づき・発見キーワード(先生用：授業でキーワード整理する札) 資料：教材③ プラスαの着眼点(先生用：話題提供する際の資料) 資料：教材④ 宿題の進め方(児童用：保護者と児童が宿題を行うにあたって読む内容) 資料：教材⑤ 宿題の記入シート(児童用：保護者と児童が宿題として記入するシート) <p>2-2. 受領資料</p> <ul style="list-style-type: none"> - <p>3. 打合せ記録簿</p> <p>3-1. 滝ノ沢小学校MM教育の進め方、資料の修正について</p> <ul style="list-style-type: none"> 進め方資料および教材②~⑤について、以下の内容をふまえ11月5日(木)中に受託者側で修正対応すること。 <ul style="list-style-type: none"> →教材②は想定されるキーワードをカテゴリー分けして分かりやすく整理する。 →教材③はクイズ形式(問題と解答、先生向け解説)という内容とする。エネルギーについては、小学校の学習でキロワットの概念があるので、そのような内容とする。交通事故の内容も加える。(谷口先生より10/30に提供頂いた資料も参考とする) →教材④は保護者の皆様へといった保護者向けの資料も作成する。 →教材⑤の保護者の記入欄には、公共交通とクルマ両方を記入できるようにする。また、記入カテゴリーについて、地球環境という記述は再検討が必要であるが、学校の先生に確認する。また、そのほかはカッコ表示として、自由に記入できるようにする。 以下のふりかえり授業用図面については、市と学校打合せを予定する11月10日(火)の前日を目途に、受託者側で検討、作成すること。 <ul style="list-style-type: none"> →11月12日(木)の郊外学習では、児童は3つのルート(直接バス、辻堂経由、湘南台経由)の中から、設定して利用したルートを利用する。11月16日(木)の事後授業では、そのルートについて発表することとなるが、図面(白図に鉄道などの基本情報を載せたもの)をベースに、ルートを書き込み発表してもらって授業を準備したい。図面について、受託者側で検討すること。なお、学校の先生はクルマで藤沢駅に先回りすることとなるため、先生の利用したクルマについても先生より示してもらいたいことも想定する。 						

3-2. 駒寄小学校MM教育の資料作成について

- ・ 11月13日（金）に発注者が駒寄小学校に行き、先生と打合せをする予定である。そのため、以下の資料を、前日の11月12日（木）を目途に受託者側で作成すること。
 - ①駒寄小学校用公共交通ガイドブック
 - ②駒寄小学校MM教育の進め方
- ・ ①駒寄小学校用公共交通ガイドブックは、滝ノ沢小学校ガイドブックをベースとするが、以下の点の追記、修正が必要である。（市と学校の調整があるため、修正開始は11/9以降とする）
 - 辻堂駅に集合→（JR）→藤沢駅→（小田急）→江の島のルートに対応した内容とする。ルートは全児童共通の本ルートのみである。
 - 辻堂駅集合のため、バスでの移動はメインとならないが、何人かはバスで来る児童もいる可能性があるため、バスの乗り方は参考程度に資料後半に乗せる程度とする。
 - 小田急からJRへの乗継パターンがこれまで作成した資料ではないため、追加する。なお、写真は発注者側で撮影して受託者へ提供する。
- ・ ②駒寄小学校MM教育の進め方は、以下のイメージで作成する。
 - 対象が5年生であり、6年生のかまくらめぐりを目指す流れとなる。このため、中里小学校の5年生で行った内容と同様と考える。
 - 進め方は、滝ノ沢小学校の進め方フローのような形で整理するとともに、最終的に目指すべき方向性も示す。

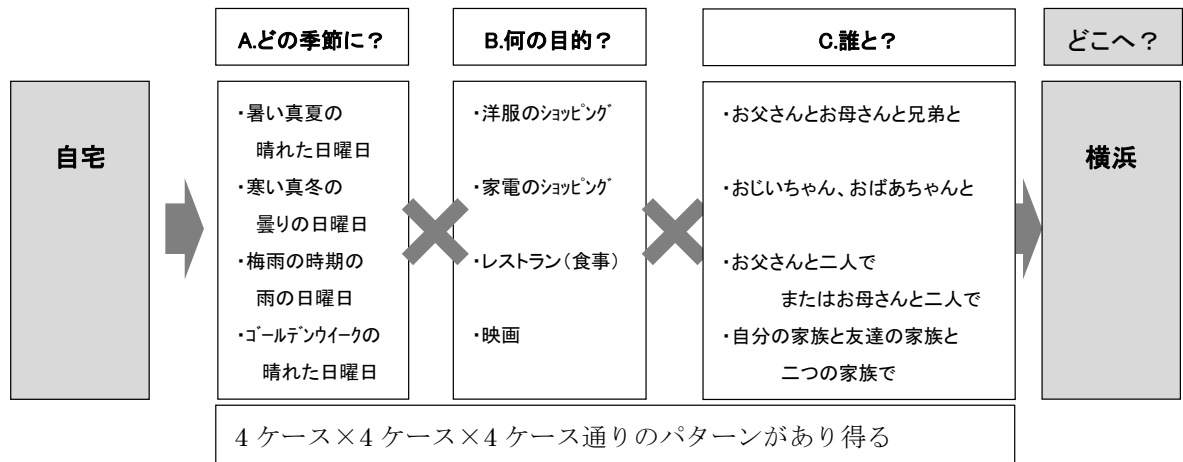
以上

打合せ記録簿

第8回						
発注者・印	監督員		担当者	受注者・印	主任技術者	担当者
日時	平成27年11月26日(木) 15:00~16:40			場所	藤沢市役所	
業務名	藤沢市交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)推進事業補助業務 <平成27年度>			打合せ方式	会議	
事務所名 業務担当課	藤沢市計画建築部都市計画課			会社名 (受託者側)	八千代エンジニアリング株式会社	
出席者	学識経験者	谷口准教授				
	発注者側	額賀主幹、香川主査、相良主任、阿部様				
	受注者側	藤田				
<p>1. 打合せ内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 藤沢市MM教育事業の、滝ノ沢小学校および高谷小学校の進め方について、以下の通り、谷口先生よりアドバイスを受けた。 <p>2. 協議内容</p> <p>2-1. 滝ノ沢小学校</p> <p>【児童の宿題の受領】</p> <ul style="list-style-type: none"> 横浜に行く場合にはどのような交通手段で行くとよいかを考えるという宿題を実施済みであり、その結果(宿題シート)を都市計画課が受領。(11月26日) <p style="text-align: center;">↓</p> <p>【児童の宿題の整理】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童、保護者から公共交通、クルマについてどのような意見があったかを集計、整理する。 快適性・利便性、所要時間、金額、地球環境のほか、新たに分類の記述のあった健康やストレスなどの項目も加えてマトリックスで整理する。 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>【ふりかえり授業2の準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 次の流れで振り返り授業を行う予定である。 <p>(1) 宿題の意見の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> 宿題シートについては、児童に戻しておき、児童が手元に置いた状態で授業を行う。 どのような意見があったかについて、児童から意見出しをしてもらい、先生が黒板に意見を整理していく。 意見出し、整理に使用できるように、共通する意見、ユニークな意見については事前にコメントカードを準備しておき、先生が児童の発表とともに貼りだしていく。 児童からは保護者の意見としてもこのような意見があったということを行ってもらおう。 ※上記について、どのように児童から意見出しをしてもらうか、また出た意見を整理するイメージとしての板書の案を準備しておく 児童から得た意見に対して、データに基づくとこのようなことが分かるというような資料を検討する。資料としては 案1 事故のリスク(致死量のリスク) 案2 鉄道、クルマの遅れるリスク 案3 コスト 案4 所要時間 案5 環境(CO2、エネルギー) 案6 健康 						

(2) シチュエーションに応じて、クルマを使う？公共交通を使う？

- ・「自宅から横浜に行く」ことを基本シチュエーションとして、
「どの季節」に、「どのような目的」で、「誰」と行くかをグループ単位で条件設定して、そのシチュエーションに対してはクルマを使うか、公共交通を使うかを決めて、そして理由を行ってもらおう
- ※自宅から横浜に行くは固定条件として、A、B、C をくじ引きの要領でグループごとに選んでもらい、シチュエーションを決める



(3) TPO※に応じて公共交通、クルマを使い分けしていくことができる、必要ということを知ってもらう

※TPO (ティーピーオー) . Time (時間)、Place (場所)、Occasion (場合。Opportunity)

2-2. 高谷小学校

- ・資料で示すデータ、グラフは、小学校3年生にも分かるような簡易なものである必要がある。
- ・公共交通におけるエネルギー消費には、移動時間などの消費も含まれているため、徒歩換算は望ましくない。消費カロリーで示す。

3. 今後の予定

- ・滝ノ沢小学校のふりかえり授業について、谷口先生のご都合より12/14、21を候補として調整する。
- ・次回のMM会議は、1月18日の週に開催する予定である。

以上

打合せ記録簿

第9回						
発注者・印	監督員		担当者	受注者・印	主任技術者	担当者
日時	平成28年1月22日(金) 13:40~16:00			場所	藤沢市役所	
業務名	藤沢市交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)推進事業補助業務 <平成27年度>			打合せ方式	会議	
事務所名 業務担当課	藤沢市計画建築部都市計画課			会社名 (受託者側)	八千代エンジニアリング株式会社	
出席者	発注者側	額賀主幹、香川主査、相良主任、阿部様				
	受注者側	藤田				
<p>1. 打合せ内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 高谷小学校の行動きろくの取組実施、結果修正に向けての打合せ 次回MM検討会に向けての打合せ <p>2. 協議内容</p> <p>2-1. 高谷小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> 1月25日(月)中に、受託者側で以下の資料を作成、修正の上、提出すること。なお、1月27日に都市計画課が高谷小学校と資料の最終確定を行う予定である。(発注者) <ul style="list-style-type: none"> ①行動きろく冊子の修正版 ②1万5千歩の根拠資料 ③分析のイメージ資料 ④1万5千歩の距離目安の資料(例:例えば駒寄小~〇〇駅の距離) 小学校で万歩計の記録を今後実施するにあたり、以下の予定に基づき進める。なお、クラスによって記録の時期が異なるため、以下、二つの行程を予定する。(発注者) <ul style="list-style-type: none"> <1クラス目(先行実施)> <ul style="list-style-type: none"> 2月5日(金)、6日(土)、7日(日)に児童が万歩計で記録 2月8日(月)AMに都市計画課が学校より記録票を受け取り " スキャンデータを発注者より受託者へ提供 2月10日(水)AM中迄に受託者側で集計を完了し、発注者へメール提出 2月12日(金)高谷小学校にて結果に基づく第1回授業を開催 2月13~21日くらいの間で、第1回授業による意識づけ後の行動(万歩計計測)を行う 2月23~24日くらいの間で、第2回授業を予定、<u>その前までに記録の集計</u> <他のクラス(後発実施)> <ul style="list-style-type: none"> 2月12日(金)、13日(土)、14日(日)に児童が万歩計で記録 2月15日(月)に都市計画課が学校より記録票を受け取り " 記録の結果を発注者より受託者へ提供 2月18日(水)中に受託者側で集計を完了し、発注者へメール提出 2月19日(木)(仮)あたりに、高谷小学校にて結果に基づく第1回授業を開催予定 その後、第1回授業、意識づけ後の行動(万歩計計測)、<u>行動記録の集計</u>、第2回授業の流れとなる <p>→承知した。(受託者)(※上記の<u>下線文章</u>は受託者側の作業期限)</p>						

- ・行動きろくの分析については、3つの群（①外出しなかった、②クルマを使って外出した、③クルマを使わず外出した）に児童を分類して分析することが有効と考えるため、この3群の比較集計、分析を行うこととする。（発注者）
 - ・児童には通学の時間を記録してもらいますが、通学の時間から通学に要する歩数を推計することで、通学に関する歩数、通学以外の歩数などが分かるようにすること。（発注者）
 - ・推奨歩数は東京都のガイドラインにより1万5千歩の数値を使用する。根拠説明資料を受託者側にて1枚程度で整理すること。（発注者）
- 承知した。（受託者）

2-2. MM検討会

- ・2月26日（金）PMに検討会を開催する。谷口先生との事前打ち合わせを2月18日（木）前後に予定する。打合せに向けて、受託者側で2月5日（金）を目処に検討会資料を準備すること。（発注者）
- ・検討会の議題は以下のとおりとする。（発注者）
 - 議題1 モデル校におけるMM教育の取組について
 - 議題2 今後の藤沢市におけるMM教育の進め方について
- ・議題1においては、滝ノ沢小学校、駒寄小学校、高谷小学校の取り組みを紹介する。概要説明、課題説明とあわせ、各小学校の取組をダイジェストとしてビデオ紹介する。なお、報告する学校が複数であるため、極力、コンパクトに説明を行えるよう工夫する必要がある。（発注者）
- ・概要説明は、各学校のMM教育の進め方の資料をベースとして、実際にこのような整理を進めたなど紹介する資料とする。（発注者）
- ・議題2においては、以下のような整理を行うこと。（発注者）

<課題2の資料イメージ>

	1. 中里小学校		2. 滝ノ沢小学校	3. 駒寄小学校	4. 高谷小学校
	1-1	1-2			
実施年度	H26年度～	H27年度～	H27年度～	H27年度～	H27年度～
実施学年				小学5年生	小学3年生
カリキュラム時間					
科目 (合科の視点)					
MM実施のポイント					
MM実施の課題					

- 承知した。課題1、課題2の資料作成にあたって、これまで作成、調整してきた、各学校の<<教育の進め方の概要版、詳細版のワードデータを提供いただきたい。（受託者）
- 提供する。（発注者）

以上

打合せ記録簿

第10回						
発注者・印	監督員		担当者	受注者・印	主任技術者	担当者
日時	平成28年2月19日(金) 15:40~17:30			場所	六本木駅周辺	
業務名	藤沢市交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)推進事業補助業務 <平成27年度>			打合せ方式	会議	
事務所名 業務担当課	藤沢市計画建築部都市計画課			会社名 (受託者側)	八千代エンジニアリング株式会社	
出席者	発注者側	香川主査、相良主任				
	学識経験者	筑波大学 谷口准教授				
	受注者側	川淵				
<p>1. 打合せ内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 第3回MM検討会(2/26開催)資料内容の確認 次回MM検討会に向けての打合せ <p>2. 協議内容</p> <p>2-1. 議題1 モデル校におけるMM教育の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 文言の変更として「科目」→「教科」、「認識」→「知識」にする。 連携する科目の一部に※印を記載しているが、その凡例が未記入である。 習熟の深度化の項目中にある「仮定した状況下での移動計画」に文言「行動プラン」を追加。 「選択した交通行動の評価、共有」とは、TPOに応じた行動について発表したり、保護者と一緒に横浜への道のりを考えるといった機会を設けた事を指している。(発注者) 資料1-1の概要と、各学校での取り組み資料(1-2~1-5)を並行して説明したいと考えている。なお、資料1-2中里小学校の取り組み内容は前回の検討会にて報告済みであるため具体的な説明はしない。(発注者) <p>(1)資料1-3(滝ノ沢小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> TPOを踏まえた行動選択の授業では、結局クルマを選択する生徒が多いという結果になった。横浜という目的地が距離的にも遠く、イメージがしづらいのではないかと反省している。駒寄小では江の島を目的地として授業を進めたので、異なる小学校同士の結果を比較することも検討している。(発注者) 保護者に対するアンケート依頼は実施が難しいと聞いているので、滝ノ沢小学校で実施できたことは画期的だろう。(谷口先生) <p>(2)資料1-4(駒寄小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> 最後に児童に感想を聞いているので、その結果も追記する。(発注者) <p>(3)資料1-5(高谷小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩数の分析結果にサンプル数を記載する。(発注者) 分析をしたいので、個人情報抜いたエクセルデータを提供してほしい。(谷口先生) →承知した。(発注者) 						

2-1. 議題2 今後の藤沢市におけるMM教育の進め方について

- ・総合学習の内容については現在空欄だが、協議会までには記載したい。(発注者)
- ・p.2の一覧表については、学科ごとに整理するのか、学年ごとに整理した方が良いのか相談したい。(発注者)
- どちらも作成したうえで、先生方に相談した方が良いのではないか。資料のサイズもA3ではなく、A4サイズにするなど、見せ方の工夫が必要である。(谷口先生)
- ・今後の全市展開に向けて、あらかじめ定めたフォーマットに沿って資料を整理したいと考えている。(発注者)

- ・副教材「ふじさわ」にMM要素を入れるように検討中である。教科書は福岡市等が事例になっているため、「ふじさわ」を使って授業を実施する先生もいると聞いている。(発注者)
- 副教材に入れるMM要素としては、交通機関別の消費カロリー、CO²に関する話題を入れると十分活用できるのでないか。また、渋滞の写真も入れてみてはどうか。富山県のバスとクルマを同じ人数で利用した場合の比較写真があるが、許可をいただいて掲載するなど検討してほしい。(谷口先生)(発注者)

- ・乗り方ガイドブックは駅やターミナル毎に利用方法を整理し、学校ごとに組み合わせる利用できるようにしたいと考えている。(発注者)
- 知り合いのデザイナーに作成を依頼することも可能である。一度アポイントととったのち、直接現場を見てもらうなどして掲載方法を検討してもらう流れが良いだろう。(谷口先生)
- 構成としては、冊子冒頭に、利用する方に対してどうしたいのか?という問いかけとそれに対する利用方法を説明して、各ページを閲覧できるようにしたらよい。(谷口先生)
- 承知した。先生からのアドバイスをもとに、冒頭のアクティビティの項目について検討する。(発注者)
- デザイナーへ依頼する場合には、金額と締め切りを決めてから、提示する必要がある。スケジュールについてはどのようになっているのか。(谷口先生)
- 校外学習(かまくらめぐり)は6月に実施するので、4月中に案があつて、そのあと修正を行い、できれば5月に完成したい。(発注者)

- ・既存の教育研修会においてもMM要素を取り入れることで、先生への研修を行う機会を設けたいと考えている。(発注者)
- MM研修会では、模擬授業を実施するようにしてほしい。模擬授業があると、先生たちも具体的なイメージが湧いたり、意欲の向上につながると思われる。(谷口先生)

2-3. 第3回MM検討会

- ・会議には滝ノ沢小学校と駒寄小学校で実際に授業を行った先生にも参加していただく予定である。(発注者)
- 現場の先生方には、様々な意見や改善点を述べてほしい。(谷口先生)
- ・JRなど各交通事業者に対して参加の依頼はしているのか。(谷口先生)
- 小田急は調整中、神奈中バスは参加しても良いという返事をいただいている。なお、江ノ電はMM実施の報告もかねて参加を予定している。(発注者)
- 各事業者に対しては、一度だけでも良いのでまずは参加していただくように依頼してほしい。(谷口先生)

以上